The 80th National Convention of IPSJ

2018年

第80回全国大会

―みんなの情報処理教育―

大会案内/プログラム

会期：2018.3.13(火)▶15(木)

会場：早稲田大学 西早稲田キャンパス

東京都新宿区大久保

《大会会期中連絡先(大会本部)》

Tel (080)6624-2658

第80回全国大会 ゴールドスポンサー

株式会社とめ研究所

PwCコンサルティング合同会社

株式会社レコチョク

株式会社サイバーエージェント

第80回全国大会 ランチョンスポンサー

株式会社日立製作所・北海道大学

チームラボ株式会社

第80回全国大会 シルバースポンサー

株式会社クリーク・アンド・リバー社

株式会社ナレッジクリエーションテクノロジー

グーグル合同会社

株式会社リブセンス

富士通株式会社

株式会社カカクコム

株式会社フィックスターズ

後援：早稲田大学 理工学学術院, 全国高等学校情報教育研究会, 神奈川県教育委員会, 埼玉県教育委員会

一般社団法人 情報処理学会
Information Processing Society of Japan
http://www.ipsj.or.jp

一般社団法人
情報処理学会
Information Processing Society of Japan

閲覧無料

情報処理学会
デジタルプラクティス

情報処理学会ではITエンジニアのための論文誌
「デジタルプラクティス」を発刊しております。
会員・非会員を問わず、無料でお読みいただくことができま
すので、お気軽にアクセスしてみてください。

特集「オープンデータを活用した新しい社会」

特集「デザイン・アートとICTの融合によるサービスのイノベーション」

特集「IoTシステムと組込み技術」

特集「社会に浸透する画像認識」

特集「ICTとダイバーシティ社会」

特集「人工知能の実践的活用」

etc...

デジタルプラクティスの読み方

Webサイト 31号から公開
https://www.ipsj.or.jp/dp/contents/publication/

App Store DPアプリ DP
https://itunes.apple.com/jp/app/qing-bao-chu-li-xue-huidejita-rupurakutisu/id923233022?mt=8

電子図書館「情報学広場」
https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=repository_opensearch&index_id=6394

プ ロ グ ラ ム 目 次

インフォメーション 1
大会会場交通案内（早稲田大学　西早稲田キャンパス） 2
館内案内図 3
ランチョンセミナーのご案内 8
展示会のご案内 9
IT 情報系キャリア研究セッション 14
タイムテーブル 16
講演論文集の分類と内容 21
全国大会イベント企画のご案内 22
全国大会会場別プログラム 23
全国大会招待講演企画・イベント企画の概要 28
一般／学生　セッションプログラム詳細 65

（第 1 分冊　コンピュータシステム）

2A　仮想化技術・クラウドとキャッシュ 65
3A　ビルディングブロック型計算システム 65
5A　並列処理 65
1H　パラメタ最適化と深層学習 65
2H　並列処理と性能評価 65
3H　組込みアプリケーション 65
5H　積層型 LSI システム 65
6H　組込み開発環境・プラットフォーム 66
7H　システム・アーキテクチャと性能評価 66
1J　基盤ソフトウェア・セキュリティ 66

（第 1 分冊　ソフトウェア科学・工学）

6A　数理モデル化と問題解決（5） 66
7A　アルゴリズム 66
1B　ソフトウェア要求仕様と品質 66
2B　プログラミング 67
2J　ソフトウェア解析と品質 67
3J　ソフトウェア形式検証とテスト 67
5J　ソフトウェア要求仕様と開発支援 67
6J　計算モデルとプログラミング 67
7J　プログラミング 68
1K　数理モデル化と問題解決（1） 68
2K　数理モデル化と問題解決（2） 68
3K　数理モデル化と問題解決（3） 68
5K　数理モデル化と問題解決（4） 68
6K　アルゴリズム 68

（第 1 分冊　データとウェブ）

4B　IFAT/DCC 69
5B　DB システムと応用 69
7K　SNS 69
2L　IFAT/DCC（1） 69
4L　DB システム 69
5L　IFAT/DCC（2） 69
6L　データ解析 70
7L　DB 応用 70
1M　IFAT/DCC（3） 70

（第 2 分冊　人工知能と認知科学）

7B　自然言語処理 71
1C　知能システム 71
2C　コンピュータビジョン 71
5C　音楽情報処理 71
2M　ゲームと学習 71
5M　機械学習と知能システム 71
6M　機械学習（1） 72
7M　機械学習（2） 72
1N　音楽体験支援 72
2N　楽曲の生成・編曲・分析 72
3N　AI と音楽情報処理 72
5N　インタラクションとその応用 72
6N　深層学習による画像処理 73
7N　ロボットと知能システム 73
1P　深度画像の生成・解析 73
2P　医療・福祉 73
3P　VR・AR・MR・知覚（3） 73
5P　自然言語処理（3） 73
6P　自然言語処理（4） 74
7P　自然言語処理（5） 74
1Q　光線・光源・色彩 74
2Q　マルチエージェント（1） 74
3Q　マルチエージェント（2） 74
5Q　音声・音響信号処理 75
6Q　対話システム・ロボット対話 75
7Q　自然言語処理（6） 75
1R　スポーツ・動画像解析 75
2R　物体検出・認識 75
3R　多視点幾何 76
1S　画像処理と知能システム（1） 76
2S　画像処理と知能システム（2） 76
3S　安全・安心 76
1T　自然言語処理（1） 76
2T　自然言語処理（2） 76

（第 3 分冊　ネットワーク）

1D　センサーシステムとメディア通信 78
2D　インターネットと運用技術 78
3D　高度交通システムとスマートコミュニティ 78
5D　モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム 78
6D　分散処理とプロトコル 78
7D　コンシューマデバイス・システム 78
5R　マルチメディアシステム 78
6R　コンシューマシステム（1） 79
7R　コンシューマシステム（2） 79
5S　位置推定 79
6S　モバイルコンピューティング 79
7S　無線ネットワーク 79
3T　分散システム運用管理 80
5T　ネットワーク運用管理・危機管理 80
6T　ネットワークミドルウェア 80
7T　ワイヤレスセンサーネットワーク・IoT 80
1U　動画配信 80
2U　音声・画像処理 81
3U　通信プロトコルと品質制御（1） 81
5U　通信プロトコルと品質制御（2） 81
6U　分散処理 81
7U　ネットワークサービス 81
1V　ユビキタスコンピューティングシステム 82
2V　センシングシステム・アプリケーション 82
3V　サイバーフィジカルシステム 82
5V　歩行者と高度交通システム 82
6V　無線通信と高度交通システム 82
7V　シミュレーションと高度交通システム 83

（第 3 分冊　セキュリティ）

2E　セキュリティ一般 83
1W　ネットワークセキュリティ（1） 83
2W　ネットワークセキュリティ（2） 83
3W　認証 83
5W　プライバシーとトラスト 84
6W　システムセキュリティ 84
7W　機械学習セキュリティ・マルウェア 84
7X　暗号と人工物メトリクス 84

（第 4 分冊　インタフェース）

3E　インタフェース（1） 85
5E　インタフェース（2） 85
6E　インタフェース（3） 85
1X　コラボライティブ・ネットワーキング 85
2X　デジタル・エクスペリエンス 85
3X　可視化とバーチャルシステム 85
5X　質感表現 86
6X　ナレッジ・ネットワーキング 86
1Y　VR・AR・MR・知覚（1） 86
2Y　VR・AR・MR・知覚（2） 86
3Y　視覚と色表現 86
5Y　アニメとアート表現 86
7Y　生活支援・ネットワークメディア 87
1ZA　線とイラスト 87
2ZA　人間計測・医療支援（1） 87

3ZA　人間計測・医療支援（2）.....87
5ZA　人間計測・医療支援（3）.....87
6ZA　ロボットとエージェント（1）.....87
7ZA　協調作業.....88
3ZB　アニメーション.....88
5ZB　ロボットとエージェント（2）.....88
6ZB　入力インタフェース（1）.....88
7ZB　入力インタフェース（2）.....88

（第４分冊　コンピュータと人間社会）

1F　情報技術者教育.....88
2F　高齢社会デザイン.....89
3F　情報システムとガバナンス・法制度.....89
5F　学習支援システム（1）.....89
6F　防災と社会サポート.....89
7F　バイオ情報学と博物館情報.....89
1G　e-Learning.....89
2G　アクティブラーニング・学習支援.....89
3G　センサーデータと IoT.....90
5G　情報教育.....90
6G　プログラミング教育.....90
7G　産業への応用と社会への影響.....90
1ZB　アクセシビリティ.....90
2ZB　デジタルアーカイブ.....90
1ZC　産業応用.....91
2ZC　情報社会.....91
3ZC　防災システムと地域貢献.....91
5ZC　心を動かす表現とその制作支援.....91
6ZC　アクティブラーニング.....91
7ZC　人文科学へのコンピュータ応用.....91
1ZD　協調学習支援システム.....92
2ZD　ログデータの分析と教育利用.....92
3ZD　高齢者見守り支援.....92
5ZD　高齢者介護支援システム.....92
6ZD　学習支援システム（2）.....92
7ZD　マルチメディア教材の活用.....93
1ZE　学習支援.....93
2ZE　観光情報システム.....93
3ZE　心を動かすコミュニケーション.....93
4ZE　応用システムと社会フレームワーク.....93
5ZE　情報技術者教育.....94
6ZE　社会支援.....94
7ZE　農業と自然リソース.....94
1ZF　教材作成支援.....94
2ZF　評価指導支援.....94
5ZF　学習支援・アクティブラーニング.....95
6ZF　プログラミング教育.....95
7ZF　バイオ情報学.....95

ー インフォメーション ー

■総受付（インフォメーションコーナー）早稲田大学西早稲田キャンパス（以下，略）63 号館 1 階

受付時間：13 日（火）8:30 - 17:00　14 日（水）8:30 - 17:00　15 日（木）8:30 - 15:30
各種受付，講演論文集・DVD-ROM 販売，各種問合せ窓口

■大会本部・手荷物預かり　63 号館 2 階 02-01

臨時電話：080-6624-2658（通話可能期間 13 日（火）～ 15 日（木）8:30 - 16:30）

■大会イベント企画聴講参加費［プログラム・大会イベント企画聴講参加章付き］（無料）

第 1 ～ 5 イベント会場で開催するイベントおよび展示会場のみ聴講参加できます.
* 一般セッション・学生セッションの聴講はできませんのでご注意ください.

■［当日申込価格］大会共通聴講参加費［プログラム・大会共通聴講参加章付き］（税込）

正会員：4,000 円　正会員（全論文の PDF アクセス権付）：9,000 円　一般非会員：7,000 円
学生：無料（会員非会員問わず）
* 大会で開催される全てのイベント企画，展示，一般セッション，学生セッションを聴講できます.

■［当日申込価格］講演論文集・DVD-ROM（税込）*DVD-ROM には一般講演全論文とプログラム収録、全論文の PDF アクセス権付

講演論文集セット（全論文集・DVD-ROM・カバー付き）：63,000 円
講演論文集各分冊：14,000 円
講演論文集 DVD-ROM（個人）：9,000 円
講演論文集 DVD-ROM（法人）：57,000 円
講演論文集 DVD-ROM（学生割引会場販売）：5,000 円
講演論文集 DVD-ROM（PDF アクセス権をお持ちの方　会場販売）：3,000 円

■懇親会

日時：3 月 13 日（火）18:00 - 20:00
会場：早稲田大学 63 号館 1 階カフェテリア
［当日申込価格］参加費（税込）：一般（社会人）：5,000 円　学生：3,000 円　ジュニア会員：1,000 円

■その他お知らせ事項

［連絡掲示板］
大会会場での周知および伝言等は，総受付付近に設置する「掲示板」に掲示しますのでご注意ください.
各会場への個別の連絡や館内アナウンス等は致しません.

［インターネット接続］
・eduroam：国際無線 LAN ローミング基盤である eduroam が利用可能です．eduroam 参加機関の所属で，アカウントをお持ちの方はご利用下さい.
・無線 LAN：大会期間中は、大会会場で無線 LAN が利用できます．接続に必要な ID/ セキュリティキーは総受付でお知らせいたします.

［食堂・売店］
・カフェテリア：56 号館 B1F 理工カフェテリア（営業時間 10:30 - 19:30）
・カフェテリア：63 号館 1F 63 号館カフェテリア（営業時間 10:30 - 19:30）
・ベーカリー＆カフェ：63 号館 1F カフェテリア内 （営業時間 10:00 - 17:00）
・パンショップ：51 号館 2F（営業時間 10:00 - 15:00）
・パンショップ：57 号館 B1F（営業時間 8:30 - 21:00）
・パンショップ：63 号館 1F（営業時間 10:00 - 15:00）
・生協理工店 購買部・書籍部：57 号館 B1F（営業時間 10:00 - 19:00）
※パンショップでは、お弁当・ドリンク・パン・お菓子などを販売しています.
営業時間の変更等については（http://www.wcoop.ne.jp/shop/index.html) をご参照ください.

［ゴミ処理について］
ゴミは各自でお持ち帰り頂きますようお願いいたします.

［交通機関］
西早稲田駅（東京メトロ）から直結、高田馬場駅（JR 山手線、西武新宿線、東京メトロ）徒歩 約 15 分、
早稲田駅（東京メトロ）徒歩 約 22 分
※一般参加者用の駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。会場へは公共交通機関等をご利用のうえ、お越しくださいますようお願いいたします。

［ご注意　※予めご了承ください］
・第 1 イベント会場（13~15 日）と第 2 イベント会場（13 日の一部、15 日）のイベントはニコニコ生放送において中継されます．また，映像記録はアーカイブされインターネット上で公開されます.
・本大会の各講演会場では，当学会やプレス等が写真撮影およびビデオ撮影等を行う場合があります．これらは情報処理学会の学会誌を含め，各広報誌およびホームページ等で公開されることがあります.

■今後の全国大会・FIT 情報（予定）

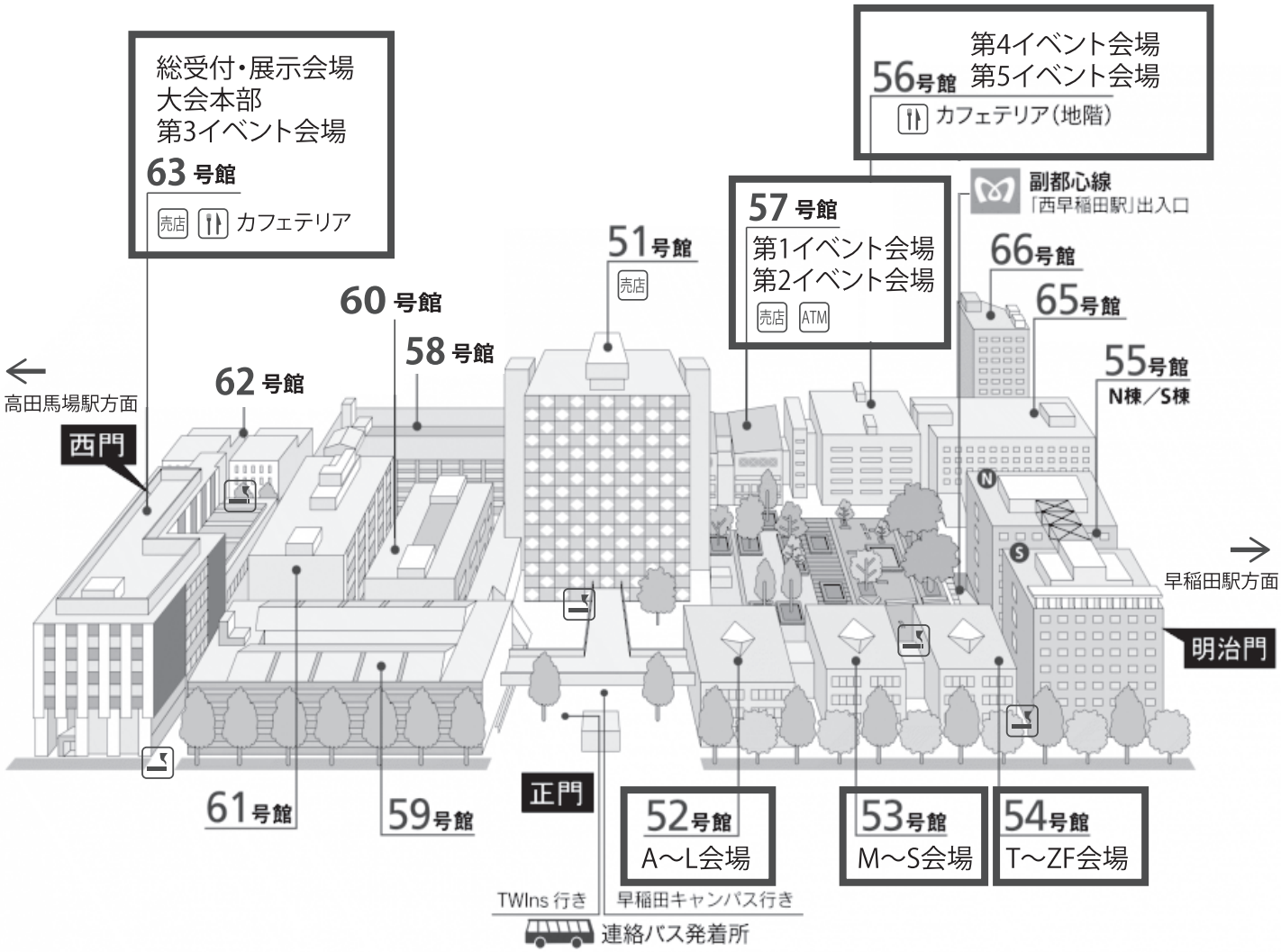
FIT2018 第 17 回情報科学技術フォーラム [https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2018/]
会期：2018 年 9 月 19 日（水）～ 21 日（金） 会場：福岡工業大学
情報処理学会 第 81 回全国大会 [https://www.ipsj.or.jp/event/taikai/81/]
会期：2019 年 3 月 13 日（水）～ 15 日（金） 会場：福岡大学

■問合せ先

一般社団法人 情報処理学会　事業部門　Tel.03-3518-8373　E-mail: ipsjtaikai@ipsj.or.jp

会場案内図

会場：早稲田大学　西早稲田キャンパス　所在地：東京都新宿区大久保 3-4-1



●主なターミナルからのアクセス

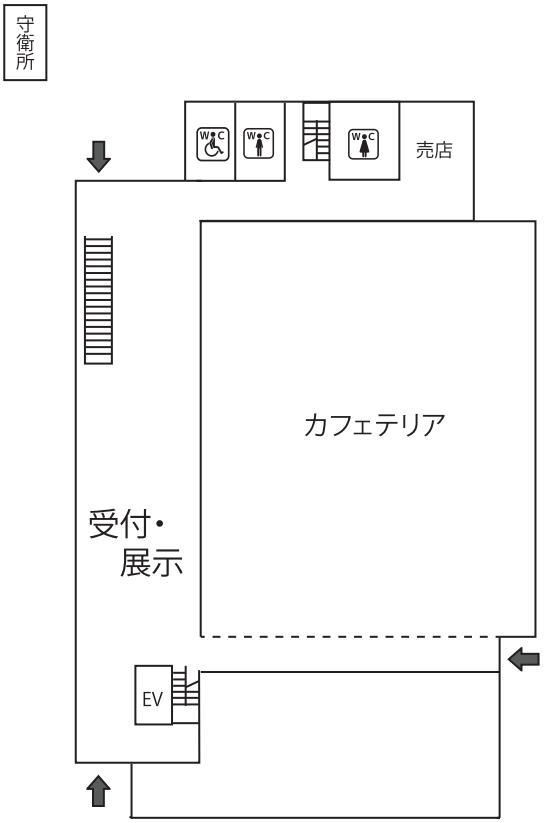
池　袋　駅	東京メトロ副都心線（渋谷方面）約6分			西早稲田 駅	直結	早稲田大学 西早稲田キャンパス
新　宿　駅	JR山手線（池袋・上野方面）約5分			高田馬場 駅	徒歩 約15分	
西武新宿 駅	西武新宿線（本川越方面）約2分			高田馬場 駅	徒歩 約15分	
東京駅（大手町駅）	地下鉄東西線（中野・三鷹方面）約11分			早稲田 駅	徒歩 約22分	
羽 田 空 港	京急エアポート急行 約24分	品川 駅	JR山手線（東京方面）約24分	高田馬場 駅	徒歩 約15分	
成 田 空 港	京成スカイライナー 約40分	日暮里 駅	JR山手線（池袋・上野方面）約20分	高田馬場 駅	徒歩 約15分	

※　都営バス（高71, 早77, 池86）利用の場合は，早大理工前バス停にて下車．

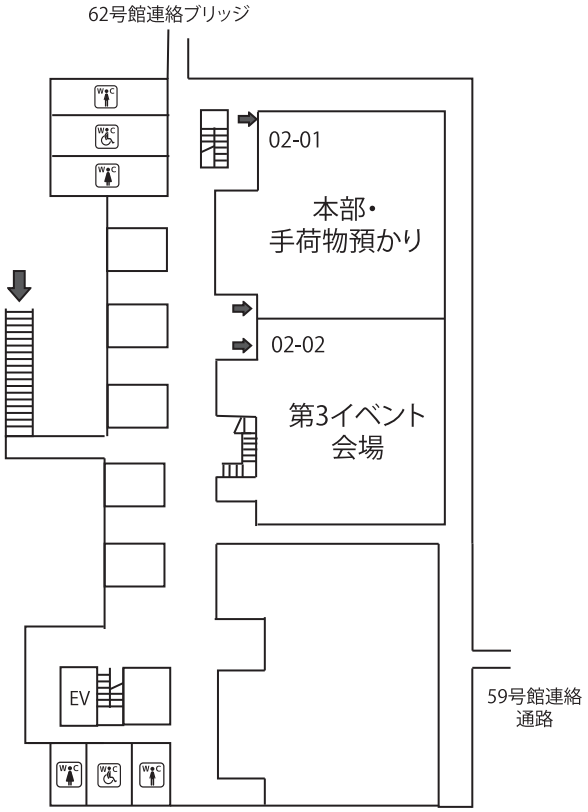
※　一般参加者用の駐車場はございませんので，公共交通機関等をご利用のうえ，お越しください．

館内案内図

63号館1階

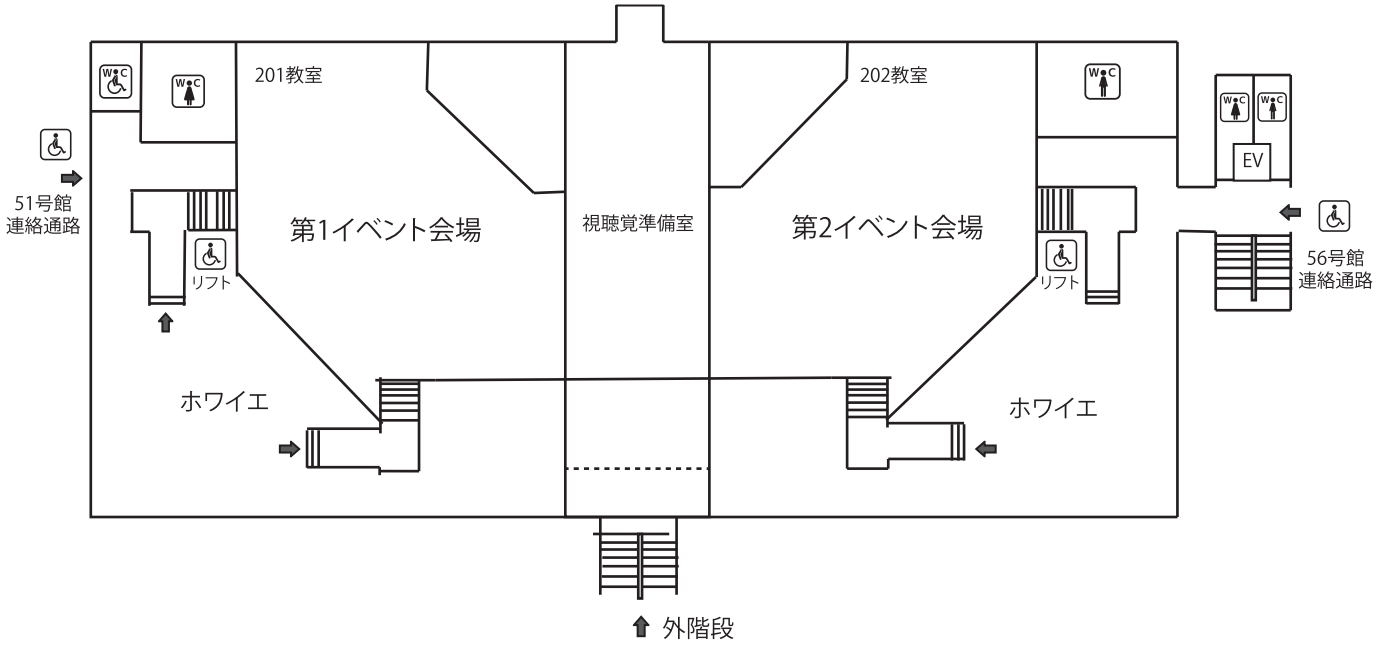


63号館2階

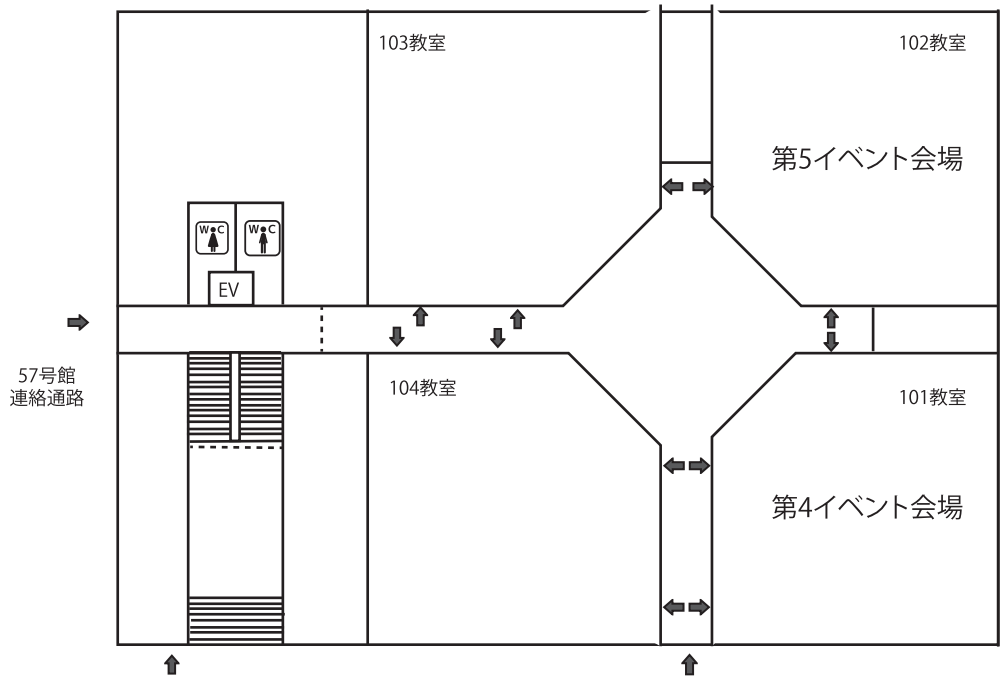


館内案内図

57号館2階

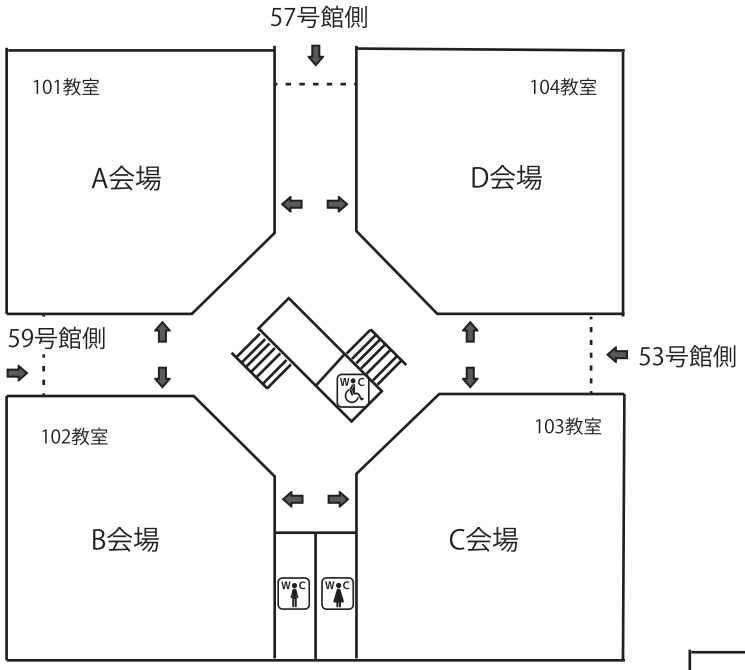


56号館1階

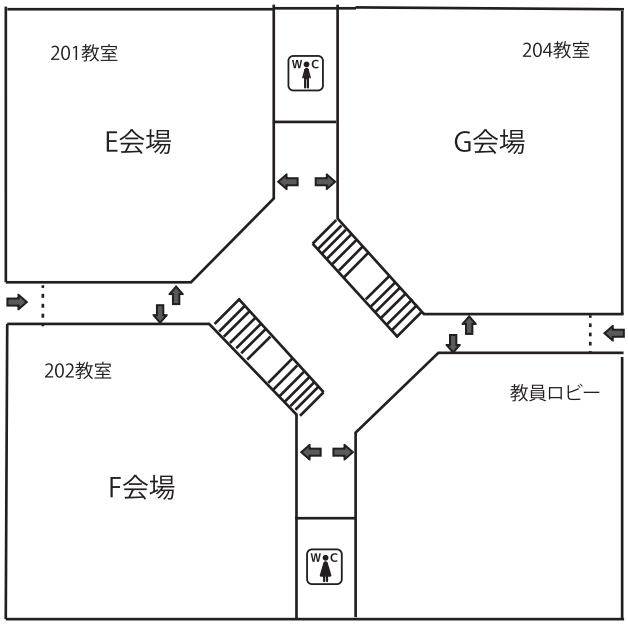


館内案内図

52号館1階

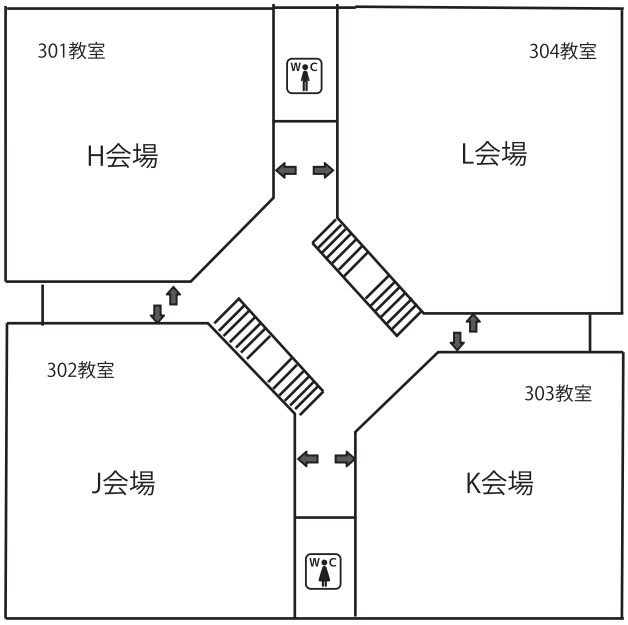


52号館2階



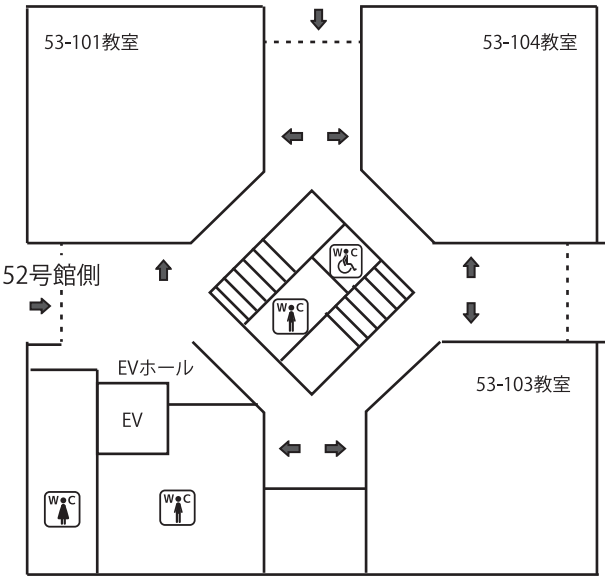
※ エレベーターは，53 号館（連絡通路で連結）をご利用ください．

52号館3階

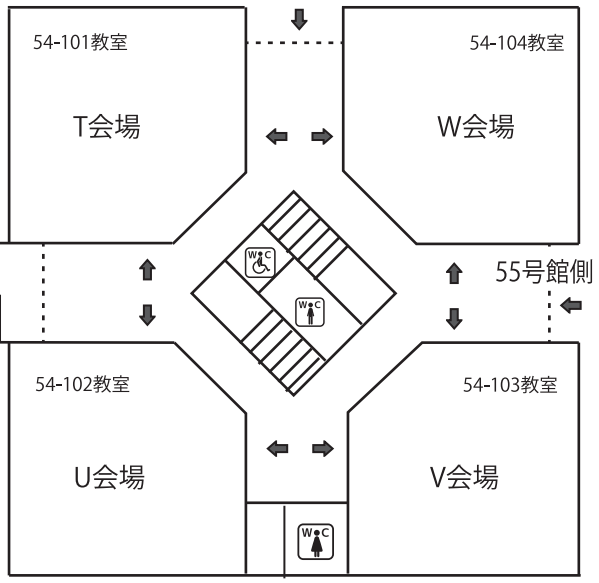


館内案内図

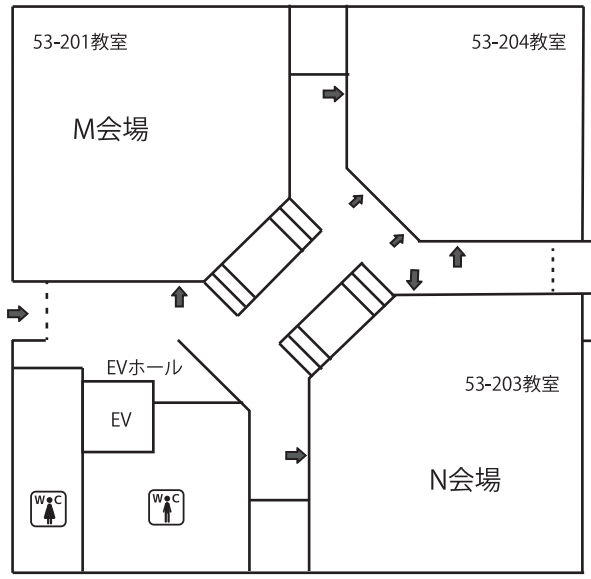
53号館1階



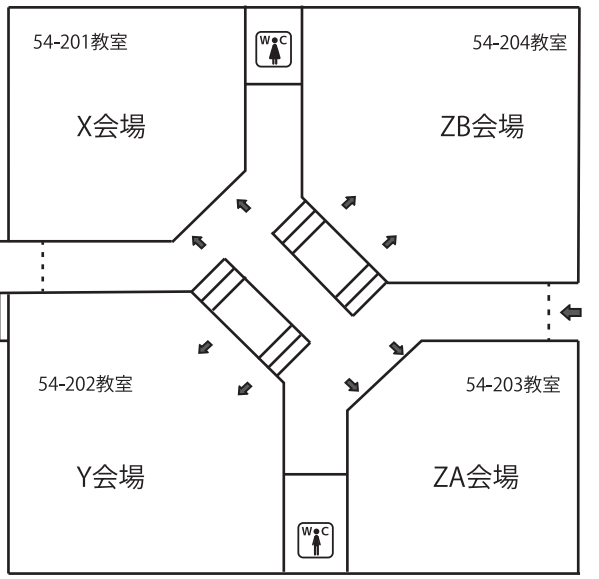
54号館1階



53号館2階

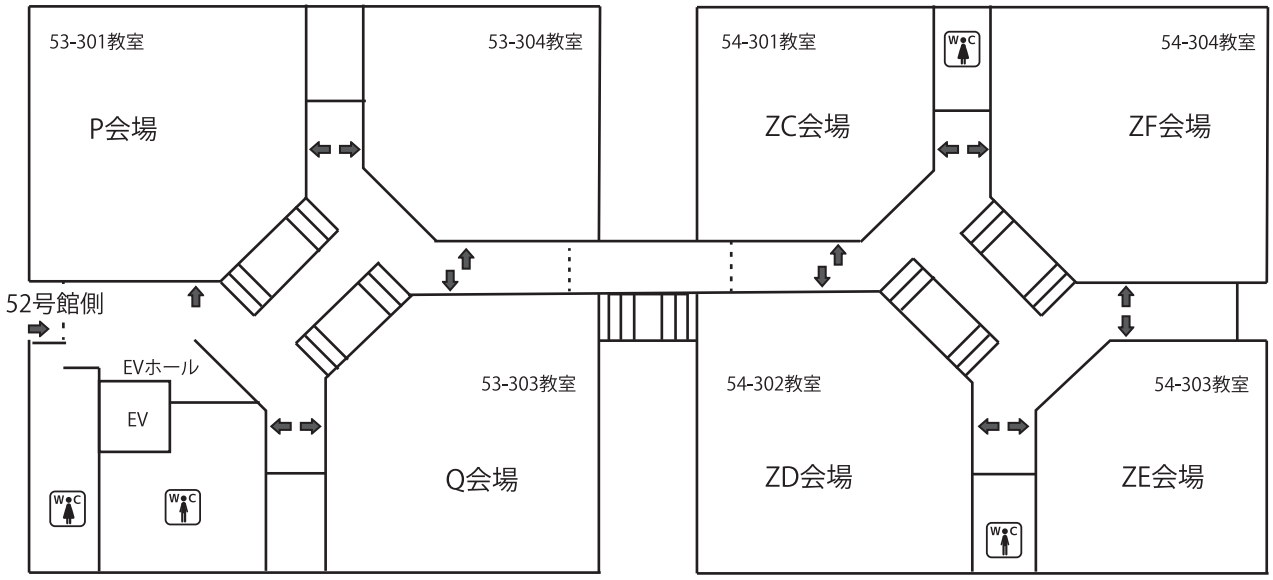


54号館2階



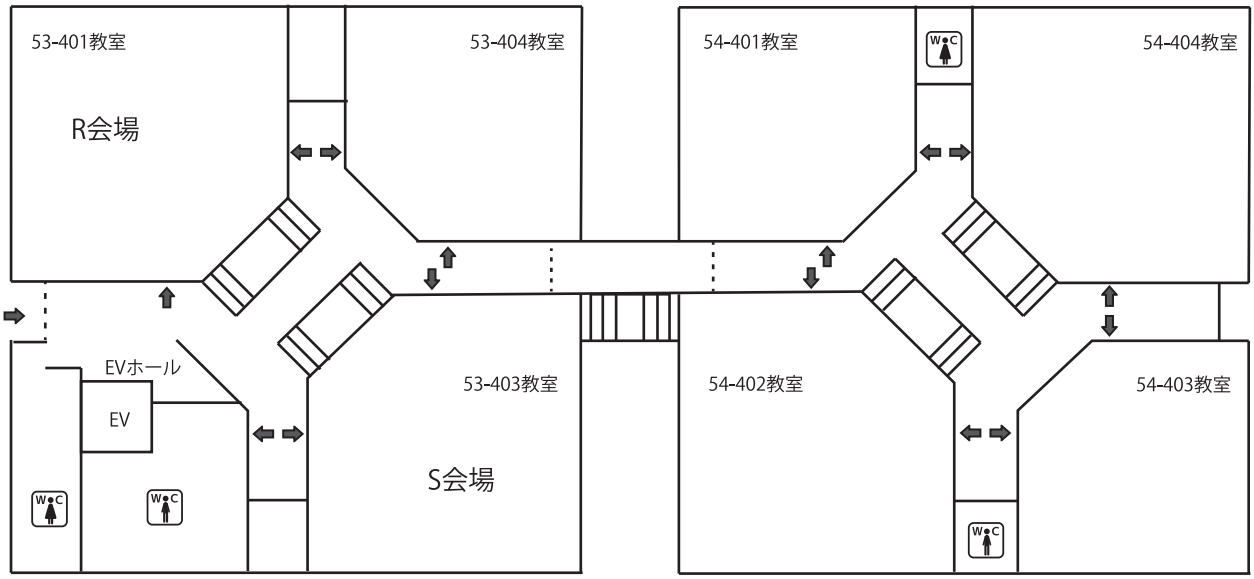
館内案内図

53号館3階



54号館3階

53号館4階



54号館4階

ーランチョンセミナーのご案内ー

第 80 回全国大会では会期中，スポンサー企業様による以下のランチョンセミナーを開催致します．
お弁当・飲み物付きです．入場の際に整理券または事前申込が必要です．詳細は大会 Web ページにて
ご案内いたします．

日時・会場	出展者名・出展者 Web サイト・テーマ 概要
3 月 14 日（水） 12:10-13:10 第 5 イベント会場	**チームラボ株式会社**　〔https://www.team-lab.com/〕 機械学習や数理的手法を応用したプロジェクト，独自開発プロダクトの開発事例紹介
	チームラボは，インスタレーション・サイネージ・Web・スマートフォンアプリなど，デジタル分野における幅広いコンテンツ制作やソリューションの提供を行っています．それらを実現するために，プログラマ，エンジニア，CG アニメーター，数学者，建築家など，様々な分野のスペシャリストを集め，日々制作と実験を繰り返しています．ランチョンセミナーでは，これまでチームラボが作ってきた様々なモノのうち，機械学習や数理的な手法を用いアートに応用したプロジェクトや，自社で独自に開発しているプロダクトについて取り上げ，実際に開発に関わったエンジニアがご紹介します． ・演者：加藤　哲朗（チームラボ 機械学習チーム），濱口　哲充（チームラボ パッケージチーム） ※やむをえない都合により，講演者は予告なく変更となる場合があります．
3 月 15 日（木） 12:10-13:10 第 2 イベント会場	**株式会社日立製作所・北海道大学**　〔https://hokudai-hitachi2017-1.contest.atcoder.jp/〕 北大・日立新概念コンピューティングコンテスト 2017 表彰式
	北海道大学と日立製作所が開設した日立北大ラボは，従来の計算原理と異なる，新概念コンピューティングの研究開発を推進しております．この度，同ラボは共同でマラソン型プログラミングコンテスト（Hokkaido Univ. & Hitachi New-concept Computing Contest 2017）を開催いたしました．当コンテストは 2 回開催され，新概念コンピューティングのキー技術であるグラフ変換アルゴリズムの考案が競われました．参加登録者数は合わせて 1000 名を超え，400 を超える解答プログラムが提出されました．本ランチョンでは，本コンテストの背景説明，問題解説，成績上位者の表彰と記念講演を実施いたします． ・司会（所属）： 鈴木浩史（北海道大学），杉江祐哉（北海道大学） ・演者（所属）： 小松崎民樹（北海道大学），寺本央（北海道大学） 山岡雅直（日立製作所），竹本享史（日立製作所） 西藤光（神戸大学），吉田雄紀（東京大学大学院）

ー展示会のご案内ー

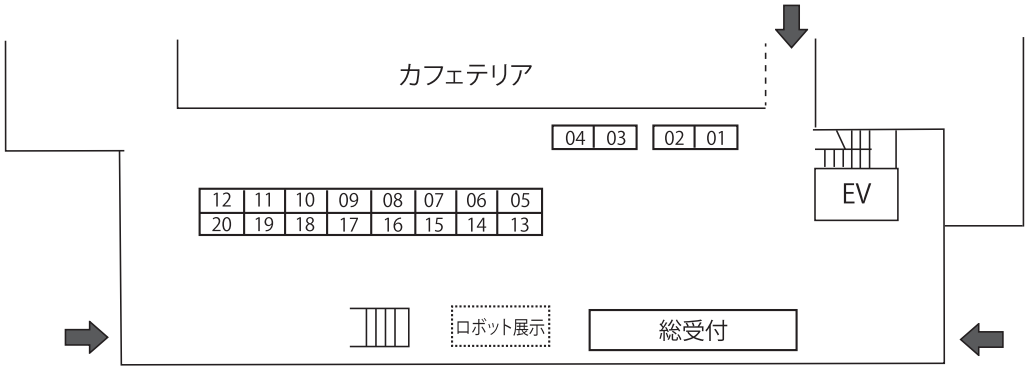
第 80 回全国大会では会期中，以下団体・企業・大学等による展示会を開催致します．
展示会場：早稲田大学 西早稲田キャンパス 63 号館 1F
展示日時：3 月 13 日（火）～ 15 日（木）9:30-17:00　*15 日は 15:00 まで

ブース番号	出展者名・出展者 Web サイト・展示名 展示概要
#01	**PwC コンサルティング合同会社**　〔https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/disruptive-technology.html〕　大会スポンサー（ゴールド） テクノロジーコンサルティングのご紹介
	PwC コンサルティング合同会社では，世界 158 か国のグローバルネットワークを活用して，最先端テクノロジーによる企業のビジネス変革を支援しています．機械学習を始めとした AI/ アナリティクス，サイバーセキュリティ，UI/UX，ロボティクス，IoT，ドローン，ブロックチェーン，クラウドアプリケーション等，活用するテクノロジーは様々です．本ブースでは，PwC の持つソリューションや，テクノロジーによる変革事例をご紹介します．
#02	**株式会社レコチョク**　〔http://recochoku.jp/corporate/〕　大会スポンサー（ゴールド） レコチョクの取り組み
	株式会社レコチョクは 2001 年の創業以来，音楽配信サービスにおいて，常に先進的で付加価値の高いサービスを展開しています．2013 年には聴き放題音楽ストリーミングサービスを開始，最近では，タワーレコード，NTT ドコモとともにアーティスト活動を支援する「Eggs プロジェクト」，アーティストの夢を共感・サポートしたファンと共にカタチにする共創・体験型プラットフォーム「WIZY」などを展開．皆様に音楽を届けるために最先端の IT 技術を駆使し，挑戦しつづけています．
#03	**株式会社サイバーエージェント**　〔https://www.cyberagent.co.jp/〕　大会スポンサー（ゴールド） サイバーエージェント AI Lab の研究開発
	サイバーエージェント AI Lab は 2016 年の 1 月に設立された，サイバーエージェント AdTech Studio 内の人工知能技術の研究開発組織です．AdTech Studio は広告配信に関連するプロダクト・カンパニーの集合体で，現在 300 名近くのエンジニアが広告配信に関わるサービス開発に取り組んでいます．AI Lab では「対話エージェント / 自動対話技術」「広告クリエイティブの制作支援と自動生成」「広告の因果推論」を中心テーマとして，機械学習，画像認識，自然言語処理，因果推論に関する最先端技術の研究開発を進めています．今回の展示ではいくつかの研究事例を紹介いたします．
#04	**チームラボ株式会社**　〔https://www.team-lab.com/〕　大会スポンサー（ランチョン） 機械学習や数理的手法を応用したプロジェクト，独自開発プロダクトの開発事例紹介
	チームラボは，インスタレーション・サイネージ・Web・スマートフォンアプリなど，デジタル分野における幅広いコンテンツ制作やソリューションの提供を行っています． それらを実現するために，プログラマ，エンジニア，CG アニメーター，数学者，建築家など，様々な分野のスペシャリストを集め，日々制作と実験を繰り返しています． ブース展示では，これまでチームラボが作ってきた様々なモノのうち，機械学習や数理的な手法を用いアートに応用したプロジェクトや，自社で独自に開発しているプロダクトについてご紹介します．
#05	**Neuroinformatics Japan Center**　〔https://nijc.brain.riken.jp/〕 ニューロインフォマティクス：国際ネットワークで進展する脳神経科学の研究基盤
	ニューロインフォマティクスは神経科学のデータベースの構築，データベース利用のための視覚化・解析ツールの開発，モデル構築などからなる神経科学と情報科学の接点となる分野です．全国の大学・研究機関との共同研究による開発と共に，国際ニューロインフォマティクス統合機構（INCF）と連携して国際的標準化も進めています．これまでに構築されて公開されているデータベース，ビッグデータへ取り組みなどを紹介します．
#06	**アシアル株式会社**　〔http://www.asial.co.jp/〕 Monaca によるプログラミング教育の事例紹介
	Monaca を活用してプログラミング教育で実績を出されている学校の事例や学生が作成したアプリを紹介します． また教材サンプルの無料配付を予定しております． ■ Monaca について Monaca は国内最大級のクラウド型アプリ開発ツールです． 現在 190,000 人以上の開発者と 600 以上の教育機関が利用しております． ■ Monaca Education の取り組み プログラミング教育を成功させたい教育機関を開発ツール，教材，人材面から支援しております．

#07 #08	**文科省／理研「実社会ビッグエータリ活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発」** 〔http://bigdata.kde.cs.tsukuba.ac.jp/〕 文科省／理研「実社会ビッグエータリ活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発」
	情報技術の発展と情報化の急速な進展, 特に IoT の普及に伴い, 実社会のあらゆる場面において膨大な「ビッグデータ」が生成されており，AI 等の技術を駆使したビッグデータの利活用が強く求められています. 2014 年に始まった文部科学省事業「実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発」は, 2016 年度から理化学研究所革新知能統合研究センター（AIP）のプロジェクトとなり, 2017 年度末で終了となります．これまでデータ連携技術，高性能データ融合解析技術，データ格納・可視化技術, システム統合化技術に関する研究開発を行うとともに，社会実装を意識した実証実験を実施してきました. 本展示ではプロジェクトの研究成果に加えて，プロジェクトで開発した実証実験アプリケーション（プローブと SNS の統合活用による交通状況推定，プローブとドライブレコーダデータからの潜在リスク交差点検知, ごみ減量 G1 グランプリ，高齢者見守り鵠沼ハッピーボード）のデモを展示，実際に試用していただきます.
#09	**トビー・テクノロジー株式会社**　〔http://www.tobiipro.com/ja/〕 Tobii Technology K.K.　アイトラッカーの展示
	600Hz のハイスピードで頭部を固定することなく計測可能な TobiiPro スペクトラムや，両眼 100Hz で動きながらの計測が可能な TobiiPro グラス 2 など，使いやすいアイトラッカーを展示しています.
#10	**慶應義塾大学理工学部天野研究室**　〔http://www.am.ics.keio.ac.jp/kaken_s〕 科研費 S　ビルディングブロック型計算システムに関する研究
	ビルディングブロック型計算システムは, 無線誘導 TCI（Through Chip Interface）を用いることにより, 様々なチップ間に柔軟に高速リンクを設けることにより，多様なシステムを構築することができる．本プロジェクトの最終年度に際し，その成果を報告する.
#11	**Springer**　〔springer.com〕 英文書籍展示
	英文書籍の展示，販売，出版相談
#12	**株式会社近代科学社**　〔https://www.kindaikagaku.co.jp/index.html〕 株式会社近代科学社　関連書籍の展示販売
	情報処理学会会員の皆様へ書籍の紹介と特別価格での販売を行います．情報処理関連の書籍を中心に，近年注目を集めている「人工知能関連」「データサイエンス関連」「統計関連」「応用数学関連」等の幅広い書籍の展示を行います．是非，この機会にお立ち寄りください.
#13	**新学術領域 重力波物理学・天文学：創世記**　〔https://gw-genesis.scphys.kyoto-u.ac.jp〕 新学術領域 重力波物理学・天文学：創世記
	いよいよ重力波天文学・物理学は幕を開けました．2016 年 2 月のアメリカの LIGO による重力波直接検出の第一報始まり 2017年ノーベル物理学賞の受賞など様々なニュースが駆け巡っています. 新学術領域「重力波物理学･天文学:創世記」では，重力波の直接観測がはじまった今，科学的大発見のチャンスをつかむために，情報技術，信号処理，データ解析，対応天体観測，理論的研究，それぞれの強みを活かし密接で高域な連携を実現することで，重要な成果を挙げるとともに，将来を担う若手研究者の育成をおこない，この新しい学問の創世をリードすることを目的にしています．本ブースでは，重力波物理学・天文学：創世記の紹介，重力波データ解析のデモ，重力波研究への参画の薦め，重力波研究分野での関連した大学院の紹介などをしています．お気軽にお立ち寄りください.
#14	**Recruit Institute of Technology**　〔http://recruit.ai〕 データサイエンティスト向けレポジトリライブラリ「BigGorilla」
	Recruit Institute of Technology による『BigGorilla』はデータサイエンティストが AI や機械学習などに取り込む前の「データの取得・抽出・変形・名寄せ，およびそのワークフロー構築」に役立つライブラリを共有できるレポジトリライブラリです. 弊社データサイエンティストも出席する予定ですのでデータマネジメントにお困りの方はぜひご相談しにお越しください. https://www.biggorilla.org/
#15	**ビジュアルテクノロジー株式会社**　〔https://www.v-t.co.jp/〕 科学技術計算システムソリューションのご紹介
	IMS（産業，医療，科学）分野における科学技術計算の高速処理を実現する計算システムソリューションをご紹介します. ご紹介する科学技術計算システムは，AI・ディープラーニング，映像処理などにも幅広く対応します. 特に, 最近の CAE/EDA, AI･ディープラーニング, 映像編集などでは, 画像のプリ / ポスト処理のビジュアライゼーションも重要になっており，その処理内容に応じて適切なグラフィックボードを選択でき，計算するうえで必要な環境を構築できる事が重要になっております. また，各種解析シミュレーションに対して高性能だけでなく，大きな負荷がかかる計算を行ってもダウンしないタフさ，エラー補正などにより正しい計算結果を得るための正確さ，長期間の連続運転時の安定稼動などのニーズにも対応することが求められます. 弊社は，科学技術演算向けハードウェア基盤技術をベースにした高付加価値サービスを，HPC コンシェルジュとして，高付加価値製品の開発，業務運用支援などのサービスを体系化し，ワンストップで提供します.

#16	**株式会社メビウス** 〔http://www.mebius.co.jp/〕 計測・解析，IoT，AI の三位一体を創造・実現する先端技術カンパニー ＝ 株式会社メビウス（横浜）
	当社は，計測･解析技術，IoT 技術，AI 技術の連携活用を追及するシステム･プラットフォーム「STRIX-ME」をベースに様々な応用分野に役立つ技術開発を進めております． 本展示会では，「STRIX-ME」，「各種計測解析システム」の展示・デモを予定しております． 計測・解析技術，IoT 技術，AI 技術等に関しまして何でもお問い合わせ等して頂けます相談窓口もご用意しておりますのでお気軽にお立ち寄りください．
#17	**2025 日本万国博覧会誘致委員会** 〔http://www.expo2025-osaka-japan.jp/〕 2025 年国際博覧会（万博）の日本開催をめざして
	2025 年国際博覧会の日本開催の実現に向け，大阪府や大阪市などの地元自治体と経済界による「2025 日本万国博覧会誘致委員会」を組織し，オールジャパン体制で誘致活動を行っています． メインテーマを「いのち輝く未来社会のデザイン」として掲げ，また，「未来社会の実験場“People's Living Lab”」をコンセプトとして，情報分野をはじめ，あらゆる先端技術の活用により全世界の人々が遠隔でも参加することを可能にし，新しい価値観や社会・経済システムを共創する社会，Society5.0 の実現した社会の実験場となる国際博覧会をめざします． 日本での国際博覧会の開催は，日本の技術を世界に示すまたとないチャンスです． 国際博覧会の誘致実現には皆様の応援が必要です．会員募集中ですので，ぜひご登録ください！（会費無料）
#18	**ESRI ジャパン株式会社** 〔https://www.esrij.com/〕 小中学校・高等学校における情報処理教育での GIS 活用の取り組み
	ESRI ジャパンは，Esri（米国）製品の総販売代理店として，地理情報にかかわる全ての情報に対応したソフトウェア（ArcGIS 製品，画像処理製品，GIS データ製品等）とサービス（保守，トレーニング，コンサルティング，出版など），そしてシステムの提供を行っております． GIS は初等中等教育・高等教育の学習活動におきましてもアクティブラーニングや ICT 教育の一環としても大きな注目を集めています． 今回は，初等中等教育・高等教育で活用していただけるオープンデータを利用したデモンストレーションの展示を行います． 皆様の来場，お待ちしております．
#19	**英文校正エナゴ / 翻訳ユレイタス** 〔https://www.enago.jp/〕 英文校正・翻訳サービスのご紹介
	■英文校正サービス 英文校正エナゴは，学術論文や書籍の英文校正を得意としています．分野の専門家と英語の専門家によるダブルチェックでお客様の論文を丁寧に校正します． ■翻訳サービス 翻訳ユレイタスの日英翻訳では，最大 4 名の専門家が一つの原稿の翻訳に取り組みます．研究者の皆様による成果の発信を，高品質な翻訳でサポートします．
#20	**株式会社 AndTech** 〔http://www.techzone.jp/〕 AndTech 社の人材育成講座，研修，書籍，講座のご紹介
	IoT センサ関連などの先端技術セミナー･書籍の企画，事業開発コンサルティング，技術コンサルティング，動向調査，ビジネスマッチングを行っております． ブースにはまた来訪者限定の無料資料，書籍の試読，プランニングを提供いたします． ぜひ，お越しください．

展示会場
（早稲田大学 西早稲田キャンパス 63 号館 1 階）



ブース番号	出　展　者
# 01	PwC コンサルティング合同会社
# 02	株式会社レコチョク
# 03	株式会社サイバーエージェント
# 04	チームラボ株式会社
# 05	Neuroinformatics Japan Center
# 06	アシアル株式会社
# 07, # 08	文科省／理研「実社会ビッグエータリ活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発」
# 09	トビー・テクノロジー株式会社
# 10	慶應義塾大学理工学部天野研究室
# 11	Springer
# 12	株式会社近代科学社
# 13	新学術領域 重力波物理学・天文学：創世記
# 14	Recruit Institute of Technology
# 15	ビジュアルテクノロジー株式会社
# 16	株式会社メビウス
# 17	2025 日本万国博覧会誘致委員会
# 18	ESRI ジャパン株式会社
# 19	英文校正エナゴ / 翻訳ユレイタス
# 20	株式会社 AndTech

情報処理学会の会員になりませんか！

www.ipsj.or.jp

新規会員募集中

一般社団法人 情報処理学会は、IT に関する専門家集団として健全な情報化社会の実現に向けて、学術・文化・産業等の多方面に貢献しています。

■活動の概要

○出版活動（学会誌「情報処理」、論文誌、デジタルプラクティス、単行本の発行）、電子図書館への掲載
○各種行事の開催（研究発表会、全国大会、FIT（情報科学技術フォーラム）、シンポジウム、連続セミナー、ソフトウエアジャパン他）
○教育活動（大学の標準カリキュラム策定、JABEE 認定審査、認定情報技術者（CITP）認証、教員免許更新講習）
○国際交流（IFIP への加盟、海外学協会との提携）
○標準化活動
○その他の活動（各種提言・コンピュータ博物館の運営・情報処理技術遺産の認定・表彰・支部活動他）

■会員になるには

入会金（正会員のみ）と会費をお振り込みの上、入会申込書をお送りください。理事会で承認後会員証（賛助会員除く）をお送りします。情報処理学会の会員は、個人会員と賛助会員から構成されています。

個人会員
名誉会員：当学会の活動において特別な功績があり、総会で推薦された個人
正 会 員：当学会の目的に賛同して入会した個人で、当学会の中心的会員
学生会員：学校に在学中の個人
ジュニア会員：小学生～大学学部 3 年生以下の学生（会費無料）

賛助会員
当学会の活動をサポートする団体または個人

■ご入会いただくと、こんな良いことがあります。

2017 年度

1 最新技術を紹介する会誌「情報処理」が毎月お手元に届きます（ジュニア会員は電子版のみ）。
特集：人流シミュレーション／「ロボットは東大に入れるか」という企て／ソフトウェア工学の最前線／農業 ICT／情報教育とワークショップ／ IoT 時代のセーフティとセキュリティ／ ACM チューリング賞 50 周年記念大会／プログラミング・エクスペリエンスの新潮流／ディジタルゲリマンダとは何か／ファイルシステムとストレージ／私たちの未来／脳情報科学が拓く AI と ICT／スマホプログラミング／進化し続けるコンピュータ将棋　他

2 実務の現場で IT を実践する皆様に向けた論文誌「デジタルプラクティス」を年 4 回発行しています（電子版のみ）。
特集：社会に浸透する画像認識（4 月刊行）／ IoT システムと組込み技術（7 月刊行）／デザイン・アートと ICT の融合によるサービスのイノベーション（10 月刊行）／オープンデータを活用した新しい社会（1 月刊行）

3 電子図書館で「情報処理」の過去の記事を見ることができます。

4 「連続セミナー」に会員価格（7,000 円お得）で参加できます。
時代に即しかつ技術の先進性に富んだ内容をテーマに、その分野の第一線で活躍している講師を招いて年数回にわたり開催しています。2017 年度は「イノベーション最前線：2020 年を超えて生き抜くための技術を探る」をテーマに、6 回開催しました。

5 ホットトピックスに対応する「シンポジウム・セミナー」（5,000 円以上お得）や「研究会」に会員価格で参加できます。

ホットトピックス
3D プリンタ、Bit Coin、Fintech、GPS、IoT、ITS、アクセシビリティ、暗号、インターネット、ウェアラブル、組込みシステム、クラウド、ゲーム、自動運転、障害者支援、シンギュラリティ、人工知能、スマート社会、セキュリティ、ソーシャルネットワーク、ダイバーシティ、データマイニング、ドローン、バイオ、ビッグデータ、ユビキタス、量子コンピュータ、ロボット、ディープラーニング

6 出版図書が会員割引で購入できます。
IT Text シリーズ、英文図書 Advanced Information Technology シリーズ、日本のコンピュータ史等

他にも会員向けサービスがたくさんあります。詳細は学会 Web サイトをご覧ください。

お問い合わせは、
一般社団法人 情報処理学会 会員サービス部門
〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台 1-5　化学会館 4F
Tel.(03)3518-8370　Fax.(03)3518-8375　mem@ipsj.or.jp

IPSJ IT CAREER SESSION
2019 卒向け IT 情報系キャリア研究セッション

学生の専攻分野と就職を結ぶ「合同キャリア説明会」です．2018 年 3 月 14 日（水），3 月 15 日（木）の 2 日間にかけて分野ごとに企業ブースを設けます．IT 情報系の分野ごとにハードメーカー系，ソフトメーカー系，IT コンサル・SIer 系，通信系，WEB 系を代表する企業・社会人と直接話ができるイベントです．
イベント当日はそれぞれの IT 業界の現場に携わる社会人や，教員，キャリアアドバイザーをブースにお呼びし，進路や就職活動に関して相談することができます．昨年好評だった参加企業提供グッズのプレゼントも企画中！各日先着 50 名「無料」軽食付き．

・自分の専攻を社会でどうやって活かすんだろう
・学びの分野ごとの就職活動の違いってなんだろう
・IT 情報系の就職について社会人に話を聞いてみたい

そんな“就職”にまつわる悩みをここで解決しよう！

予定企業名一覧

A 日程 : 3 月 14 日（水）13:20-16:20，B 日程 : 3 月 15 日（木）13:20-16:20［第 3 イベント会場（63 号館 02-02）］

アドソル日進株式会社

アビームシステムズ株式会社

株式会社アピリッツ

NTT コミュニケーションズ株式会社

ソフトバンク株式会社

株式会社チェンジ

デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社

株式会社ドリコム

株式会社ドワンゴ

株式会社ナレッジクリエーションテクノロジー

バルテス株式会社

株式会社ビッグツリーテクノロジー＆コンサルティング

富士通株式会社

株式会社リコー

株式会社数理計画

日本アイ・ビー・エム株式会社

日本システム開発株式会社

株式会社日立システムズ

株式会社日立製作所

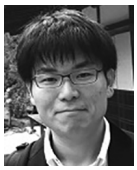
（※）参加企業は一部を変更する場合があります
（※）来場者は一部抜粋となり下記以外の社会人も参加します
（※）参加企業の日程や最新の情報については以下 URL 専用サイトよりご確認お願いします
https://www.ipsj.or.jp/event/taikai/80/career/

第一線で活躍するエンジニアたちによるキャリアアドバイス

「Web サービスづくりを仕事にするヒト図鑑」
西脇　学（株式会社アピリッツ 執行役員・WebService 開発ユニット長）
［対話内容］
Web エンジニアリングに興味を持ってくれた学生のみなさんに，大規模 Web サービス開発の現場で必要となるさまざまなジョブ（役割）とスキル（技能）についてお話しします．それから弊社の最近の開発環境もご紹介．さらに質疑応答の時間には Web の現場を長年渡り歩いたからこそお話しできる実際のエピソードも織り交ぜたマジメに楽しく泣き笑いなここだけの話など．
［略歴］
大学でマーケティングを専攻．データベースとインターネットの将来性に希望を抱き，卒業後はエンジニアの道へ．電力系 SIer にて基幹システムから Web システムまで広く関わった後，アピリッツに参画．大規模メディアサイトの立ち上げを多く手掛ける．現在は沢山のスタッフと共に，数々のプロジェクトにビジネス要件コンサルティングから開発・運用まで様々な場面に携わりつつ，AWS 活用や Web セキュリティに関する講演など活動を広げている．

「IT が変える企業経営とワークスタイル～日本企業はデジタルネイティブにどう変わるか」
福留　大士（株式会社チェンジ 代表取締役兼執行役員社長）
［対話内容］
未来の社会を予測したうえで，学生が企業を選ぶときに重視すべきことについて，意見交換したいです．具体的には，今の企業がどのような環境変化にさらされているかを踏まえつつ，学生の皆さんの能力が一番活きるフィールドがどのようなところなのかについて考えてみたいと思います．
［略歴］
1998 年アクセンチュア入社，製造業・政府官公庁向けの IT プロジェクトを経験．2003 年（株）チェンジ設立，代表取締役に就任．人財の教育と IT 活用によって企業の生産性を向上させる New IT トランスフォーメーション事業で 2016 年に東証マザーズ上場，現在に至る．

「ソーシャルゲーム運用の現場で求められる技術と思考とリーダーシップ」
三上　拓也（株式会社ドリコム ゲームオペレーション統括部）
［対話内容］
新卒 3 年目でリリースから 3 年経つ大規模スマートフォン向けゲームにてエンジニア兼チームリーダーを務めています．ソーシャルゲームというトラフィックが多く，更新頻度の高い web サービスの運用の現場で，快適なサービスを提供するためにどのような努力をしているか，日々何を考えて業務をこなしているのか，リーダーとしてチームをまとめるために気を付けていることなどお話しできればと思います．
［略歴］
早稲田大学大学院 基幹理工学研究科 情報理工学専攻を卒業後，（株）ドリコムに入社．入社後，サーバーサイドエンジニアとしてスマートフォン向けゲームの運用に携わる．1 年目の後半から開発へと徐々にシフトし，2 年目にはリードエンジニアとして様々な機能開発を行う．現在は，引き続きリードエンジニアとして業務をこなしつつ，チームリーダーとしてエンジニア育成やプロジェクト推進にも力を入れる．



「在学中の研究内容や，現在の仕事・職場について」
有賀　竣哉（株式会社ドワンゴ 第二サービス開発本部 動画生放送サービス開発部）
［対話内容］
在学中の研究内容や，現在の開発業務のお話をさせていただきます．また，新入社員研修や同期の雰囲気などもお伝えします．ご気軽にブースへお越しください．
［略歴］
2017 年 3 月東京大学工学系研究科電気系工学専攻修了．在学中は，音響信号解析を活かした，インタラクティブなギター演奏の学習支援システムを研究（2017 年度情報処理学会山下記念賞受賞，第 114 回情報処理学会音楽情報科学研究会）．

「社会インフラ系の ICT システム開発の面白さ」
勝連　良地（株式会社ナレッジクリエーションテクノロジー ソリューションサービス事業部 CTO）
［略歴］
金融系システムエンジニアとして銀行システムの開発に従事．2008 年ナレッジクリエーションテクノロジー創業メンバーとして会社設立．CTO として，自社ソリューションの開発，お客様の課題解決につながる提案，開発に従事．会津大学大学院コンピュータ理工学部研究科修了．沖縄出身．

「業界のトップ企業と共に社会を変えていく仕事」
杉山　健（株式会社ビッグツリーテクノロジー＆コンサルティング 代表取締役社長）
［対話内容］
もはや IT なしでは生活もビジネスも成り立たない時代に生まれてきた者の責任として，若い方には IT やシステムといった仕事に関わる責任があるのではないかと考えます．つまり，その時代時代で選ぶべき業種には，必然性があるのです．しかし，システムをつくるだけの単なるプログラマーという仕事は，中長期的には AI に取って代わられる仕事もあるかもしれません．大手企業の下請けの『作業者』ではなく，顧客と直接，対等な立場でディスカッションできる『パートナー』になり，我々がつくるシステムを使って人々や社会にインパクトを与え，文化を創造するのが当社のミッションです．
［略歴］
電気通信大学電気通信学部卒業後，1993 年 4 月アクセンチュア（株）に入社．公共サービス・医療健康本部のエグゼクティブ・パートナー及びアジア太平洋地区経営会議メンバー（アカウントリード兼品質責任者）昇進を経て，2012 年に同社を退社．2012 年 6 月に BTC 入社．2005 年 6 月以降，IPA（独立行政法人情報処理推進機構）における IT スキル標準プロフェッショナルコミュニティコンサルタント委員会において主査として活動．

「新規事業開発におけるエンジニアの生きかた，働きかた」
横田　峻（株式会社リコー デジタルビジネスセンター Office Solution Delivery 室 KC グループ）
［対話内容］
入社から多くの新規事業開発やプロトタイプ開発をしてきた経験から，新規事業系テーマが置かれやすい状況や，その中でエンジニアに求められるスキルや行動を失敗例も含めてご紹介します．収益の柱となるような基盤事業の設計開発や技術を極める研究とはひと味違ったお話ができればと思います．新しいものをつくりたい！新規事業をやりたい！と考えている学生さんはぜひご参加を！
［略歴］
長野高専から北海道大学へ 3 年次編入．2013 年北海道大学大学院を卒業後，（株）リコーへ入社．主に新規事業の開発業務を担当し，社内ファブスペース「つくる～む」の立ち上げ，短焦点プロジェクターの回路設計，新無線規格対応 LED 照明自動調光システム開発などに従事．現在は「EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES」を掲げるリコーのデジタルビジネス基盤となるクラウドソリューション開発を行う．

★ 63 号館 1 階ホワイエ

日	時間＼会場	第 1 イベント会場 57 号館 201	第 2 イベント会場 57 号館 202	第 3 イベント会場 63 号館 02-02	第 4 イベント会場 56 号館 101	第 5 イベント会場 56 号館 102	展示会場 ★
3月13日（火）	9:30 1 12:00	子ども達に，いま必要なマナビ：プログラミング的思考や読解力の必要性と教育のあり方は？ ～データなどの確かな根拠に裏付けされた実態と展望～ 34	カリキュラム標準 J17 と情報教育 37	論文必勝法 46	Society5.0 実現のための情報技術 ～ H30 年度公募に向けて～ 48	2017 年サイバー事件回顧録 ～技術と法制度の両面から～ 57	
	13:20 2 15:50		新しい一般情報教育の知識体系 39	13:20-15:30 ～コンピュータパイオニアが語る～ 「私の詩と真実」 47	アジャイル開発の事例に則した契約の一例提案 49	現場から見た情報セキュリティの現状と今後 －デジタルプラクティスライブ－ 58	展示（20 件） 9:30-17:00
	16:00 16:45	大会挨拶 表彰式 情報処理技術遺産認定式					
	16:45 17:45	特別講演 小中高で育む情報活用能力 28					
	18:00 20:00	懇親会（63 号館 1 階カフェテリア）					
3月14日（水）	9:30 3 12:00	インターンシップについて本音を語る： 大学教員×企業×学生 35	実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発 40		文部科学省 大学入学者選抜改革推進委託事業 「情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発」（2） 51	計算社会科学の可能性 61	
	12:10 13:10					ランチョンセミナー （チームラボ株式会社）	
	13:20 4 15:20	13:20-13:50 招待講演（1） Vicki L. Hanson （President of Association for Computing Machinery） 28 13:50-14:20 招待講演（2） Shi-Min Hu （President of China Computer Federation） 28 14:20-14:50 招待講演（3） Young Ik Eom （President of the Korean Institute of Information Scientists and Engineers） 29 14:50-15:20 招待講演（4） Hironori Kasahara （IEEE Computer Society President 2018） 29		13:20-16:20 IT 情報系 キャリア研究セッション			展示（20 件） 9:30-17:00
	15:30 5 18:00	サムライ・ジョッキー： 人工知能で駆け抜けろ －第 6 回 国際人工知能プログラミングコンテスト世界決勝戦 SamurAI Coding 2017-18 World Final 37	高度 IT 技術者「CITP」の活躍 42	14	会誌「情報処理」 公開編集委員会 53		
3月15日（木）	9:30 6 12:00		工芸から科学へ － CG 技術の新たな挑戦 － 44		ソウル協定と情報専門分野の認定 54	Exciting Coding! Junior ファシリテータ講習 62	
	12:10 13:10		ランチョンセミナー （株式会社日立製作所・北海道大学）				
	13:20 7 15:20		はじめよう♪ グラフィックレコーディング 46	13:20-16:20 IT 情報系 キャリア研究セッション	サイバー保険の現状と今後の課題 56	小中高で必修化されたプログラミング教育とは 63	展示（20 件） 9:30-15:00
	15:30 17:30	特別講演 IPSJ-ONE 30		14			

※表中の右下の数字は当プログラム冊子の詳細掲載ページ番号です。

※表中の○囲み数字は講演論文集の掲載分冊番号です。

タイムテーブル

一般セッション A 52 号館 101	一般セッション B 52 号館 102	一般セッション C 52 号館 103	一般セッション D 52 号館 104	一般セッション E 52 号館 201	一般セッション F 52 号館 202	一般セッション G 52 号館 204	学生セッション H 52 号館 301	学生セッション J 52 号館 302
	ソフトウェア要求仕様と品質 中島　毅 （芝浦工大） ① 66	知能システム 福田　直樹 （静岡大） ② 71	センサーシステムとメディア通信 金子　雄 （東芝） ③ 78		情報技術者教育 土肥　紳一 （電機大） ④ 88	e-Learning 掛下　哲郎 （佐賀大） ④ 89	パラメタ最適化と深層学習 櫻井　隆雄 （日立） ① 65	基盤ソフトウェア・セキュリティ 坂本　龍一 （東大） ① 66
仮想化技術・クラウドとキャッシュ 小野　貴継 （九大） ① 65	プログラミング 篠埜　功 （芝浦工大） ① 67	コンピュータビジョン 渡辺　裕 （早大） ② 71	インターネットと運用技術 佐藤　聡 （筑波大） ③ 78	セキュリティ一般 島岡　政基 （セコム） ③ 83	高齢社会デザイン 竹林　洋一 （静岡大） ④ 89	アクティブラーニング・学習支援 大崎　理乃 （産業技術大） ④ 89	並列処理と性能評価 土井　淳 （日本 IBM） ① 65	ソフトウェア解析と品質 岡田　譲二 （NTT データ） ① 67
懇親会（63 号館 1 階カフェテリア）								
ビルディングブロック型計算システム 津邑　公暁 （名工大） ① 65			高度交通システムとスマートコミュニティ 湯　素華 （電通大） ③ 78	インタフェース（1） 倉本　到 （阪大） ④ 85	情報システムとガバナンス・法制度 橋本　誠志 （徳島文理大） ④ 89	センサーデータとIoT 後藤　晶 （山梨英和大） ④ 90	組込みアプリケーション 山本　達也 （富士通研） ① 65	ソフトウェア形式検証とテスト 新原　敦介 （日立） ① 67
	IFAT/DCC 藏川　圭 （NII） ① 69							
並列処理 片桐　孝洋 （名大） ① 65	DB システムと応用 天笠　俊之 （筑波大） ① 69	音楽情報処理 平田　圭二 （はこだて未来大） ② 71	モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム 梶　克彦 （愛知工大） ③ 78	インタフェース（2） 綾塚　祐二 （クレスコ） ④ 85	学習支援システム（1） 関谷　貴之 （東大） ④ 89	情報教育 中鉢　直宏 （帝京大） ④ 90	積層型 LSI システム 島村　光太郎 （日立） ① 65	ソフトウェア要求仕様と開発支援 西薗　和希 （野村総研） ① 67
数理モデル化と問題解決（5） 穴田　一 （東京都市大） ① 66			分散処理とプロトコル 重安　哲也 （県立広島大） ③ 78	インタフェース（3） 西本　一志 （北陸先端大） ④ 85	防災と社会サポート 高橋　尚子 （国学院大） ④ 89	プログラミング教育 小川　健 （専修大） ④ 90	組込み開発環境・プラットフォーム 早川　栄一 （拓大） ① 66	計算モデルとプログラミング 日高　宗一郎 （法大） ① 67
アルゴリズム 中野　眞一 （群馬大） ① 66	自然言語処理 白井　匡人 （島根大） ② 71		コンシューマデバイス・システム 寺島　美昭 （創価大） ③ 78		バイオ情報学と博物館情報 伊澤　和輝 （東工大） ④ 89	産業への応用と社会への影響 居駒　幹夫 （日立） ④ 90	システム・アーキテクチャと性能評価 長谷川　揚平 （東芝メモリ） ① 66	プログラミング 寺内　多智弘 （早大） ① 68

日	時間＼会場	学生セッション K 52 号館 303	学生セッション L 52 号館 304	学生セッション M 53 号館 201	学生セッション N 53 号館 203	学生セッション P 53 号館 301	学生セッション Q 53 号館 303	学生セッション R 53 号館 401	学生セッション S 53 号館 403
3月13日（火）	9:30 1 12:00	数理モデル化と問題解決（1） 庄野　逸 （電通大） ① 68		IFAT/DCC（3） 水野　慎士 （愛知工大） ① 70	音楽体験支援 糸山　克寿 （京大） ② 72	深度画像の生成・解析 河合　紀彦 （奈良先端大） ② 73	光線・光源・色彩 川上　玲 （東大） ② 74	スポーツ・動画像解析 林　将之 （キヤノン） ② 75	画像処理と知能システム（1） 尾形　哲也 （早大） ② 76
	13:20 2 15:50	数理モデル化と問題解決（2） 庄野　逸 （電通大） ① 68	IFAT/DCC（1） 義久　智樹 （阪大） ① 69	ゲームと学習 保木　邦仁 （電通大） ② 71	楽曲の生成・編曲・分析 深山　覚 （産総研） ② 72	医療・福祉 小嶋　和徳 （岩手県大） ② 73	マルチエージェント（1） 浅谷　公威 （東大） ② 74	物体検出・認識 高橋　徹 （NEC） ② 75	画像処理と知能システム（2） 白川　真一 （横浜国大） ② 76
	16:00 16:45								
	16:45 17:45								
	18:00	懇親会（63 号館 1 階カフェテリア）							
3月14日（水）	9:30 3 12:00	数理モデル化と問題解決（3） 松田　健 （長崎県立大） ① 68			AI と音楽情報処理 藤島　琢哉 （ヤマハ） ② 72	VR・AR・MR・知覚（3） 宍戸　英彦 （筑波大） ② 73	マルチエージェント（2） 藤田　桂英 （農工大） ② 74	多視点幾何 島村　潤 （NTT） ② 76	安全・安心 石寺　永記 （NICT） ② 76
	12:10 13:10								
	13:20 4 15:20		DB システム 中野　美由紀 （産業技術大） ① 69						
	15:30 5 18:00	数理モデル化と問題解決（4） 安田　宗樹 （山形大） ① 68	IFAT/DCC（2） 大瀧　洋子 （日立） ① 69	機械学習と知能システム 加藤　毅 （群馬大） ② 71	インタラクションとその応用 大知　正直 （東大） ② 72	自然言語処理（3） 浅原　正幸 （国立国語研） ② 73	音声・音響信号処理 小川　哲司 （早大） ② 75	マルチメディアシステム 高橋　秀幸 （東北大） ③ 78	位置推定 石原　丈士 （東芝メモリ） ③ 79
3月15日（木）	9:30 6 12:00	アルゴリズム 荒木　徹也 （首都大） ① 68	データ解析 小林　亜樹 （工学院大） ① 70	機械学習（1） 櫻井　義尚 （明大） ② 72	深層学習による画像処理 山口　光太 （サイバーエージェント） ② 73	自然言語処理（4） 大西　貴士 （NEC） ② 74	対話システム・ロボット対話 東中　竜一郎 （NTT） ② 75	コンシューマシステム（1） 望月　理香 （NTT） ③ 79	モバイルコンピューティング 張　成 （早大） ③ 79
	12:10 13:10								
	13:20 7 15:20	SNS 北山　大輔 （工学院大） ① 69	DB 応用 新谷　隆彦 （電通大） ① 70	機械学習（2） 金子　正秀 （電通大） ② 72	ロボットと知能システム 森　裕紀 （早大） ② 73	自然言語処理（5） 佐藤　美沙 （日立） ② 74	自然言語処理（6） 東中　竜一郎 （NTT） ② 75	コンシューマシステム（2） 烏谷　彰 （富士通研） ③ 79	無線ネットワーク 張　成 （早大） ③ 79
	15:30 17:30								

※表中の右下の数字は当プログラム冊子の詳細掲載ページ番号です。

※表中の○囲み数字は講演論文集の掲載分冊番号です。

タイムテーブル

学生セッション T 54 号館 101	学生セッション U 54 号館 102	学生セッション V 54 号館 103	学生セッション W 54 号館 104	学生セッション X 54 号館 201	学生セッション Y 54 号館 202	学生セッション ZA 54 号館 203	学生セッション ZB 54 号館 204	学生セッション ZC 54 号館 301
自然言語処理（1） 清田　陽司 （ネクスト） ② 76	動画配信 田中　俊介 （NTT データ） ③ 80	ユビキタスコンピューティングシステム 矢谷　浩司 （東大） ③ 82	ネットワークセキュリティ（1） 嶋田　創 （名大） ③ 83	コラボライティブ・ネットワーキング 服部　哲 （駒大） ④ 85	VR・AR・MR・知覚（1） 濱川　礼 （中京大） ④ 86	線とイラスト 向井　智彦 （東海大） ④ 87	アクセシビリティ 馬場　哲晃 （首都大） ④ 90	産業応用 児玉　公信 （情報システム総研） ④ 91
自然言語処理（2） 小町　守 （首都大） ② 76	音声・画像処理 内藤　整 （KDDI 総合研究所） ③ 81	センシングシステム・アプリケーション 川原　圭博 （東大） ③ 82	ネットワークセキュリティ（2） 渡邊　晃 （名城大） ③ 83	デジタル・エクスペリエンス 柴田　邦臣 （津田塾大） ④ 85	VR・AR・MR・知覚（2） 中村　嘉志 （国士舘大） ④ 86	人間計測・医療支援（1） 伊藤　久祥 （岩手県立大） ④ 87	デジタルアーカイブ 後藤　真 （国立歴史民俗博物館） ④ 90	情報社会 湯田　恵美 （名古屋市大） ④ 91
懇親会（63 号館 1 階カフェテリア）								
分散システム運用管理 北口　善明 （東工大） ③ 80	通信プロトコルと品質制御（1） 野呂　正明 （富士通研） ③ 81	サイバーフィジカルシステム 宮崎　敏明 （会津大） ③ 82	認証 清　雄一 （電通大） ③ 83	可視化とバーチャルシステム 竹島　由里子 （東京工科大） ④ 85	視覚と色表現 吉田　典正 （日大） ④ 86	人間計測・医療支援（2） 加藤　昇平 （名工大） ④ 87	アニメーション 今給黎　隆 （東京工芸大） ④ 88	防災システムと地域貢献 大場　みち子 （はこだて未来大） ④ 91
ネットワーク運用管理・危機管理 石原　知洋 （東大） ③ 80	通信プロトコルと品質制御（2） 重安　哲也 （県立広島大） ③ 81	歩行者と高度交通システム 花房　比佐友 （アイ・トランスポート・ラボ） ③ 82	プライバシーとトラスト 土井　洋 （情報セキュリティ大） ③ 84	質感表現 土橋　宜典 （北大） ④ 86	アニメとアート表現 藤堂　英樹 （中央学院大） ④ 86	人間計測・医療支援（3） 菅谷　みどり （芝浦工大） ④ 87	ロボットとエージェント（2） 伊藤　貴之 （お茶の水女子大） ④ 88	心を動かす表現とその制作支援 垂水　浩幸 （香川大） ④ 91
ネットワークミドルウェア 寺田　直美 （NICT） ③ 80	分散処理 後藤　佑介 （岡山大） ③ 81	無線通信と高度交通システム 屋代　智之 （千葉工大） ③ 82	システムセキュリティ 三村　守 （防衛大） ③ 84	ナレッジ・ネットワーキング 本田　新九郎 （NTT） ④ 86		ロボットとエージェント（1） 椎尾　一郎 （お茶の水女子大） ④ 87	入力インタフェース（1） 中村　喜宏 （日大） ④ 88	アクティブラーニング 富永　浩之 （香川大） ④ 91
ワイヤレスセンサーネットワーク・IoT 深澤　佑介 （NTT ドコモ） ③ 80	ネットワークサービス 小島　俊輔 （熊本高専） ③ 81	シミュレーションと高度交通システム 柴田　直樹 （奈良先端大） ③ 83	機械学習セキュリティ・マルウェア 佐藤　将也 （岡山大） ③ 84	暗号と人工物メトリクス 山口　高康 （NTT ドコモ） ③ 84	生活支援・ネットワークメディア 澤田　秀之 （早大） ④ 87	協調作業 西本　一志 （北陸先端大） ④ 88	入力インタフェース（2） 梅澤　猛 （千葉大） ④ 88	人文科学へのコンピュータ応用 村川　猛彦 （和歌山大） ④ 91

情報処理学会　第 80 回全国大会　タイムテーブル

日	時間＼会場	学生セッション ZD 54 号館 302	学生セッション ZE 54 号館 303	学生セッション ZF 54 号館 304
3月13日（火）	9:30 **1** 12:00	協調学習支援システム 芳賀　瑛 （法大） ④ 92	学習支援 中鉢　直宏 （帝京大） ④ 93	教材作成支援 飯島　泰裕 （青学大） ④ 94
	13:20 **2** 15:50	ログデータの分析と教育利用 芳賀　瑛 （法大） ④ 92	観光情報システム 窪田　諭 （関西大） ④ 93	評価指導支援 渡辺　博芳 （帝京大） ④ 94
	16:00 16:45			
	16:45 17:45			
	18:00	懇親会（63 号館 1 階カフェテリア）		
3月14日（水）	9:30 **3** 12:00	高齢者見守り支援 鏑木　崇史 （青学大） ④ 92	心を動かすコミュニケーション 大坪　五郎 （LIFULL） ④ 93	
	12:10 13:10			
	13:20 **4** 15:20		応用システムと社会フレームワーク 本田　正美 （東工大） ④ 93	
	15:30 **5** 18:00	高齢者介護支援システム 松浦　博 （静岡県大） ④ 92	情報技術者教育 伊藤　一成 （青学大） ④ 94	学習支援・アクティブラーニング 大場　みち子 （はこだて未来大） ④ 95
3月15日（木）	9:30 **6** 12:00	学習支援システム（2） 古川　雅子 （NII） ④ 92	社会支援 柿崎　淑郎 （電機大） ④ 94	プログラミング教育 渡邉　景子 （東京女子体育大） ④ 95
	12:10 13:10			
	13:20 **7** 15:20	マルチメディア教材の活用 中平　勝子 （長岡技科大） ④ 93	農業と自然リソース 刀川　真 （室蘭工大） ④ 94	バイオ情報学 五斗　進 （情報・システム研究機構） ④ 95
	15:30 17:30			

※表中の右下の数字は当プログラム冊子の詳細掲載ページ番号です。
※表中の○囲み数字は講演論文集の掲載分冊番号です。

第 80 回全国大会講演論文集の分類と内容
（括弧内はセッション会場名）

●第 1 分冊

・コンピュータシステム
システム・アーキテクチャ，システムソフトウェアとオペレーティング・システム，
ハイパフォーマンスコンピューティング，システムと LSI の設計技術，組込みシステム
（2A ～ 3A，5A，1H ～ 3H，5H ～ 7H，1J）

・ソフトウェア科学・工学
アルゴリズム，数理モデル化と問題解決，ソフトウェア工学，プログラミング
（6A ～ 7A，1B ～ 2B，2J ～ 3J，5J ～ 7J，1K ～ 3K，5K ～ 6K）

・データとウェブ
データベースシステム，情報基礎とアクセス技術，デジタルコンテンツクリエーション
（4B ～ 5B，7K，2L，4L ～ 7L，1M）

●第 2 分冊

・人工知能と認知科学
知能システム，自然言語処理，音声言語情報処理，音楽情報科学，ゲーム情報学，
コンピュータビジョンとイメージメディア
（7B，1C ～ 2C，5C，2M，5M ～ 7M，1N ～ 3N，5N ～ 7N，1P ～ 3P，5P ～ 7P，1Q ～ 3Q，5Q ～ 7Q，
1R ～ 3R，1S ～ 3S，1T ～ 2T）

●第 3 分冊

・ネットワーク
マルチメディア通信と分散処理，インターネットと運用技術，
モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム，ユビキタスコンピューティングシステム，
高度交通システムとスマートコミュニティ，コンシューマ・デバイス＆システム，
オーディオビジュアル複合情報処理
（1D ～ 3D，5D ～ 7D，5R ～ 7R，5S ～ 7S，3T，5T ～ 7T，1U ～ 3U，5U ～ 7U，1V ～ 3V，5V ～ 7V）

・セキュリティ
コンピュータセキュリティ，セキュリティ心理学とトラスト
（2E，1W ～ 3W，5W ～ 7W，7X）

●第 4 分冊

・インタフェース
ヒューマンコンピュータインタラクション，グループウェアとネットワークサービス，
コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学
（3E，5E ～ 6E，1X ～ 3X，5X ～ 6X，1Y ～ 3Y，5Y，7Y，1ZA ～ 3ZA，5ZA ～ 7ZA，3ZB，5ZB ～ 7ZB）

・コンピュータと人間社会
コンピュータと教育，バイオ情報学，情報システムと社会環境，ドキュメントコミュニケーション，
人文科学とコンピュータ，エンタテインメントコンピューティング，電子化知的財産・社会基盤，
教育学習支援情報システム，高齢社会デザイン，アクセシビリティ
（1F ～ 3F，5F ～ 7F，1G ～ 3G，5G ～ 7G，1ZB ～ 2ZB，1ZC ～ 3ZC，5ZC ～ 7ZC，1ZD ～ 3ZD，
5ZD ～ 7ZD，1ZE ～ 7ZE，1ZF ～ 2ZF，5ZF ～ 7ZF）

－全国大会イベント企画のご案内－

■特別講演　13 日（火）16:45-17:45

第 1 イベント会場（57 号館 201）
「小中高で育む情報活用能力」
鹿野　利春（国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官）

■招待講演（1）14 日（水）13:20-13:50

第 1 イベント会場（57 号館 201）
ビデオレター
Vicki L. Hanson（President of Association for Computing Machinery）

■招待講演（2）14 日（水）13:50-14:20

第 1 イベント会場（57 号館 201）
「Intelligent Processing of Visual media and it's applications」
Shi-Min Hu（President of China Computer Federation）

■招待講演（3）14 日（水）14:20-14:50

第 1 イベント会場（57 号館 201）
「System Software Trends on NVM Technologies」
Young Ik Eom（President of the Korean Institute of Information Scientists and Engineers）

■招待講演（4）14 日（水）14:50-15:20

第 1 イベント会場（57 号館 201）
「Future of High-Performance Low Power Multicore Computing」
Hironori Kasahara（IEEE Computer Society President 2018）

■大会挨拶・各種表彰式・情報処理技術遺産認定式　13 日（火）16:00-16:45

第 1 イベント会場（57 号館 201）

■イベント企画

第 1 イベント会場（57 号館 201）
- 13 日（火）9:30-12:00　子ども達に，いま必要なマナビ：プログラミング的思考や読解力の必要性と教育のあり方は？～データなどの確かな根拠に裏付けされた実態と展望～
- 14 日（水）9:30-12:00　インターンシップについて本音を語る：大学教員×企業×学生
- 14 日（水）15:30-18:00　サムライ・ジョッキー：人工知能で駆け抜けろ－　第 6 回 国際人工知能プログラミングコンテスト世界決勝戦　SamurAI Coding 2017-18 World Final
- 15 日（木）15:30-17:30　特別講演　IPSJ-ONE

第 2 イベント会場（57 号館 202）
- 13 日（火）9:30-12:00　カリキュラム標準 J17 と情報教育
- 13 日（火）13:20-15:50　新しい一般情報教育の知識体系
- 14 日（水）9:30-12:00　実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発
- 14 日（水）15:30-18:00　高度 IT 技術者「CITP」の活躍
- 15 日（木）9:30-12:00　工芸から科学へ　－ CG 技術の新たな挑戦－
- 15 日（木）13:20-15:20　はじめよう♪ グラフィックレコーディング

第 3 イベント会場（63 号館 02-02）
- 13 日（火）9:30-12:00　論文必勝法
- 13 日（火）13:20-15:30　～コンピュータパイオニアが語る～「私の詩と真実」

第 4 イベント会場（56 号館 101）
- 13 日（火）9:30-12:00　Society5.0 実現のための情報技術　～ H30 年度公募に向けて～
- 13 日（火）13:20-15:50　アジャイル開発の事例に則した契約の一例提案
- 14 日（水）9:30-12:00　文部科学省 大学入学者選抜改革推進委託事業「情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発」（2）
- 14 日（水）15:30-18:00　会誌「情報処理」公開編集委員会
- 15 日（木）9:30-12:00　ソウル協定と情報専門分野の認定
- 15 日（木）13:20-15:20　サイバー保険の現状と今後の課題

第 5 イベント会場（56 号館 102）
- 13 日（火）9:30-12:00　2017 年サイバー事件回顧録～技術と法制度の両面から～
- 13 日（火）13:20-15:50　現場から見た情報セキュリティの現状と今後　－デジタルプラクティスライブ－
- 14 日（水）9:30-12:00　計算社会科学の可能性
- 15 日（木）9:30-12:00　Exciting Coding! Junior ファシリテータ講習
- 15 日（木）13:20-15:20　小中高で必修化されたプログラミング教育とは

－全国大会　会場別プログラム－

【第 1 イベント会場（57 号館 201）】

日	時間	内容
13日（火）		**子ども達に，いま必要なマナビ：プログラミング的思考や読解力の必要性と教育のあり方は？ ～データなどの確かな根拠に裏付けされた実態と展望～**
	9:30-9:35	趣旨説明
	9:35-10:30	基調講演：初等教育におけるプログラミング「的」教育の必要性と，プログラミング教育の不必要性 新井　紀子（NII）
	10:30-12:00	パネル討論：小学校からのプログラミング教育は本当に必要なのか？どうあるべきか？ モデレータ：鷲崎　弘宜（早大／ NII ／システム情報） パネリスト：新井　紀子(NII)，佐和　伸明(柏市教育委員会)，後藤　義雄(日本 STEM 教育学会)， 齋藤　大輔（早大）
	16:00-16:45	**大会挨拶・各種表彰式・情報処理技術遺産認定式**
	16:45-17:45	**特別講演：小中高で育む情報活用能力 鹿野　利春（国立教育政策研）**
14日（水）		**インターンシップについて本音を語る：大学教員×企業×学生**
	9:30-9:35	趣旨説明
	9:35-10:00	講演（1）：インターンシップ・学生が望むもの・教員が望むもの 伊藤　貴之（お茶の水女子大）
	10:00-10:25	講演（2）：学生・企業双方に価値のあるインターンシップの取り組み事例について 下條　雅弘（リクルートテクノロジーズ）
	10:25-10:50	講演（3）：From 東大 HAIT ～学生インターン 100 人の声～ 石井　大智（東大人工知能開発学生団体 HAIT）
	10:50-11:15	講演（4）：研究者のためのインターンシップを通したキャリア形成 関　　喜史（Gunosy）
	11:15-12:00	パネル討論：インターンシップを通じて大学教員×企業×学生のより良い関係を築くには？ 司　　会：清田　陽司（LIFULL） パネリスト：伊藤　貴之（お茶の水女子大），下條　雅弘（リクルートテクノロジーズ）， 石井　大智（東大人工知能開発学生団体 HAIT），関　　喜史（Gunosy）
	13:20-13:50	**招待講演（1）：ビデオレター Vicki L. Hanson（President of Association for Computing Machinery）**
	13:50-14:20	**招待講演（2）：Intelligent Processing of Visual media and it's applications Shi-Min Hu（President of China Computer Federation）**
	14:20-14:50	**招待講演（3）：System Software Trends on NVM Technologies Young Ik Eom（President of the Korean Institute of Information Scientists and Engineers）**
	14:50-15:20	**招待講演（4）：Future of High-Performance Low Power Multicore Computing Hironori Kasahara（IEEE Computer Society President 2018）**
		サムライ・ジョッキー：人工知能で駆け抜けろー　第 6 回 国際人工知能プログラミングコンテスト世界決勝戦 SamurAI Coding 2017-18 World Final
	15:30-18:00	人工知能・世界決勝戦 World Final，スポンサーセッション，対戦，講評，表彰 司会：鷲崎　弘宜（早大／ NII ／システム情報）
	18:30-20:30	ネットワーキング
15日（木）		**特別講演 IPSJ-ONE**
	15:30-17:30	司会：森勢　将雅（山梨大） 司会：五十嵐悠紀（明大）
		研究会推薦：招待講演（1）「深層学習が変える画像処理・編集」 ［コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会］ 飯塚　里志（早大）
		研究会推薦：招待講演（2）「視覚と言葉をつなげる技術」 ［コンピュータビジョンとイメージメディア研究会］ 牛久　祥孝（東大）
		研究会推薦：招待講演（3）「強いセキュリティほど望ましい？ ～データの保護と利活用との両立に向けて～」 ［コンピュータセキュリティ研究会］ 江村　恵太（NICT）
		研究会推薦：招待講演（4）「出会い系タンパク質を探す旅」 ［バイオ情報学研究会］ 大上　雅史（東工大）
		研究会推薦：招待講演（5）「ロボットのソフトウェア部品を交換して性能アップ！」 ［組込みシステム研究会］ 大川　　猛（宇都宮大）
		研究会推薦：招待講演（6）「デジタルとフィジカルを融合するインタフェース」 ［ヒューマンコンピュータインタラクション研究会］ 尾形　正泰（産総研）

15日（木）		研究会推薦：招待講演（7）「屋内で位置を推定する技術」 ［モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム研究会］ 梶　克彦（愛知工大）
		研究会推薦：招待講演（8）「悪いのは誰？：スマホ消費電力の見える化」 ［コンシューマ・デバイス＆システム研究会］ 神山　剛（NTT ドコモ）
		研究会推薦：招待講演（9）「ビッグデータを瞬時に計算する」 ［データベースシステム研究会］ 塩川　浩昭（筑波大）
		研究会推薦：招待講演（10）「騙し騙され音声合成」 ［音声言語情報処理研究会］ 高道慎之介（東大）
		研究会推薦：招待講演（11）「わざと間違えるコンピュータ」 ［システムと LSI の設計技術研究会］ 多和田雅師（早大）
		研究会推薦：招待講演（12）「人生は「ロール・プレイング」～演技を引き出すシステム設計」 ［エンタテインメントコンピューティング研究会］ 福地健太郎（明大）
		研究会推薦：招待講演（13）「人とコンピュータとの協働」 ［グループウェアとネットワークサービス研究会］ 福島　拓（阪工大）
		研究会推薦：招待講演（14）「手と身体と会話のことば学」 ［アクセシビリティ研究会］ 坊農　真弓（NII）
		研究会推薦：招待講演（15）「コンピュータと人間による合奏：人と息を合わせて演奏するとは」 ［音楽情報科学研究会］ 前澤　陽（ヤマハ）
		研究会推薦：招待講演（16）「「自立」した Web システムを創る．自分の好きなことをする世界を目指して．」 ［インターネットと運用技術研究会］ 吉川　竜太（クックパッド）

【第 2 イベント会場（57 号館 202)】

13日（火）	**カリキュラム標準 J17 と情報教育**	
	9:35-10:00	講演：情報教育の参照基準 久野　靖（電通大）
	10:05-12:00	パネル討論：J17 - 情報教育の参照基準とともに 司　会：萩谷　昌己（東大） パネリスト：高田　眞吾（慶大），稲垣　知宏（広島大），角田　博保（元電通大）， 松永　賢次（専修大）
	新しい一般情報教育の知識体系	
	13:20-13:40	講演（1）：新しくなった一般情報教育の知識体系 稲垣　知宏（広島大）
	13:40-14:00	講演（2）：一般情報教育に関する現状調査と GEBOK 上繁　義史（長崎大）
	14:00-14:20	講演（3）：情報プレースメントテストと GEBOK 河村　一樹（東京国際大）
	14:20-14:30	休憩
	14:30-15:50	パネル討論：新しい一般情報教育に向けて 司　会：喜多　一（京大） パネリスト：湯瀬　裕昭（静岡県大），布施　泉（北大），駒谷　昇一（奈良女子大）
14日（水）	**実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発**	
	9:30-10:15	基調講演：Open platforms and tools for smarter cities in Europe and Japan - experiences and lessons learnt Levent Gürgen（CEA-LETI, France）
	10:15-10:30	講演（1）：プロジェクト全体概要とデータ連携技術 北川　博之（筑波大）
	10:30-10:40	講演（2）：高性能データ融合解析技術 徳山　豪（東北大）
	10:40-10:50	講演（3）：データ格納・可視化技術 喜連川　優（NII／東大）
	10:50-11:00	講演（4）：システム統合化基盤技術上の「シティアプリ」による社会課題解決 中澤　仁（慶大）
	11:00-11:10	講演（5）：実証実験 天笠　俊之（筑波大）

14日（水）	11:15-12:00	パネル討論：Society5.0 時代のスマートシティ実現に向けた現状と課題 司　　会：天笠　俊之（筑波大） パネリスト：Levent Gürgen（CEA-LETI, France），北川　博之（筑波大），徳山　　豪（東北大），喜連川　優（NII／東大），徳田　英幸（NICT），福田　達夫（藤沢市）
	高度 IT 技術者「CITP」の活躍	
	15:30-16:00	講演（1）：IT スキル標準の動向 平山　利幸（情報処理推進機構）
	16:00-16:30	講演（2）：CITP 資格制度の現状 芝田　　晃（三菱）
	16:30-17:00	講演（3）：CITP フォーラムの活動 平林　元明（情報処理学会 CITP フォーラム）
	17:00-17:30	講演（4）：CITP の活躍事例－デザイン思考を流用した地域復興アイデアソン 土屋　俊樹（ハイマックス）
	17:30-18:00	講演（5）：技術士資格と CITP の連携 児玉　公信（情報システム総研）
15日（木）	**工芸から科学へ　－ CG 技術の新たな挑戦－**	
	9:30-9:45	講演（1）：質感と CG 土橋　宜典（北大）
	9:45-10:00	講演（2）：数学と CG 鍛冶　静雄（山口大）
	10:00-10:15	講演（3）：化学と CG 羽生　雄毅（インテグリカルチャー）
	10:15-10:30	講演（4）：医療と CG 瀬尾　拡史（サイアメント）
	10:30-10:45	講演（5）：レオロジーと CG 楽　　詠瀕（東大）
	10:45-11:00	講演（6）：スパースモデリングと可視化 藤代　一成（慶大）
	11:05-12:00	パネル討論：工芸から科学へ　- CG 技術の新たな挑戦 - 司　　会：藤代　一成（慶大） パネリスト：土橋　宜典（北大），鍛冶　静雄（山口大），羽生　雄毅（インテグリカルチャー），瀬尾　拡史（サイアメント），楽　　詠瀕（東大）
	はじめよう♪ グラフィックレコーディング	
		ファシリテーター：木塚あゆみ（大阪芸術大）
	13:20-13:30	グラレコって何？
	13:30-13:50	カオやモノをグラレコしよう
	13:50-14:30	ジョウキョウをグラレコしよう
	14:30-15:00	ストーリーをグラレコしよう
	15:00-15:20	フリカエリ・まとめ

【第３イベント会場（63 号館 02-02)】

13日（火）	**論文必勝法**	
	9:30-10:30	基調講演：妄想から論文まで　－大規模システム開発とトップカンファレンスでの論文発表を両立させるには－ 鳥澤健太郎（NICT）
	10:40-12:00	パネル討論：条件付の壁を越えよう 司　　会：島岡　政基（セコム） パネリスト:柴山　悦哉（東大），渡辺　博芳（帝京大），松島　裕康（産総研），浅井　信吉（会津大）
	～コンピュータパイオニアが語る～「私の詩と真実」	
	13:30-14:30	講演（1）：Algol の影 筧　　捷彦（情報オリンピック日本委員会）
	14:30-15:30	講演（2）：IT 産業の変遷と人材育成 鶴保　征城（HAL 東京）

【第４イベント会場（56 号館 101)】

13日（火）	**Society5.0 実現のための情報技術　～ H30 年度公募に向けて～**	
	9:30-9:50	趣旨説明：Society5.0 実現のための情報技術　～ H30 年度公募に向けて～
	9:50-10:20	論点提示（1）：Society5.0 を紐どく 原山　優子（総合科学技術・イノベーション会議）
	10:20-10:35	論点提示（2）：サービスプラットフォームに対する企業からの期待 谷　　幹也（NEC）
	10:35-10:50	論点提示（3）：海外動向から見た日本の産学連携への期待 木村　康則（富士通研）

13日(火)	10:50-12:00	パネル討論：Society5.0 実現のための情報技術　～ H30 年度公募に向けて～ 司　　会：前田　　章（JST） パネリスト：原山　優子（総合科学技術・イノベーション会議），谷　　幹也（NEC）， 木村　康則（富士通研），西尾　信彦（立命館大），田野　俊一（電通大）
	アジャイル開発の事例に則した契約の一例提案	
	13:20-13:40	講演（1）：アジャイルソフトウェア開発の本質と日本での課題 居駒　幹夫（はこだて未来大）
	13:40-14:00	講演（2）：アジャイル開発の落とし穴 木下　史彦（永和システムマネジメント）
	14:00-14:40	講演（3）：アジャイル開発の事例に則した契約の一例提案 平岡　　敦（たつき総合法律事務所）
	14:50-15:50	パネル討論：「ソフトウェア開発委託契約で今何が問題か？」　～アジャイル型開発の事例に則した契約モデルの提言に向けて～ 司　　会：高岡　詠子（上智大） パネリスト：市毛由美子（のぞみ総合法律事務所），平岡　　敦（たつき総合法律事務所）， 木下　史彦（永和システムマネジメント），居駒　幹夫（はこだて未来大）， 中野　安美（ニッセイ情報テクノロジー），稲垣　陽一（きざしカンパニー）
14日(水)	**文部科学省 大学入学者選抜改革推進委託事業 「情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発」（2）**	
	9:30-9:45	講演：2017 年度事業概説 萩原　兼一（阪大）
	9:45-10:05	基調講演：高等学校情報科の次期学習指導要領 鹿野　利春（国立教育政策研）
	10:05-10:20	報告（1）：思考力・判断力・表現力を評価する枠組みとルーブリック 萩谷　昌己（東大）
	10:20-10:35	報告（2）：模擬試験の実施と結果分析／本格的 CBT システム 角谷　良彦（東大）
	10:40-12:00	パネル討論：情報入試のすゝめ 司　　会：筧　　捷彦（早大） パネリスト：安西祐一郎（慶大／日本学術振興会），長岡　亮介（前，明大／現在，TECUM）， 佐々木　修（全国高等学校情報教育研究会／神奈川県立二宮高校）
	会誌「情報処理」公開編集委員会	
	15:30-16:00	講演（1）：会誌編集の楽しみ 塚本　昌彦（神戸大）
	16:00-16:25	講演（2）：学会誌の野望 稲見　昌彦（東大）
	16:30-18:00	パネル討論：会誌「情報処理」ができるまで 司　　会：鳥澤健太郎（NICT） パネリスト：塚本　昌彦（神戸大），稲見　昌彦（東大），坊農　真弓（NII／総研大）， 土井　千章（NTT ドコモ），上松恵理子（武蔵野学院大），金子　　格（東京工芸大）， 鶴岡　慶雅（東大），辰己　丈夫（放送大），坂東　宏和（獨協医科大）， 久野　　靖（電通大），福地健太郎（明大）
15日(木)	**ソウル協定と情報専門分野の認定**	
	9:30-9:55	講演（1）：ソウル協定の状況 玉井　哲雄（法大）
	9:55-10:20	講演（2）：情報分野の JABEE について 佐渡　一広（群馬大）
	10:20-10:45	講演（3）：JABEE 認定プログラムからみた JABEE 河野　浩之（南山大）
	10:45-11:10	講演（4）：技術者のキャリアパス中における JABEE の位置づけについて 中谷多哉子（放送大）
	11:15-12:00	パネル討論：JABEE の問題点について 司　　会：掛下　哲郎（佐賀大） パネリスト:佐渡　一広（群馬大），河野　浩之（南山大），中谷多哉子（放送大），西　　直樹（NEC）
	サイバー保険の現状と今後の課題	
	13:20-13:25	オープニング
	13:25-14:05	講演（1）：How to deal with the “residual” Cyber Risk? A multi-effect approach - Cyber Insurance Philipp Lienau（HDI Global SE 保険会社）， 趙　　方明（HDI Global SE 保険会社）
	14:05-14:45	講演（2）：企業からみた現行サイバー保険の難しさと新たな需要 大西　克美（日本 IBM）
	14:45-15:20	パネル討論：サイバー保険の現状と今後のあり方について 司　　会：西出　隆志（筑波大） パネリスト：大西　克美（日本 IBM），Philipp Lienau（HDI Global SE 保険会社）， 趙　　方明（HDI Global SE 保険会社）

【第５イベント会場（56 号館 102)】

13日（火）	**2017 年サイバー事件回顧録～技術と法制度の両面から～**	
	9:30-12:00	パネル討論：2017 年サイバー事件回顧録～技術と法制度の両面から～ 司　　会：須川　賢洋（新潟大） パネリスト：金子　　格（東京工芸大），原田要之助（情報セキュリティ大）， 板倉陽一郎（ひかり総合法律事務所），加藤　尚徳（KDDI 総合研究所）， 折田　明子（関東学院大）
	現場から見た情報セキュリティの現状と今後　－デジタルプラクティスライブ－	
	13:20-13:25	挨拶
	13:25-13:35	講演（1）：情報セキュリティの歴史と全体技術 中尾　康二（横浜国大）
	13:35-13:50	講演（2）：SOC 構築とセキュリティ監視運用の取り組み 福本　佳成（楽天）
	13:50-14:05	講演（3）：事業者における CSIRT（Computer Security Incident Response Team）の現状の概要 平井　達哉（日立システムズ）
	14:05-14:20	講演（4）：業務執行としてのセキュリティ：CISO ダッシュボード 高橋　正和（Preferred Networks）
	14:20-14:35	講演（5）：情報セキュリティ人材像と教育 平山　敏弘（日本ネットワークセキュリティ協会）
	14:35-14:50	講演（6）：デジタル社会のトラストを支える電子署名 小川　博久（みずほ情報総研）
	14:50-15:05	講演（7）：個人データに対応する匿名化と再識別コンテスト：PWSCUP 菊池　浩明（明大）
	15:05-15:50	パネル討論：情報セキュリティの今後のあり方 モデレータ：中尾　康二（横浜国大） パネリスト：高橋　正和（Preferred Networks），福本　佳成（楽天），内田　法道（ラック）， 小川　博久（みずほ情報総研），菊池　浩明（明大）
14日（水）	**計算社会科学の可能性**	
	9:30-9:55	講演（1）：マクロ経済シミュレーション 藤原　義久（兵庫県大）
	9:55-10:20	講演（2）：企業ネットワークシミュレーション 高安美佐子（東工大）
	10:20-10:45	講演（3）：高頻度・大規模な金融市場シミュレーション 和泉　　潔（東大）
	10:45-11:10	講演（4）：人流シミュレーションの応用手法と可能性 野田五十樹（産総研）
	11:10-11:35	講演（5）：自動車交通シミュレーションとその応用 伊藤　伸泰（東大）
	11:35-12:00	講演（6）：近似ベイズ計算に基づく大規模シミュレーションモデルの推定と評価 上東　貴志（神戸大）
15日（木）	**Exciting Coding! Junior ファシリテータ講習**	
	9:35-10:30	Exciting Coding! Junior ファシリテータ講習 ファシリテータ講師：吉田　　葵（青学大）
	10:45-11:30	ワークショップ ワークショップ講師：吉田　　葵（青学大） アシスタント：荒木　拓也（NEC），伊藤　一成（青学大），杉田由美子
	11:30-12:00	LT（Lightning Talk） 登壇者：兼宗　　進（大阪電通大），渡辺　勇士（電通大／デジタルポケット）， 竹林　　暁（TENTO），伊藤　一成（青学大）
	小中高で必修化されたプログラミング教育とは	
	13:20-13:50	講演：小中高で必修化されたプログラミング教育を概観する 兼宗　　進（大阪電通大）
	13:50-14:50	ワークショップ：小中高で扱われるプログラミングを体験しよう 竹中　章勝（青学大），佐藤　正範（東京学芸大）
	14:50-15:20	パネルディスカッション：これからのプログラミング教育を考える パネリスト／司　　会：西田　知博（大阪学院大） パネリスト：兼宗　　進（大阪電通大），竹中　章勝（青学大）， 佐藤　正範（東京学芸大附属竹早小・学芸大こども未来研究所）

全国大会
招待講演企画・イベント企画の概要

特別講演「小中高で育む情報活用能力」
3 月 13 日（火）16:45-17:45［第 1 イベント会場（57 号館 201)］

司会：筧　捷彦（早稲田大学 名誉教授）

［略歴］

1968 年東京大学工学部計数工学科卒業．1970 年同大学院修士課程修了．1970 年東京大学工学部助手．1974 年立教大学理学部情報工学科講師，1978 年助教授，1986 年早稲田大学理工学部数学科教授，1991 年情報学科，2016 年定年退職，名誉教授．プログラミング言語の定義・処理系，ソフトウェア科学に興味を持つ．本会情報処理教育委員会 J17 WG 主査．本会フェロー・名誉会員，日本ソフトウェア科学会会員，ACM 会員．

鹿野　利春（国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官）

［講演概要］

社会は，グローバル化や情報化，技術革新など激しい変化の中にある．中教審答申では，子供たちに必要なものは「未来の創り手となるための力」とし，育成すべき資質・能力の三つの柱として「知識・技能」,「思考力・判断力・表現力」,「学びに向かう力・人間性」が打ち出された．これを育成するためにカリキュラム・マネジメントや「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善などが今後行われていくことになる．

情報活用能力は，言語能力や問題発見・解決能力等とともに教科横断的な視点に立った資質・能力として定められ，各教科等を通じて児童・生徒の発達段階に応じて教育が行われる．たとえば, プログラミングは小学校で「体験」, 中学校で「簡単なプログラムの作成」, 高校で「実際の問題解決にコンピュータを活用」することになる．講演では小中高の具体的な対応，環境整備，問題点などについてお話をさせていただく．

2024 年度には，新学習指導要領の内容で学んだ生徒が高校を卒業する．この生徒は，全員がプログラミングの経験を含む高い情報活用能力を持っている．これを受け入れる大学も社会も対応を迫られることになると予想される．小中高で育む情報活用能力について，今後も注目してほしい．

［略歴］

修士（教育学）（鳴門教育大学 1996 年）．国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官，文部科学省において高等学校共通教科情報科及び専門教科情報科の教科調査官を併任．金沢大学理学部化学科卒（1986 年）．石川県の公立学校教諭，石川県教育委員会を経て 2015 年より現職．現行学習指導要領「情報」の調査研究協力者，教科書，問題集，副読本，情報科教育法等著者（共著）．文部科学大臣優秀教員表彰（2008 年）．

招待講演 1 ビデオレター
3 月 14 日（水）13:20-13:50［第 1 イベント会場（57 号館 201)］

Vicki L. Hanson（President of Association for Computing Machinery）

［概要］

Association for Computing Machinery よりビデオメッセージを予定しています．

招待講演 2「Intelligent Processing of Visual media and it's applications」
3 月 14 日（水）13:50-14:20［第 1 イベント会場（57 号館 201)］

Shi-Min Hu（President of China Computer Federation）

［講演概要］

In recent years, with the rapid development of digital technology, the public can capture and produce high-quality visual media conten. However, the current visual media processing techniques cannot satisfy the increasing demands of automatically organize, understand and enhance the media data according to the human intentions and potentially billions of personalized editing. In my talk, I will introduce recent research results in Visual Media Research Center at Tsinghua, then I will focus on a new research topic on visual distractors, which are objects accidentally captured and usually distract viewers from focusing on the main subjects. We propose methods to automatically detect and localize these distractors. A rule-based method is firstly proposed to detect common distractors. Then a learning based framework is proposed with a manually-labeled dataset. To achieve spatially- and temporally-coherent detection, we propose to extract features at the Temporal-Superpixel (TSP) level in a traditional SVM-based learning framework. We have also experimented with end-to-end learning with Convolutional Neural Networks (CNNs), which achieve slightly higher performance. The classification result is further refined in a post-processing step based on graph-cut optimization. Experimental results show that our method achieves an accuracy of 81% and a recall of 86%. We demonstrate several ways to remove the detected distractors to improve the video quality, including video hole filling; video frame replacement; and camera path re-planning.

［略歴］

Shi-Min Hu is currently a professor in the department of Computer Science and Technology, Tsinghua University, Beijing. He received the PhD degree from Zhejiang University in 1996. His research interests include digital geometry processing, video processing, rendering, computer animation, and computer-aided geometric design. He has published more than 100 papers in journals and refereed conference. He is Editor-in-Chief of Computational Visual media (Springer), associate Editor-in-Chief of IEEE Transactions on Visualization and on editorial board of several journals, including Computer Aided Design (Elsevier) and Computer & Graphics (Elsevier).

招待講演 3「System Software Trends on NVM Technologies」
3 月 14 日（水）14:20-14:50［第 1 イベント会場（57 号館 201）］

Young Ik Eom（President of the Korean Institute of Information Scientists and Engineers）

［講演概要］

In the last few years, non-volatile memory (NVM) technologies have rapidly been developed and today's NVM technologies (e.g., PCM, STT-MRAM, NVDIMM, and Intel Optane) are revolutionizing the traditional I/O stacks by providing their attractive features, such as byte-addressability, non-volatility, and short-access latency. This talk will briefly review the existing I/O stacks in Linux and rely on examples from the successful previous research to answer the following questions: (1) What is NVM? (2) Why is NVM interesting? (3) How can it be employed in current computer architecture? In this talk, some typical studies will be introduced including ours, which come from revisiting the computer architecture along with NVM.

［略歴］

Young Ik Eom received his BS, MS, and PhD degrees in Computer Science and Statistics from Seoul National University, Rep. of Korea, in 1983, 1985, and 1991, respectively. From 1986 to 1993, he was an associate professor at Dankook University in Seoul, Rep. of Korea. He was also a visiting scholar in the Department of Information and Computer Science at the University of California, Irvine, USA, from Sep. 2000 to Aug. 2001. Since 1993, he has been a professor at Sungkyunkwan University in Suwon, Rep. of Korea. He is serving as president of the Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) in 2018. His research interests include virtualization, file systems, operating systems, and cloud systems.

招待講演 4「Future of High-Performance Low Power Multicore Computing」
3 月 14 日（水）14:50-15:20［第 1 イベント会場（57 号館 201）］

Hironori Kasahara（IEEE Computer Society President 2018）

［講演概要］

Facing the end of Moore's law, new approaches to improve processing performance and reduce power consumption at the same time have been required. One of the promising approaches is multicore computing that allows us to reduce power consumption using lower frequency processor cores and increase processing performance by integrating multiple cores on a chip including accelerator cores since the power is proportional to the cubes of frequency. Though multicore hardware allows us to increase performance in proportion to the number of processor cores theoretically, in reality, it is difficult to obtain the scalable performance without software collaboration because parallelization of the program, reduction of synchronization overhead, memory access optimization, and so on are essential to get the scalable performance improvement. Also, use of accelerators is effective for performance improvement and power reduction of a system. However, such multicore systems using accelerators sometimes need tuning to optimize memory access and improve the parallelism of target programs. The hand tuning often increases total software development time and cost. The multicore computing should be implemented with co-design of architecture and software looking at real applications to realize scalable performance improvement, reduction of power consumption, and minimization of software development period and cost. This talk introduces future of high-performance low power multicore computing considering software development cost and time that are important factors to use multicores in various applications including automobiles, IoT, deep learning, medical systems, cloud servers, big data, smart city, supercomputers and so on.

［略歴］

Hironori Kasahara is an IEEE Computer Society President 2018 and a professor in the Department of Computer Science and Engineering at Waseda University. He is an IEEE Fellow, an IPSJ Fellow, a Golden Core Member of the IEEE Computer Society, a professional member of the IEEE Eta Kappa Nu, a member of the Engineering Academy of Japan and the Science Council of Japan. He received a PhD in 1985 from Waseda University, Tokyo, joined its faculty in 1986, and has been a professor of computer science since 1997 and a director of the Advanced Multicore Research Institute since 2004. He was a visiting scholar at University of California, Berkeley, and the University of Illinois at Urbana–Champaign's Center for Supercomputing R&D.

He has served as a chair or member of 250 society and government committees, including a member of the CS Board of Governors and Executive Committee; chair of CS Planning Committee, Constitution & Bylaws Committee, Multicore STC and CS Japan chapter; associate editor of IEEE Transactions on Computers; vice PC chair of the 1996 ENIAC 50th Anniversary International Conference on Supercomputing; general chair of LCPC; PC member of SC, PACT, and ASPLOS; board member of IEEE Tokyo section; and member of the Earth Simulator and K supercomputer committees. Kasahara received the CS Golden Core Member Award, IFAC World Congress Young Author Prize, Sakai Special Research Award, and the Japanese Minister's Science and Technology Prize. He led Japanese national projects on parallelizing compilers and embedded multicores, and has presented 215 papers, 155 invited talks, and 30 patents. His research has appeared in 557 newspaper and Web articles.

特別講演 IPSJ-ONE
3 月 15 日（木）15:30-17:30［第 1 イベント会場（57 号館 201）］

［セッション概要］
情報処理学会には多数の研究会がある一方，異分野で現在注目されている研究を知る機会は少ない．本企画では，多様な研究分野を垣根なく俯瞰するため，各研究会に対し，優れた研究を遂行しておりプレゼン力も高い，若手を中心とした研究者を推薦する形式で募集し，招待講演者を厳選する．講演内容も，専門家のみならず，高校生，学部生，他分野の聴衆が理解しやすいよう配慮する．本企画を通じて，異分野交流など研究の発展に向けたコラボレーションや展開を作り出していく場の構築を目指す．マスメディア・ネットメディア，動画中継，ステージ演出を含め，研究者の将来にも繋がる情報発信や，人脈形成に向けた多数のアウトリーチを予定している．

司会：森勢　将雅（山梨大学 大学院総合研究部 准教授）

［略歴］
2008 年和歌山大学大学院システム工学研究科博士課程修了．博士（工学）．関西学院大学大学院理工学研究科博士研究員，立命館大学情報理工学部助教，山梨大学大学院総合研究部特任助教を経て 2017 年 4 月より現職．主に音声・歌声情報処理に関する分野横断型の研究に従事．2010 年のエイプリルフールネタとして始めたオープンソース音声合成システム WORLD の研究は，気が付けば自身最大の成果となる．意外にも，色々な賞を受賞する機会に恵まれた．

司会：五十嵐　悠紀（明治大学 総合数理学部 先端メディアサイエンス学科 専任講師）

［略歴］
2010 年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了．博士（工学）．2010 年より日本学術振興会特別研究員 PD，2013 年より RPD として筑波大学に所属．2015 年より明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科専任講師．コンピュータグラフィックスやユーザインタフェースに関する研究に従事．2016 年より JST さきがけ研究員．Yahoo! ニュース個人，日本ビジネスプレス，オーサー．

[研究会推薦]

研究会推薦：招待講演（1）「深層学習が変える画像処理・編集」
[コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会]

飯塚　里志（早稲田大学 理工学術院総合研究所 研究院講師）

［講演概要］
近年，深層学習はあらゆる分野で目覚ましい成果をあげています．画像処理においても，深層学習をうまく応用することでコンピュータが画像から意味のある情報を効果的に「学習」し，これまで人間の手作業でしかできなかった複雑な画像変換を再現できるようになります．この技術は現在世界中で盛んに研究が行われており，今後も急速に発展していくことが予想されます．本講演では私のこれまで取り組んできた研究の中から，深層学習を用いて昔の白黒画像を自動でカラー画像に変換する技術や，画像の一部を自然に修復する「画像補完」の研究を紹介します．

［略歴］
早稲田大学理工学術院研究院講師．2015 年筑波大学大学院システム情報工学研究科博士後期課程修了．日本学術振興会特別研究員（DC1），2015 年 4 月より早稲田大学に勤務．コンピュータグラフィクス，特に画像生成・編集に関する研究に従事．経済産業省 Innovative Technologies 2016 特別賞「Culture」など受賞．

研究会推薦：招待講演（2）「視覚と言葉をつなげる技術」
[コンピュータビジョンとイメージメディア研究会]

牛久　祥孝（東京大学 大学院情報理工学系研究科 講師）

［講演概要］
近年の機械学習技術の発展とコモディティ化によって，かつては独立に扱われていた視覚や言葉といったモダリティのデータを融合し，理解・生成するような研究が大きな広がりを見せつつある．それらの研究では，単に画像や動画の中のヒトやモノにラベルを付けるのではなく，人と同じように言葉で画像や動画を理解し，説明し，検索や生成を試みる技術が提案されている．本講演では，画像や動画といった視覚的なデータと，自然言語とを融合した挑戦的かつ萌芽的な取り組みについて紹介する．

［略歴］
2013 年東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了．2013 年日本学術振興会特別研究員および Microsoft Research Redmond Intern．2014 年 NTT コミュニケーション科学基礎研究所入所．2016 年より東京大学情報理工学系研究科講師，現在に至る．主として画像キャプション生成や画像認識，クロスメディア理解の研究に従事．2011 年 ACM Mutlimedia Grand Challenge Special Prize，2012 年電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会研究奨励賞等受賞．

研究会推薦：招待講演（3）「強いセキュリティほど望ましい？ ～データの保護と利活用との両立に向けて～」
[コンピュータセキュリティ研究会]

江村　恵太（情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所セキュリティ基盤研究室 主任研究員）

［講演概要］

一般的に「セキュリティは高ければ高いほど良い」という風潮があり，そのため「如何に強いセキュリティを実現するか？」という観点で主に研究が進められている．しかし全ての情報を秘匿可能な最強の安全性を達成してしまうと，サービス向上や悪用防止に有用な情報をも同時に秘匿してしまう．そのため用途に応じてセキュリティと機能とのバランスを取ることが求められる．本発表では，データの保護と利活用との両立に向けて，暗号文を加工可能な準同型暗号の安全性とその応用について紹介する．

［略歴］

2004 年 3 月金沢大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了．同年より（株）富士通北陸システムズ勤務．2010 年 4 月北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）情報科学研究科博士後期課程修了．博士（情報科学）．2010 年 4 月から 2011 年 3 月まで JAIST 研究員．2012 年 4 月情報通信研究機構（NICT）研究員．14 年 10 月より同主任研究員，現在に至る．暗号理論とその応用研究に従事．暗号と情報セキュリティシンポジウム 2012 イノベーション論文賞，コンピュータセキュリティシンポジウム 2016 最優秀論文賞，2017 年度山下記念研究賞等受賞．

研究会推薦：招待講演（4）「出会い系タンパク質を探す旅」
[バイオ情報学研究会]

大上　雅史（東京工業大学 情報理工学院情報工学系 助教）

［講演概要］

情報科学は様々な分野へと応用されているが，生命科学分野でも情報科学の重要性は増すばかりである．計算機・計算技術と実験機器・実験技術の急速な進展が相乗し，ある遺伝子やある生体分子といった個別の研究を超えて，遺伝子集団や生体分子集団といった集団の網羅的な解析研究が現実のものとなった．本講演ではタンパク質の集団に注目し，タンパク質の出会い＝タンパク質間相互作用という生命現象にどのように情報科学で切り込んでいくか，その事例を紹介する．

［略歴］

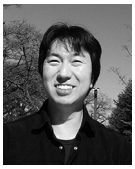
2014 年東京工業大学大学院情報理工学研究科博士課程修了，博士（工学）．2011 年から 2015 年まで日本学術振興会特別研究員 DC1 および PD，2015 年から東京工業大学大学院情報理工学研究科助教，2016 年に改組による所属変更，現在に至る．バイオインフォマティクス，創薬情報学，計算生物物理，ハイパフォーマンスコンピューティングに関する研究に従事．第 4 回日本学術振興会育志賞受賞．日本生物物理学会理事．情報処理学会，日本生物物理学会，日本バイオインフォマティクス学会，日本蛋白質科学会，情報計算化学生物学会，ISCB，ACM SIGBio 各会員．

研究会推薦：招待講演（5）「ロボットのソフトウェア部品を交換して性能アップ！」
[組込みシステム研究会]

大川　猛（宇都宮大学 大学院工学研究科情報システム科学専攻 助教）

［講演概要］

最近のロボット開発の多くの部分はソフトが占め，新機能（画像認識･AI）を実現するためのカギになっています．一方，新しいロボットを開発する時に，全てを最初から作ると時間がかかります．そのため既存の部品を容易に再利用して開発期間を短縮する，新しい開発方法が必要です．更に，普通のソフトでは性能不足の場合，FPGA・GPU といったアクセラレータ（処理加速）の「ハードウェア部品」で高性能化が可能です．この講演では，ロボット開発におけるソフトウェア部品化（ROS）の技術を紹介し，更に「ハードウェア部品化」によって，ソフト・ハードの部品を簡単に交換して性能向上するための研究について紹介します．



［略歴］

2003 年東北大学大学院工学研究科電子工学専攻修了（博士（工学））．同専攻でポスドクをつとめた後，2004 年に産業技術総合研究所に入所．以来，組込みシステム向けの FPGA を用いたソフトウェア・ハードウェア協調システム設計手法に関する研究に従事．2009 年からベンチャー企業の（株）トプスシステムズにおいてマルチコアプロセッサシステムに関する研究開発を行った後，2011 年 12 月宇都宮大学大学院工学研究科情報システム科学専攻助教となり，FPGA のロボット応用に関する研究を進めている．

研究会推薦：招待講演（6）「デジタルとフィジカルを融合するインタフェース」
[ヒューマンコンピュータインタラクション研究会]

尾形　正泰（産業技術総合研究所 情報技術研究部門メディアインタラクション研究グループ 研究員）

［講演概要］

ヒューマンインタフェースの研究は，これまでマウス・キーボードからタッチスクリーンまで使いやすいデザインを追求してきました．センシング技術とアクチュエータ制御を用いた設計によって，コンピュータが扱える情報の範囲は物理世界にも広がってきています．最終的にはデジタルとフィジカルの垣根がなくなることで，ユーザはデジタルであるかどうかを意識せずに情報をあつかうようになるでしょう．この講演では，センシング技術によって身体の一部をタッチパッドに変える皮膚インタフェースや，空間を自在に動き回ったり自律的に組み上がるインタラクティブな紙インタフェースなどをアプリケーションとともに紹介します．

［略歴］

慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了．博士（工学）．Microsoft Research Asia Fellowship Award，ACM SIGCHI Best Paper Honorable Mention，日本バーチャルリアリティ学会論文賞・学術奨励賞，経済産業省 Innovative Technologies 等受賞．物理現象や計測技術を活用したヒューマンインタフェースを研究．

研究会推薦：招待講演（7）「屋内で位置を推定する技術」
[モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム研究会]

梶　克彦（愛知工業大学 情報科学部情報科学科 准教授）

［講演概要］

みなさんは日常的にスマートフォンを通して経路検索やナビゲーションといった位置情報サービスを活用していると思います．また，Ingress やポケモン GO など位置情報ゲームも大流行しています．これらは，スマートフォンの位置を推定する技術がベースとなっています．屋外では主に GPS によって位置推定が行われますが，屋内では GPS の電波が届かず GPS では位置を求められません．我々はこれまで，スマートフォンに搭載された様々なセンサ（加速度・角速度・磁気・気圧・Wi-Fi など）を用いて，屋内でユーザの位置を求める技術を開発してきましたので紹介します．

［略歴］

2002 年名古屋大学工学部電気電子・情報工学科卒業．2007 年同大学大学院情報科学研究科博士課程修了．博士（情報科学）．NTT コミュニケーション科学基礎研究所リサーチアソシエイト，名古屋大学大学院工学研究科助教を経て，2015 年より愛知工業大学情報科学部准教授．屋内位置推定，遠隔コミュニケーション支援等の研究に従事．山下記念研究賞を 2 年連続受賞，情報処理学会論文賞 2 回受賞，DICOMO 最優秀論文賞 2 回受賞等，受賞多数．

研究会推薦：招待講演（8）「悪いのは誰？：スマホ消費電力の見える化」
[コンシューマ・デバイス＆システム研究会]

神山　剛（株式会社 NTT ドコモ サービスイノベーション部 社員）

［講演概要］

ガラケーからスマホの時代になり，アプリの選択肢が増えたことでスマホを通じて本当に色んなことができるようになりました．でも，「電池がもたなくなった」と感じる方も多いのではないでしょうか．では，何が電池をくっているのでしょうか．いうまでもなく電池のエネルギーはハードウェアで消費されます．しかし，ハードウェアはソフトウェアに制御されて動きます．さらに，アプリは皆さんに使用されて動きます．結局，電池持ちが悪いのは何が「原因」なのでしょうか．本発表では，スマホの省電力化を実現するため，ソフトウェアによる消費電力とその原因を「見える化」する技術を紹介します．

［略歴］

2003 年（株）イージス代表取締役，2006 年同社退社，東京大学新領域創成科学研究科修士課程修了を経て，同年 NTT ドコモ入社．先進技術研究所（～ 2016），サービスイノベーション部（～現在）にて，モバイルコンピューティング，ソフトウェア省電力化，分散システム，ユーザ行動センシング，デジタルマーケティングに関する研究に従事．また，現在社会人学生として九州大学博士後期課程に在籍中．情報処理学会正会員．

研究会推薦：招待講演（9）「ビッグデータを瞬時に計算する」
[データベースシステム研究会]

塩川　浩昭（筑波大学 計算科学研究センター 助教）

［講演概要］

ビジネスや医療，スポーツなどの幅広い分野においてデータ分析技術の活用が成功を収めており，時々刻々と生み出される大規模なデータを高速高精度に分析処理することの重要性についてはもはや疑いの余地がありません．しかしながら，例えばノートパソコンが 1 台与えられた時，1 億件以上のレコードを持つ極めて大規模なデータを 3 分以内に処理することは可能なのでしょうか？我々はこの問いに答えるべく，誰しもが大規模データ処理が可能な世界を目指したアルゴリズム・システムの研究開発を行っています．本講演ではデータの繋がりを分析する「グラフデータ処理」を題材に，その高速な分析技術に関する研究成果をご紹介します．

［略歴］

2009 年筑波大学第三学群情報学類卒業．2011 年同大学院システム情報工学研究科博士前期課程修了．2011 年 4 月から日本電信電話（株）勤務の後，2015 年筑波大学大学院博士後期課程修了，博士（工学）．2015 年より，筑波大学計算科学研究センター助教．データベース，データマイニング，特に大規模グラフ分析アルゴリズムの高速化に関する研究に従事．情報処理学会，日本データベース学会，ACM，AAAI 各会員．

研究会推薦：招待講演（10）「騙し騙され音声合成」
[音声言語情報処理研究会]

高道　慎之介（東京大学 大学院情報理工学系研究科 特任助教）

［講演概要］

音声合成は，人とコンピュータの超コミュニケーションを可能にする．容易に他人になりすます事さえ可能にする．一方で，そういう「声のなりすまし」を検出するセキュリティ技術が存在する．音声合成の研究者として，せっかく作った音声をセキュリティで弾かれてしまったらつまらない．ならいっそ，セキュリティを騙すように音声合成を作ればいいのである．本発表では，そういう「なりすましセキュリティを騙すための音声合成」を紹介する．

［略歴］

2016 年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了．博士（工学）．同年より東京大学大学院情報理工学系研究科特任助教（現職）．音声合成変換を主とする音声研究者．日本音響学会独創研究奨励賞板倉記念など，10 以上の論文・研究業績賞を受賞．

研究会推薦：招待講演（11）「わざと間違えるコンピュータ」
[システムと LSI の設計技術研究会]

多和田　雅師（早稲田大学 基幹理工学部情報通信学科 助教）

［講演概要］

半導体上で複雑な演算器を実現すると回路面積や消費電力をはじめとする膨大なハードウェアリソースが必要となる．演算結果にあえて誤りを注入する設計により，必要なハードウェアリソースを削減できることが知られている．特に Stochastic Computing と呼ばれる設計方針は演算の対象となる情報を細切れにして処理することで複雑な構造を排除しハードウェアリソースを劇的に削減する．Stochastic Computing で実装された演算器は，部分として決定的で不正確に演算し，全体として確率的に演算し正解に近い結果を出力する．本発表では Stochastic Computing の最新の研究について紹介する．

［略歴］

2015 年早稲田大学大学院基幹理工学研究科情報理工学専攻博士後期課程修了．博士（工学）．日本学術振興会特別研究員（DC1）．2015 年より早稲田大学基幹理工学部情報通信学科助教．メモリ符号化技術と LSI 設計技術を研究．2017 年度情報処理学会コンピュータサイエンス領域奨励賞受賞．

研究会推薦：招待講演（12）「人生は「ロール・プレイング」～演技を引き出すシステム設計」
[エンタテインメントコンピューティング研究会]

福地　健太郎（明治大学 総合数理学部先端メディアサイエンス学科 准教授）

［講演概要］

公共の場や音楽フェスティバルに設置されるようなエンタテインメントシステムの研究開発においては，恥ずかしがりやのお客様をシステムが提供する世界にどうやって引きずり込むかが常に課題となります．その解決のために私がずっと追いかけている手法の一つが，その世界における「役割」をお客様にさりげなく提供すること．これまでの研究でわかってきた，私達ニンゲンがどうやって自己を認識し，画面上の「役割」にどうなじんでいくのか，その過程を追った研究を紹介します．

［略歴］

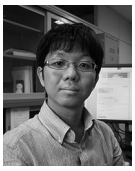
2004 年東京工業大学大学院情報理工学研究科博士後期課程単位取得退学．博士(理学)．電気通信大学大学院情報システム学研究科助教，（独）科学技術振興機構 ERATO 五十嵐プロジェクト研究員，明治大学理工学部特任准教授を経て，2013 年より現職．ユーザーインタフェースや知覚心理学，エンタテインメント応用に興味を持つ．主な作品に「EffecTV」.

研究会推薦：招待講演（13）「人とコンピュータとの協働」
[グループウェアとネットワークサービス研究会]

福島　拓（大阪工業大学 情報科学部情報メディア学科 特任講師）

［講演概要］

情報技術を用いた多言語間対話支援においては機械翻訳が多く用いられているが，翻訳文の正確性の担保が困難であるため，医療分野のような高い正確性が求められる対話支援においては「用例対訳」と呼ばれる多言語のテキストコーパスが多く使用されている．用例対訳は複数の専門家によって作成・評価がなされているため，正確性が非常に高いが，入力された全ての文をリアルタイムで翻訳することは難しい．このような用例対訳を活用するための取り組みとして，人が得意な作業とコンピュータが得意な作業を分け，協働することで，リアルタイム性を高めつつ正確な意思疎通を可能とした例を紹介する．



［略歴］

2013 年和歌山大学大学院システム工学研究科博士後期課程修了．博士(工学)．静岡大学大学院工学研究科助教を経て, 2016 年より現職．協調作業支援，モチベーション維持支援，多言語間コミュニケーション支援に関する研究開発に従事．情報処理学会 DICOMO2012 シンポジウム，DICOMO2017 シンポジウムにおいて最優秀論文賞受賞など．

研究会推薦：招待講演（14）「手と身体と会話のことば学」
[アクセシビリティ研究会]

坊農　真弓（国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授）

［講演概要］

私たちは毎日誰かと言葉を交わし，会話する．会話は私たちの日常生活を構成するなくてはならないものだろう．言語学はかつて，ソシュールやチョムスキーといった偉大な言語学者により，その目指すべき道が定められた．しかしその範疇には，手や身体や会話は含まれていない．近年のことばに関わる研究では，会話におけるジェスチャーや身体の動きが頻繁に研究されている．本講演では，ロボット演劇でみられたロボットと俳優の身体の動き，祭りでみられた縄を結ぶときの手の動き，手話の中で見られた手と口の動きなど，ことばに関わる動きに注目する．会話の中で手と身体が紡ぎ出すことばが私たちの日常生活をどのように彩っているのかを紹介する．

［略歴］

2005 年神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程修了．ATR メディア情報科学研究所研究員，京都大学大学院情報学研究科研究員，日本学術振興会特別研究員（PD），米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員ポスドク研究員，米国テキサス大学オースティン校客員研究員を経て，2009 年より国立情報学研究所・総合研究大学院大学助教．2014 年より同准教授．2016 年 4 月 -2017 年 3 月蘭国マックスプランク心理言語学研究所客員准教授．多人数インタラクション研究および手話相互行為研究に従事．博士（学術）．受賞：平成 27 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞，他多数．

研究会推薦：招待講演（15）「コンピュータと人間による合奏 : 人と息を合わせて演奏するとは」
[音楽情報科学研究会]

前澤　陽（ヤマハ株式会社 研究開発統括部 第 1 研究開発部 音楽 AI グループ 主事）

［講演概要］

憧れの演奏者と一緒に息の合った合奏をしたい – このような，楽器演奏者の夢を実現するため，我々は計算機と人間の間で合奏を行うための研究を行っています．破綻なく合奏するには，人間と同じように，計算機が演奏者を見て聞いて，意図を汲み取り先を読み，自然な演奏や仕草で合わせる必要があります．また，ステージでの本番では失敗が許されません．このような多彩かつ自然な応答を実現するにはどうすればよいのでしょう．本講演では，多くのライブ運用やヒアリングを通じて得られた，計算機による合奏において必要な要素技術と今後の展開について，実演奏を交えながら解説します．

［略歴］

2011 年京都大学情報学研究科修士課程修了．同年ヤマハ（株）入社．2015 年社会人博士として京都大学情報学研究科博士後期課程修了．博士（情報学）．楽曲解析技術の研究開発・製品化，自動伴奏技術の研究開発等に従事．東京藝大と共同で実施した，ベルリン・フィルのメンバーと，自動伴奏技術によりライブ演者として復元された 20 世紀の巨匠ピアニスト，スビャトスラフ・リヒテルの室内楽コンサートは国内外で話題となった．情報処理学会山下記念研究賞（2015），情報処理学会音楽情報科学研究会ベストプレゼン賞（2016, 2017）等多数受賞．情報処理学会，音響学会，ACM 各会員．

研究会推薦：招待講演（16）「「自立」した Web システムを創る．自分の好きなことをする世界を目指して．」
[インターネットと運用技術研究会]

吉川　竜太（クックパッド株式会社 インフラストラクチャー部 SRE グループ エンジニア）

［講演概要］

僕の望む世界は，みんながそれぞれ好きなことをできる世界です．しかし，今の世界では，自分の好きなことだけをして生きていくのは，なかなか難しいことだと思っています．みんながそれぞれ好きなことをするために，まず，僕自身の仕事をなくしてみようと考えてみました．今回は，僕の望む世界に僕の力で一歩でも近づくために，僕自身の仕事を無くすような，「自立」して動く Web システムアーキテクチャについて語ります．

［略歴］

クックパッド（株）の Site Reliability Engineer．18 歳の頃より大学に通いながらインフラ構築・運用専門の会社で様々な条件・規模のシステム設計･構築･運用を 6 年間に渡り経験した．2017 年からはクックパッド（株）にて，大規模 Web サービスのシステム設計･構築･運用はもちろん，アプリケーションレイヤでのチューニングやミドルウェア開発など，サイトの信頼性に関わる全てのレイヤを責任範囲としている．July Tech Festa や OSC を始め，様々な技術者コミュニティの勉強会に登壇．興味のある分野は時系列データベース･ロードバランサ・モニタリング．

子ども達に，いま必要なマナビ：プログラミング的思考や読解力の必要性と教育のあり方は？ ～データなどの確かな根拠に裏付けされた実態と展望～
3 月 13 日（火）9:30-12:00［第 1 イベント会場（57 号館 201）］

［セッション概要］

明日の超スマート社会を担う子ども達に必要な学びや教育を，データや実績に裏付けされた形で様々な立場から展望します．具体的には，確かな根拠に立脚して子ども達の学びや理解の現状を捉えたうえで，特に読解力やプログラミング（的思考）に着目し，必要な学びを徹底討論します．

司会：鷲崎　弘宜（早稲田大学 教授／国立情報学研究所 客員教授／システム情報 取締役）

［略歴］

早稲田大学グローバルソフトウェアエンジニアリング研究所 所長・教授，国立情報学研究所 客員教授，（株）システム情報 取締役．IEEE CS Membership at Large for Professional and Educational Activities Board, IEEE CS Japan Chapter Vice-Chair, SEMAT Japan Chapter Chair, IPSJ International AI Programming Contest: SamurAI Coding Director, ISO/IEC/JTC1 SC7/WG20 Convenor, I. J. Agile and Extreme Software Development Editor-in-Chief. プログラミング学習環境の調査とルーブリック策定を進めるプロジェクト G7 プログラミングラーニングサミット 実行委員会会長．

9:30-9:35　趣旨説明

9:35-10:30　基調講演「初等教育におけるプログラミング「的」教育の必要性と，プログラミング教育の不必要性」

新井　紀子（国立情報学研究所 社会共有知研究センター長・教授）

［講演概要］

2017 年 3 月に，新学習指導要領が公示され，新しい目標のひとつとして，初等教育段階から「プログラミング的思考」を育成することが掲げられました．本指導要領は，AI やロボットが日常生活および労働環境に一般的に普及する近未来を前提として，それらの動きの仕組みを数理的に理解した上で，単に仕事を奪われることなく，AI やロボットと差別化しうる能力を高め，それらと協働することで労働生産性が高く，格差の少ない，幸福度の高い社会の担い手を育成することを目指しています．本講演では，2011 年から国立情報学研究所が中心となって進めてきた「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトを通じて，深層学習を含む統計的手法の可能性と限界を踏まえつつ，AI やロボットと差別化しうる人間に求められる，しかも公教育で育成可能な能力とは何かを議論します．その上で，中高校生 2 万 5 千人以上を対象として行った「リーディングスキルテスト」（基礎的読解力テスト）の結果から，どのような読解力段階において，どのような「プログラミング的教育」が可能かつ有効かを，具体的に検討したいと考えています．

［略歴］

東京都出身．一橋大学法学部およびイリノイ大学卒業，イリノイ大学大学院数学科修了．博士（理学）．専門は数理論理学．数学以外の主な仕事として，教育機関向けのコンテンツマネージメントシステム NetCommons や，研究者情報システム researchmap の研究開発がある．2011 年より人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトディレクタを務める．2016 年より読解力を診断する「リーディングスキルテスト」の研究開発を主導．主著に「ハッピーになれる算数」「生き抜くための数学入門」（イーストプレス），「数学は言葉」（東京図書），「コンピュータが仕事を奪う」（日本経済新聞出版社），「ほんとうにいいの？デジタル教科書」（岩波書店）など．一般社団法人　教育のための科学研究所　代表理事・所長．

10:30-12:00　パネル討論「小学校からのプログラミング教育は本当に必要なのか？どうあるべきか？」

[討論概要]

2020 年からの小学校におけるプログラミング的思考の教育導入が決まり，幼少期からのプログラミング学習＆教育が一大ブームを巻き起こしています．一方で，自治体全体での取り組み例はまだまだ限られています．このような中，すべての子どもへの一律の教育は本当に必要でしょうか？ どのような形が望ましいのでしょうか？ それぞれデータや実績に裏付けされた以下のポジショントークにより実態を多面的に捉えたうえで，展望を徹底討論します．

「1: すべての学校でのプログラミング教育をどう実現するのか : 佐和伸明（柏市教育委員会学校 教育部学校教育課 副参事）」

「2: 必修化された小学校でのプログラミング教育の，現状の課題とそれに対する取り組み : 後藤義雄（日本 STEM 教育学会 プログラミング教育研究会代表）」

「3: G7 プログラミングラーニングサミットにおける学習ツール調査とルーブリック : 鷲崎弘宜，齋藤大輔（早稲田大学）」

モデレータ：鷲崎　弘宜（早稲田大学 教授／国立情報学研究所 客員教授／システム情報 取締役）

略歴・写真は「子ども達に，いま必要なマナビ : プログラミング的思考や読解力の必要性と教育のあり方は？～データなどの確かな根拠に裏付けされた実態と展望～」司会紹介を参照．

パネリスト：新井　紀子（国立情報学研究所 社会共有知研究センター長・教授）

略歴・写真は基調講演「初等教育におけるプログラミング「的」教育の必要性と，プログラミング教育の不必要性」を参照．

パネリスト：佐和　伸明（柏市教育委員会 学校教育部学校教育課 副参事）

[略歴]

柏市･松戸市小学校教諭, 柏市立教育研究所指導主事, 柏市立柏第二小学校教頭を経て現職．1990 年代から ICT 教育に関わる．「タブレット端末を活用した 21 世紀型コミュニケーション力の育成」（日本教育情報化振興会）など共著本多数．現在は，プログラミング教育の推進等，子供たちがこれからの時代をたくましく生き抜くことための教育企画を担当．

パネリスト：後藤　義雄（日本 STEM 教育学会 プログラミング教育研究会 代表）

[略歴]

2002 年東京大学大学院理学系研究科修了．コンサル会社を経て 2007 年にベネッセコーポレーションに入社．幼児～高校生向けのオンライン学習サービスの開発をリードし，2011 年に米シリコンバレーに会社を立ち上げ赴任．教育系スタートアップと STEM やプログラミング教育のサービスを開発．日本では 2015 年より子ども向けプログラミング教育を展開．2017 年に日本 STEM 教育学会を立上げ，プログラミング教育研究会 SIG を開始．2007 年 IPA 未踏ソフトウェア創造事業採択プログラマ．2 男 2 女，4 児の父．

パネリスト：齋藤　大輔（早稲田大学 教育学部・基幹理工学部）

[略歴]

2015 年東海大学情報通信学研究科修士課程修了．修士（情報通信学）．同年より早稲田大学基幹理工学研究科博士後期課程に在学中．同大学教育学部助手．ソフトウェア工学，プログラミング学習に関する研究に従事．

インターンシップについて本音を語る：大学教員×企業×学生
3 月 14 日（水）9:30-12:00［第 1 イベント会場（57 号館 201）］

[セッション概要]

インターンシップが，企業と学生のマッチングの機会として重視されているが，良質なインターンシップ体験は，学生の教育・研究にも良い刺激を与えるとも言われている．しかし，現実には疑似アルバイト的なインターンシップも多く，企業の現場からしても持ち出しばかり，という不満も聞かれる．また，大学教員からみても研究に集中すべき時期に学生がインターンシップに行ってしまう，という不満もあるという話も聞かれる．インターンシップをとりまく課題をパネリストの議論で表出化させるとともに，お互いが win-win となるインターンシップのあり方についての方向性を共有することを狙いとして，企業また産学連携の在り方を議論している研究者によりパネル討論を行う．

司会：清田　陽司（株式会社 LIFULL LIFULL Lab 主席研究員）

[略歴]

LIFULL Lab 主席研究員．2004 年京都大学大学院情報学研究科博士課程修了．2004 年から 2012 年まで東京大学情報基盤センター助手･助教・特任講師として，図書館情報検索支援などの研究に従事．2007 年に東京大学発スタートアップの創業に関わり，大規模データ処理技術の展開などに取り組んだ．2011 年より現職．不動産情報推薦などの研究開発とともに，共同研究やデータ提供を通じたオープンイノベーション推進に従事．情報処理学会データベースシステム研究会幹事(産学連携･社会連携担当), 人工知能学会編集委員．博士(情報学)．

9:30-9:35　趣旨説明

9:35-10:00　講演（1）「インターンシップ・学生が望むもの・教員が望むもの」
伊藤　貴之（お茶の水女子大学 理学部情報科学科 教授）

［講演概要］

海外のいくつかの国では情報技術系のインターンシップは大学のカリキュラムで経験できない技術力を身につける場としてかねてから普及しており，日本でも最近その傾向が見られる．講演者はインターンシップを，大学での基礎学力だけでなく実践経験を兼ねた強力な技術者を育成するための有力な制度として普及すべきと考えている．日本の情報系学部の現状のカリキュラムでは何が足りないことが多く，インターンシップはそれをどう補えるのか，学生は大学教育の何が重要であると考え，またインターンシップのどんな経験が貴重だったと感じているか，教員はインターンシップに何を期待し，また何を苦々しく思っているか．本講演ではいくつかのアンケート調査と，海外や企業での対談などを紹介し，講演者が望ましいと考えるインターンシップについて論じる．

［略歴］

1990 年早稲田大学理工学部電子通信学科卒業．1992 年早稲田大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了．同年日本アイ・ビー・エム（株）入社．1997 年博士（工学）．2000 年米国カーネギーメロン大学客員研究員．2003 年から 2005 年まで京都大学大学院情報学研究科 COE 研究員（客員助教授担当）．2005 年日本アイ・ビー・エム（株）退職，お茶の水女子大学理学部情報科学科助教授．2011 年同大学教授．情報可視化，マルチメディア，インタラクションなどの研究に従事．

10:00-10:25　講演（2）「学生・企業双方に価値のあるインターンシップの取り組み事例について」
下條　雅弘（株式会社リクルートテクノロジーズ IT ソリューション統括部データイノベーション推進部）

［講演概要］

リクルートホールディングスのインターンシップは，Web ビジネスにおけるスペシャリティ毎に複数のコースに分けて実施している．そのうちの一つ，データ解析コースでは，弊社が保有するリアルなデータを二週間に渡って解析し，新しいビジネスの提案や，サービスの価値向上をもたらすソリューションの開発をお願いしている．特徴は，社内の第一線で活躍している人材をメンターとしてアサインしている点にある．参加者の皆さんには，単なる業務のサポートではなく，ビジネス貢献を目的とした「プロセス」をメンターとともに体験いただくことをゴールに置いている．アカデミックの場で学んだナレッジやスキルをいかにしてビジネス貢献に繋げるか．インターンシップを通じて学生の皆さんに成長してもらいたいと考えている．本講演では，メンターとして学生に接してきた体験に加え，自身が学生時代に参加者として感じたこと・経験したことも踏まえ，インターンシップがもたらす学生・企業への価値について共有する．

［略歴］

2015 年 3 月筑波大学大学院システム情報工学研究科修了（修士工学）．2015 年 4 月（株）リクルートホールディングス入社．2015 年 7 月（株）リクルートテクノロジーズ出向．

10:25-10:50　講演（3）「From 東大 HAIT ～学生インターン 100 人の声～」
石井　大智（東大人工知能開発学生団体 HAIT 副代表）

［講演概要］

学生インターンシップに関する議論，最も重要なのは「学生自身がどう感じているのか？」ということです．昨今の大学生は，十代後半から二十代前半を自らにとって有意義に活用するための選択肢を，非常に豊富に持っています．研究に没頭するも良し，インターンシップによって早期に社会経験を積むも良し，果てには会社を立ち上げるなんてこともあります．反面，自分という一個人にとって最もプラスになるものを選び取ることは大変難しくなっています．そんな中，インターンシップを経験した学生はどのような経験を経て，どのような次なる目標を掲げているのでしょうか．東大 HAIT から輩出したインターン経験者 100 名分のエビデンスを共有させていただき，そこから得られた知見について議論します．

［略歴］

早稲田大学創造理工学部経営システム工学科 3 年．（株）STANDARD 代表取締役社長．学部 1 年生の頃から，独学で統計解析や機械学習によるデータ分析について学ぶ．同時に，知り合いの東大生と「東大人工知能開発学生団体 HAIT」を立ち上げる．自身がインターンシップを通して多くのスキルを得られた経験と，学生団体にて多くの仲間がスキルの習得に挫折していった経験から，「一万人のデータサイエンティストを輩出する」をビジョンに掲げて（株）STANDARD を設立．法人研修向けに機械学習によるデータ分析の入門講座を提供するとともに，学生に対して教材の一部を無償提供してインターンのマッチングを支援する「東大 HAIT S クラス」を運営．

10:50-11:15　講演（4）「研究者のためのインターンシップを通したキャリア形成」
関　喜史（株式会社 Gunosy 開発本部データ分析部）

［講演概要］

私自身は学生時代，多くのインターンシップに参加し，キャリアを形成を行ってきました．当時どのようなことを考え，どのように取り組んできたか，そしてインターンシップを学生がどのように活用するべきかについて私の考えをお話します．そして当社が取り組んできたインターンシップの事例について紹介し現状にはどのような課題があると考えているか，今後どのようなことを期待しているかについてお話します．

［略歴］

東京大学工学部卒業，同大学院工学系研究科博士課程修了．2011 年度未踏 OB．大学院在籍中に Gunosy（グノシー）を共同開発し，2012 年当社創業．創業期からニュース配信ロジックの開発を担当し，推薦システムを中心としたウェブマイニング，機械学習応用，自然言語処理応用を専門とする．2017 年 4 月より東京大学客員研究員に着任．

11:15-12:00　パネル討論「インターンシップを通じて大学教員×企業×学生のより良い関係を築くには？」

［討論概要］

講演において大学教員，企業，学生のそれぞれの立場から語られた「本音」をベースに，三者間のより建設的な関係を築くための課題を明らかにするとともに，日本におけるインターンシップの在り方を変革するために，それぞれの立場でいま何ができるのかについての方向性を共有することを目指す．

司　　会：清田　陽司（株式会社 LIFULL LIFULL Lab 主席研究員）

略歴・写真は「インターンシップについて本音を語る：大学教員×企業×学生」司会紹介を参照．

パネリスト：伊藤　貴之（お茶の水女子大学 理学部情報科学科 教授）

略歴・写真は講演（1）「インターンシップ・学生が望むもの・教員が望むもの」を参照．

下條　雅弘（株式会社リクルートテクノロジーズ IT ソリューション統括部データイノベーション推進部）

略歴・写真は講演（2）「学生・企業双方に価値のあるインターンシップの取り組み事例について」を参照．

石井　大智（東大人工知能開発学生団体 HAIT 副代表）

略歴・写真は講演（3）「From 東大 HAIT ～学生インターン 100 人の声～」を参照．

関　喜史（株式会社 Gunosy 開発本部データ分析部）

略歴・写真は講演（4）「研究者のためのインターンシップを通したキャリア形成」を参照．

サムライ・ジョッキー：人工知能で駆け抜けろー
第 6 回 国際人工知能プログラミングコンテスト世界決勝戦
SamurAI Coding 2017-18 World Final
3 月 14 日（水）15:30-18:00［第 1 イベント会場（57 号館 201）］

［セッション概要］

情報処理学会が主催する第 6 回国際 AI ゲームプログラミングコンテスト SamurAI Coding 2017-18 の世界大会決勝戦を開催します．2 月上旬まで投稿を受け付けて事前に予選をオンライン開催し，それを勝ち抜いた世界各国からの計 16 チームが，人工知能プログラミングのスキルを競います．題材は SamurAI Jockey（サムライジョッキー）．AI がサムライの騎馬を自動運転して，複雑なコースを駆け抜け，そのタイムを競います．賞金 10 万円ほか，特典多数．ぜひ会場で AI プログラミングの技を鑑賞するとともに，優勝者を予想しましょう．また 18:30 ごろ開始の懇親会にはどなたでも参加いただけます．決勝進出者やスポンサーを交え，ネットワーキングしましょう．コンテストサイトは http://samuraicoding.info/

鷲崎　弘宜（早稲田大学グローバルソフトウェアエンジニアリング研究所 教授／国立情報学研究所 客員教授／システム情報 取締役（監査等委員））

［略歴］

早稲田大学グローバルソフトウェアエンジニアリング研究所所長・教授，国立情報学研究所客員教授，（株）システム情報取締役．IEEE CS Membership at Large for Professional and Educational Activities Board, IEEE CS Japan Chapter Vice-Chair, SEMAT Japan Chapter Chair, ISO/IEC/JTC1 SC7/WG20 Convenor, I. J. Agile and Extreme Software Development Editor-in-Chief. プログラミング学習環境の調査とルーブリック策定を進めるプロジェクト G7 プログラミングラーニングサミット実行委員会会長．2011 年にグリー社と共同で Samurai Coding を創設，2012 年以降は情報処理学会へ移管して国際的に実施，情報処理学会プログラミングコンテスト委員会委員長，SamurAI Coding Director.

15:30-18:00　人工知能・世界決勝戦 World Final，スポンサーセッション，対戦，講評，表彰

18:30-20:30　ネットワーキング

カリキュラム標準 J17 と情報教育
3 月 13 日（火）9:30-12:00［第 2 イベント会場（57 号館 202）］

［セッション概要］

J07 の後継としてまとまった J17 を紹介する．理工系情報専門学科の専門教育カリキュラム標準としての J90, J97 の伝統の上に，一般情報教育も含めたカリキュラム標準 J07 が生まれてから 10 年が経った．2016 年には，日本学術会議から情報学分野の学部教育参照基準が刊行され，全大学を対象とする情報学教育のアンケート調査も行われた．これらを踏まえて，一般教育・専門基礎教育から情報学専門教育までを視野に入れたカリキュラム標準 J17 の策定作業が行われた．その狙いと，仕上がった根幹部分の紹介を行うとともに，J17 のカバー範囲を広げていくための方策についての議論を深める．

司会：筧　捷彦（早稲田大学 名誉教授）

［略歴］

1968 年東京大学工学部計数工学科卒業．1970 年同大学院修士課程修了．1970 年東京大学工学部助手．1974 年立教大学理学部情報工学科講師，1978 年助教授，1986 年早稲田大学理工学部数学科教授，1991 年情報学科，2016 年定年退職．名誉教授．プログラミング言語の定義・処理系，ソフトウェア科学に興味を持つ．本会情報処理教育委員会 J17 WG 主査．本会フェロー・名誉会員，日本ソフトウェア科学会会員，ACM 会員．

9:35-10:00　講演「情報教育の参照基準」

久野　靖（電気通信大学 情報理工学研究科 教授）

[講演概要]

日本学術会議情報学委員会では現在，情報教育の参照基準を検討している．これは，情報学の参照基準が情報学の専門教育の全体像を構築するものだったのに対し，一般の（情報の専門家でない）人たちが小学校から大学までに情報学に関してどのような内容をどのように学ぶべきかの提案を行うものである．本講演では検討中の参照基準案の構成や考え方を紹介し，具体的な内容についても一部例を挙げて説明する．

[略歴]

1984 年東京工業大学理工学研究科情報科学専攻博士後期課程単位取得退学．東京工業大学助手，筑波大学講師，助教授，教授を経て，現在，電気通信大学教授．筑波大学名誉教授．理学博士（東京工業大学 1986 年）．

10:05-12:00　パネル討論「J17 - 情報教育の参照基準とともに」

[討論概要]

J17 の中核となる CS, IS, CE, SE, IT の専門教育５領域カリキュラム標準が仕上がった．これらは，J07 を踏まえつつ，ACM/IEEE-CS/AIS による相応するカリキュラム標準の進展を睨みつつまとめられた．アメリカでは，そのカリキュラム標準の相互の位置付けを俯瞰できる図式の形にまとめようとするプロジェクト CC2020 が進んでいる．そのプロジェクトに加わっている高田パネリストには，その CC2020 の進行状況を報告していただく．

J17 では，J07 に引き続き，日本独自に一般情報教育カリキュラム標準　J17-GE も仕上がった．この GE, CS, IS, CE, SE, IT が相互にどのような位置付けにあるかを少しでもわかりやすくするために，これらのカリキュラム標準は，それぞれ，日本学術会議が策定した情報学分野の学部教育に対する参照基準への参照が付してある．

J17 では，また，この 10 年の間に情報分野で特に注目を集めてきているサイバーセキュリティとデータサイエンスに関して，その知識項目・スキル項目を抽出して，一般教育／専門基礎／専門に分類した側面別カリキュラム標準も用意した．そして，各カリキュラム標準は，この側面別カリキュラム標準の項目への参照を付して，相互にカバーするものの比較ができるように作られている．

このパネル討論では，GE（稲垣），CS（角田），IS（松永）の各パネリストに，それぞれのカリキュラム標準が，参照基準・側面別カリキュラム標準に照らしてどのような位置付けになっているかを報告していただく．１年前に行った大学における情報教育の現状調査からは，多種多様な情報教育が行われていることがわかった．準備が進んでいる情報教育の参照基準も含めて，GE/CS/IS/CE/SE/IT のカリキュラム標準を超えて，広く大学での情報教育に対する指針となるものへと広げていくことについて，フロアも交えて展望を深める．

司　　会：萩谷　昌己（東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授）

[略歴]

1982 年 3 月東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了．1982 年 4 月京都大学数理解析研究所助手．1988 年 3 月京都大学理学博士．1988 年 10 月京都大学数理解析研究所助教授．1992 年 4 月東京大学理学部助教授．1993 年 4 月東京大学大学院理学系研究科助教授．1995 年 11 月東京大学大学院理学系研究科教授．2001 年 4 月～東京大学大学院情報理工学系研究科教授．2010 年 4 月～ 2013 年 3 月東京大学大学院情報理工学系研究科研究科長．2011 年 10 月～ 2017 年 9 月日本学術会議会員．

パネリスト：高田　眞吾（慶應義塾大学 理工学部 情報工学科 教授）

[略歴]

1990 年慶應義塾大学理工学部卒業．1992 年同大学大学院理工学研究科修士課程修了．1995 年同博士課程修了．博士（工学）．同年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手．1999 年慶應義塾大学理工学部情報工学科専任講師，2006 年助教授（准教授），2015 年教授．

パネリスト：稲垣　知宏（広島大学 情報メディア教育研究センター 教授）

[略歴]

1995 年広島大学大学院理学研究科博士課程修了．博士（理学）．広島大学総合情報処理センター助手，広島大学総合科学部講師，広島大学情報メディア教育研究センター准教授などを経て，2015 年から教授．広島大学の情報教育改革に取り組んできた．主な研究分野は情報教育，計算物理学など．情報処理学会一般情報教育委員会委員長．

パネリスト：角田　博保（元電気通信大学（情報処理学会コンピュータ科学教育委員会委員長））

[略歴]

1974 年東京工業大学理学部情報科学科卒業．1976 年同大学院修士課程修了．1981 年同大学院博士課程単位取得退学．1982 年電気通信大学計算機科学科助手．1990 年同大学情報工学科講師，1992 年助教授，2007 年准教授，2016 年定年退職．理学博士．計算機システムのヒューマンインタフェース，教育支援システム，文字列処理等に興味を持つ．情報処理学会コンピュータ科学教育委員会委員長，情報入試委員会委員長．ACM 会員．

パネリスト：松永　賢次（専修大学 ネットワーク情報学部 教授）

[略歴]

1994 年慶應義塾大学大学院理工学研究科管理工学専攻後期博士課程単位取得後退学．専修大学経営学部講師，助教授を経て，現在，同大学ネットワーク情報学部教授（2017 年 9 月より学部長）．2005 年度～現在 情報処理学会情報システム教育委員会委員（2012 ～ 2013 年度委員長）を務め J07-IS, J17-IS の作成に関与．2013 年度から現在 同学会アクレディテーション委員．

新しい一般情報教育の知識体系
3 月 13 日（火）13:20-15:50［第 2 イベント会場（57 号館 202)］

［セッション概要］

一般情報教育委員会では，平成 24 ～ 26 年度にかけて実施した大学における一般情報教育の全国実態調査や海外調査，28 年度に実施された文部科学省委託調査「情報学分野の教育に関する現状調査」，28 年度から開始したこれまでの GEBOK に基づく情報プレースメントテストの結果等を参考に一般情報教育の知識体系（GEBOK）の効果的な利用促進と見直しを進めてきました．その集大成として新しい一般情報教育の知識体系を，今年度，策定します．この知識体系の発表とともに，新たな一般情報教育をどのように進めていくのか，現状の課題と最新の動向，将来へ向けた期待についてディスカッションします．

司会：喜多　一（京都大学 国際高等教育院 教授）

［略歴］

1982 年京都大学工学部卒，1987 年同大学院工学研究科，研究指導認定退学，京都大学工学部助手，東京工業大学大学院総合理工学研究科助教授，大学評価・学位授与機構教授，京都大学学術情報メディアセンター教授を経て，現職．工学博士，社会シミュレーション，教育の情報化，情報教育の研究に従事．

13:20-13:40　講演（1)「新しくなった一般情報教育の知識体系」
稲垣　知宏（広島大学 情報メディア教育研究センター 教授）

［講演概要］

2007 年度に一般情報教育の知識体系（GEBOK）を作成してから 10 年，初等中等教育の中での情報教育，情報に関する社会背景といった大学における情報教育を取り巻く状況は様々な変貌を遂げ，GEBOK に付け加えるべき知識，置き換えるべき知識が蓄積してきました．一方で，情報処理学会一般情報教育委員会では，GEBOK の実質化に向け，GEBOK に合わせた教科書の作成，一般情報教育の全国実態調査，海外調査，一般情報教育モデルの構築，ルーブリックの検討，情報プレースメントテスト構築を進めてきました．本講演では，一般情報教育委員会で GEBOK 改定に向け検討したポイント，全面的に見直した GEBOK について報告し，GEBOK 実質化に向けた課題について議論します．

［略歴］

1995 年広島大学大学院理学研究科博士課程修了．博士（理学）．広島大学総合情報処理センター助手，広島大学総合科学部講師，広島大学情報メディア教育研究センター准教授などを経て，2015 年から教授．広島大学の情報教育改革に取り組んできた．主な研究分野は情報教育，情報倫理教育，計算物理学など．情報処理学会一般情報教育委員会委員長．

13:40-14:00　講演（2)「一般情報教育に関する現状調査と GEBOK」
上繁　義史（長崎大学 ICT 基盤センター 准教授）

［講演概要］

本講演では，平成 28 年度の文部科学省委託調査「情報学分野の教育に関する現状調査」の調査結果のうち，一般情報教育について集計結果とその分析を紹介します．この一般情報教育の調査においては，国公私立大学併せて 530 校（調査対象の 70.5%）もの大学に多大なご協力をいただき，授業形態や開講科目数，教授する内容と要求する知識と技能のレベル，教育環境など，多岐にわたる設問について回答をいただきました．それらの集計結果の傾向に加え，過去の「一般情報教育の全国実態調査」との関連性についても触れたいと思います．

［略歴］

1992 年九州工業大学工学部卒業，1997 年同大学院工学研究科博士後期課程単位取得退学，同年 4 月鹿児島工業高等専門学校助手，2000 年同講師，2001 年同助教授，2003 年北九州産業学術推進機構招聘研究員，2004 年九州システム情報技術研究所（現九州先端科学技術研究所）研究員，2007 年 4 月長崎大学情報メディア基盤センター准教授，2013 年 4 月同 ICT 基盤センター准教授，2016 年 4 月より同センター情報基盤デザイン部門長．博士（工学）．画像処理，認証技術の研究，一般情報教育に従事．情報処理学会一般情報教育委員会委員．

14:00-14:20　講演（3)「情報プレースメントテストと GEBOK」
河村　一樹（東京国際大学 商学部経営学科 教授）

［講演概要］

情報処理学会一般情報教育委員会では，高等教育機関の一般情報教育について，長年調査研究を継続的に実施している．その中で，2016 年度の科研費において，基盤研究(C)16K00973「情報分野における高大接続のためのプレースメントテストシステムの構築」という研究課題で採択された．一般情報教育委員会所属のメンバー十数名で構成し，期間は 3 年間となっている．今回，ちょうどその中間時期が終わった段階であるが，今年 4 月にいくつかの大学において新入生を対象にプレ情報プレースメントテスト（IPT）を行った．これは，2018 年 4 月の本番に向けての事前テストという位置づけとし，Web サイトあるいは Excel シートを用いて実装した．以上をもとに，IPT の問題作成の方針，IPT と GEBOK の対応，プレ IPT の実施結果，IPT の見直し，IPTS の構築と実施に向けて，といったテーマについて報告する．

［略歴］

宮城大学事業構想学部情報デザイン学科助教授を経て，現在，東京国際大学商学部経営学科教授．1955 年東京生まれ．立教大学理学部卒，日本大学大学院理工学研究科電子工学専攻博士前期課程修了，博士（工学）．情報教育工学の研究・教育に従事．文部科学省技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員，情報処理学会一般情報教育委員会委員長・委員，初等中等教育委員会委員，モバイルラーニングコンソシアム理事などを歴任．

14:20-14:30　休憩

14:30-15:50　パネル討論「新しい一般情報教育に向けて」

［討論概要］

一般情報処理教育委員会で今年度，改訂した一般情報教育の知識体系（GEBOK）について，その内容を踏まえ，一般情報教育をどのように進めていくのか，現状の課題と最新の動向，将来へ向けた期待についてディスカッションします．

司　　会：喜多　一（京都大学 国際高等教育院 教授）

略歴・写真は「新しい一般情報教育の知識体系」司会紹介を参照．

パネリスト：湯瀬　裕昭（静岡県立大学 経営情報学部 教授）

［略歴］

1986 年秋田大学鉱山学部電子工学科卒業，1988 年同大学大学院修士課程修了，2008 年東北学院大学大学院博士課程修了．博士（学術）．1988 年秋田県立西目高等学校電子機械科教諭を経て，1991 年静岡県立大学経営情報学部助手．現在，同大学同学部教授．情報教育，遠隔講義システム等の研究に従事．情報処理学会一般情報教育委員会幹事．情報処理学会，日本 e-Learning 学会等各会員．

パネリスト：布施　泉（北海道大学 情報基盤センター 教授）

［略歴］

北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了，博士（理学）．北海道大学情報処理教育センター助手，情報基盤センター助手，助教授等を経て，2010 年から教授．情報教育や教育の情報化・オープン化に関する研究に従事し，情報倫理デジタルビデオ小品集開発にも寄与する．大学の一般情報教育において，特にプログラミング教育，著作権教育を含む情報倫理教育などに資する学習環境，コンテンツ・教材等に関わる研究に従事．情報処理学会，教育システム情報学会，日本教育工学会，日本情報科教育学会等会員，大学 ICT 推進協議会情報教育部会副査．

パネリスト：駒谷　昇一（奈良女子大学 生活環境学部 教授）

［略歴］

1985 ～ 2007 年 NTT ソフトウェア（株）．2007 ～ 2013 年（株）NTT データ．2007 ～ 2010 年筑波大学．2013 年～奈良女子大学．情報処理学会情報処理教育委員会委員．著書「ずっと受けたかったソフトウェアエンジニアリングの授業」，情報処理学会 IT Text シリーズ「情報とネットワーク社会」，「情報と職業」，「情報システム基礎」他．

実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発
3 月 14 日（水）9:30-12:00［第 2 イベント会場（57 号館 202）］

［セッション概要］

情報技術の発展と情報化の急速な進展，特に IoT の普及に伴い，実社会のあらゆる場面において膨大な「ビッグデータ」が生成されており，AI 等の技術を駆使したビッグデータの利活用が強く求められています．2014 年に始まった文部科学省事業「実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発」は，2016 年度から理化学研究所革新知能統合研究センター（AIP）のプロジェクトとなり，2017 年度末で終了となります．これまでデータ連携技術，高性能データ融合解析技術，データ格納・可視化技術，システム統合化技術に関する研究開発を行うとともに，社会実装を意識した実証実験を実施してきました．本特別セッションでは，プロジェクト 4 年間の成果について報告するとともに，実社会ビッグデータ利活用の今後について議論します．

司会：天笠　俊之（筑波大学 計算科学研究センター 教授）

［略歴］

1999 年群馬大学大学院工学研究科修了．博士（工学）．奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手，筑波大学大学院システム情報工学研究科講師，同准教授を経て，筑波大学計算科学研究センター教授．データベース，データマイニング等の研究に従事．情報処理学会，日本データベース学会，ACM 各会員．電子情報通信学会，IEEE 各シニア会員．

9:30-10:15　基調講演 Open platforms and tools for smarter cities in Europe and Japan - experiences and lessons learnt

Levent Gürgen（CEA-LETI, France R&D Project Manager）

［講演概要］

This talk will present the achievements of several collaborative projects in the smart city domain around Europe and Japan and share with the audience lessons learnt and experiences gathered during deployment of real life examples in pilot cities involved in those projects, such as Santander, Genova, Aarhus, Grenoble, Bristol, Fujisawa, Tsukuba, Mitaka, Osaka, etc. The objective is also to inform the audience about the reusable project results by the IoT and smart city community.

［略歴］

Dr. Levent Gürgen is R&D project coordinator in CEA-LETI. He is currently coordinating 2 European - Japanese collaborative projects on Internet of Things and Smart Cities, namely FESTIVAL (www.festival-project.eu) and BigClouT (http://bigclout.eu), involving leader institutions in Europe and in Japan. Levent obtained his PhD degree in computer science from the Grenoble Institute of Technology in 2007. His main research interests include sensor data processing and service-oriented platforms for Internet of Things.

10:15-10:30　講演（1）「プロジェクト全体概要とデータ連携技術」
北川　博之（筑波大学 計算科学研究センター 教授）

[講演概要]

情報技術の発展及び情報化の進展に伴い，実社会の各種活動に伴い生成・取得されるデータは爆発的に増加しており，これらのビッグデータの利活用が強く求められています．平成 26 年度から始まった本プロジェクトでは，データ連携技術，高性能データ融合解析技術，データ格納・可視化技術，システム統合化技術を軸に，実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発を行うとともに，社会実装を意識した実証実験を行ってきました．本講演では，プロジェクトの全体概要とデータ連携技術の研究開発を中心に報告します．

[略歴]

1980 年東京大学理学系研究科修士課程修了．理学博士（東京大学）．日本電気（株）勤務の後，筑波大学電子・情報工学系講師，同助教授を経て，現在，筑波大学システム計算科学研究センター教授（人工知能科学センター教授兼務）．専門：データ工学．情報処理学会フェロー，電子情報通信学会フェロー，日本データベース学会前会長．

10:30-10:40　講演（2）「高性能データ融合解析技術」
徳山　豪（東北大学 大学院情報科学研究科 教授・研究科長）

[講演概要]

実世界ビッグデータ利活用の基盤技術として，様々なデータの融合解析は重要なテーマである．本講演では，プロジェクトの開発目標に沿った，言語と地理情報，交通情報を中心にした融合データ解析の開発の経緯と手法について解説し，その実証実験での実装と評価について講演を行う．特にプローブデータの補完や地理言語コーパスの作成などのデータ構築や，知識融合のための学習モデルやアルゴリズムの概要，さらに開発における障害とその対応などについて述べ，また実証実験における経験をお話しする．

[略歴]

1985 年　東京大学大学院理学系研究科数学専攻博士課程修了．1986 年　日本アイ・ビー・エム（株）入社，東京基礎研究所研究員．1999 年　東北大学大学院情報科学研究科教授　現在に至る．2014 年　東北大学大学院情報科学研究科研究科長　現職

10:40-10:50　講演（3）「データ格納・可視化技術」
喜連川　優（国立情報学研究所／東京大学生産技術研究所）

[講演概要]

本研究開発において構築を進めている大規模データ格納・可視化技術に基づき，ソーシャルメディア解析や大規模ドライブレコーダデータを活用した道路リスク推定などスマートシティアプリケーションの開発を進めている．本アプリケーションを用いたバス事業者における実証実験について紹介する．

[略歴]

国立情報学研究所所長，東京大学生産技術研究所教授．1983 年東京大学大学院博士課程修了．情報処理学会会長（2013-2015 年），日本学術会議情報学委員長などを務める．データベース工学の研究に従事．ACM SIGMOD E. F. Codd Innovations Award，電子情報通信学会業績賞，情報処理学会功績賞，全国発明表彰「21 世紀発明賞」，C&C 賞などを受賞．2013 年紫綬褒章，2016 年レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受章．ACM，IEEE，電子情報通信学会，情報処理学会フェロー．

10:50-11:00　講演（4）「システム統合化基盤技術上の「シティアプリ」による社会課題解決」
中澤　仁（慶應義塾大学 環境情報学部 准教授）

[講演概要]

慶應義塾大学と神奈川県藤沢市が協力して取り組んでいるバッカー車の IoT 化プロジェクトでは，Sensor over XMPP 技術を核とするシステム統合化基盤技術を介して様々なセンサデータを流通させ，実空間の状況認識や市役所での業務支援等に活用している．市全域から収集した細粒度・広域・多様なデータを活用して地域の社会課題を解決する方法を議論する．

[略歴]

慶應義塾大学環境情報学部准教授．2003 年慶應義塾大学博士号取得（政策・メディア）．2004 年ジョージア工科大学客員研究員．街に埋もれて見えない無限の情報を採集するのがライフワークの一つ．ユビキタス・モバイルコンピューティング，センシングシステム，ディペンダブルシステム，スマートシティ等の研究に従事．

11:00-11:10　講演（5）「実証実験」
天笠　俊之（筑波大学 計算科学研究センター 教授）

[講演概要]

本プロジェクトでは，神奈川県藤沢市やその他の都市をフィールドとして実証実験を実施した．本講演では（1）プローブと Twitter の融合解析による交通状況推定，（2）ドライブレコーダデータを活用した道路危険度推定，（3）ゴミ減量 G1 グランプリ，（4）高齢者見守りを中心に実証実験の成果を報告する．

略歴・写真は「実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発」司会紹介を参照．

11:15-12:00　パネル討論「Society5.0 時代のスマートシティ実現に向けた現状と課題」

[討論概要]

実社会ビッグデータを利活用した Society5.0 時代のスマートシティ実現に向けて現状を整理するとともに，技術的・社会的課題について議論する．

司　　会：天笠　俊之（筑波大学 計算科学研究センター 教授）

略歴・写真は「実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発」司会紹介を参照．

パネリスト：Levent Gürgen（CEA-LETI, France R&D Project Manager）

略歴・写真は基調講演「Open platforms and tools for smarter cities in Europe and Japan - experiences and lessons learnt」を参照．

北川　博之（筑波大学 計算科学研究センター 教授）

略歴・写真は講演（1）「プロジェクト全体概要とデータ連携技術」を参照．

徳山　豪（東北大学 大学院情報科学研究科 教授・研究科長）

略歴・写真は講演（2）「高性能データ融合解析技術」を参照．

喜連川　優（国立情報学研究所／東京大学生産技術研究所）

略歴・写真は講演（3）「データ格納・可視化技術」を参照．

パネリスト：徳田　英幸（国立研究開発法人情報通信研究機構 本部 理事長）

[略歴]

1977 年慶應義塾大学大学院工学研究科修士．1983 年ウォータールー大学計算機科学科（Ph.D. in CS）．同年カーネギーメロン大学計算機科学科勤務，1990 年より慶應義塾大学環境情報学部に勤務．慶應義塾常任理事，環境情報学部長，大学院政策・メディア研究科委員長を経て現職．専門は，OS，ユビキタスコンピューティングシステム，IoT/CPS 等．情報処理学会副会長，日本学術会議情報学委員長などを務める．IBM Faculty Award，総務大臣賞，経済産業大臣賞，情報処理学会功績賞，情報セキュリティ文化賞などを受賞．

パネリスト：福田　達夫（藤沢市 総務部 IT 推進課）

[略歴]

1985 年藤沢市役所入庁．　保険年金課，契約課，情報統計課（現 IT 推進課）．　市民自治推進課を経て 2013 年 4 月より IT 推進課．2014 年 4 月より現職．　※ IT 推進課での経歴．　庁内情報システム構築及び運用，庁内ネットワーク整備．　庁内システム構築ガバナンス担当等．

高度 IT 技術者「CITP」の活躍
3 月 14 日（水）15:30-18:00［第 2 イベント会場（57 号館 202)］

[セッション概要]

高度情報処理技術者の資格制度である「認定情報技術者」（CITP）制度の運用を 2014 年度に開始して以来，すでに約 7000 名の CITP が認定され，多くの企業で活躍している．デジタル・トランスフォーメーションが叫ばれている中，本セッションでは，時代のニーズに即した価値の創造に向けて，企業の内外で活躍している CITP について紹介する．あわせて，IT スキル標準の動向や，技術士資格と CITP の連携についても紹介する．

司会：芝田　晃（三菱電機株式会社 インフォメーションシステム業務部 主席技師）

[略歴]

1978 年東京大学大学院工学系研究科情報工学専門課程修了（工学修士），同年三菱電機（株）入社．2001 年より CMMI を用いたプロセス改善に従事．2005 年 CMMI リード・アプレイザ，CMMI 入門コース・インストラクタ資格を取得，現職に至る．2001 年より本会コンピュータ博物館実行小委員会委員．2008 年より本会にて高度 IT 人材資格（現 CITP）の制度設計を担当．個人認証審査委員会委員長を経て，2016 年度より資格制度運営委員会委員長．2004 年および 2016 年に学会活動貢献賞を受賞．

15:30-16:00　講演（1）「IT スキル標準の動向」

平山　利幸（独立行政法人情報処理推進機構 IT 人材育成本部 調査役）

[講演概要]

クラウド，データアナリティクス，モバイル，ソーシャルといったいわゆる第 3 のプラットフォームや，IoT・AI 活用の本格化を背景に IT 投資の在り方が変化している．それに伴い，IT 人材が活躍する領域も，新しいビジネスなどの価値創造からサイバーセキュリティでの信頼性確保まで，既存の垣根を越えた経済・社会活動の発展に重要な役割を担う立場へと広がっている．政府においても，ソサエティ 5.0 や第 4 次産業革命の実現に向けた人材やスキルの育成について検討がなされている．本講演では，こうした政府の検討に対応し，独立行政法人情報処理推進機構（IPA）で策定を進めている「ITSS+」の方向性について紹介する．

[略歴]

経済産業省にて IT 人材育成政策の立案に従事．2002 年に公表した IT スキル標準（ITSS）は構想段階から担当．産学協働実践的 IT 教育訓練支援事業の企画，情報処理技術者試験のアジア展開などを推進．2016 年に（独）情報処理推進機構（IPA）に出向，現職に至る．

16:00-16:30　講演（2）「CITP 資格制度の現状」
芝田　晃（三菱電機株式会社 インフォメーションシステム業務部 主席技師）

［講演概要］

本学会は 2013 年に認定情報技術者（CITP）制度の新設を発表し，翌 2014 年には個人認証，2015 年には企業認定の本運用を開始した．既に約 7,500 名の CITP が誕生している．企業認定では，8 つの企業または企業グループの社内資格制度が認定を受けている．CITP のコミュニティにおいては，有志による分科会活動が活発に行われている．医療，土木，建築等の分野では，専門の資格を有する者が業務に従事しているが，情報の分野においてもその責任性に鑑みて，有資格者による業務遂行が望まれる．2016 年に新設された「情報処理安全確保支援士」に加え，2017 年には「ITSS+」が発表される等，情報技術者のスキルや資格に対する関心が高まっており，CITP の活躍が期待される．本講演では，CITP 制度の概要を紹介するとともに，これまでの実績，今後の方向について述べる．

略歴・写真は「高度 IT 技術者「CITP」の活躍」司会紹介を参照．

16:30-17:00　講演（3）「CITP フォーラムの活動」
平林　元明（情報処理学会 CITP フォーラム 代表）

［講演概要］

超スマート社会を実現するという国家的取組が始まっている．超スマート社会を実現するためには，それを担う実践的 IT 人材が必要となる．情報処理学会の認定情報技術者（CITP）制度によって認証された実践的 IT 人材とはどのような人材なのか．本講演では，社会に求められるその人材像を俯瞰するとともに，CITP のコミュニティである CITP フォーラムの活動内容を紹介する．CITP フォーラムでは，5 つの専門部会（SIG）と 3 つの委員会を設置し，社会貢献活動，人材育成活動，社会提言などを行っている．これらの活動を実践し，運営してきた経緯や課題対応についても述べる．

［略歴］

（株）日立製作所で OS や運用管理ミドルウェアを開発．内閣府情報化参与 CIO 補佐官として政府情報システムの最適化を推進．CIO 補佐官連絡会議情報技術 WG リーダ，経済産業省文字情報基盤推進委員会，IPA TRM 検討 WG 主査，文字情報基盤運用検討 WG 委員長等の政府関連委員会に参画，静岡大学情報学部客員教授，JEITA IT サービス調達政策専門委員会委員長を経て，情報処理学会 CITP フォーラム代表．

17:00-17:30　講演（4）「CITP の活躍事例ーデザイン思考を流用した地域復興アイデアソン」
土屋　俊樹（株式会社ハイマックス 第 2 事業本部第 3 部 シニアコンサルタント）

［講演概要］

CITP コミュニティ／社会価値創造分科会の活動として被災地・石巻にて地域の大学の大学生とともにシビックテック（オープンデータを用いた地域課題解決アプリのアイデアソン）を実施した．社会価値創造分科会では，昨年度より被災地支援･地域振興，IT 人材育成を目的に，CITP としてのプロフェッショナル貢献を議論してきた．デザイン思考の手法を取り入れ，まずは有志にて石巻現地視察を行った．そこで得た気づきをもとに現地にて CITP と大学生による地域課題解決・IT 人材育成のためのシンポジウムを開催することにした．様々なステークホルダを巻き込みながら，全国から CITP10 数名が現地に集合し，学生たちに交じりながらディスカッションを盛り上げ，盛況のうちに終えることができた．今回の取組みにより今後の CITP コミュニティ活動拡大の足掛かりを掴むことができた．その経過をレポートする．

［略歴］

（株）ハイマックス（本社みなとみらい）にて，主に産業・流通業のシステム企画・開発のプロジェクトマネジャーとして従事．また，EU 情シス部門向けの IT 研修の講座企画から講師までを担当．情報処理技術者（ST，PM，AE，SM，DB，SC）．

17:30-18:00　講演（5）「技術士資格と CITP の連携」
児玉　公信（株式会社情報システム総研 代表取締役社長）

［講演概要］

技術士は 60 年の歴史を持つエンジニアの国家資格である．この間，技術士制度は何度かの改訂を重ねてきたが，現在，また大きな改訂を検討している．本講演では，技術士とはどのような資格なのか，どのような価値があるのか，大学のアクレディテーションとどう関係するのか，そしてどのような課題を抱えているのかについて概説し，現在予定されている技術士制度の改訂について触れる．この改訂は，専門分野をカリキュラム標準である J17 に対応づけること，情報処理技術者試験高度合格者に対し一次試験を免除することが中心である．また技術士と本会との関係，とくに CITP との資格および活動の連携について述べ，プロフェッショナルである技術士と CITP がともに目指すべき技術者像を提示したい．

［略歴］

石油元売り，大学受託研究員，鉄鋼系情報子会社を経て，現在（株）情報システム総研代表取締役社長．企業の基幹情報システム開発のためのプラットフォーム製品の販売，基幹情報システムの再構築のためのモデリングおよびアーキテクティングを提供．技術士（情報工学部門），博士（情報学）．情報システムと社会環境研究会主査，技術士委員会委員長，文部科学省科学技術・学術審議会専門委員．著書に「UML モデリング入門」「UML モデリングの本質」ほか，訳書に「アナリシスパターン」「リファクタリング」ほか．

工芸から科学へ　ー CG 技術の新たな挑戦ー
3 月 15 日（木）9:30-12:00［第 2 イベント会場（57 号館 202)］

［セッション概要］

映像産業等において飛躍的な発展を遂げてきたコンピュータ･グラフィックス（CG）の技術は，近年その活躍の舞台を工業製品･芸術作品などの分野から，数学，物理学，化学，医学，認知科学等の諸分野に拡大しつつある．本イベントでは，その中でも異分野が融合する学際的なプロジェクトで活躍している研究者，およびサイエンス分野でのビジネスを展開している経営者の方々に，その新たな研究動向，異分野との協業体制，製品開発での体験談，および科学分野におけるインパクトなどについて語っていただく．本企画では，これから CG の研究を志す人，自身の研究に CG 技術の導入を検討している人，および現在 CG に取り組んでおりサイエンス分野での起業を考えている人や新分野の開拓を目指す人などに，大いに参考となる講演会およびパネル討論会を開催する．

司会：土橋　宜典（北海道大学 大学院情報科学研究科 准教授）

［略歴］

1992 年，広島大学工学部卒業．1994 年，同大大学院工学研究科博士課程前期修了．1997 年，同大博士課程後期修了．同年，広島市立大学情報科学部助手．2000 年，北海道大学大学院工学研究科助教授．2004 年，同大大学院情報科学研究科助教授．2008 年，同大大学院情報科学研究科准教授．工学博士．主としてコンピュータグラフィックスに関する研究に従事．Eurographics Best Paper Award，芸術科学会国際 CG 大賞特別賞，文部科学大臣表彰科学技術賞他．

9:30-9:45　講演（1)「質感と CG」
土橋　宜典（北海道大学 大学院情報科学研究科 准教授）

［講演概要］

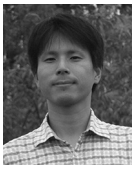
CG におけるコアな研究分野は写実的な画像の生成であるが，これを実現するための重要な要素が質感の表現である．仮想物体の質感を決定する要素には様々なものがある．例えば，反射・透過特性，物体表面の微細形状，光源の情報などがある．CG ではこれらの要素を物理的に正確にシミュレーションすることでリアルな質感を表現することが行われている．本講演では，それらの質感表現技術について概説する．

略歴・写真は「工芸から科学へ　- CG 技術の新たな挑戦 -」司会紹介を参照．

9:45-10:00　講演（2)「数学と CG」
鍛冶　静雄（山口大学 創成科学研究科 准教授）

［講演概要］

線形代数や流体力学を始めとして，CG には様々な数学が用いられていますが，数学を研究する立場から CG 研究はどう映るのでしょうか．海外では意外にも古くから，また日本でも最近は，離散微分幾何学といった新しい数学の源泉として CG が認識されてきています．数学には「役に立たないほど高等だ」という考え方と同時に，歴史的に物理や工学にアイデアの起源を見つけてきたという二面性があります．CG と数学の関わりについて，トポロジーの研究者である私個人の経験を中心にお話したいと思います．



［略歴］

2007 年京都大学大学院理学研究科数学・数理解析専攻修了，博士（理学）．2007-2008 年日本学術振興会特別研究員 PD，2008-2010 年福岡大学理学部応用数学科助教，2010-2016 年山口大学大学院理工学研究科講師，2013 年 9 月 -2015 年 8 月英国サウサンプトン大学 Visiting Research Fellow（日本学術振興会海外特別研究員），2016 年 4 月より現職．2016 年 10 月より科学技術振興機構（JST）さきがけ研究者（数学協働領域），2017 年 4 月より山口大学時間学研究所兼務所員，を兼任．

10:00-10:15　講演（3)「化学と CG」
羽生　雄毅（インテグリカルチャー株式会社 最高経営責任者）

［講演概要］

CG は以前より科学コミュニケーションに欠かせないツールとして使われてきました．その持ち前の表現力で科学を見せるだけでなく，「魅せる」ためにもサイエンス CG という概念が生まれました．近年は VR/AR への展開も大いに期待されています．芸術的表現を駆使して一般向けに魅せることも重要ですが，サイエンス CG の表現力を，論文図画，学会発表，科研費申請資料，学内研究報告，教材など，日々の研究現場でも活用できるのではないでしょうか．こうした科学コンテンツの層の厚さは研究成果の国際発信力にも繋がるでしょう．研究者自身が日々の研究で CG の表現力を使うには，1）関連ソフトが無料であること，2）実験等で使うソフトとのデータ互換性，3）サイエンス CG に特化した CG 制作技術の習得方法，が必要です．当日はこの 3 つを意識した SCIGRA でのサイエンス CG 制作と教育「サイエンス CG 塾」の取り組みや，3D プリンター，VR/AR への展開の可能性も交えてご紹介します．

［略歴］

2010 年，オックスフォード大学博士（化学），東北大学多元物質科学研究所，東芝研究開発センター，システム技術ラボラトリーを経て，2014 年，細胞農業の有志団体“Shojinmeat Project”およびビジュアル科学コミュニケーションサービス“SCIGRA”を立ち上げ，2015 年にインテグリカルチャー（株）を設立．2017 年，米国シンギュラリティ大学主催の“Japan Global Impact Challenge”に優勝，シリコンバレーでの Global Solutions Program に日本人として初めて参加．化学･バイオ分野での CG 制作のほか，一般の研究者が日々使える 3DCG 技術の普及と研究成果の国際発信力の強化を目指し，研究者向け特化の「サイエンス CG 塾」を運営している．

10:15-10:30　講演（4）「医療と CG」

瀬尾　拡史（株式会社サイアメント 代表取締役社長）

［講演概要］

ヘッドマウントディスプレイを使って AR や VR で臓器を再現！格好良さそうですね！！　3D プリンタで実物大の臓器模型を作って勉強！楽しそうですね！！　…意味がわかりません．まずそもそも，医用画像からの特定の臓器の正確な抽出は今も発展段階です．抽出しやすい臓器もありますが，患者さんごとに構造や状態の異なる臓器を（妥当な範囲で）正確に抽出するのはそんなに簡単ではありません．また，仮に臓器の 3DCG データを作ることが出来たとして，VR でただ周りから眺めるだけで十分に有用な情報を得ることが出来るのでしょうか？ 3D プリンタで出力した模型は，一度切開したり切断したりしてしまうと，元の状態には戻れません．各臓器の典型例を量産するならまだしも，患者さんごとの臓器模型を 1 つ 1 つ手間暇かけて作る余裕が本当にあるのでしょうか？ CT や MRI などの医用画像と 3DCG との融合のためには長い道のりがあり，何が出来て，何が出来ないのか，出来るとしても，何に時間がかかり，どんなことなら短時間で出来るのか，というようなことを治療現場の目線で考えられることが何よりも大切です．3DCG で出来ること，出来ないことを，具体的なデモも交えながらお話したいと思います．

［略歴］

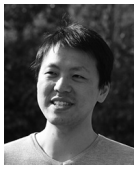
1985 年東京生まれ，2004 年筑波大学附属駒場高等学校卒業，2010 年東京大学総長賞・総長大賞受賞，2011 年東京大学医学部医学科卒業，医師，2013 年東京大学医学部附属病院初期臨床研修修了，（株）サイアメント代表取締役社長就任，2014 年総務省「異能 vation」事業本採択第 1 期，2015 年 SIGGRAPH Computer Animation Festival にて BEST VISUALIZATION OR SIMULATION 受賞，2016 年京都造形芸術大学客員教授就任，大隅良典先生のノーベル賞受賞記念レクチャー用 CG 映像制作，2017 年東京大学大学院情報理工学系研究科五十嵐健夫研究室学術支援専門職員．

10:30-10:45　講演（5）「レオロジーと CG」

楽　詠灝（東京大学 大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻 助教）

［講演概要］

「Panta rhei — 万物は流転する」この言葉はレオロジー（rheology）の語源と言われている．レオロジーは，物体変形や流動一般に関する学問分野である．食品や絵の具，潤滑油，体液，マントルなどのほとんどの物体は，元の形に戻ることのできる弾性的な振る舞いと，元の形に戻らない塑性的な振る舞いの中間の性質を示す．例えば，ケーキを生クリームでデコレーションできるのは，重力程度の弱い力ではクリームはその形状を保つのに対し，大きな力で絞り出し袋から押し出すと流動して元の形に戻らなくなるためである．弾性や流動性の度合いは，材質に応じて大きく変わり，物性の理解は食品科学，工業，医療，地球科学などの幅広い分野に役立つが，その正確な理解はしばしば難しい．一方で，CG では視覚的挙動の再現が主目的であり，計算物理ほどの精度は必ずしも要求されず，基本特性を捉えれば研究として成立することもしばしばある．そこで，CG を通過点としてレオロジーを研究することにより，双方の分野が発展することが期待される．本イベントでは，その可能性について論じていきたい．



［略歴］

東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻助教．2011 年同大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻博士後期課程修了．博士（情報理工学）．光学や流体などの物理シミュレーションやその形状設計への応用等を中心にコンピュータグラフィックスの研究に従事．日本学術振興会海外特別研究員として米国コロンビア大学に滞在している際に，物質点法（Material Point Method）と呼ばれる連続体力学の数値計算技法を利用し，クリームなどの非ニュートン流体のシミュレーション手法を開発した．以後，レオロジー分野の研究者等とともに，その発展手法の研究に取り組む．2011 年度情報処理学会山下記念研究賞受賞．

10:45-11:00　講演（6）「スパースモデリングと可視化」

藤代　一成（慶應義塾大学 大学院理工学研究科情報工学専修 主任教授）

［講演概要］

講演者は，科研費新学術領域「スパースモデリングの深化と高次元データ駆動科学の創成」（2013 年度～ 2017 年度）に参画し，その計画研究課題「スパースモデリングを促進する可視化基盤の強化」の研究代表者を務めてきた．本講演ではその主要成果を報告する．具体的には，スパースモデリングにより抽出されたデータの十数から数十次元の説明変数をさらに二，三，四次元にまで圧縮し，情報可視化を用いて所与の問題を記述するデータの挙動を視覚的に理解可能にする基盤技術について紹介する．代表的な多次元情報可視化技法の一つである平行座標系表示を対象として，その視覚解析能力をスケーラブルにするために提案した，非対称バイクラスタリングに基づく部分空間探索法とその周辺技術を採り上げ，実データへの適用事例を通じて，その効用について論じる．

［略歴］

1960 年生．1985 年筑波大学大学院博士課程工学研究科電子・情報工学専攻で修士号取得後直ちに東京大学理学部情報科学科助手着任．1988 年 理学博士（東京大学）．筑波大学，お茶の水女子大学，東北大学を経て，2009 年より慶應義塾大学理工学部情報工学科教授，現在に至る．2015 年同塾特選塾員．応用可視化，知的環境メディアに関する研究に従事．現在，日本学術会議連携会員，日本工学会・情報科学国際交流財団理事，CG-ARTS・芸術科学会評議員．

11:05-12:00　パネル討論「工芸から科学へ　- CG 技術の新たな挑戦 -」

［討論概要］

講演者全員が参加する本パネルでは，会場の方々とともに，CG の新たな可能性について探っていく．

司　　会：藤代　一成（慶應義塾大学 大学院理工学研究科情報工学専修 主任教授）

略歴・写真は講演（6）「スパースモデリングと可視化」を参照．

パネリスト：土橋　宜典（北海道大学 大学院情報科学研究科 准教授）

略歴・写真は「工芸から科学へ　- CG 技術の新たな挑戦 -」司会紹介を参照．

鍛冶　静雄（山口大学 創成科学研究科 准教授）

略歴・写真は講演（2）「数学と CG」を参照．

羽生　雄毅（インテグリカルチャー株式会社 最高経営責任者）

略歴・写真は講演（3）「化学と CG」を参照．

瀬尾　拡史（株式会社サイアメント 代表取締役社長）

略歴・写真は講演（4）「医療と CG」を参照．

楽　詠灝（東京大学 大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻 助教）

略歴・写真は講演（5）「レオロジーと CG」を参照．

はじめよう♪ グラフィックレコーディング
3 月 15 日（木）13:20-15:20［第 2 イベント会場（57 号館 202)］

［セッション概要］

私たちは情報処理学会の Info-WorkPlace 委員会で，女性も活躍しやすい場所について考えるため，様々な視点を持った方々と話をする機会がたくさんありました．そこで相互の理解を深めるためにグラフィックレコーディング（グラレコ）を使い始めました．今回はこれまでに相互理解の場で使って分かってきたノウハウを全て皆さんに伝授したいと思います．参加するのに必要な道具はありません．手ぶらでお越しください．絵が苦手な方でもご心配なく，ご参加お待ちしております．（参加費無料）

ファシリテーター：木塚　あゆみ（大阪芸術大学 芸術学部 アートサイエンス学科 特任講師）

［略歴］

大阪芸術大学アートサイエンス学科特任講師．公立はこだて未来大学大学院博士（前期）課程修了後，岡山県立大学デザイン学部助手，個人事業主，公立はこだて未来大学特任助教を経て，現職に至る．情報処理学会 Info-WorkPlace 委員会委員長．修士(システム情報科学)．工学系学生のためのデザインワークショップを定期的に開催している．創造には多様な価値観が必要という観点から女性技術者支援も行なう．

13:20-13:30　グラレコって何？

13:30-13:50　カオやモノをグラレコしよう

13:50-14:30　ジョウキョウをグラレコしよう

14:30-15:00　ストーリーをグラレコしよう

15:00-15:20　フリカエリ・まとめ

論文必勝法
3 月 13 日（火）9:30-12:00［第 3 イベント会場（63 号館 02-02)］

［セッション概要］

論文誌ジャーナル／ JIP 編集委員会主催の本セッションでは，現在，論文誌への掲載を目指して論文を執筆中もしくは，今後，執筆する予定のある情報処理分野の若手研究者の方々へ有益な情報を提供いたします．具体的には，まず，経験豊富な講師をお迎えして研究成果を論文として執筆する過程についてお話をいただきます．また，パネル討論では，編集委員会から委員長ならびに，各グループの主査による，採録される多くの論文にみられる傾向や，査読コメントへの対応方法などのアドバイス，論文を出す前のチェック事項などについて討論します．本セッションは，論文著者の方のみならず，共著者の指導教員，査読をお引き受けくださる方にも必見です．

司会：柴山　悦哉（東京大学 情報基盤センター 教授）

［略歴］

1983 年京都大学院理学研究科修士課程修了．同年，東京工業大学理学部助手．その後，龍谷大学理工学部，東京工業大学理学部，同大学院情報理工学研究科を経て 2008 年より東京大学情報基盤センター教授．理学博士．プログラミング言語，ソフトウェアセキュリティなどの研究に従事．現在，情報処理学会理事及び論文誌ジャーナル編集委員長，科学技術振興機構研究主幹及び副研究総括，日本学術会議第三部会員など．

9:30-10:30　**基調講演「妄想から論文まで　ー大規模システム開発とトップカンファレンスでの論文発表を両立させるにはー」**

鳥澤　健太郎（国立研究開発法人 情報通信研究機構 データ駆動知能システム研究センター センター長）

［講演概要］

いわゆるトップカンファレンスに採択される論文をコンスタントに書くにはそれなりのコツがある．本講演では，英語に関する研究が圧倒的に多い自然言語処理分野でマイナーな日本語処理の研究というハンディキャップを背負いつつ，他の多くの同僚研究者とともにトップカンファレンス論文を書いてきた中での失敗談，成功譚，さらには講演者が同僚たちに伝えているコツについて，身も蓋もない話も含めて述べたい．また，講演者らの立場としては，トップカンファレンスが最終目標ではなく，時として単なる妄想めいた未来像からスタートして，最終的に人の役に立つシステムを完成させることがさらに大きな目標としてあるわけだが，それら目標の両立は往々にして単なる論文執筆よりも難しい挑戦しがいのある課題となる．そうした挑戦についても述べたい．

［略歴］

1995 年東京大学大学院理学系研究科博士課程中退．博士(理学)．同大学院助手，北陸先端科学技術大学院大学准教授を経て，現在，(国研)情報通信研究機構・データ駆動知能システム研究センター・センター長．日本学術振興会賞，ドコモモバイルサイエンス賞，Twitter Data Grants 等受賞．専門は自然言語処理で，対災害 SNS 情報分析システム DISAANA，D-SUMM，Web 情報分析システム WISDOM X 等の大規模自然言語処理システムを開発，一般公開している．現在は深層学習を用いた音声対話システム WEKDA を開発中．

10:40-12:00　パネル討論「条件付の壁を越えよう」

[討論概要]

情報処理学会論文誌ジャーナル編集委員会は，基盤グループ，ネットワークグループ，知能グループ，情報システムグループの 4 つのグループに分かれて，論文の編集を行っています．各グループに属する論文誌編集委員は日頃から多くの投稿論文を扱っており，投稿論文が採録されるまでのプロセスやあらたな論文投稿システムや論文誌の査読ポリシーなど，情報処理学会論文誌に投稿する際に役立つ情報を持っています．中には興味ある論文なのに「不採録」，もうあと一歩で「条件付きの壁」が越えられない「惜しい」論文も散見されます．そこで，本パネル討論では，論文誌編集委員の立場から見た論文の書き方や査読の仕方について，各グループの主査に熱く語って頂き，フロアと一緒になって論文必勝法に関する議論を深めたいと思います．

司　　会：島岡　政基（セコム株式会社 IS 研究所 主任研究員）

[略歴]

1998 年慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程修了．同年セコム（株）入社．2004 年より同 IS 研究所．2005 ～ 10 年まで国立情報学研究所特任准教授（後に客員准教授）を兼務．2014 年総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻博士課程修了．博士（情報学）．認証基盤とトラストの研究開発に従事．情報処理学会コンピュータセキュリティ研究会幹事（2015 年～），同会論文誌編集委員会ネットワークグループ委員（2015 年～），同副査（2016 年～）．

パネリスト：柴山　悦哉（東京大学 情報基盤センター 教授）

略歴・写真は「論文必勝法」司会紹介を参照．

パネリスト：渡辺　博芳（帝京大学 理工学部 教授）

[略歴]

1988 年宇都宮大学大学院工学研究科修士課程修了．栃木県庁を経て帝京大学理工学部助手，現在，同教授．帝京大学ラーニングテクノロジー開発室･室長を兼務．工学博士．教育学習支援情報システム，情報教育の研究に従事．情報処理学会学会誌編集委員（2016 年～），同学会論文誌教育とコンピュータ編集委員（2016 年～），同学会論文誌編集委員会情報システムグループ委員（2016 年～），同副査（2017 年～）．

パネリスト：松島　裕康（国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター）

[略歴]

2011 年～ 2012 年日本学術振興会特別研究員（DC2）．2013 年電気通信大学情報理工学研究科修了（工学博士）．現在，国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター特別研究員．人工知能，マルチエージェントシミュレーション，進化計算の研究に従事．情報処理学会論文誌編集委員会知能グループ委員（2015 年～），同副査（2016 年～）．

パネリスト：浅井　信吉（会津大学 コンピュータ理工学部）

[略歴]

会津大学コンピュータ理工学部上級准教授．1996 年筑波大学大学院博士課程を修了後，（株）ウェーブフロント勤務を経て，現職．論文誌編集委員会基盤グループ委員（2014 年～），副査（2015 年～），主査（2017 年）．数値解析その他に関する研究に従事．

～コンピュータパイオニアが語る～「私の詩と真実」
3 月 13 日（火）13:20-15:30［第 3 イベント会場（63 号館 02-02)］

[セッション概要]

情報処理学会歴史特別委員会ではオーラルヒストリのインタビューを進めているが，大先輩のお話は毎回大変示唆に富み印象的なので，これを広く会員の方々，特に若い世代の会員に直接お聞かせ出来ないものかと検討してきた．そして海外の事例なども参考にし，コンピュータパイオニアあるいは情報処理学会会長経験者，またはそれらに相当する経歴の大先輩をお招きして，若い頃の研究生活の思い出や今の若い世代に伝えたい経験談などをお話頂くシンポジウムを企画した．なお本シンポジウムは第 70 回大会から開催しており今回が第 11 回目となる．

司会：浦城　恒雄（東京工科大学 名誉教授）

[略歴]

1959 年東京大学理学部物理学科卒業．1991 年日立製作所研究開発推進本部長．1995 年同所技師長．1999 年東京工科大学教授．2007 年同大名誉教授．

13:30-14:30　講演（1)「Algol の影」

筧　捷彦（NPO 情報オリンピック日本委員会 理事長）

[講演概要]

Algol 60 の revised report が出た翌年に計算機もプログラミングも知らずに大学に入り，卒論で Fortran 処理系を作るのに“An Algol 60 compiler”と日本工業規格 Fortran 3000/5000/7000 の初校を渡された．Algol 68 に対抗すべく日本から提案した Algol N の改訂グループに入れてもらったのは大学院に進んでからのことであった．気がつけば，日本工業規格の Algol 3000/5000/7000 の言語・入出力の改訂作業に始まって，Pascal・Ada・C・C++ の日本工業規格策定に相続いて当たっていた．本会規格調査会の SC 22 委員長，経済産業省日本工業標準調査会標準部会情報技術専門委員，日本規格協会規格調整分科会主査も務めた中で，多くの情報技術の日本工業規格制定に立ち会うことになった．その極みに Ruby の日本工業規格制定，そして国際規格化にも参画できたのは幸いであった．

[略歴]

1970 年東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了，1970 年東京大学工学部助手，1974 年立教大学理学部講師・助教授，1986 年早稲田大学理工学部教授，2016 年早稲田大学名誉教授．プログラミング言語の定義・処理系・規格化および情報教育に従事．1995 経済産業大臣表彰，2001 本会標準化功績賞，2006 日本ソフトウェア科学会功績賞，2008 藍綬褒章．本会・日本ソフトウェア科学会名誉会員．数学教育学会・ACM 各会員．NPO 情報オリンピック日本委員会理事長，情報科学国際交流財団理事長．

14:30-15:30　講演（2）「IT 産業の変遷と人材育成」
鶴保　征城（学校法人・専門学校　HAL 東京 校長）

［講演概要］

この半世紀の間，半導体の驚異的な進歩を背景に，機器は大型コンピュータからパソコンや携帯機器へ，ネットワークは固定電話網からモバイルやインターネットに大きく様変わりした．これに伴い IT 産業は，ハードからソフトへ，さらにアプリケーションやインターネット関連に拡大している．ビジネス面では，Microsoft や Google，Amazon のような巨大企業を輩出した．残念ながら日本は，ビジネス，人材の両面でこのような大きな流れに乗っているとは言い難い．本講演では，まず IT 産業の変遷を概観し，インターネット関連ビジネスの急成長について考察する．ついでこのような変遷が社会や文化に与える影響や人材教育問等を議論する．最後に次の世代への期待を述べる．

［略歴］

元 NTT 研究所所長，NTT ソフトウェア社長．1966 年電々公社入社，電子交換機 DEX，オンラインリアルタイム処理用コンピュータ DIPS，ソフトウェア開発プラットフォーム等の開発に従事．2003 年から高知工科大学教授，（独）情報処理推進機構ソフトウェアエンジニアリング・センター所長，2009 年学校法人 HAL 東京校長．2001 年情報処理学会会長．情報処理学会フェロー，名誉会員，電子情報通信学会フェロー．

Society5.0 実現のための情報技術　～ H30 年度公募に向けて～
3 月 13 日（火）9:30-12:00［第 4 イベント会場（56 号館 101）］

［セッション概要］

「超スマート社会」「Society5.0」は第 5 期科学技術基本計画で掲げられ，国の技術戦略の重要キーワードとなっている．本セッションでは Society5.0 のイメージの明確化とその実現のための技術課題について，各界の第一人者が論じる．パネルセッションでは，JST 未来社会創造事業「超スマート社会の実現」領域での取り組みと H30 年度公募テーマの検討状況を紹介するとともに，Society5.0 実現に向けた研究の今後の進め方や方向性，成果の社会実装における課題などについて広く論じる．

司会：前田　章（科学技術振興機構 未来社会創造事業 運営統括）

［略歴］

1981 年（株）日立製作所 システム開発研究所 入社．2005 年 同社 システム開発研究所 所長．2013 年 同社 情報・通信システム社 技師長．2017 年 JST 未来社会創造事業 運営統括．　計測自動制御学会会長，情報処理学会副会長などを歴任．工学博士．

9:30-9:50　趣旨説明「Society5.0 実現のための情報技術　～ H30 年度公募に向けて～」

9:50-10:20　論点提示（1）「Society5.0 を紐どく」
原山　優子（総合科学技術・イノベーション会議 議員）

［講演概要］

CSTI で想定する Society5.0 実現イメージ，技術を含めた解決すべき課題，各省庁の取組状況など，国としての技術戦略の概要を紹介するとともに，特に IT 分野の研究に対する期待を述べる．

［略歴］

1996 年にジュネーブ大学教育学博士課程修了，教育学博士取得．1997 年には同大学経済学博士課程修了，経済学博士取得．1998 年からジュネーブ大学経済学部助教授，2001 年から経済産業研究所研究員を経て，2002 年より東北大学大学院工学研究科教授に就任．科学技術イノベーション政策，産学連携，大学改革などに関する教育・研究に従事．2006 年～ 2008 年に総合科学技術会議非常勤議員，2010 年～ 2012 年は経済協力開発機構（OECD）の科学技術産業局次長を務め，2013 年に総合科学技術・イノベーション会議常勤議員に就任．東北大学名誉教授．

10:20-10:35　論点提示（2）「サービスプラットフォームに対する企業からの期待」
谷　幹也（日本電気株式会社 セキュリティ研究所 所長）

［講演概要］

企業の立場からの Society5.0 の考え方，ビジネス的な発展可能性，アカデミアにおける研究開発への期待などを述べる．

［略歴］

1988 年京大数理工学科修士課程修了．同年 NEC 入社後，言語解析，自然言語インタフェース，電子図書館，著作権管理システムの研究開発に携わり，2005 年よりセキュリティの研究統括，サービスのモデリング・評価技術研究統括を経て，2014 年より NEC 全社の技術開発戦略策定に従事．2017 年 10 月より，現職であるセキュリティ研究所所長就任．情報セキュリティ大学院大学連携教授．京都大学非常勤講師．

10:35-10:50　論点提示（3）「海外動向から見た日本の産学連携への期待」
木村　康則（株式会社富士通研究所 フェロー）

［講演概要］

海外での関連動向を中心に，我が国の産官学連携における課題など，JST 事業として進めていく上での課題を中心に論点を提示する．

［略歴］

1981 年東工大・修士・了．同年（株）富士通研究所入社．1984 年～ 1988 年（財）新世代コンピュータ技術開発機構出向．2009 年米国駐在．2011 年～ 2015 年米国富士通研究所 President&CEO．2015 年帰国，富士通研究所フェロー．2017 年科学技術振興機構上席フェロー．現在に至る．第五世代コンピュータ，並列化コンパイラ，システム性能評価，スーパコンピュータ，ヘルスケア，スマートエネルギー，オンライン教育等の研究開発に従事．その間，スタンフォード大学客員研究員，東京大学客員教授，九州大学客員教授等を歴任．オーム技術賞，情報処理学会業績賞受賞．博士（工学）．

10:50-12:00　パネル討論「Society5.0 実現のための情報技術　～ H30 年度公募に向けて～」

[討論概要]

(1) Society5.0 の実現イメージと，そのために必要な技術課題とは何かを明確化する．特に情報技術の観点を中心とするが，制度などの社会実装上の課題，人材育成など広い視点から議論する．(2) 現在，JST 未来社会創造事業「超スマート社会の実現」領域で研究を推進している重点公募テーマ「多種・多様なコンポーネントを連携・協調させ，新たなサービスの創生を可能とするサービスプラットフォームの構築」(H30 年度も継続公募予定) を (1) の観点から位置づけたときに，その妥当性・可能性・発展性などを議論する．(3) 検討中の H30 年新規公募テーマ案について，企画イベント参加者を含めて広く意見を収集する．

司　　会：前田　章（科学技術振興機構 未来社会創造事業 運営統括）
略歴・写真は「Society5.0 実現のための情報技術　～ H30 年度公募に向けて～」司会紹介を参照．

パネリスト：原山　優子（総合科学技術・イノベーション会議 議員）
略歴・写真は論点提示 (1)「Society5.0 を紐どく」を参照．

谷　幹也（日本電気株式会社 セキュリティ研究所 所長）
略歴・写真は論点提示 (2)「サービスプラットフォームに対する企業からの期待」を参照．

木村　康則（株式会社富士通研究所 フェロー）
略歴・写真は論点提示 (3)「海外動向から見た日本の産学連携への期待」を参照．

パネリスト：西尾　信彦（立命館大学 情報理工学部 教授）

[略歴]

1986 年東京大学工学部計数工学科数理工学コース卒業．1988 年同大学大学院理学系研究科情報学専攻修士課程修了．1992 年同博士課程単位取得退学．2000 年慶應義塾大学より博士（政策・メディア）．1992 年より（有）アクセス研究開発室（当時，現株式会社 ACCESS），1993 年より慶應義塾大学環境情報学部および政策・メディア研究科に勤務．2003 年より立命館大学に勤務．現在，同大学情報理工学部教授．

パネリスト：田野　俊一（電気通信大学 大学院情報理工学研究科 研究科長）

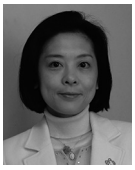
[略歴]

1983 年 東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻修了．1994 年 博士（工学）（東京工業大学）取得．1983 ～ 1996 年（株）日立製作所システム開発研究所．1990 ～ 1991 年 カーネギーメロン大学客員研究員．1991 ～ 1994 年 国際ファジィ工学研究所．1996 ～ 2002 年 電気通信大学大学院情報システム学研究科助教授．2000 ～ 2001 年 マサチュセッツ工科大学客員科学者．2002 年～ 電気通信大学 教授．

アジャイル開発の事例に則した契約の一例提案
3 月 13 日（火）13:20-15:50［第 4 イベント会場（56 号館 101)］

[セッション概要]

2015 年 9 月に発足した情報処理に関する法的問題（LIP）研究グループでは，アジャイル型のソフトウェア開発委託時の契約モデルを作ることを目標に活動を重ねてきた．これまでのソフトウェア開発委託契約のモデルはウォーターフォール開発を想定したものであり，アジャイル型の多くの開発委託契約はそれらを踏襲していること，調査の結果，アジャイル開発の現状は，比較的小規模でお互いの信頼関係の上で成り立っていることもわかってきた．これらの現状を踏まえ，本イベントでは，企業で実務に携わっている人，学術的な立場からのアジャイル開発に関する講演に引き続き，弁護士からは，アジャイル開発を実施していく上で最低限，IT システム開発ベンダと IT システムの発注者が守らなければならない事項を盛り込んだ契約例を提示する．パネルディスカッションでは講演をうけて会場からの質問を盛り込んだ討論を行う．



司会：高岡　詠子（上智大学 理工学部 教授）

[略歴]

慶應義塾大学大学院理工学研究科計算機科学専攻博士課程修了，博士（工学）．専門分野はデータベース，多言語情報システム，スマフォ／タブレットアプリ，医療情報，情報教育．現在，本会教育担当理事，本会から山下記念研究賞，学会活動貢献賞受賞，主な著書：チューリングの計算理論入門，シャノンの情報理論入門（講談社ブルーバックス），「計算事始め ('13)」および「情報科学の基礎 ('07)」．

13:20-13:40　講演 (1)「アジャイルソフトウェア開発の本質と日本での課題」
居駒　幹夫（はこだて未来大学 客員教授）

[講演概要]

ダイナミックに変化を続けるビジネス環境に俊敏に対応するため，世界的にアジャイルソフトウェア開発方法が実質的に標準開発方法になりつつあります．一方，国内ではユーザ企業から IT ベンダに対してソフトウェア開発を数ヶ月という長い期間で開発委託するケースが多く，アジャイル開発が普及しないだけでなく，その開発方法に対して「計画的で無い」「設計品質が保てない」といった誤解が蔓延している状況です．本講演では，アジャイル開発の本来の意味，講演者の経験による国内，国外（欧米印）の実態，国内ビジネススキームでアジャイル開発契約を考える際のポイントについて概説します．

[略歴]

1980 年北海道大学工学部電子工学科卒．同年（株）日立製作所入社．大規模ソフトウェアの品質保証，ソフトウェア生産技術，アジャイル開発を含む各種のソフトウェア開発プロセスモデル策定，普及，教育に従事．2017 年はこだて未来大学客員教授．博士（情報学）．

13:40-14:00　講演（2）「アジャイル開発の落とし穴」
木下　史彦（永和システムマネジメント アジャイル事業部 事業部長）

［講演概要］

「アジャイル開発を導入すればすべてうまくいく‼」
本当でしょうか？
ここ数年でアジャイル開発への注目度は急激に高くなり，多くの企業で導入・実践されるようになりました．しかし，さまざまな制約や誤解によって，すべてがうまくいっているとは言えない状況です．
アジャイル開発に取り組む企業が陥りがちな落とし穴を紹介し，どうすればうまくいくのか，そして，契約にはどういったことを盛り込んでおくべきなのか，考えていきたいと思います．

［略歴］

1998 年同志社大学工学部卒．2005 年頃からエクストリーム･プログラミングを開発現場で実践．2010 年には「価値創造契約」を提唱し，ソフトウェア受託開発の新しい形を示した．現在は「アジャイル開発を通じてハッピーな開発現場を増やす」ことをモットーにコンサルティング･コーチング活動に従事．監訳書に『アジャイルプラクティス』（オーム社），『アート･オブ･アジャイル デベロップメント』（オライリー）がある．

14:00-14:40　講演（3）「アジャイル開発の事例に則した契約の一例提案」
平岡　敦（たつき総合法律事務所）

［講演概要］

ウォーターフォール開発よりも，ユーザとベンダ間の関係性がより濃密となるアジャイル開発において，どのようにユーザ及びベンダの義務を規定すれば，アジャイル開発を成功に導くことができるのかについて，契約の一例を示しつつ考察する．

［略歴］

1990 年，早稲田大学第一文学部人文専修卒業．1990 年，（株）シーエーシー入社．2000 年，司法試験合格．2002 年，ひかり総合法律事務所入所．2007 年，たつき総合法律事務所開設．システムエンジニアの経験を活かし，IT 関連紛争の解決，ライセンス契約等の各種契約書の作成・チェック等の予防法務を多く手がけている．IT 企業の顧問多数受任．

14:50-15:50　パネル討論「「ソフトウェア開発委託契約で今何が問題か？」　～アジャイル型開発の事例に則した契約モデルの提言に向けて～」

［討論概要］

講演で，企業で開発に携わっている実務家から「アジャイルソフトウェア開発の本質と日本での課題」の説明を受け，さらに，アジャイルソフトウェア開発の実例に続き，弁護士からのアジャイル開発を実施していく上で最低限，IT システム開発ベンダと IT システムの発注者が守らなければならない事項を盛り込んだ契約例の提案をする．これを受けて，会場からのコメントを交え，望ましい契約の内容について議論する．

司　　会：高岡　詠子（上智大学 理工学部 教授）

略歴・写真は「アジャイル開発の事例に則した契約の一例提案」司会紹介を参照．

パネリスト：市毛　由美子（のぞみ総合法律事務所 パートナー）

［略歴］

中央大学法学部法律学科卒業．1989 年 4 月　弁護士登録（(第 41 期)）．1989 年 4 月　日本アイ・ビー・エム（株）法務部．1994 年 4 月　都内法律事務所にて弁護士活動．2007 年 12 月　のぞみ総合法律事務所　パートナー弁護士．主な取扱分野．コンピュータ関連（ソフトウェアを含む）の取引法，知的財産権，独占禁止法，コンプライアンス統制環境整備，株主総会，資本政策その他会社法関連法務，研究開発法務，ベンチャー企業における法務戦略支援，その他各種契約（IT 関連，ライセンス契約，代理店契約，研究開発契約等）．

パネリスト：平岡　敦（たつき総合法律事務所）

略歴・写真は講演（3）「アジャイル開発の事例に則した契約の一例提案」を参照．

木下　史彦（永和システムマネジメント アジャイル事業部 事業部長）

略歴・写真は講演（2）「アジャイル開発の落とし穴」を参照．

居駒　幹夫（はこだて未来大学 客員教授）

略歴・写真は講演（1）「アジャイルソフトウェア開発の本質と日本での課題」を参照．

パネリスト：中野　安美（ニッセイ情報テクノロジー株式会社 上席スペシャリスト）

［略歴］

ニッセイ情報テクノロジー（株）上席スペシャリスト．生命保険分野を中心に多数のシステム開発にプロジェクトマネージャとして従事．2015 年よりアジャイル開発を始める．現在は社内展開・推進に向け，アジャイル関連の教育やプロジェクト支援を実施．AgileJapan2018 実行委員．

パネリスト：稲垣　陽一（株式会社きざしカンパニー 代表取締役専務）

［略歴］

1990 年東京大学文学部言語学科卒業，（株）シーエーシー入社，技術研究室に配属．スタンフォード大学コンピュータサイエンス学科客員研究員（1996 ～ 98），きざしサーチエンジンの研究開発を経て，2007 年 1 月より（株）きざしカンパニー代表取締役専務 CTO をつとめる．

文部科学省 大学入学者選抜改革推進委託事業
「情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発」（2）
3 月 14 日（水）9:30-12:00［第 4 イベント会場（56 号館 101）］

［セッション概要］

文部科学省の大学入学者選抜改革推進委託事業に，大阪大学が代表機関となり，東京大学，情報処理学会が連携して取り組み，情報分野での現行の入学選抜における課題や問題点を調査・分析の上，その改善に向けた実践的で具体的な手法の研究・開発を行って２年目となる．特に「思考力・判断力・表現力」の評価に関する考え方，学習指導要領改訂の方向性などに留意し，学力を適切に評価するための革新的な手法の開発に取り組んでいる．事業概要の概説，次期学習指導要領についての基調講演の後，現状で得られている，思考力・判断力・表現力を評価する枠組み，「情報科」試行用 CBT プロトタイプシステムおよびそれを用いた模擬試験の実施状況と本格的 CBT 試行システムの設計について報告し，情報入試実施に向けての課題について議論したい．

司会：角田　博保（情報処理学会 情報入試委員会 委員長（元電気通信大学））

［略歴］

1974 年東京工業大学理学部情報科学科卒業．1976 年同大学院修士課程修了．1981 年同大学院博士課程単位取得退学．1982 年電気通信大学計算機科学科助手．1990 年同大学情報工学科講師，1992 年助教授，2007 年准教授，2016 年定年退職．理学博士．計算機システムのヒューマンインタフェース，教育支援システム，文字列処理等に興味を持つ．情報処理学会コンピュータ科学教育委員会委員長，情報入試委員会委員長．ACM 会員．

9:30-9:45　講演「2017 年度事業概説」

萩原　兼一（大阪大学 大学院情報科学研究科 特任教授）

［講演概要］

文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業を大阪大学が受託機関，東京大学および情報処理学会が連携機関として 2016 年 10 月に受託し，高校科目「情報科」に関する大学入試評価手法の研究開発を実施しています．2022 年度の高校入学生から次期学習指導要領が学年進行で実施され，「情報Ⅰ」が共通必履修科目，「情報Ⅱ」が選択科目となる予定です．2025 年度の大学入学者選抜から，この学習指導要領のもと，知識・技能のみならず，より思考力・判断力・表現力も評価する入試問題を出題することが求められています．本事業では，その要求を満たす入試問題はどのようなものであるかを明確にし，試験問題を体系的に作問できる仕組みを作り，さらにその試験を実施する CBT（Computer Based Testing）システムを開発することを研究開発の目標としています．本講演では 2017 年度に実施した事業の概略を説明します．

［略歴］

1974 年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業．1979 年同大学院基礎工学研究科博士後期課程修了．工学博士．1992-1993 年文部省在外研究員（米国メリーランド大）．1993 年奈良先端科学技術大学院大学教授．1994-2017 年大阪大学教授．並列処理の研究に従事．2005-06 年情報処理学会理事，同関西支部長．1997 年より同アクレディテーション委員．J97 策定 WG 委員．2013-14 年理工系情報学科・専攻協議会会長．大学改革支援・学位授与機構情報工学部会委員．

9:45-10:05　基調講演「高等学校情報科の次期学習指導要領」

鹿野　利春（国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官）

［講演概要］

高等学校の情報科は，現行学習指導要領では「情報の科学」と「社会と情報」から選択して履修することになっているが，次期学習指導要領では必履修科目は「情報Ⅰ」のみとなり，発展的な選択科目として「情報Ⅱ」が設置される．これは，教育課程企画特別部会論点整理の「情報科目の今後の在り方について」で「高度な情報技術の進展に伴い，文理の別や卒業後の進路を問わず，情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を身に付けることが重要」とされたことによる．本講演では，このような方向性に至った経緯，「情報Ⅰ」及び「情報Ⅱ」で身に付ける資質・能力について解説する．

［略歴］

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官，文部科学省において高等学校共通教科情報科及び専門教科情報科の教科調査官を併任．修士（教育学）（鳴門教育大学 1996 年）．金沢大学理学部化学科卒（1986 年）．石川県の公立学校教諭，石川県教育委員会を経て 2015 年より現職．現行学習指導要領「情報」の調査研究協力者，教科書，問題集，副読本，情報科教育法等著者（共著）．文部科学大臣優秀教員表彰（2008 年）

10:05-10:20　報告（1）「思考力・判断力・表現力を評価する枠組みとルーブリック」

萩谷　昌己（東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授）

［講演概要］

本事業では，高等学校の情報科を題材として，思考力・判断力・表現力を評価する方法とそれに基づく CBT を開発することを目指している．具体的に，電通大の久野氏を中心として，思考力・判断力・表現力の一つの捉え方を定式化し，それに基づいて問題を作成する手法を提案している．また，専修大の松永氏を中心として，情報科の各分野のルーブリックを開発し，久野氏の手法も活用しながら，各段階への達成を確認するための問題の作成方法を体系化しようとしている．本講演では以上の成果について概観した後，講演者の最近の研究（一つの情報源からルーブリックの各段階の問題を自動生成する手法）について簡単に触れる．

［略歴］

1982 年 3 月東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了．1982 年 4 月京都大学数理解析研究所助手．1988 年 3 月京都大学理学博士．1988 年 10 月京都大学数理解析研究所助教授．1992 年 4 月東京大学理学部助教授．1993 年 4 月東京大学大学院理学系研究科助教授．1995 年 11 月東京大学大学院理学系研究科教授．2001 年 4 月～東京大学大学院情報理工学系研究科教授．2010 年 4 月～ 2013 年 3 月東京大学大学院情報理工学系研究科研究科長．2011 年 10 月～ 2017 年 9 月日本学術会議会員．

10:20-10:35　報告（2）「模擬試験の実施と結果分析／本格的 CBT システム」

角谷　良彦（東京大学 情報理工学系研究科 特任講師）

［講演概要］

本事業では,「思考力･判断力･表現力」を適切に評価するための試験問題を作成する方法について検討している．検討に従って作成した試験問題の検証と，試験を実施するための CBT システムの評価を兼ねて，今年度は模擬試験を実施した．この講演では，模擬試験やアンケート調査で得られたデータを統計処理し分析した結果を紹介する．また，来年度に実施予定の模擬試験に備えて準備を進めている CBT システムの新機能についても紹介する．来年度の模擬試験では，CBT の新たな可能性を探るため，CBT の特性を活かした新しいタイプの試験問題を出題する予定である．新試験問題の類型をいくつか紹介し，それらに必要な CBT システムの機能と実装について説明する．

［略歴］

2003 年，京都大学大学院理学研究科（数学・数理解析専攻）の博士課程を修了，学位を取得．日本学術振興会特別研究員 PD を経て，2004 年から東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻に勤務．プログラミング言語や計算モデルに関する研究を行っている．

10:40-12:00　パネル討論「情報入試のすゝめ」

［討論概要］

文部科学省の大学入学者選抜改革推進委託事業そのものが施行されたのは，中央教育審議会での高大接続改革に対する審議結果に基づいている．その高大接続改革の提唱者であり牽引者である安西祐一郎日本学術振興会理事長を招いて，大学入学者選抜改革の目指すところをお話しいただき，その中での情報教育成果を問うことの意義についてお話しいただく．パネリストには，長岡亮介先生と佐々木修先生に加わっていただく．長岡先生には大学側の立場から数学入試との関連を中心にお話しいただき，佐々木先生には高等学校側の立場から大学入試改革と情報入試への期待することをお話しいただく．高大接続改革・入試改革には，現実の入試制度の中に落とし込んでいくのに様々な難題が待ち受けている．その難題をどのように克服して理想とする姿を実現していくかについてフロアも交えて議論を深め，高大接続改革の目指す姿・形を確認して，今後の協調の強化・加速の起爆を図る．

司　　会：筧　捷彦（早稲田大学 名誉教授）

［略歴］

1968 年東京大学工学部計数工学科卒業．1970 年同大学院修士課程修了．1970 年東京大学工学部助手．1974 年立教大学理学部情報工学科講師，1978 年助教授，1986 年早稲田大学理工学部数学科教授，1991 年情報学科，2016 年定年退職．名誉教授．プログラミング言語の定義・処理系，ソフトウェア科学に興味を持つ．本会情報処理教育委員会 J17 WG 主査．本会フェロー・名誉会員，日本ソフトウェア科学会会員，ACM 会員．

パネリスト：安西　祐一郎（慶應義塾大学名誉教授／独立行政法人日本学術振興会理事長）

［略歴］

1974 年慶應義塾大学大学院博士課程修了．カーネギーメロン大学客員助教授，北海道大学文学部助教授，慶應義塾大学理工学部教授，93 年～ 2001 年同理工学部長，01 ～ 09 年慶應義塾長．現在，（独）日本学術振興会理事長，人工知能技術戦略会議議長，日本ユネスコ国内委員会会長等．文部科学省顧問，中央教育審議会会長，環太平洋大学協会会長，情報処理学会会長，日本認知科学会会長，日本学術会議会員等を歴任．文部科学省高大接続改革チームリーダー等として入試改革を含む高大接続改革を主導している．専攻は情報科学，認知科学．

パネリスト：長岡　亮介（前明治大学 理工学部特任教授／現在，NPO 法人 TECUM 代表）

［略歴］

1947 年生まれ（長野県）．1965 年東京大学理科 I 類入学．1971 年東京大学大学院理学系研究科科学史科学基礎論専門課程修士課程入学．1971 年東京大学大学院理学系研究科科学史科学基礎論専門課程博士課程進学．1973 年同単位取得退学．1975 年津田塾大学学芸学部数学科非常勤講師．1976 年津田塾大学学芸学部数学科特別専任勤講師．1980 年津田塾大学学芸学部数学科特別専任助教授．1990 年大東文化大学法学部教授，情報センター所長．2000 年 放送大学教授（数学）．2010 年 同退職．2012 年 明治大学理工学部数学科客員教授．2014 年明治大学理工学部数学科特任教授（2017/3 末まで）．現在 NPO 法人 TECUM 代表．

パネリスト：佐々木　修（全国高等学校情報教育研究会 副会長／神奈川県立二宮高等学校 校長）

［略歴］

1982 年中央大学理工学部数学科卒業．1983 年神奈川県立高等学校数学科教諭．2001 年高等学校情報免許取得．以降情報担当教員として勤務．2014 年神奈川県立高等学校校長．2017 年神奈川県教科研究会情報部会部会長．

会誌「情報処理」公開編集委員会
3 月 14 日（水）15:30-18:00［第 4 イベント会場（56 号館 101)］

［セッション概要］

会誌編集委員会の主催で，公開編集委員会形式のパネル討論を企画する．通常，化学会館で行われている会誌編集委員会を，全国大会の会場で行うことにより，ふだんあまりふれる機会のない，会誌「情報処理」ができあがるまでの舞台裏を聴衆に知ってもらうことを目的とする．編集委員からは，緊急企画が記事になるまでの苦労話，巻頭コラムの依頼はどのように行われるのかなどを語ってもらう．また，いちおし記事の紹介や，今後企画されているお薦めの特集の紹介なども行う．会場とのやりとりの時間を設け，読者から会誌への要望を直接伝えてもらう場にすることも意図する．

司会：坊農　真弓（国立情報学研究所／総合研究大学院大学）

［略歴］

2005 年 3 月神戸大学大学院総合人間科学研究科にて博士号（学術）取得．その後，ATR メディア情報科学研究所研究員，京都大学大学院情報学研究科研究員，日本学術振興会特別研究員（PD），UCLA やテキサス大学オースティン校にて客員研究員，国立情報学研究所並びに総合研究大学院大学助教を経て，2014 年から同准教授．文部科学省学術調査官（兼任）．人と人とのインタラクションや手話相互行為分析の研究に従事．プライベートではもっぱら育児に奮闘中．2017 年より情報処理学会理事（会誌・出版担当）．

15:30-16:00　講演（1)「会誌編集の楽しみ」

塚本　昌彦（神戸大学 大学院 教授）

［講演概要］

編集担当理事，編集委員，そして編集長と 8 年以上にわたって会誌編集に携わってきた．もともと雑誌とか本は好きだったので，楽しく企画や閲読，執筆などをやってきたが，苦労も多かった．会誌独自の執筆ルールがいくつかあって，それは以前から引き継いできたものだったが，それを可能な範囲で守ってきた．また，企画や記事を面白く有益なものにするにはさまざまな苦労があった．漫画や付録など，学会誌としての枠を超えた試みも推進した．いくつかのエピソードを交えながら，これまでやってきたことの総括と会誌のあるべき姿について述べたい．

［略歴］

2009 年～ 2010 年会誌担当理事，2011 年～ 12 年，2013 年編集委員，2014 年より編集長．2018 年 3 月，2 年 2 期の任期を終了する予定．京大修士修了後，シャープ，大阪大学講師，助教授を経て 2004 年より現職．工学博士．

16:00-16:25　講演（2)「学会誌の野望」

稲見　昌彦（東京大学 先端科学技術研究センター）

［講演概要］

各種同人誌の興盛を見るに「情報処理に関する日本最大の同人誌」ともいえる会誌にはまだまだ大きな可能性がある．研究者同士だけでなく，研究と社会，生活と研究，野生の研究者と職業研究者を繋ぐことで会員以外も楽しめるような学会誌を目指すための作戦を議論する．

［略歴］

東京大学先端科学技術研究センター教授．博士（工学）．電気通信大学教授，慶應義塾大学教授等を経て現職．JST ERATO 稲見自在化身体プロジェクト研究総括，超人スポーツ協会発起人・共同代表．著書に『超人スポーツ誕生』（NHK 出版新書）がある．

16:30-18:00　パネル討論「会誌「情報処理」ができるまで」

［討論概要］

会誌「情報処理」の企画を行う．緊急記事，特集の立案などをその場で行う．会誌に対する意見，要望などを会場で集め，それに対する議論を行う．

司　　会：鳥澤　健太郎（国立研究開発法人 情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所 データ駆動知能システム研究センター センター長）

［略歴］

1995 年東京大学大学院博士課程中退．現在，情報通信研究機構・データ駆動知能システム研究センター・センター長．本会理事．博士（理学）．専門は自然言語処理．日本学術振興会賞など受賞．最近の成果は，Web 情報分析システム WISDOM X（http://wisdom-nict.jp/ にて公開中），対災害 SNS 情報分析システム DISAANA（http://disaana.jp/）．本文中の「AI が発達すると日本経済が窮地に陥る」という将来シナリオは WISDOM X の出力（現在はデータを更新したため出力されない）．

パネリスト：塚本　昌彦（神戸大学 大学院 教授）

略歴・写真は講演（1)「会誌編集の楽しみ」を参照．

稲見　昌彦（東京大学 先端科学技術研究センター）

略歴・写真は講演（2)「学会誌の野望」を参照．

坊農　真弓（国立情報学研究所／総合研究大学院大学）

略歴・写真は「会誌「情報処理」公開編集委員会」司会紹介を参照．

パネリスト：土井　千章（株式会社 NTT ドコモ 先進技術研究所社会センシング研究グループ 研究主任）

［略歴］

（株）NTT ドコモ先進技術研究所勤務．2009 年慶應義塾大学理工学研究科博士前期課程修了．同年（株）NTT ドコモ入社．モバイルコンピューティング，Android アプリケーションのセキュリティ，大規模データを用いた行動分析の研究に従事．2014 年から情報処理学会会誌編集委員会委員．2017 年からコンシューマ･デバイス＆システム研究会運営委員．2016 年 4 月より大学院博士後期課程に入学．博士号取得を目指している．

パネリスト：上松　恵理子（武蔵野学院大学 国際コミュニケーション学部 准教授）

［略歴］

武蔵野学院大学国際コミュニケ―ション学部准教授．博士（教育学）．早稲田大学招聘研究員・講師．東洋大学非常勤講師．国際大学GLOCOM 客員研究員．総務省プログラミング教育推進事業会議委員．「教育における情報通信（ICT）の利活用促進をめざす議員連盟」有識者アドバイザー．Asuka Acadmy 理事．共著『小学校にプログラミングがやってきた！超入門編』がある．2016 年から情報処理学会情報処理教育委員会委員．海外の ICT 教育を調査やデジタルリテラシーの研究をしている．

パネリスト：金子　格（東京工芸大学 工学部コンピュータ応用学科 准教授）

［略歴］

1980 早稲田大学卒．2004 博士（情報科学）．（株）アスキーにてパソコンシステムソフトウエア，システム LSI，ASIC の開発，グラフィックスコミュニケーションラボラトリーズで MPEG 標準の策定等に従事. 2004 年より東京工芸大学准教授. 会誌編集委員としては，IT・ソフトウエア特許の新潮流，連載 - 鉄道運行システムにおける情報処理技術，オリンピックのための情報処理，フィンテック～金融と IT の融合～，ゲーム産業の最前線，他単発記事多数を担当した．

パネリスト：鶴岡　慶雅（東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授）

［略歴］

2002 年東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了．博士（工学）．科学技術振興事業団研究員，マンチェスター大学 Research Associate，北陸先端科学技術大学院大学准教授などを経て，現職．自然言語処理およびゲーム AI の研究に従事．

パネリスト：辰己　丈夫（放送大学 准教授）

［略歴］

1997 年早稲田大学理工学研究科数学専攻博士後期課程単位取得退学．1993 年同大学情報科学研究教育センター助手．1999 年神戸大学講師．2003 年東京農工大学助教授．現在，放送大学准教授．また，東京大学，産業技術大学院大学で非常勤講師．情報教育，情報倫理，数学教育の情報化に興味を持つ．著書に「情報化社会と情報倫理・第 2 版」（共立出版），「情報科教育法・改訂 2 版」（オーム社），「情報の科学」（高校「情報科」検定教科書）（日本文教出版）などがある．

パネリスト：坂東　宏和（獨協医科大学 基本医学情報教育部門 講師）

［略歴］

2002 年東京農工大学大学院工学研究科電子情報工学専攻博士後期課程修了．博士（工学）．福岡工業大学，桜美林大学，アイラボ（株），東京学芸大学等を経て，2014 年より獨協医科大学基本医学情報教育部門講師．教育の情報化に関する研究に従事．論文誌教育とコンピュータ（TCE）編集委員会編集幹事．会誌編集委員会専門委員会（EWG）主査．シニア会員．

パネリスト：久野　靖（電気通信大学 情報理工学研究科 教授）

［略歴］

1984 年東京工業大学理工学研究科情報科学専攻博士後期課程単位取得退学．東京工業大学助手，筑波大学講師・助教授・教授を経て現在電気通信大学教授，筑波大学名誉教授．理学博士．プログラミング言語，プログラミング教育，情報教育に関心を持つ．

パネリスト：福地　健太郎（明治大学 総合数理学部 准教授）

［略歴］

明治大学総合数理学部准教授．2004 年東京工業大学大学院情報理工学研究科博士後期課程単位取得退学．博士（理学）．電気通信大学大学院情報システム学研究科助教，独立行政法人科学技術振興機構 ERATO 五十嵐プロジェクト研究員，明治大学理工学部特任准教授を経て，2013 年より現職．ユーザーインタフェースや知覚心理学，エンタテインメント応用に興味を持つ．ACM･情報処理学会･ヒューマンインタフェース学会・VR 学会各会員．2002 年 FIT 船井ベストペーパー賞，2010 年日本 VR 学会 論文賞受賞．

ソウル協定と情報専門分野の認定
3 月 15 日（木）9:30-12:00［第 4 イベント会場（56 号館 101）］

［セッション概要］

情報専門分野の大学学部教育課程について，国際的に相互認証を行うためにソウル協定が 2008 年に始まり，JABEE も設立メンバとして加盟している．2016 ～ 2017 年度に JABEE の継続加盟の審査があり，継続加盟が承認された．このことも含め，現在のソウル協定の状況，情報分野の JABEE 認定の状況，他の国の基準や審査方法の違いや受信状況について報告をする．また，現在日本では JABEE の受審状況が他国に比べて著しく低い．このことを含め，受審校からみた教育プログラムの認定のあり方と受審をして得られた点や苦労などについて講演を行う．その上で，高度な情報技術者を教育するための大学教育について，企業関係者からの講演を行う．以上を含め，教育課程の認定について，受審プログラムおよび企業関係者を含めたパネル討論を行う．

司会：掛下　哲郎（佐賀大学 大学院 工学系研究科 知能情報システム学専攻 准教授）

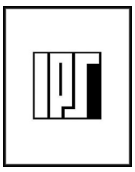
［略歴］

1989 年九州大学工学研究科博士後期課程（情報工学専攻）修了．工学博士．現在，佐賀大学工学系研究科知能情報システム学専攻准教授．ソフトウェア工学，データベース，情報専門教育に関する研究に従事. 2012 年本会優秀教育賞受賞. 2016 年度より情報処理学会アクレディテーション委員会副委員長．2017 年度文部科学省委託事業「先導的大学改革推進委託事業」にて海外動向調査 WG 主査を務める．

9:30-9:55　講演（1）「ソウル協定の状況」
玉井　哲雄（法政大学 理工学部創生科学科 教授）

[講演概要]

ソウル協定は発足から 10 年が経過した．当初 6 つの国・地域の加盟でスタートしたが，その後 2 つの国・地域の正式加盟が認められ，さらに 4 つの国・地域の暫定加盟が認められている．ソウル協定はエンジニアリング分野のアクレディテーションに関する国際相互協定であるワシントン協定をモデルとしているが，性格の違いから規程や運営方法に違いもある．本講演では，ソウル協定のこれまで経緯をたどりながら，現在の状況と今後の展望，日本の加盟団体である JABEE の活動状況などを概観する．



[略歴]

法政大学理工学部教授，東京大学名誉教授，博士（工学），専門分野はソフトウェア工学（モデル化手法，要求工学）．

9:55-10:20　講演（2）「情報分野の JABEE について」
佐渡　一広（群馬大学 社会情報学部 教授）

[講演概要]

現在の情報分野における JABEE の状況と，新しい認定基準を特に情報専門系固有の事項について講演する．始めに，受審状況を中心に講演する．現状では日本は他国に比べて著しく受審状況が悪い状況である．それを踏まえて，海外におけるソウル協定の受審状況との違いと日本における問題点について触れる．次に，現在 JABEE が検討している認定基準の改定，およびそれにともない情報専門分野における CS，IS，IT，情報一般の 4 分野の個別基準の改定案を述べる．個別基準では，米国などの状況や情報処理学会の J17 プロジェクトの状況を踏まえた改定を予定している．また，各分野の学習内容の違いや教育レベルとしての目安の検討をおこなっており，この状況についても講演する．

[略歴]

1983 年東京工業大学理工学研究科情報科学専攻博士後期課程単位取得退学，理学博士．1983 年より群馬大学工学部助手，1987 年同助教授，1993 年群馬大学社会情報学部助教授，2010 年同教授．2008 年情報処理教育委員会監事，2016 年より同副委員長，2014 年よりアクレディテーション委員会委員長．

10:20-10:45　講演（3）「JABEE 認定プログラムからみた JABEE」
河野　浩之（南山大学 理工学部機械電子制御工学科 教授）

[講演概要]

南山大学理工学部は，2000 年度に数理情報学部として設置され，2006 年度に情報技術専修コースを開始し，J-CAC 試行審査受審の支援を得ながら，2009 年度に JABEE 認定に至りました．現在，CS（コンピュータ科学）分野の情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）として，2015 年度に認定延長されています．そこで，JABEE 認定プログラムの立場から，JABEE 認定に至るまでの学部・学科内の変化，2009 年度以後の外部変化への対応（例えば，3 つのポリシー策定など），そして，2015 年度に 3 年間の認定延長が認められるまでの対応，現状に関して報告します．なお，2010 年に「南山大学情報理工学部における JABEE への取り組みと課題」（電子情報通信学会，技術者教育と優良実践研究会）を報告しましたが，その後，学部改組ならびに学科改組に伴うカリキュラムの変更などを経験することになりましたので，その対応などを反映させた内容を報告します．

[略歴]

1985 年京都大学工学部数理工学科卒業．1990 年同大学大学院博士課程研究指導認定退学．同年同大学工学部助手．1996 年京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻助教授．2004 年南山大学数理情報学部情報通信学科教授．現在，南山大学理工学部機械電子制御工学科教授．博士（工学）．SFU，UCI，ウィーン大学において客員研究員．阪神高速道路電気通信委員会委員等．国立国会図書館電子図書館課非常勤調査員（2002 年 -2012 年）．データマイニング，情報システム等の研究に従事．

10:45-11:10　講演（4）「技術者のキャリアパス中における JABEE の位置づけについて」
中谷　多哉子（放送大学 教養学部情報コース 教授）

[講演概要]

工学系の大学，高等専門学校を卒業した技術者が，プロフェッショナルエンジニア・技術士となり，さらに国際的に通用する技術者となるまでのキャリアパスが「技術者キャリアスキーム」として提案されている．高等教育を受けた卒業生がどのような経験を積んで国際的に通用する技術者に成長していくのか，また，どのような課題に取り組むことが期待されているのか．本講演では，文科省科学技術・学術審議会技術士分科会で検討された技術士に求められる資質能力を紹介した後，技術者が解くべき課題の複雑さという視点と，国際的に通用する技術者という二つの視点から，JABEE による高等教育の審査を位置づける．

[略歴]

東京理科大学応用物理学科卒業後，日本電子計算入社，富士ゼロックス情報システムを経て 1995 年にエス・ラグーン設立．オブジェクト指向コンサルテーションおよび技術者教育に従事．1998 年 3 月東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了．博士（学術）．2005 年に筑波大学大学院ビジネス科学研究科准（助）教授．2015 年より現職．文科省科学技術・学術審議会技術士分科会・制度検討特別委員会委員として，技術士制度の改革に係わる．

11:15-12:00　パネル討論「JABEE の問題点について」

[討論概要]

JABEE による教育認定がスタートしてから約 15 年が経過した．その間，国立大学の法人化，機関別認証評価の導入といった国内での教育制度改革の他にも，情報分野の参照基準，情報系カリキュラム標準として CS2013 や J17 等が国内外で策定されてきた．JABEE 情報分野においても Seoul 協定が立ち上がり，技術士資格（情報工学）と情報処理学会が立ち上げた認定情報技術者資格（CITP）の連携も進みつつある．文部科学省との協議を経て，JABEE 認定基準も 2019 年度審査より改定される予定である．こうした状況を踏まえ，JABEE の審査，受審，JABEE 認定プログラムを受け入れる産業界等の立場から現状の JABEE 認定制度が抱える課題を概観し，情報専門学科における教育をより良いものにするための議論を行う．

司　　会：掛下　哲郎（佐賀大学 大学院 工学系研究科 知能情報システム学専攻 准教授）
略歴・写真は「ソウル協定と情報専門分野の認定」司会紹介を参照．

パネリスト：佐渡　一広（群馬大学 社会情報学部 教授）
略歴・写真は講演（2）「情報分野の JABEE について」を参照．

河野　浩之（南山大学 理工学部機械電子制御工学科 教授）
略歴・写真は講演（3）「JABEE 認定プログラムからみた JABEE」を参照．

中谷　多哉子（放送大学 教養学部情報コース 教授）
略歴・写真は講演（4）「技術者のキャリアパス中における JABEE の位置づけについて」を参照．

パネリスト：西　直樹（日本電気 中央研究所 主席技術主幹）

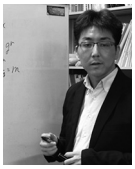
[略歴]

1984 年：日本電気（株）入社, 2003 年：シリコンシステム研究所　部長, 2007 年：システム IP コア研究所　所長, 2012 年：グリーンプラットフォーム研究所　所長，2013 年 10 月～：中央研究所　主席技術主幹（現職）．2010 ～ 11 年度に情報処理学会財務理事を務めた後，CITP（Certified IT Professional）資格制度の設立・運営に参画．2012 年：企業認定制度設計 WG 座長，2015 年 1 月～：企業認定審査委員会　副委員長（現職）

サイバー保険の現状と今後の課題
3 月 15 日（木）13:20-15:20［第 4 イベント会場（56 号館 101)］

[セッション概要]

ランサムウェアや情報漏洩事件などの報道に見られるように近年のサイバー攻撃を完全に防ぐことは難しく，侵入されてしまうことも前提とし如何に侵入の事実に早く気付き，その後の対応を取っていくかということが重要になってきている．また自動車保険や火災保険などと比べると認知度はまだ低いが，このような事業継続性を揺るがすサイバーリスクへの取り組み方としてサイバー保険なるものが注目を集めてきている．そこでサイバー保険の現状について詳しい方々にご講演いただき，今後の課題とサイバー保険分野において必要とされる技術，人材などについての情報を共有するとともに，サイバー保険関係者らとセキュリティ研究者／技術者らの意見交換ができる場を提供する．



司会：西出　隆志（筑波大学 准教授）

[略歴]

2009 年九州大学大学院システム情報科学研究院助教を経て，2013 年より筑波大学システム情報系准教授．暗号技術と情報セキュリティの研究・教育に従事．博士（工学）．

13:20-13:25　オープニング

13:25-14:05　講演（1）「How to deal with the “residual” Cyber Risk? A multi-effect approach - Cyber Insurance」

[講演概要]

In today’s rapidly changing technological environment it is extremely difficult to completely prevent cyber-attacks from a technical security standpoint. This is easily observable through reported security breaches and incidents happening across all industries. Risk associated with cyber-attack is considered as one of the most challenging issues and is resulting in serious impacts to corporate business. It is widely recognized that cyber-security has become, and continues to increase in importance, as a management issue from the viewpoint of corporate strategy. Certainly on one side, investment in technical cyber-security countermeasures and practices is important and on the other side, risk managers must find solutions to cope with residual cyber-security risk.

In this talk, we will initially explain the basic concept of cyber insurance. We will summarize the background and history for cyber insurance development, its basic terms, and the process, while highlighting the unique aspects of cyber insurance in comparison to other insurance products. Then, we will explain the relationship between our cyber security risk assessment model and the technical underwriting process. We will show you how your investment in cyber-security technology increases your eligibility to qualify for better coverage and results in cost reduction when purchasing cyber insurance. Clarifying the scope of cyber insurance cover will help you understand its advantages; furthermore, understanding the scope of cover provides organizations new insight and incentive to increase focus on measures to prevent and transfer the cybersecurity risk. Ultimately this comprehensive approach increases defense against cyber-attacks and reduces negative impact on the business even if some defenses prove not strong enough. At last, we will provide overview of the market both inside and outside of Japan and conclude this talk with the highlighting of existing issues for further development of the cyber insurance industry.

Philipp Lienau（HDI Global SE 保険会社 Casualty Guidance Product Manager E&O and Cyber）

[略歴]

Philipp Lienau has worked for HDI for more than 15 years, and has been responsible for the E&O product management in the head office for many years. This area encompasses the traditional E&O Liability Insurance as well as special insurances like Cyber, Tech/IT E&O, Employment Practices Liability Insurance and cost overrun / clean-up policies domestically or internationally. He is active in risk research and product development and acts as a speaker and instructor in in- and external conferences and seminars. The global development and re-development of the cyber insurance “HDI Cyber+” is a part of his function. Additionally, he is a member of the committees for IT Companies as well as Employment Practices Liability of the Liability Underwriting Commission of the German Insurance Association (GDV).

趙　方明（HDI Global SE 保険会社 引受統括部 Cyber Underwriter）

［略歴］

Fangming Zhao received a B.S. degree in computer science, an M.S. degree and a Dr.E. degree in the research areas of information security and applied cryptography. From 2008 to 2017, he had worked at Toshiba Corporation as a research scientist and a security architect on the topics of cybersecurity and applied cryptography in various areas such as industrial control systems, smart grid, Internet of Things, cloud computing & cloud storage systems, P2P network systems, etc. Since July 2017 he joined HDI Global SE of Talanx Group, Germany's third-largest and one of the major European insurance groups, as a Cyber underwriter and now he works on the cyber insurance, "HDI Cyber+", especially for the Japanese market.

14:05-14:45　講演（2）「企業からみた現行サイバー保険の難しさと新たな需要」

大西　克美（日本アイ・ビー・エム株式会社 理事）

［講演概要］

企業にとってサイバーリスクは経営レベルの大きな経営課題であり，全社的な対策に苦慮している企業が多い．しかしながら，サイバー保険の活用度は高いとは言い難い．本セッションでは，企業の期待値と保険を提供するセキュリティ・ベンダーのギャップを整理する．実際，攻撃が多様化し，企業の期待は単に金銭的補償だけではなく，CSIRT（Computer Security Incident Response Team）に代表されるような専門家の派遣による早期問題解決への支援と広がってきている．また補償の対象も，従来の顧客データ，データセンターのサーバーだけではなく，自動運転システムや FinTech アプリケーションのようなものまで求められている．この新しい企業の要求に対して，学術的アプローチによるリスクの可視化手法，若い人材育成による企業体力の底上げ，次世代に要求されるサイバー保険の外観について考察を行う．

［略歴］

2000 年前半より，IT セキュリティの専門家として金融機関向けのコンサルティング及びアーキテクチャ設計，製造業に対する IoT システムの製品開発の設計支援，セキュリティ要件書の作成，レビューを担当．社内ではグローバルコミュニティのリーダーとして，全社戦略への提言，人材の育成，製品レビューをリード．現在，日本アイ・ビー・エムのセキュリティの第一人者として社内外で活躍中．JEITA プログラムの一環として，複数の大学に講義を提供中．IPSJ 正会員．

14:45-15:20　パネル討論「サイバー保険の現状と今後のあり方について」

［討論概要］

サイバー保険における被保険者の Cyber Risk Assessment と保険料の関係，どのように被害認定し補償金額が決定されるのか，海外と日本での運用や適用範囲の違い，今後の更なる適切な運用のためにどのような技術が必要とされていくのか，などセキュリティ研究の学術界ではあまり広く知られていない実態について広く情報交換し，今後のサイバー保険のあり方について議論する．

司　　会：西出　隆志（筑波大学 准教授）

略歴・写真は「サイバー保険の現状と今後の課題」司会紹介を参照．

パネリスト：大西　克美（日本アイ・ビー・エム株式会社 理事）

略歴・写真は講演（2）「企業からみた現行サイバー保険の難しさと新たな需要」を参照．

Philipp Lienau（HDI Global SE 保険会社 Casualty Guidance Product Manager E&O and Cyber）

略歴・写真は講演（1）「How to deal with the "residual" Cyber Risk? A multi-effect approach - Cyber Insurance」を参照．

趙　方明（HDI Global SE 保険会社 引受統括部 Cyber Underwriter）

略歴・写真は講演（1）「How to deal with the "residual" Cyber Risk? A multi-effect approach - Cyber Insurance」を参照．

2017 年サイバー事件回顧録～技術と法制度の両面から～
3 月 13 日（火）9:30-12:00［第 5 イベント会場（56 号館 102）］

［セッション概要］

78 回大会より毎年開催している一年間のサイバー問題を振り返る企画．2017 年度の上半期だけでも，ランサムウェア「WannaCry」の大規模感染や，ビットコインの分裂に代表される仮想通貨の氾濫，サイバーテロが疑われるコンピュータ事故など多くのサイバー事件があった．また世界各国で行われた国政選挙において SNS 等のネットツールが大きな影響を与えることが再認識され，「デジタル・ゲリマンダー」という言葉も話題になった．情報技術と，知的財産・社会基盤整備といった法制との関係は，ますます重要な論点になっている．本パネル討論ではそうした法と技術の問題を扱い今年で設立 20 年になる EIP 研究会より，技術者の立場と，サイバー法や情報政策を研究する社会科学の研究者のそれぞれの立場から対策や技術の健全な発展手法について意見を述べ合うものである．

9:30-12:00　パネル討論「2017 年サイバー事件回顧録～技術と法制度の両面から～」

［討論概要］

2018 年 3 月までに起きた，サイバー空間や IT に関する様々な事件，問題，法律改正などについて多様な専門家からそれぞれの立場で意見を述べてもらう．

・ランサムウェア「WannaCry」の流行に代表されるコンピュータウィルス問題．
・後を絶たない個人情報漏洩事件やネットワークへの侵入，その手段として使われる標的型攻撃を始めとする様々なサイバー攻撃，ダークウェブ問題．
・個人情報保護法改正の影響．
・リーチサイトによる著作権侵害等の知的財産保護．
・フェイクニュースやデジタルゲリマンダーといった情報の氾濫
・AI と法律の関係
・2020 年に控えたオリンピックを見越したサイバーインフラ防御のありかた．
・その他，情報処理学会に関連する分野の様々な事件や裁判例．

等々を扱う予定．

司　　会：須川　賢洋（新潟大学 法学部 助教）

［略歴］

新潟大学大学院法学研究科修了．修士（法学）．専門はサイバー法で，コンピュータ犯罪，デジタル知的財産，情報セキュリティ制度，デジタル･フォレンジックなど，先端技術と法律の関係を中心に研究．共著に「IT セキュリティカフェ―見習いコンサルの事件簿」（丸善），「実践的 e ディスカバリ―米国民事訴訟に備える」（NTT 出版），「デジタル・フォレンジック事典」（日科技連）など．

パネリスト：金子　格（東京工芸大学 准教授）

［略歴］

1980 早稲田大学卒．2004 博士（情報科学）．（株）アスキーにてパソコンシステムソフトウエア，システム LSI，ASIC，ゲーム機ソフトウエアの開発に従事．その後グラフィックスコミュニケーションラボラトリーズで MPEG 標準化の策定等に従事．SC 29/WG11 オーディオ小委員会幹事，SC29/WG11 システム小委員会主査等を歴任．2004 年より東京工芸大学准教授．

パネリスト：原田　要之助（情報セキュリティ大学院大学 教授）

［略歴］

1954 年京都生まれ．1979 年京都大学大学院工学部数理工学専攻修了．電信電話公社（現 NTT）の研究所で通信ネットワークの監視，制御システムを開発．1999 年から情報通信総合研究所にてセキュリティコンサルやセキュリティ監査に従事．大阪大学工学部大学院工学研究科の特任教授を経て 2010 年より現職．2000 年から 2009 年まで OPCW（化学兵器禁止機関）の情報セキュリティ監査のチームリーダを務める．経産省の IT 関連の委員会の委員，2008 年から 2010 年まで ISACA（情報システムコントロール協会）国際本部副会長，セキュリティマネジメント学会常任理事，日本 IT ガバナンス協会理事なども歴任．2016 年より日本セキュリティマネジメント学会会長．

パネリスト：板倉　陽一郎（ひかり総合法律事務所 弁護士）

［略歴］

2002 年慶應義塾大学総合政策学部卒，2004 年京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻修士課程修了，2007 年慶應義塾大学法務研究科（法科大学院）修了．2008 年弁護士（ひかり総合法律事務所）．2016 年 4 月よりパートナー弁護士．2010 年 4 月より 2012 年 12 月まで消費者庁に出向（消費者制度課個人情報保護推進室（現・個人情報保護委員会事務局）政策企画専門官）．2017 年 4 月より国立研究開発法人理化学研究所革新知能統合研究センター社会における人工知能研究グループ客員主管研究員．情報ネットワーク法学会前理事，法とコンピュータ学会理事，情報処理学会電子化知的財産・社会基盤研究会幹事，総務省・AI ネットワーク社会推進会議環境整備分科会及び影響評価分科会構成員，IoT 推進コンソーシアム・データ流通促進 WG 及びカメラ画像利活用 SWG 委員等を現任．主な取扱分野はデータ保護法，IT 関連法，知的財産権法等．

パネリスト：加藤　尚徳（KDDI 総合研究所 FD1-3 アソシエイト）

［略歴］

（株）KDDI 総合研究所　フューチャーデザイン 1 部門 3 グループ アソシエイト 1986 年生まれ．（株）KDDI 総研を経て，2016 年より現職．専門は「情報法」．情報法制（プライバシー・個人情報・知財等）を中心とした法制度や技術の調査・研究・コンサル業務に従事．また，大学の非常勤講師として，情報法，知的財産法，情報セキュリティに関する講義を担当．神奈川大学経営学部および神奈川工科大学情報学部非常勤講師，慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員．新潟大学法学部卒業，総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻単位取得満期退学，修士（情報学）．

パネリスト：折田　明子（関東学院大学 人間共生学部 コミュニケーション学科）

［略歴］

2007 年慶應義塾大学にて博士（政策・メディア）取得．中央大学ビジネススクール助教，慶應義塾大学特任講師，米国ケネソー州立大学 Visiting Assistant Professor，関東学院大学人間環境学部専任講師を経て現職．インターネット利用における匿名性，プライバシー，若年層に対するリテラシー教育に関する研究に従事．

現場から見た情報セキュリティの現状と今後　ーデジタルプラクティスライブー
3 月 13 日（火）13:20-15:50［第 5 イベント会場（56 号館 102）］

［セッション概要］

デジタルプラクティスは，情報処理学会の IT 技術者向け論文誌である．情報処理学会の全国大会及び FIT において最近の特集テーマから関心の高いものを選びデジタルプラクティスライブとして，講演及びパネル討論を通してテーマに関する議論の深堀を行っている．

今回は 7 月発行予定の「情報セキュリティ対策のプラクティス」特集号と連動し，特集号招待論文の著者を中心に「第一部　現状と対応」「第二部　情報セキュリティの今後」の 2 部構成で情報セキュリティのさまざまな現場に携わる講演者による講演とパネル討論を通じて，多面的に情報セキュリティの現状と今後について議論する．論文には書けなかった本音の議論が期待できる．

司会：中尾　康二（横浜国立大学先端科学高等研究院）

［略歴］

1979 年早稲田大学卒業後，国際電信電話（株）に入社．KDD 研究所を経て，現在 KDDI（株）顧問，及び国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）サイバーセキュリティ研究所　主管研究員，横浜国立大学　客員教授を兼務．ネットワーク及びシステムを中心とした情報セキュリティ技術／サイバーセキュリティ技術の研究開発に従事．電子情報通信学会，情報処理学会などの会員．経済産業省大臣表彰賞，KPMG 情報セキュリティアウォーズ，文部科学省大臣表彰賞，情報セキュリティ文化賞，総務大臣表彰等を受賞．2017 年から内閣官房　サイバーセキュリティ補佐官を担務．

13:20-13:25　挨拶

13:25-13:35　講演（1）「情報セキュリティの歴史と全体技術」
中尾　康二（横浜国立大学先端科学高等研究院）

［講演概要］

1980 年代の銀行電子トランザクション，開放型システム，電子メールなどのセキュリティの時代から始まり，インターネットへの移行に伴う新しいセキュリティ技術，情報に特化したセキュリティマネジメントの視点からみるセキュリティ技術，Web 改ざん／ワーム全盛期への対策，ボットネット／ DDoS の対策，標的型攻撃／重要インフラ攻撃への対策など，過去から現在に至る多種多様な脅威／攻撃に対抗するためのセキュリティ技術を体系的に概観する．本講演では，上記のような歴史的背景や現状のセキュリティ技術に基づき，本セッションを構成する他の講演のガイド的な位置づけとなる全体技術についても触れる．さらに，今後の新しいインフラ環境における多様化，高度化，複雑化する脅威に鑑み，将来に向けたセキュリティ技術のあり方，方向性についても言及する．

略歴・写真は「現場から見た情報セキュリティの現状と今後　－デジタルプラクティスライブ－」司会紹介を参照．

13:35-13:50　講演（2）「SOC 構築とセキュリティ監視運用の取り組み」
福本　佳成（楽天株式会社 IT セキュリティガバナンス部 執行役員 部長）

［講演概要］

楽天は 1997 年の創業以来，会員数・流通額・提供サービス数を拡大させている．また楽天市場を中心とする楽天グループのサービスは Global に展開し，現在では様々な国でインターネットサービスを提供している．楽天のサービスが急成長し，そのブランド認知度も上がる一方で，攻撃者視点から見ると，楽天は格好の標的でもあり，インターネットサービスのセキュリティ対策は重要課題である．本講演はセキュリティ対策全体から見る SOC の役割について言及すると共に，15 年に渡る SOC 運用経験からの監視システム技術の変遷と，セキュリティ監視運用での留意事項について紹介を行う．

［略歴］

インターネットセキュリティ専門会社でセキュリティプロダクトの研究開発を経て，2002 年に楽天（株）に入社．楽天グループのインターネットサービスのセキュリティを担当．主には安全なソフトウェア開発の推進とセキュリティ運用を担当している．2007 年に Rakuten-CERT を設立. Rakuten-CERT Representative. 活動開始時より OWASP Japan Advisory Board を務める. 東京工業大学サイバーセキュリティ特別専門学修プログラム特定教授．近年はサイバー犯罪対策にも注力している．

13:50-14:05　講演（3）「事業者における CSIRT（Computer Security Incident Response Team）の現状の概要」
平井　達哉（日立システムズ サイバーセキュリティリサーチセンタ）

［講演概要］

近年，ソフトウェアの脆弱性が明らかになってから，それを突くサイバー攻撃が行われるまでの時間が短時間化し，実被害を生じる例が増えている．このため，CSIRT を設置･運用する事業者が増えてきている．CSIRT は，緊急時だけでなく，平時にも業務を行っている．前者の例としては，生じたセキュリティインシデントへの対応を筆頭に，それを未然に防止することへの寄与，経営層に適切な報告を行い，被害の抑制に繋げること等が，後者の例としては，ICT 関連のセキュリティ情報や脆弱性対策情報の収集や周知が挙げられる．今回は，これらの内容を中心に，現在の CSIRT が担う業務や CSIRT を構築する際に求められる点等について述べる．

［略歴］

1994 年早稲田大学理工学研究科修士課程修了．同年，日立製作所システム開発研究所入社．以後，同研究所，同社中央研究所等において，低誤り率ブロック符号化・復号化，コンテンツ保護を目的とした公開鍵暗号基盤，鍵交換プロトコル，ファイル管理方法等の研究及び規格化等に従事．左記従事中に京都大学大学院情報学研究科単位認定退学．2016 年日立システムズ入社．同社にて，情報共有を中心としたサイバーセキュリティの研究開発に従事．IEEE，電子情報通信学会会員．京都大学博士（情報学）．

14:05-14:20　講演（4）「業務執行としてのセキュリティ：CISO ダッシュボード」
高橋　正和（株式会社 Preferred Networks CISO, Security Architect）

［講演概要］

日本においても数多くのサイバー攻撃やセキュリティ事故が報道されている．セキュリティは技術的な問題として捉えられることが多かったが，徐々に経営レベルの問題であるとの認識が広がり，2016 年には経済産業省から「サイバーセキュリティ経営ガイドライン」が公表された．経営レベルのセキュリティを実施する上で，経営の一員としての CISO（Chief Information Security Officer）が注目されているが，CISO が他の経営陣と共有すべき事柄はあまり整理されていない．本セッションでは，CISO がセキュリティに係る業務執行を行う上で，他の経営陣と共有すべき項目を「CISO ダッシュボード」と呼称し考察する．

［略歴］

基本ソフトの開発や品質管理等を経て，1999 年に ISS（現在は IBM）に入社．コンサルティングビジネスの立ち上げ，SOC 構築支援，CIO として社内 IT システムの構築運用などを実施．2006 年に，日本マイクロソフト（株）のチーフセキュリティアドバイザーに就任．工作機械メーカー，自動車メーカーのセキュリティアドバイザーとしても活動．2017 年 10 月，Preferred Networks CISO, セキュリティアーキテクトに就任．日本ネットワークセキュリティ協会副会長，日本セキュリティ・マネジメント学会常任理事．

14:20-14:35　講演（5）「情報セキュリティ人材像と教育」
平山　敏弘（NPO 日本ネットワークセキュリティ協会 教育部会 部会長（アクセンチュア株式会社））

［講演概要］

情報処理推進機構（IPA）の試算によれば，国内企業において，情報セキュリティ人材は約 8 万人と大幅に不足しており，さらに約 16 万人がスキル不足との調査結果が出ているなど，情報セキュリティ人材の育成は急務であると多方面で叫ばれていますが，不足の 8 万人は全て共通のスキルを求められているわけではなく，CISO（最高情報セキュリティ責任者）からホワイトハッカーや現場担当者まで様々です．また東京オリンピック・パラリンピック開催の 2020 年までの人材不足が指摘されていますが，2020 年以降も求められるセキュリティ人材像とはいかにあるべきかについて，本講演にてお話させていただきます．

［略歴］

1987 年大手コンピュータ企業入社以来，大規模分散システムデザインおよびシステム構築作業を数多く経験．Web システムを担当することにより，情報セキュリティの世界に従事．経済産業省情報セキュリティ人材育成指標策定事業委員会・委員，文部科学省情報セキュリティ人材育成に関する調査研究有識者委員会･委員，IPA 情報処理安全確保支援士講習統括委員会･委員，情報処理学会セミナー推進委員会・委員等を歴任．専修大学ネットワーク情報学部非常勤講師．2013 年情報セキュリティ・リーダーシップ・アチーブメント・アジアンアワード受賞．

14:35-14:50　講演（6）「デジタル社会のトラストを支える電子署名」
小川　博久（みずほ情報総研株式会社 経営・IT コンサルティング部 マネジャー）

［講演概要］

デジタル社会が進展し，あらゆるモノやサービスが連携していく時代となった．このような社会変革の中で，連携を前提とした接続先やデータに対するトラスト（信頼）の重要性が増大している．電子署名は実在証明やデータ改ざん検知などのトラストを確立するための技術として従来から活用されているが，様々な組織や国境を越えて利活用を円滑に進めるためには，具体的な運用を想定した仕様策定や国際化に向けた相互運用性を踏まえた標準化の取組みが重要である．本講演では，JNSA 電子署名 WG で検討している電子契約等に利用可能なリモート署名や標準化活動を通じて得られた電子署名の利用と普及促進のための知見について報告する．

［略歴］

2000 年にソフトウェアベンダに入社し，取締役 R&D 事業本部長を歴任．暗号モジュール設計・開発，情報セキュリティ，リスクマネジメント等に関する研究開発業務を統括．2008 年，みずほ情報総研（株）に入社．情報セキュリティ技術に関する調査及び研究開発業務に従事．特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）電子署名 WG サブリーダー／リモート署名 TF リーダー，日本トラストテクノロジー協議会（JT2A）運営委員長．

14:50-15:05　講演（7）「個人データに対応する匿名化と再識別コンテスト：PWSCUP」
菊池　浩明（明治大学 総合数理学部 教授）

［講演概要］

2017 年 5 月の改正個人情報保護法施行により，本人同意がなくとも第三者提供ができる「匿名加工情報」の利用が始まった．匿名加工情報を利用した新しいビジネスの創出が期待されている．しかしながら，匿名加工情報の再識別リスクはそれほど自明ではなく，標準的な評価手法は定まっていない．そこで，より高い有用性とより低い再識別リスクを持つ匿名加工データを作成することを目指して，匿名加工したデータの安全性と有用性を競うコンテスト PWSCUP を開催している．本講演ではコンテストの概要と明らかにされた課題などについて報告する．

［略歴］

1990 年明治大学院博士前期課程修了．1994 年同博士（工学）．（株）富士通研究所，東海大学情報通信学部を経て，2013 年より明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科教授．1990 年日本ファジィ学会奨励賞，1993 年情報処理学会奨励賞，1996 年 SCIS 論文賞，2010 年，2017 年情報処理学会 JIP Outstanding Paper Award．2013 年 IEEE AINA Best Paper Award．電子情報通信学会，日本知能情報ファジィ学会，IEEE，ACM 各会員．情報処理学会フェロー．

15:05-15:50　パネル討論「情報セキュリティの今後のあり方」
［討論概要］

本パネル討論では，各パネリストからの講演内容（セキュリティの歴史，SOC 構築・運用，CSIRT の現状，業務執行の視点からのセキュリティ，人材・教育，トラストを支える電子署名，個人データの匿名化）に基づく幅広の現場におけるセキュリティ技術をベースに，パネリストの皆さんの専門性の視点から，現状の反省や今後への期待について語っていただき，情報セキュリティ（サイバーセキュリティ）のための今後の展望・方向性について意見交換を行う予定です．

モデレータ：中尾　康二（横浜国立大学先端科学高等研究院）

略歴・写真は「現場から見た情報セキュリティの現状と今後　－デジタルプラクティスライブ－」司会紹介を参照．

パネリスト：高橋　正和（株式会社 Preferred Networks CISO, Security Architect）

略歴・写真は講演（4）「業務執行としてのセキュリティ：CISO ダッシュボード」を参照．

福本　佳成（楽天株式会社 IT セキュリティガバナンス部 執行役員 部長）

略歴・写真は講演（2）「SOC 構築とセキュリティ監視運用の取り組み」を参照．

パネリスト：内田　法道（株式会社ラック IT 統括本部 サイバーセキュリティ事業部，サイバー救急センター センター長）

［略歴］

1999 年（株）ラック入社．1999 年～ 2000 年セキュリティ製品サポートに従事．2001 年～ 2005 年セキュリティコンサルタントに従事．2005 年～ 2007 年内閣官房情報セキュリティセンター（現：内閣サイバーセキュリティセンター）で勤務．2007 年～ 2013 年セキュリティコンサルタントに従事．2014 年ネットワークフォレンジック調査に従事．2015 年～現在サイバー救急センターのセンター長としてインシデント対応に従事．

パネリスト：小川　博久（みずほ情報総研株式会社 経営・IT コンサルティング部 マネジャー）

略歴・写真は講演（6）「デジタル社会のトラストを支える電子署名」を参照．

菊池　浩明（明治大学 総合数理学部 教授）

略歴・写真は講演（7）「個人データに対応する匿名化と再識別コンテスト：PWSCUP」を参照．

計算社会科学の可能性
3 月 14 日（水）9:30-12:00［第 5 イベント会場（56 号館 102)］

［セッション概要］

社会活動そのものをシミュレーションの対称とする計算社会科学は，ビッグデータやオープンデータの利用拡大や計算機の能力向上の流れを受け，実用的なフェーズへ突入しつつある．複雑化する社会システムや持続可能な社会構築のためには，社会のデザインに工学的手法を持ち込むことが必須であり，計算社会科学はその一端を担うものである．本企画では，この分野の代表的な研究者の講演を中心に，何が可能になりつつあり，どういう応用が期待できるか，どのような課題があるかについて，議論を進めていく．

司会：野田　五十樹（産業技術総合研究所 人工知能研究センター 総括研究主幹）

［略歴］

1992 年，京都大学大学院工学研究科修了，通商産業省工業技術院 電子技術総合研究所に入所，神経回路網・マルチエージェントシステムの研究に従事．RoboCup の創立メンバーとして，シミュレーションリーグの立ち上げを行う．改組を経て，現在，国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター総括研究主幹．NEC- 産総研人工知能連携研究室 副室長を兼務．博士（工学）．マルチエージェント社会シミュレーション，機械学習，減災情報システムの研究に従事．1999 年，Stanford 大学客員研究員．2003 年，内閣府総合科学技術会議事務局参事官補佐を兼務．北陸先端科学技術大学院大学，筑波大学，東京工業大学で連携大学院教授に従事．RoboCup Federation Previous President. 人工知能学会副会長, ロボカップ日本委員会･防災推進機構 理事. 情報処理学会, 電子情報通信学会会員．（株）未来シェア取締役.

9:30-9:55　講演（1)「マクロ経済シミュレーション」
藤原　義久（兵庫県立大学 大学院シミュレーション学研究科 教授）

［講演概要］

マクロな経済現象を生み出すミクロかつ大規模なデータが蓄積されて利用可能になっている．中でもくり返し見られる「少数の巨人と多数の小人」「小さな揺らぎが大規模な変動をもたらす」といった異質性（heterogeneity）と相互作用（network）についての実証的なデータが新しい知見をもたらしつつある．ポスト京萌芽的課題『多層マルチ時空間スケール社会・経済シミュレーション技術の研究・開発』サブ課題『マクロ経済シミュレーション』の中で京コンピュータなどの HPC を利用したものとして，経済ストレス伝播のシミュレーション，生産ネットワークの階層的コミュニティ構造，震災のサプライチェーンへの影響などの研究成果について紹介する．

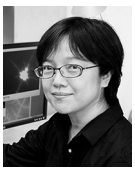
［略歴］

1992 年東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了, 理学博士．学位取得後, 日本学術振興会特別研究員, 科学技術庁特別研究員, University of California Santa Barbara 短期滞在，京都大学非常勤講師などを経て，2000 年情報通信研究機構主任研究員．2002 年（株）国際電気通信基礎技術研究所（ATR）主任研究員．2011 年兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科教授.

9:55-10:20　講演（2)「企業ネットワークシミュレーション」
高安　美佐子（東京工業大学 科学技術創成研究院 教授）

［講演概要］

日本国内には 100 万を超える数の企業があり，それらはお互いに複雑に連携し，競合しながら経済活動を行っている．本講演では，まず，帝国データバンク社がひとつひとつの企業を調査して調べ上げた網羅的な企業間の取引関係のネットワークデータを解析して得られた経験則を確認し，次に，それに基づいて構築した 100 万社の取引関係ネットワーク上のお金の流れをシミュレートする手法を解説する．この方法は，政府が地域経済の活性化のためのプラットフォームとして提供している RESAS においてお金の流れを算出する基盤となっている．施策の妥当性をシミュレーションによってチェックするという新しい科学的な政策立案が現実となってきた．



［略歴］

名古屋大学理学部物理学科卒，神戸大学大学院自然科学研究科修了，博士（理学）．慶應義塾大学理工学部助手，公立はこだて未来大学助教授を経て，東京工業大学科学技術創成研究院，ビッグデータ数理科学研究ユニットリーダー，教授．日本学術会議連携会員（物理学・情報学），文部科学省・情報科学技術委員.

10:20-10:45　講演（3)「高頻度・大規模な金融市場シミュレーション」
和泉　潔（東京大学 大学院工学系研究科 教授）

［講演概要］

本研究ではポートフォリオ最適化を行うエージェントを用いて，自己資本比率規制に基づく市場リスク管理が単一及び複数資産を扱う連続ダブルオークション市場に与える影響を分析した．得られた結果は以下の通りである．自己資本比率規制に基づく市場リスク管理を行う市場参加者数の増加は複数財の市場を不安定化させる．分散投資の増加は自己資本比率規制に基づく市場リスク管理が持つ市場への不安定化効果を緩和する．さらに，銀行間ネットワークと連成させた金融システム全体の安定性に関するシミュレーションについても紹介する．

［略歴］

1970 年生．1993 年東京大学教養学部基礎科学科第二卒業．1998 年同大学院総合文化研究科広域学専攻博士課程修了．博士（学術）．同年より 2010 年まで，電子技術総合研究所（現産業技術総合研究所）勤務．2010 年より東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻准教授．2015 年より同教授．マルチエージェントシミュレーション，特に社会シミュレーションに興味がある.

10:45-11:10　講演（4）「人流シミュレーションの応用手法と可能性」
野田　五十樹（産業技術総合研究所 人工知能研究センター 総括研究主幹）

［講演概要］

人流シミュレーションを実際の実問題に適応していく場合の課題と，人工知能やHPCによるそれらへの取り組みについて紹介する．災害時の避難や大規模イベント動線管理，街作りなどに対し，人流シミュレーションは様々な支援を行える可能性がある．また，ビッグデータやIoTにより人々の振る舞いを明らかにできるデータソースも揃いつつある．一方で，人という，まだ未知の部分の多い要素を多数取り込む人流のシミュレーションは実問題への適応で気をつける必要がある．これに対し，網羅的シミュレーションなどを活用した事例を紹介し，HPCや各種知的探索手法の適用可能性を探る．

略歴・写真は「計算社会科学の可能性」司会紹介を参照．

11:10-11:35　講演（5）「自動車交通シミュレーションとその応用」
伊藤　伸泰（東京大学大学院工学系研究科）

［講演概要］

グローバルな現代社会において交通は根幹であり，効率的かつ安全で円滑な移動・輸送は不可欠である．種々の交通インフラの中で特に課題が多いのが，自動車交通である．道路ネットワークの整備や交通規則などを考える際，考慮すべき評価軸が多数あり，それらの最適値は互いに相いれないことが多い．さらに現在，これまでの内燃機関に加えて電動の自動車も増加しつつあり，また運転補助システムもカーナビから自動運転まで多様化しつつある．このため，自動車交通についての課題は複雑な様相を呈している．こうした現状の改善にシミュレーションを活用する可能性を議論したい．

［略歴］

1991年3月東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了，理学博士．同4月日本原子力研究所東海研究所情報システムセンター研究員．ケルン大学理論物理学研究所・ユーリヒ研究センター計算センター客員研究員も歴任後，東京大学工学部に着任．現在，大学院工学系研究科・准教授．2012年10月より理化学研究所計算科学研究機構離散事象シミュレーション研究チーム・チームリーダーを兼務．

11:35-12:00　講演（6）「近似ベイズ計算に基づく大規模シミュレーションモデルの推定と評価」
上東　貴志（神戸大学 経済経営研究所 所長・教授）

［講演概要］

マルコフ連鎖モンテカルロ法（MCMC）は，シミュレーション可能なモデルを評価する代表的な手法の1つであるが，パラメータとデータの同時分布（尤度関数）が計算できない場合には使うことができない．一方，近似ベイズ計算は，同時分布が分からなくてもシミュレーションさえできれば理論上は応用可能であるが，膨大な計算を必要とする．本講演では，MCMCと近似ベイズ計算の関係を簡潔に説明し，近似ベイズ計算に関する今後の課題と期待される成果を述べる．

［略歴］

1994年 Ph.D. in Economics, University of Wisconsin at Madison．1994年～2003年 State University of New York at Stony Brook, Assistant Professor（～2000），Associate Professor（2000～2003）．2000年～現在　神戸大学経済経営研究所，准教授（～2003），教授（2003～），経済経営研究所長（2014～）．

Exciting Coding! Junior ファシリテータ講習
3月15日（木）9:30-12:00［第5イベント会場（56号館 102）］

［セッション概要］

2020年の小学校でのプログラミング教育必修化への準備の一つとして，本会セミナー推進委員会では，Exciting Coding! Juniorという小学生高学年向けのプログラミングワークショップを2016年から毎年開催しています．2018年度は東京だけではなく，本会各支部と協力して，各地域で複数回にわたり開催していくことを考えています．この活動のノウハウを広く共有するべく，そのファシリテータ育成のための講演と実習形式のワークショップを行います．本セッションは，3部構成で行います．第1部は座学形式，第2部は実習形式，第3部はScratch以外の様々なプログラミング言語に関するLT（Lightning Talk）を実施いたします．

第2部の実習では，実際にPCを用いてScratch2.0を体験してもらいます．PCを持参のうえ，ご参加ください．ご持参いただくPCの要件につきましては，Scratch公式サイト（https://scratch.mit.edu/）をご確認ください．PCがない場合は見学のみとなります．また，第1部の内容にもとづき，第2部の実習を行いますので，通しでご参加いただけるよう，よろしくお願いします．

司会：荒木　拓也（日本電気株式会社 システムプラットフォーム研究所 主任研究員）

［略歴］

1999年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了．博士（工学）．同年NEC入社．米Argonne National Laboratory客員研究員（2003年～2004年）．プログラミング言語，並列分散処理，大規模データ分析，データベース等の研究に従事．本会論文誌編集委員会基盤グループ委員（2005年度～2008年度），同副査（2007年度），同主査（2008年度），同ITワーキンググループ委員（2007年度～2011年度）．

9:35-10:30　Exciting Coding! Junior ファシリテータ講習
ファシリテータ講師：吉田　葵（青山学院大学 社会情報学部 助教）

［講習概要］

本講習では，プログラミングを用いたワークショップにおけるファシリテータ講習を実施する．本講習で対象とするのは，プログラミング教育に興味があり，ワークショップなどの実施を検討している方である．ワークショップでなにを，どのように，どうやって実施するかを，実践経験に基いて講演する．

［略歴］

2007年津田塾大学学芸学部情報数理科学科卒業．2009年同大学院理学研究科修士課程修了．2012年同研究科後期博士課程満期退学．津田塾大学学芸学部情報科学科助教を経て，2015年より，青山学院大学社会情報学部助教．2009年よりプログラミングワークショップに携わり，プログラミング教育に関する研究に従事．

10:45-11:30　ワークショップ

［ワークショップ概要］

参加者にはPCを持参してもらい，実際に手を動かしながら，ブロックプログラミングを体験してもらうワークショップを行う．参加者同士の交流の時間も設ける．

ワークショップ講師：吉田　葵（青山学院大学 社会情報学部 助教）

略歴・写真は「Exciting Coding!Junior ファシリテータ講習」を参照．

アシスタント：荒木　拓也（日本電気株式会社 システムプラットフォーム研究所 主任研究員）

略歴・写真は「Exciting Coding! Junior ファシリテータ講習」司会紹介を参照．

アシスタント：伊藤　一成（青山学院大学 社会情報学部 准教授）

［略歴］

2005年慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程修了．博士（工学）．2005年青山学院大学理工学部情報テクノロジー学科助手，2007年助教．2008年同大学社会情報学部助教，2010年准教授．現在に至る．本学会会誌教育WG（EWG）編集委員，本学会セミナー推進委員会委員．

アシスタント：杉田　由美子

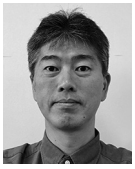
［略歴］

2017年4月まで日立製作所勤務し，Linuxの開発，およびオープンソースソフトウェア（OSS）を用いたシステム開発の研究に従事．また，OSSコミュニティ開発の支援やイベント開催などの活動にも参加．情報処理学会においてはセミナー推進委員として，Excting Coding!企画・運営などを担当し，2016年度学会活動貢献賞を受賞．

11:30-12:00　LT（Lightning Talk）

［概要］

Scratch以外の様々なプログラミング言語に関するLT（Lightning Talk）を実施いたします．



「ドリトル・Bit Arrow」

兼宗　進（大阪電気通信大学 工学部 電子機械工学科 大学院 工学研究科 制御機械工学専攻 教授）

［略歴］

学歴：1987.3 千葉大学工学部電子工学科卒業．1989.3 筑波大学大学院理工学研究科修士課程修了 工学修士．2004.3 筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士課程修了 博士（システムズ・マネジメント）．職歴：1989.4 ～ 2004.3 企業勤務．2004.4 ～ 2009.3 一橋大学 総合情報処理センター 准教授．2009.4 ～ 2013.3 大阪電気通信大学 医療福祉工学部 医療福祉工学科 教授．2013.4 ～ 2014.3 大阪電気通信大学 総合情報学部 情報学科 教授．2014.4 ～現在 大阪電気通信大学 工学部 電子機械工学科 教授．

「Viscuit」

渡辺　勇士（電気通信大学／デジタルポケット）

［略歴］

合同会社デジタルポケットチーフファシリテータ．2003年明治大学商学部卒業．2012年青山学院大学大学院社会情報学研究科博士前期課程修了．電気通信大学情報理工学研究科博士後期課程在学中．ワークショップデザイナ．

「Minecraft」

竹林　暁（TENTO）

［略歴］

2011年にTENTOを創業し，黎明期から子ども向けのプログラミング教育の現場に携わる．子どもたちが楽しんでプログラミングを学習できるよう，ビジュアルプログラミング教材の開発，Minecraftを使ったプログラミングなどさまざまな取り組みを行ってきた．

「ピクトグラミング」

伊藤　一成（青山学院大学 社会情報学部 准教授）

略歴・写真は「Exciting Coding! Junior ファシリテータ講習」ワークショップを参照．

小中高で必修化されたプログラミング教育とは
3月15日（木）13:20-15:20［第5イベント会場（56号館 102）］

［セッション概要］

コンピュータと教育研究会（CE）では，就学前段階から社会人教育までを含む幅広い情報教育の研究を扱っている．2020年度からは小学校からのプログラミング教育が必修化されるが，会員や現場の教員にはその詳細は具体的に伝わっていないのが現状である．そこで今回は文部科学省や中央教育審議会の委員として新学習指導要領の方針策定に関わった研究会幹事の兼宗が「学習指導要領などでどのような教育が求められ，実際にどのような学年においてどのような内容を扱うのか」を概説し，続いて小学校等で教育経験の豊富な委員により実習形式で参加者にプログラミング教育の事例を体験してもらう．

司会：中鉢　直宏（帝京大学 高等教育開発センター IR推進室 助教）

［略歴］

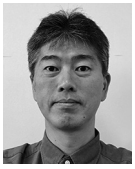
2000年　政策・メディア研究科　修士課程修了　修士（政策・メディア）．2007年　東京工業大学大学院　社会理工研究科 博士課程単位取得後退学．2007年　東京工業大学　情報理工学研究科　COE技術補佐員．2008年　東京工業大学　社会理工学研究科　補佐員．2008年　青山学院大学　附置情報科学研究センター　助手．2014年　島根大学　教育・学生支援機構教学企画IR室　助手．2016年　帝京大学　高等教育開発センター　IR推進室　助教　現在に至る．情報処理学会，教育工学会，情報システム学会各会員．

13:20-13:50　講演「小中高で必修化されたプログラミング教育を概観する」

兼宗　進（大阪電気通信大学 工学部 電子機械工学科 大学院 工学研究科 制御機械工学専攻 教授）

[講演概要]

本講演では 2020 年度から開始される小学校, 中学校, 高等学校までの情報教育の内容について, プログラミングを中心に概観する．プログラミング教育は, 当初は各教育段階で並行して開始されるが, 将来的には小学校でのプログラミング体験, 中学校での自律的または通信のあるプログラミング, 高等学校でのアルゴリズムやデータ処理, 情報システムの理解までの, 一貫した教育を行うことが予定されている．これらの教育を全国の学校で行うことは容易ではない．教育者の研修や教材開発などの支援が必要とされており, 本学会への期待は大きい．



[略歴]

学歴 : 1987.3 千葉大学工学部電子工学科卒業．1989.3 筑波大学大学院理工学研究科修士課程修了 工学修士．2004.3 筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士課程修了 博士（システムズ・マネジメント）．職歴 : 1989.4 ～ 2004.3 企業勤務．2004.4 ～ 2009.3 一橋大学 総合情報処理センター 准教授．2009.4 ～ 2013.3 大阪電気通信大学 医療福祉工学部 医療福祉工学科 教授．2013.4 ～ 2014.3 大阪電気通信大学 総合情報学部 情報学科 教授．2014.4 ～現在 大阪電気通信大学 工学部 電子機械工学科 教授．

13:50-14:50　ワークショップ「小中高で扱われるプログラミングを体験しよう」

[ワークショップ概要]

小学校で実践したプログラミングの活動について実践報告とデモンストレーション（体験）を行う．使用する環境は [Sonic Pi][Processing] を予定．導入の方法や，環境づくり，教師の関わり方などを交え，小学校でプログラミング教育を行うポイントを紹介する．

竹中　章勝（青山学院大学 社会情報学研究科 客員研究員）

[略歴]

自動車工学系専門学校教員を経て，中学校高等学校で情報科・総合科教員を経て大学非常勤講師及び客員研究員．1995 年より教育のインターネット活用研究及び普及活動，教育系及び校務系校内ネットワーク構築，サーバー構築・運用から，教室の ICT 活用教育環境デザイン及び活用実践を行う．現在は大学などで情報教育及びプログラミング教育に関する講義を担当．小学校や教育委員会でプログラミング教育導入支援を行う．

佐藤　正範（東京学芸大学 附属竹早小学校・学芸大こども未来研究所 教諭・学術フェロー）

[略歴]

北海道大学大学院教育学院修了．修士（教育学）．札幌市出身．北海道教育大学札幌校教育学部卒業後に小学校教員となる．2004 年から小学生へプログラミング教育を実践し，RoboCup や First LEGO League 等に参加．Art × Science × Technology をテーマとした産学官連携活動 SapporoOpenLab 主催．2014 年より札幌市の札幌国際芸術祭テクニカル，SIAF Lab エデュケータを委嘱．2016 年から東京学芸大学附属竹早小学校教諭，学芸大こども未来研究所学術フェロー．研究テーマは小学校におけるプログラミング教育．

14:50-15:20　パネルディスカッション「これからのプログラミング教育を考える」

[討論概要]

小学校からプログラミング教育が必修化されることに対しては期待と共に，どれだけのことができるのかや，現場で上手く実施できるのかの不安も多く聞かれる．このセッションにおいては，新学習指導要領におけるプログラミング教育の内容の紹介と教育方法の事例体験によって，それが十分に実施可能であることを示すが, パネルディスカッションではそのまとめとして, それを根付かせるために何が必要であるかや, 将来に向けた展望などを議論する．

パネリスト／司会：西田　知博（大阪学院大学 情報学部 准教授）

[略歴]

1991 年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業，1996 年同大学基礎工学研究科単位取得満期退学．博士（情報科学）．大阪大学情報処理教育センター助手，大阪学院大学情報学部講師を経て，現在，同大学准教授．2014 年より情報処理学会コンピュータと教育研究会主査．同学会情報入試委員会委員，情報規格調査会 SC36 専門委員会委員などを務める．同学会シニア会員．

パネリスト：兼宗　進（大阪電気通信大学 工学部 電子機械工学科 大学院 工学研究科 制御機械工学専攻 教授）

略歴・写真は「講師 小中高で必修化されたプログラミング教育を概観する」を参照．

竹中　章勝（青山学院大学 社会情報学研究科 客員研究員）

佐藤　正範（東京学芸大学 附属竹早小学校・学芸大こども未来研究所 教諭・学術フェロー）

略歴・写真は「ワークショップ：小中高で扱われるプログラミングを体験しよう」を参照．

著者の○印は講演者
※このプログラムは講演申込時のデータを元に作成しております。
（所属は略称）

第 1 分冊　（コンピュータシステム）

一般セッション［2A 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
仮想化技術・クラウドとキャッシュ　座長　小野　貴継（九大）

1 KVM を利用した機密情報の拡散追跡機能における高速化の評価
○森山英明（有明高専），山内利宏，佐藤将也，谷口秀夫（岡山大）
2 クラウド・エッジ連携による DNN モデル運用方式の提案と評価
○大越淳平，浜　直史，近藤伸和（日立）
3 資源効率の良いプライベートクラウド運用を実現するための機械学習の活用
○住田宏己，吉本安男（富士通）
4 Gem5 を用いた分割領域動的管理キャッシュの実環境下における性能評価
○鬼頭優人，佐々木敬泰，深澤祐樹，近藤利夫（三重大）

一般セッション［3A 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
ビルディングブロック型計算システム　座長　津邑　公暁（名工大）

1 ビルディングブロック型計算システムプロジェクトの報告
○天野英晴，黒田忠広（慶大），近藤正章，中村　宏（東大），並木美太郎（農工大），宇佐美公良（芝浦工大），松谷宏紀（慶大）
2 ThruChip Interface を用いたコア間ネットワーク
○門本淳一郎，宮田知輝，天野英晴，黒田忠広（慶大）
3 スタンダードセル・メモリの設計技術とビルディングブロック型計算システムへの応用
○宇佐美公良，吉田有佑（芝浦工大），天野英晴（慶大）
4 低電力プロセッサを実現するボディバイアス制御機構の実チップ評価
○奥原　颯，アクラム ベンアメド，天野英晴（慶大）
5 TCI を用いた 3 次元積層型 DNN 向けアクセラレータ SNACC の設計と評価
○坂本龍一，高田　遼，石井　潤，近藤正章，中村　宏（東大），大久保徹以，小島拓也，天野英晴（慶大）
6 TCI 結合による計算機システム向けビルディングブロック OS について
○並木美太郎，小柴篤史，濱田槙亮，大城研治（農工大），天野英晴（慶大）
7 OS によるマルチコアアクセラレータ上でのパイプライン並列処理の実行時制御機構
○小柴篤史，濱田槙亮，大城研治（農工大），天野英晴（慶大），並木美太郎（農工大）

一般セッション［5A 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
並列処理　座長　片桐　孝洋（名大）

1 マルチプラットフォーム対応連立一次方程式のソルバー開発と実行性能評価
○川口優樹，宮島敬明，藤田直行（JAXA）
2 nbody シミュレーションのマルチ GPU 環境における最適化
○亀ノ上剛（日本 IBM）
3 総合的なコンピュータ性能評価指標「情報量子」の提案と、これによる性能評価検討
○清水京造（ビューマジック）
4 短周期制御機器向け並列処理対応 S/W ランタイムの開発
○矢吹　潤，岡部　亮，攝津　敦（三菱）

学生セッション［1H 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
パラメタ最適化と深層学習　座長　櫻井　隆雄（日立）

1 Latin Hypercube Design の 3 次元空間への拡張
○三輪恵律也，望月大義，藤井昭宏，田中輝雄（工学院大）
2 ソフトウェア自動チューニングにおける反復一次元探索による複数性能パラメータ推定法の実装と評価
○関　直人，望月大義，范　谷瑛，藤井昭宏，田中輝雄（工学院大），片桐孝洋（名大）
3 自動チューニング言語 ppOpen-AT における新ループ変換手法の提案
○櫻井刀麻，片桐孝洋，永井　亨，荻野正雄（名大）
4 MPS 法による流体解析における重心ボロノイ分割を用いた粒子の初期位置設定法
○長谷川颯，荻野正雄，片桐孝洋，永井　亨（名大）
5 粒子法における空間充填曲線を利用したハイブリッド並列化
○辻　祥太，藤井昭宏，田中輝雄（工学院大）
6 自然勾配法の学習パラメータの最適化
○桑村祐二（東工大）
7 （講演取消）
8 フィッシャー情報行列のクロネッカー因子分解を用いた深層学習
○大友広幸，大沢和樹，横田理央（東工大）

学生セッション［2H 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
並列処理と性能評価　座長　土井　淳（日本 IBM）

1 CUDA におけるダイナミックパラレリズムを用いた JDS 形式疎行列ベクトル積の評価
○長坂一生，富永浩文，中村あすか，前川仁孝（千葉工大）
2 高精度行列 - 行列積アルゴリズムにおける batched BLAS の適用
○石黒史也，片桐孝洋（名大），大島聡史（九大），永井　亨，荻野正雄（名大）
3 Intel/KNL における倍々精度疎行列ベクトル積の特性評価
○土肥　樹，田中輝夫，藤井明宏（工学院大），菱沼利彰（筑波大）
4 遠隔メモリページングにおけるローカルデータへの get/put 機構による高速データ転送の実装
○大浦　陽，緑川博子，甲斐宗徳（成蹊大）
5 Knight Landing における倍々精度基本演算のハイブリッド並列の特性評価
○伊藤友太，田中輝雄，藤井昭宏（工学院大），菱沼利彰（筑波大）
6 Modylas を用いた FX100 のアシスタントコアの性能評価
○中島大地，安藤嘉倫，坂下達哉，片桐孝洋，荻野正雄，永井　亨（名大）
7 LLVM IR コードにおける並列化指示文の挿入方式についての検討
○神宮健吾，大津金光，大川　猛，横田隆史（宇都宮大）
8 使用コア数の動的変更による仮想環境上での In-Situ Visualization の高速化に関する検討
○樋口　耀，山中脩也，和田康孝（明星大）

学生セッション［3H 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
組込みアプリケーション　座長　山本　達也（富士通研）

1 IoT を用いた水耕栽培機の研究
○渡辺甚内（電機大）
2 階段の昇降可能なロボット掃除機の研究
○岡部亮斗（電機大）
3 操縦者に適合した LPF 選択手法による全方向移動パワーアシスト台車の操作性向上
○熊木広一，大村　廉（豊橋技科大）
4 エレベーター内の乗降者配置による稼働効率化ー乗降者配置システムによるエレベーター内の制御ー
○塩田佳明，豊谷　純，間田　潤（日大）
5 自律移動型 NC 加工機械の研究
○高橋雅史（電機大）
6 触覚による運転者への情報通知システムの研究
○飯野行将（電機大）
7 人工皮膚センサによる凸 / 平面識別
○正木俊明，安藤潤人（筑波大），竹囲年延（弘前大），望山　洋（筑波大），藤本英雄（名工大）
8 多機能カーテンの製作
○森　僚佑，内山海斗，山本航平，奥村万規子（神奈川工科大）
9 AR グラスを用いた放射ノイズの可視化と要因特定支援ツール
○田中大志郎，真鍋伸也（九工大），渡部佳孝，福井康人（AVC テクノロジー），久代紀之（九工大）

学生セッション［5H 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
積層型 LSI システム　座長　島村　光太郎（日立）

1 マルチコア積層システム Cube-2 の実装と評価
○松下悠亮，小島拓也，門本淳一郎，黒田忠広，天野英晴（慶大）
2 ThruChip Interface の設計自動化
○柴　康太，宮田知輝，門本淳一郎，天野英晴，黒田忠広（慶大）
3 ThruChip Interface を用いたバスにおける衝突検知
○程　超然，宮田知輝，門本淳一郎，天野英晴，黒田忠広（慶大）

4　ツインタワーのためのメモリチップ
○寺嶋爽花，小島拓也，奥原　颯，松下悠亮，安藤尚輝（慶大），並木美太郎（農工大），天野英晴（慶大）
5　可変構造パイプラインを持つ粗粒度再構成アクセラレータ CCSOTB2
○小島拓也，安藤尚輝，天野英晴（慶大）
6　SOTB による CPU“GC-SOTB”への組込み OS の移植とボディバイアス制御機能の試作
○濱田槙亮，小柴篤史，大城研治（農工大），天野英晴（慶大），並木美太郎（農工大）
7　TCI 結合された SOTB によるプロセッサのための Zynq を用いた評価環境の構築
○大城研治，小柴篤史，濱田槙亮（農工大），天野英晴（慶大），並木美太郎（農工大）
8　3D NAND フラッシュメモリの製造技術を用いた積層型論理回路の高速化の研究
○鈴木章矢，渡辺重佳（湘南工科大）

学生セッション［6H 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
組込み開発環境・プラットフォーム　　座長　早川　栄一（拓大）
1　ROS を用いたロボットソフトウェア開発のモデル駆動開発の導入に関する研究
○阿部祐作，三澤航輔，力武克彰（仙台高専）
2　（講演取消）
3　組込み制御ソフトウェア開発のためのデータ整合性検証環境
○岩崎友哉，兪　明連，横山孝典（東京都市大）
4　組込みシステムにおける深層学習フレームワークによる学習結果を用いた認識機能の自動生成の試み
○松本斗貴，中本幸一，趙　茜（兵庫県大）
5　3 次元積層 LSI システムのための簡易的な通信方式エミュレータの構築
○新井健太，大川　猛，大津金光，横田隆史（宇都宮大），菊地克弥，青柳昌宏（産総研）
6　通信ミドルウェアを用いたロボット・クラウド連携分散 SLAM 処理の通信性能
○征矢あおい，大川　猛，大津金光，横田隆史（宇都宮大）
7　組み込み制御システム向け分散共有メモリ機構を持つリアルタイム OS
○近藤　翼，兪　明連，横山孝典（東京都市大）
8　アスペクト指向プログラミングによる並列・分散リアルタイム OS の共有リソース管理機能の実現
○小平裕太，兪　明連，横山孝典（東京都市大）
9　Reducing Jitter and Energy in Hard Real-time Systems Using Intra-task DVFS Technique
○ Boyu Tseng，田中清史（北陸先端大）

学生セッション［7H 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
システム・アーキテクチャと性能評価
座長　長谷川　揚平（東芝メモリ）
1　SIMD 拡張ソフトコアプロセッサのための効率的なメモリシステムの検討
○菊池智也，大津金光，大川　猛，横田隆史（宇都宮大）
2　OSCAR ベクトルマルチコアアーキテクチャのコンパイルフロー構築及び評価
○高橋　健，狩野哲史，宮本一輝，河田　巧，柏俣智哉，牧田哲也，北村俊明，木村啓二，笠原博徳（早大）
3　OSCAR ベクトルアクセラレータの FPGA 上での性能評価
○柏俣智哉，Boma A. ADHI，狩野哲史，宮本一輝，河田　巧，高橋　健，牧田哲也，北村俊明，木村啓二，笠原博徳（早大）
4　2- ポートメモリと並列処理を用いたハードウエアソータ
○安田尚樹，宮崎敏明（会津大）
5　ON/OFF リンクにおける通信開始遅延を低減するためのプリウェイクアップ手法の検討
○松山朋樹，三輪　忍，八巻隼人，本多弘樹（電通大）
6　Visual SLAM ソフトウェア高速化検討のための処理時間分析
○後村胤樹，大川　猛，大津金光，馬場敬信，横田隆史（宇都宮大）

学生セッション［1J 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
基盤ソフトウェア・セキュリティ　　座長　坂本　龍一（東大）
1　AnT の要求箱通信機能を利用した処理の多重化
○本田絃貴，佐藤将也，山内利宏，谷口秀夫（岡山大）
2　複数の仮想マシン動作時における KSM の性能向上に関する一考察
○野崎優太，山口実靖（工学院大）
3　仮想化におけるゲスト OS の統計情報を用いた動的メモリ割り当て
○石原吉晃，芝　公仁（龍谷大）
4　システムコールの組み合わせ発行によるオーバヘッド削減手法
○中村公亮，芝　公仁（龍谷大）
5　高信頼組込みシステムのための仮想計算機モニタ
○古谷晶良，山本遼介（立命館大），片山吉章，水口武尚（三菱），明田修平，毛利公一（立命館大）
6　Android OS における MPI 並列処理アプリケーション実行環境の検討
○新里将大，大津金光，大川　猛，横田隆史（宇都宮大）
7　準パススルー型仮想マシンモニタを用いたプロセスの解析基盤
○市川　遼，並木美太郎（農工大）
8　OpenFlow1.5 による DDoS 緩和システムの設計と実装
○栗原　航，廣津登志夫，樋口　俊（法大）
9　（講演取消）

第 1 分冊　（ソフトウェア科学・工学）

一般セッション［6A 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
数理モデル化と問題解決（5）　　座長　穴田　一（東京都市大）
1　円筒折を用いた単一アクチュエータで直線上の物体上を進行するロボット
○奥谷文徳，梅舘拓也，斉藤一哉，川原圭博（東大）
2　世界メッシュ統計に基づく都市の特徴付け
○佐藤彰洋（京大）
3　変化検知によるサッカーの攻守推移モデルの改良
○大塚　寛，山中　亮（愛媛大）
4　非負値行列因子分解による顧客購買パターン抽出と顧客生涯価値予測
○蓮本恭輔，後藤正幸，雲居玄道（早大）
5　Improved Susceptibility Propagation と Diagonal Trick Method による適応 Thouless-Anderson-Palmer 方程式の導出
○高橋茶子（東北大），安田宗樹（山形大），田中和之（東北大）
6　一般化 Anti Magic Graph の性質
○杉山雅英（会津大）
7　デジタル制御入出力信号の非定常検出方式の検討
○柴田昌彦，中原大貴，三井　聡（三菱）

一般セッション［7A 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
アルゴリズム　　座長　中野　眞一（群馬大）
1　グラフ列挙における構築途中の ZDD 幅に基づく変数順序づけ法
○鈴木浩史，湊　真一（北大）
2　ホールケーキ分割問題に対するカット数最小の無羨望メカニズム
○梅田博之，浅野孝夫（中大）
3　ネットワークの中心性解析によってミーティング情報から人の影響力を推定する方法
○市川悠人，石野　明（ワークスアプリケーションズ）
4　リテラルブロック距離に基づく CDCL SAT ソルバのリスタート戦略の検討
○楢崎修二（長崎大）
5　順序木言語のプリミティブ形式体系に対する 1 つの正例と所属性質問による学習アルゴリズム
○松本哲志（東海大），内田智之（広島市大），正代隆義（九州国際大），鈴木祐介，宮原哲浩（広島市大）

一般セッション［1B 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
ソフトウェア要求仕様と品質　　座長　中島　毅（芝浦工大）
1　開発文書中のかっこ表現ばらつき抽出技術の評価
○杉本　駿，南田幸紀，原田山人（NTT）

2　開発文書リコメンド技術に関する評価と考察
○齋藤鎮成，須永　聡，原田山人，宮尾　浩（NTT）
3　VDM の仕様記述言語を導入した状態遷移図とそのテスト基準の提案
○高木智彦，赤木章紀（香川大）
4　IoT 機器データ変換へのオントロジー適用の検討
○折本拓真，塚本良太，田村孝之（三菱）
5　パブリッククラウドと構成管理ツールを活用した試験効率化に関する検討
○長谷　亮，松浦陽平（三菱）
6　コードの発展性欠陥の自動評価：コンテキストを考慮したメトリクス閾値の機械学習
○津田直彦，鷲崎弘宜，深澤良彰（早大），保田裕一朗，杉村俊輔（小松製作所）

一般セッション［2B 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
プログラミング　　座長　篠埜　功（芝浦工大）

1　大規模計算環境の構築における簡便性の評価
○中村勝則，小山澄怜，黒田菜穂美，小川真綾（武庫川女子大）
2　ソフトウェア開発の AI による品質管理
○豊谷　純（日大），村田大治（テクバン）
3　グラフ書換え系から共有メモリ並列プログラムを生成する手法の検討
○冨岡太一，上田和紀（早大）
4　制約階層に基づくハイブリッドシステムモデリング言語 HydLa の静的誤り検出手法
○小山峻平，上田和紀（早大）
5　ハイブリッドシステム解析器 HyLaGI における非線形常微分方程式の精度保証計算
○増田健太，松本翔太，上田和紀（早大）
6　カードゲーム「クロンダイク」の成功可能性
○新谷敏朗（福山大）

学生セッション［2J 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
ソフトウェア解析と品質　　座長　岡田　譲二（NTT データ）

1　ソースコード読解支援のためのファイルと関連要素の縮小表示を用いるナビゲーション機能
○後藤洋二朗，梅澤　猛，大澤範高（千葉大）
2　コールグラフに基づくメソッド名の分散表現の獲得
○米内裕史，早瀬康裕，北川博之（筑波大）
3　C ソースコード変更時の影響波及範囲の解析と可視化
○高柳寛樹，福原和哉，猪股俊光，杉野栄二，今井信太郎，新井義和，成田匡輝（岩手県大）
4　難読化されたプログラムの自動解析への耐性に関する考察
○西　陽太，神崎雄一郎（熊本高専），門田暁人（岡山大）
5　コードメトリクスを用いたソースコード評価に基づくプログラミング学習支援システム
○伊藤瑠哉，大平茂輝，長尾　確（名大）
6　複数組織によるソフトウェア開発において品質を低下させるソースコードの特徴の調査
○石塚　凌，津田直彦，鷲崎弘宜，深澤良彰（早大），保田裕一朗，杉村俊輔（小松製作所）
7　システム障害対処のための web 検索支援手法の提案
○西澤　玄（慶大），名倉正剛（日大），高田眞吾（慶大）
8　バグレポートの検索性向上のための機械学習による文章単位の自動ラベリング
○野寄祐樹，鷲崎弘宜，深澤良彰（早大），鹿糠秀行，大島敬志，土屋良介（日立）
9　多目的最適化手法を用いたテストケース優先度決定手法
○ SHICHONG YUAN，岸　知二（早大）

学生セッション［3J 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
ソフトウェア形式検証とテスト　　座長　新原　敦介（日立）

1　要求分析段階におけるモデル検査技術を用いた設計制約検証の自動化
○池田彩恵，松浦佐江子（芝浦工大）
2　SMT ソルバを用いた仕様に関する定理の証明とソフトウェア開発への応用
○小松秀生，岡本圭史（仙台高専）
3　テンプレートに基づく線形時相論理式の生成手法
○駱　煒賓，鷲崎弘宜，深澤良彰（早大）
4　形式手法 B Method における高信頼細粒度部品の粒度の提案
○高橋宏夢，織田　健（電通大）
5　形式的ソフトウェア部品生成のための実装抽出手法
○叶野英俊，織田　健（電通大）
6　モジュール構造を考慮した形式的細粒度部品の提案
○横山　仁，織田　健（電通大）
7　IoT におけるエッジ側アクセス規制のセキュリティ検証
○矢島大嗣，岸　知二（早大）
8　IoT システムのゲートウェイにおける実行履歴を利用した運用プロファイル生成手法
○中村将仁，岸　知二（早大）
9　Travis Torrent を分析することで得られた「継続的インテグレーション (CI) ツール」の利用状況
○南雲宙真，本田　澄，鷲崎弘宜，深澤良彰（早大）

学生セッション［5J 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
ソフトウェア要求仕様と開発支援　　座長　西薗　和希（野村総研）

1　リスクワードに着目した要求仕様書の高品質化に関する一考察
○中村優作，高橋宏季，位野木万里（工学院大）
2　シナリオに出現する振る舞い用語の出現パターンを用いた要求仕様書の検証手法の提案
○木村圭佑，高橋宏季，位野木万里（工学院大）
3　貢献度を用いた共通ゴール判別手法の提案
○木村健太，岸　知二（早大）
4　属性付きゴール指向要求分析法における属性値情報の視覚化による要求定義の支援
○今田侑那，奥野　拓（はこだて未来大）
5　人と高度自動化システムの協調モデルに基づく安全性要求分析方法の提案と先進運転支援システム (ADAS) への適用評価
○松原百映，青山幹雄（南山大）
6　要求分析と設計間のトレーサビリティ確保のための UML 変換ツール
○吉野魁人，松浦佐江子（芝浦工大）
7　MDA アプローチを適用したスマートフォン・アプリケーション・プロトタイプ自動生成手法
○張　唅宇，岸　知二（早大）
8　深層学習を用いた Web API 仕様書のモデル化方法の提案と評価
○永井利幸，加納辰真，青山幹雄（南山大）
9　ソフトウェア開発 PBL におけるコミュニケーション支援に関する Systematic Literature Review
○宮下弓槻（東京学芸大），田中昂文（農工大），櫨山淳雄（東京学芸大）

学生セッション［6J 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
計算モデルとプログラミング　　座長　日高　宗一郎（法大）

1　高水準言語を用いた量子回路生成手法の提案
○小松拓夢（金沢大）
2　区間演算ライブラリ MPFI を用いた実数計算ライブラリ IFN-H の記憶領域管理を Haskell のみで記述した設計と実装
○余頃花純，川端英之，弘中哲夫（広島市大）
3　定理証明支援系 Coq と連携した証明木表示機能の設計と実装
○木村麻衣（広島市大），田中雄太（関電システムソリューションズ），川端英之，弘中哲夫（広島市大）
4　効率的なコンピュータグラフィック開発のための論理型プログラミング言語 tsubaki の開発と実装
○中村　航（北九州高専）
5　Liquid - 非同期一階関数による並行計算体系
○諏訪重貴，福田浩章，篠埜　功（芝浦工大）
6　グラフ書換え系モデル検査における差分適用グラフ同型性判定手法の導入
○坂爪裕也，上田和紀（早大）
7　階層グラフ書換え言語 LMNtal の表現力向上に向けたパターンマッチングモデルとその実現
○齋藤諒人，上田和紀（早大）

8　グラフ書換え系言語 LMNtal におけるパターンマッチングの実行時最適化
○柳川峻広，上田和紀（早大）
9　Incremental Pattern Matching による階層グラフ書換え言語 LMNtal の高速化
○松澤　望，上田和紀（早大）

学生セッション［7J 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
プログラミング　　座長　寺内　多智弘（早大）
1　タブレット DB とハッシュチェインを用いたイメージデータ収集システム
○童　　磊，小林　洋（東海大）
2　スケーラブルなエッジ指向 IoT アーキテクチャの提案と評価
○濱野真伍，青山ミキオ（南山大）
3　作業手順伝達文書の記述能力とプログラミング修得過程との関係調査に関する研究
○鵜飼　凌，太田　剛（静岡大）
4　Scala 向けの差分解析アルゴリズム
○文　海辰，趙　建軍（九大）
5　SNS ベースの遊休資産貸借管理システムに関する提案
○佐藤碧生，成田匡輝，杉野栄二，今井信太郎，新井義和，猪股俊光（岩手県大）
6　抽象構文木の双方向変換によるコードクローン管理に向けて
○相原崇弘，日高宗一郎（法大）
7　C++ における型制約用メタ関数の簡略化
○滝　直也，森山甲一，武藤敦子，犬塚信博（名工大）
8　Python 標準ライブラリ関数の Ruby への自動変換
○多田悠太朗，松原俊一，Martin Duerst（青学大）

学生セッション［1K 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
数理モデル化と問題解決（1）　　座長　庄野　逸（電通大）
1　最大次数が未知の多項式回帰におけるスパース推定
○井上一磨，須子統太（早大）
2　誤ラベルを含むデータ集合を用いた統計的機械学習
○鈴木美香，安田宗樹（山形大）
3　スパース化された隠れ変数を持つ制限ボルツマンマシン
○横山悠貴，安田宗樹（山形大）
4　航空会社の価格戦略の分析
○飯田智基，佐藤彰洋（京大）
5　深層強化学習を用いた投資戦略の構築
○常井祥太，穴田　一（東京都市大）
6　サケのふ化放流データの学習に関する検討
○小林賢哉，佐藤寛己，塩谷浩之（室蘭工大），春日井潔（北海道立総合研究機構）
7　河川水中大腸菌数予測のための符号制約回帰分析
○黒岩祐有美，下山愛祐美（群馬大），佐野大輔（東北大），加藤　毅（群馬大）
8　宿泊施設のビュッフェを対象とした重回帰分析による料理別消費量の予測
○横山　新，奥野　拓（はこだて未来大）

学生セッション［2K 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
数理モデル化と問題解決（2）　　座長　庄野　逸（電通大）
1　他個体を参照した進化的計算による巡回セールスマン問題の解法
○佐藤豊浩，穴田　一（東京都市大）
2　モジュラー建築ユニットの返却時期を予測する決定木の GA による精度向上
○舟久保龍成（東京都市大），土屋直樹（三協フロンテア），スティーヴェン クレイネス，大谷紀子（東京都市大）
3　セルラー無線通信の固定チャネル割り当てのための突然変異としてローカルサーチを取り入れた遺伝的アルゴリズムの提案
○高橋咲智，北道淳司（会津大）
4　棄権の選択肢を持ったプレイヤにおける少数派ゲーム
○水上健人，大島佐知子，菱山玲子（早大）
5　囚人のジレンマゲームのシミュレーション解析 - 協力戦略の可能性 -
○原田凌太，中桐斉之（兵庫県大）
6　自律ロボットの実時間強化学習
○太田悠介，ピトヨ ハルトノ（中京大）
7　利便性を考慮した力学系に基づく複数経路探索
○櫻場悠之，須貝康雄（千葉大）
8　Analyzing the Navigation Behavior and Generating the Operational Profile-based Test Technique in the VR Tourism Systems using Formal Verification and Modeling Tools
○ Amit Batajoo（Shinshu University），Yojiro Harie，Katsumi Wasaki（Shishu University）

学生セッション［3K 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
数理モデル化と問題解決（3）　　座長　松田　健（長崎県立大）
1　OI 包摂に基づくネットワークパターンマイニングアルゴリズムの効率的実装
○森　遼太，武藤敦子，森山甲一，犬塚信博（名工大）
2　個人の嗜好と情報カテゴリを考慮した情報発信モデルによるウェブリンク構造生成
○熊澤健人，中平勝子，北島宗雄（長岡技科大）
3　異種ネットワークの結合とノード視点に基づくコミュニティ抽出
○片岡拓弥，須貝康雄（千葉大）
4　SNS のコミュニケーションを考慮した学級集団ネットワーク形成モデル
○内藤昂佑，加藤昇平（名工大）
5　会話相手の話題に関する好みを考慮した学級モデル
○吉田達矢，穴田　一（東京都市大）
6　普通列車を対象にした制約付き最長距離経路探索の考案
○谷口雄大，猪俣俊光，杉野栄二，成田匡輝，今井信太郎，新井義和（岩手県大）
7　ハンドボール競技におけるセットオフェンス内でのプレーパターンの抽出と分類に関する研究
○樋田明史，相場　亮（芝浦工大）

学生セッション［5K 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
数理モデル化と問題解決（4）　　座長　安田　宗樹（山形大）
1　列車運行ダイヤを考慮した鉄道乗りつぶしのための旅行プランの生成
○亀田遼希，大谷紀子（東京都市大）
2　語句の関係性に着目した SNS 投稿の真偽分類の検討
○牛込龍太郎（中大／ NICT），松田　健（長崎県立大），園田道夫，趙　晋輝（中大）
3　攻撃データ以外の特徴による OS コマンドインジェクション攻撃の可視化
○姜　　雨（中大），松田　健（長崎県立大），牛込龍太郎，園田道夫，趙　晋輝（中大）
4　ラウンドアバウトにおける歩行者用信号機による交通流への影響
○黒岩妃呂，藤岡　薫（福岡女子大）
5　公平性を考慮した麻酔科医スケジューリング問題に関する一検討
○山中悠介，沖本天太，平山勝敏（神戸大）
6　体内水分量を考慮に入れた無拘束膀胱内蓄尿量予測のためのモデル提案
○渋江直樹，栗原陽介，鏑木崇史（青学大）
7　猿の受信信号のラベリングとその確率分布の比較の有意性の検証
○安田善紀（静岡大）

学生セッション［6K 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
アルゴリズム　　座長　荒木　徹也（首都大）
1　k-anonymity with h-outlier
○ DULAMDARI BATBAYAR，中野眞一，宮田洋行（群馬大）
2　k- 外平面的グラフの angular resolution
○小島大輝，中野眞一，宮田洋行（群馬大）
3　ZDD を用いた集合分割の族の表現法
○高橋翔哉，湊　真一（北大）
4　グラフに含まれる大きな内周を持つ部分グラフの効率良い列挙
○栗田和宏（北大），Alessio Conte（Università di Pisa），和佐州洋，宇野毅明（NII），有村博紀（北大）
5　歩行者のいる通路におけるロボットの経路計画
○中島巧乃（中大），森口昌樹（明大），今井桂子（中大）
6　折り畳んだ後の領域を考慮した三次元物体の折り畳み手法
○島津貴行（中大），森口昌樹（明大），今井桂子（中大）

7　レベル差を持つ Linear Quadtree を用いた隣接領域コードの計算に関する研究
○吉田尚人（島根大）
8　高速に類似文字列ペアを発見するビット並列フィルター
○山田太樹，清水佳奈（早大）

第 1 分冊　（データとウェブ）

一般セッション［4B 会場］（3 月 14 日（水）13:20 ～ 15:20）
IFAT/DCC　座長　蔵川　圭（NII）

1　全天球映像処理を伴うクラウド分散型インターネットライブ放送システムの設計と実装
○義久智樹，松本　哲，石　芳正（阪大），川上朋也（奈良先端大），寺西裕一（NICT）
2　小規模構成で実施可能な大量ツイート分析手法の提案 (1) ―「バルス」ツイートを対象とした収集方法検証
○松浦智之，當仲寛哲（USP 研），大野浩之（金沢大）
3　小規模構成で実施可能な大量ツイート分析手法の提案 (2) ―「けものフレンズ」ツイートを対象とした分析方法検証
○松浦智之，當仲寛哲（USP 研），大野浩之（金沢大）
4　観光情報システムの言語バリアフリー化
○阿部真也，三木大輔（都立産業技術研究センター），山本佳世子（電通大）
5　確率的な再サンプリング法に基づく非線形系に対する相関係数計算
○佐藤　哲（NHN テコラス）

一般セッション［5B 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
DB システムと応用　座長　天笠　俊之（筑波大）

1　降雨情報に関する防災指向型合成手法の提案
○佐野仁美，生駒栄司（東大），小口正人（お茶の水女子大），喜連川優（NII）
2　顧客との合意形成を加速するシミュレーションデータ分析技術の開発
○前田太一，加藤　学（日立）
3　ウェブデータ分析による飲食店提案サービス”OAISO”の提案 - 大都市における多様な飲食店情報の簡易提示に関する考察 -
○中野美由紀，大野隼一，神原嘉人，五藤大介，杉中宏亮，須田真彦，曽根啓佑（産業技術大）
4　Twitter における肌色修飾子利用状況の調査
○若山公威（名古屋外国語大）
5　PostgreSQL の NoSQL データベース GridDB との連携
○片山大河，廣瀬繁雄，望月翔平，金松基孝（東芝）
6　メーターデータ向け時系列データの格納方式
○小川康志，松浦陽平（三菱）

学生セッション［7K 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
SNS　座長　北山　大輔（工学院大）

1　投稿場所に着目したソーシャルメディア上の情報拡散の分析
○落合　涼，伊與田光宏（千葉工大）
2　訪日外国人の趣向に合わせたイベント情報配信のためのソーシャルストリームの解析
○今井美希（お茶の水女子大），榎　美紀（日本 IBM），小口正人（お茶の水女子大）
3　SNS データを用いた場所と時間に対応する情報配信のためのイベント名取得手法
○工藤瑠璃子（お茶の水女子大），榎　美紀（日本 IBM），中尾彰宏，山本　周（東大），山口実靖（工学院大），小口正人（お茶の水女子大）
4　放送中に投稿された Tweet を用いた TV 番組の推薦
○野津貴之，若原　徹（法大）
5　感動詞の共起に着目した災害 tweet 抽出手法
○湯沢昭夫，小林亜樹（工学院大）
6　ジオタグ付ツイートの多言語類似性に基づく Venue 推薦システムの検討
○白数紘之，先原進之介，中岡佑輔，河合由起子，スリラヤ パノッテ（京産大），ヤトフト アダム（京大）
7　類語の違いを考慮した地域推定に関する研究
○中村竜也（関西大），加藤　諒（京都橘大），山本雄平（関西大），中村健二（阪経大），田中成典，坂本一磨（関西大）
8　（講演取消）

学生セッション［2L 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
IFAT/DCC（1）　座長　義久　智樹（阪大）

1　VR 空間でモーションキャプチャデータを直感的にアーカイブ・検索する手法
○辻夢加理（東京工科大），川島基展（ももも ワークス），早川大地（東大），近藤邦雄（東京工科大）
2　力覚装置を用いたイラスト描画練習支援システムの開発
○鈴木浩平，加納　徹，竹島由里子（東京工科大）
3　複数の全方位映像と HMD を用いたマルチアングル観覧システム
○千崎颯大，橋本浩二（岩手県大）
4　加速度センサーを用いたスマートフォンのためのデジタルマンガコンテンツ開発
○畑澤萌絵，佐々木茂（帝京大），田中誠一（文星芸術大）
5　ヘッドマウントディスプレイで閲覧するデジタルマンガコンテンツの開発
○山岡弥隼,阿由葉拓希,佐々木茂（帝京大）,田中誠一（文星芸術大）
6　手話 CG Wiki における動作の簡略入力手法の提案
○山口達也，村松大輔，澤野弘明（愛知工大），石井成郎（愛知きわみ看護短期大），鈴木裕利（中部大），酒向慎司（名工大）
7　図書館を対象とした書籍との偶然の出会いを演出するための統合的探索システムの提案
○須崎信伍，相場　亮（芝浦工大）
8　光学シースルー AR を用いた食品サンプルの表示に関する検討
○山川　亮，盛川浩志，小宮山摂（青学大）
9　Blender を用いて炊き立てご飯の写実的な描画
○甘　暁博，木村彰徳（足利工大）

学生セッション［4L 会場］（3 月 14 日（水）13:20 ～ 15:20）
DB システム　座長　中野　美由紀（産業技術大）

1　インメモリ・データ圧縮処理を備えた大規模センサネットワーク用分散型データベース
○安達成一，宮崎敏明（会津大）
2　社会センサデータ生成・共有基盤におけるストリーミングデータ処理機構
○中嶋奎介，横山正浩，義久智樹，原　隆浩（阪大）
3　予測分析を可能とするストリーム OLAP 分析フレームワーク
○中川遼太郎，北川博之，塩川浩昭（筑波大）
4　グラフ集約に基づく RDF データに対する OLAP 分析
○仁木美来，天笠俊之，駒水孝裕，北川博之（筑波大）
5　配列 DBMS における空間スキャン統計量の計算手法
○安田健人，河井悠佑，趙　セイ，杉浦健人，石川佳治（名大）
6　クラスタ化された KVS におけるポーリング頻度の検討
○児玉　大，藤田　聡（広島大）
7　オブジェクトストレージにおけるオブジェクト数と性能に関する一考察
○早川峻平，山口実靖（工学院大）
8　クラウドソーシング実行計画におけるタスクキャッシュの利用方式
○鈴木裕亮，森嶋厚行，松原正樹（筑波大）

学生セッション［5L 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
IFAT/DCC（2）　座長　大瀧　洋子（日立）

1　複数の SNS を用いた記憶想起の支援
○村上龍太郎，村上晴美（阪市大）
2　SNS ユーザの在住地域性に基づく POI 抽出および画像 SNS によるナビの提案
○深谷大樹，林家悠衣，河合由起子，スリラヤ パノッテ，秋山豊和（京産大）
3　CRF を用いたブログ記事からの品名・店名抽出
○池田流弥，長尾哲志，安藤一秋（香川大）
4　Twitter からの土産に関するレビュー情報の抽出
○真辺　諒，長尾哲志，安藤一秋（香川大）

5　小学校における NIE のための Web ニュース記事を補足する画像コンテンツの検索
○村田真澄，安藤一秋（香川大）
6　Web サイトを意味的内容の一致度合により分類する手法の検討
○吉田奏子，寺澤卓也（東京工科大）
7　がん患者やその近親者の闘病ブログに記述される悩みの自動分類
○下元健吾，安藤一秋（香川大）
8　知識ベース型推薦を用いたフードツーリズム支援システムの構築
○三好良弥，奥野　拓（はこだて未来大）
9　子供 Web コーパス構築のための子供向けページ判定法
○佐藤倫太郎，泉川洸一郎，安藤一秋（香川大）

学生セッション［6L 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
データ解析　　座長　小林　亜樹（工学院大）

1　漸進的な集約ネットワーク距離計算と最短経路キャッシングに基づく地理情報検索アルゴリズム
○中山泰宏，佐藤秀樹（大同大）
2　SSN オントロジに基づくエッジ側での効率的な IoT データフィルタリング手法
○徐　運康，岸　知二（早大）
3　Web 検索による余談抽出に基づく穴埋め問題生成システム
○大貫　颯，北山大輔（工学院大）
4　大規模グラフに対する逐次的なノードの枝刈りを用いた RankClus の高速化
○山崎耕太郎，佐藤朋紀，塩川浩昭，北川博之（筑波大）
5　生体データ解析における GAN を用いたデータ処理
○住谷雄樹，堀江和正，塩川浩昭，北川博之（筑波大）
6　RDB の構造を考慮したデータベースからの学習手法について
○志村　薫，石川佳治，杉浦健人（名大）
7　大規模データ分析のための可視化手法に関する検討
○野田昌太郎，河井悠佑，趙　セイ，杉浦健人，石川佳治（名大）
8　Web アンケートデータを用いた分布推定における信頼性向上手法に関する一考察
○佐藤真悟，岡野拓巳，戸次　陸，杉本瑛生，國安裕太，須子統太（早大）
9　Linked Data を用いた理論グリッドの構築 - 公理的集合論の形式理論フラグメントを用いた事例研究
○佐久間亜都武，後藤祐一，高　宏彪，程　京徳（埼玉大）

学生セッション［7L 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
DB 応用　　座長　新谷　隆彦（電通大）

1　没入型 VR を用いた情報伝播の可視化システムの試作
○栗原衆太，尾崎知伸（日大）
2　没入型 VR 空間上での大規模ハッシュタグデータセットの可視化
○島村　遼，尾崎知伸（日大）
3　写経学習における習熟度と視線情報の関係分析
○田中竜馬，尾崎知伸（日大）
4　ブックレビューからの閲覧者の視点に沿ったレビュー文の抽出手法
○寺尾建登，藤田　聡，亀井清華（広島大）
5　ホテル予約サイトのための口コミ作成支援システムの提案
○松本　翼，亀井清華，房　冠深（広島大）
6　科目推薦のための doc2vec の応用方法の検討
○竹森汰智，亀井清華（広島大）
7　情報過多の改善を目的とした地域情報アプリの開発とその有用性評価
○浜野優介，飯島泰裕，上野　亮（青学大）
8　twitter を用いたリアルタイム実況システムの提案
○三輪将吾，小高知宏，黒岩丈介，諏訪いずみ，白井治彦（福井大）

学生セッション［1M 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
IFAT/DCC（3）　　座長　水野　慎士（愛知工大）

1　ポスター広告におけるスタイル要素と注目度の相関分析
○大橋春奈，加納　徹，竹島由里子（東京工科大）
2　スピーチにおける話し方と聴衆の興奮度の可視化
○吉澤晃太朗，加納　徹，竹島由里子（東京工科大）
3　大規模イベントにおける現地ツイートを用いた混雑状況可視化システムの提案
○山﨑裕太郎（電機大），福原知宏（マルティスープ／電機大），山田剛一，増田英孝（電機大）
4　SNS の特性を活かしたリレー小説を創作する仕組みの研究
○松永健太朗，藤澤公也（東京工科大）
5　詳細情報を追加した郷土食による地域理解支援システム「もちマップ」の試作
○河村郁江，伊藤孝行（名工大）
6　デジタルサイネージによる商店街活性化に関する一考察
○日下部将，飯島泰裕，上野　亮（青学大）
7　SNS コミュニティを対象としたコミュニティユーザー間の発言内容からコミュニティに有益な広告を出稿する支援サービスの提案と実験環境の構築
○妹尾千勢，上林憲行（東京工科大）
8　聴覚アテンションを基軸とした広告サービス
○柳田隼佑，上林憲行（東京工科大）
9　選手とボールの位置情報に基づく多視点サッカー映像提示法の検討
○岡田庸佑，宍戸英彦，亀田能成，北原　格（筑波大）

第 2 分冊　（人工知能と認知科学）

一般セッション［7B 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）

自然言語処理　座長　白井　匡人（島根大）

1　深層学習を用いた摘要情報と伝票項目の対応付けによる伝票の検索精度の向上
○藤原　新，石野　明（ワークスアプリケーションズ）

2　ユーザ制約付き独立話題分析における制約の簡略化
○西垣貴央，山本健太，小野田崇（青学大）

3　トピックモデルを用いた潜在的関連性を考慮した情報検索
○矢田一貴，木下宏揚，森住哲也（神奈川大）

4　医学生物学文献からの数値情報抽出における教師データ削減の検討
○大瀧洋子，木戸邦彦，加藤千昭（日立），久保田一石，安松　勲（第一三共 RD ノバーレ）

5　新語の獲得に対応した概念ベースの構築
○三品賢一，土屋誠司，渡部広一（同志社大）

6　読み書き行為の時間的・手順的な共起に基づく自然言語処理の提案
○山口　琢（無所属），大場みち子（はこだて未来大），藤原　亮（函館高専），高橋慈子（ハーティネス），小林龍生（スコレックス）

一般セッション［1C 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）

知能システム　座長　福田　直樹（静岡大）

1　識別に悪影響を及ぼす変数の推定･影響排除が可能な Autoencoder ベース識別器の提案
○石井良尚（豊田中央研究所）

2　脳を模倣した学習器群による鏡像自己認識機構の獲得
○南　宇人，本谷康平，水山　遼，西田圭吾，内田貴久（阪大），廣芝和之（ドワンゴ），天野　薫（NICT）

3　Variational Autoencoder を用いたマルチモーダル情報の統合
○青木達哉，長井隆行（電通大）

4　Using Expert Knowledge to Alleviate the Lack of Data in Predictive Analytics: A Case Study of Estimating Electronic Components Failure Rate
○ Matthieu Parizy，山本達也，池田　弘，松岡英俊（富士通研）

5　機械学習アルゴリズムを応用したプラントコストエンジニアリングサポートシステムの構築
○古河昌史，中谷祐介（サイバー大）

6　集合知を用いたメカニズム設計の検討
○櫻井祐子（産総研），小山　聡（北大）

7　（講演取消）

一般セッション［2C 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）

コンピュータビジョン　座長　渡辺　裕（早大）

1　形状事前分布を利用した 3D 形状復元アルゴリズムの開発
○広瀬　修（金沢大）

2　画面均衡の原理と数値化方法に関する研究
○満　　柏（日中水墨協会）

3　一人称視点映像を用いた人間の視覚モデルに基づいた視線推定の検討
○大井　翔，佐野睦夫（阪工大），田渕　肇，斎藤文恵，堀込俊郎，梅田　聡（慶大）

4　監視カメラ俯瞰合成映像における人物消失回避方式の検討
○深澤　司，岡原浩平，古木一朗，阿倍博信（三菱）

5　大規模・高解像度のリアルタイム監視を実現する映像内容適用型のデータ選別手法
○岩松洋介，有熊　威，北野貴稔（NEC）

6　条件付き AutoEncoder による書き癖抽出手法の提案
○細江麻梨子（岐阜県警察本部刑事部科学捜査研究所），山田智輝，加藤邦人，山本和彦（岐阜大）

7　（講演取消）

一般セッション［5C 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）

音楽情報処理　座長　平田　圭二（はこだて未来大）

1　音楽聴取による感動の生起メカニズムを探る
○安田晶子，黒澤　駿，増田有紀，小方博之（成蹊大）

2　時間周波数分解能の異なる 2 つのスペクトログラムに対する並列 NMF を用いた演奏詳細解析
○保利武志，中村和幸，嵯峨山茂樹（明大）

3　不完全な四声体を補完するための n-gram による和声系列生成アルゴリズム
○ Christoph Matthias Wilk，伊藤綜耶，嵯峨山茂樹（明大）

4　不完全な四声体を補完するための HMM による自動ヴォイシングアルゴリズム
○伊藤綜耶，嵯峨山茂樹，Christoph Matthias Wilk（明大）

5　旋律特徴と楽器特徴に基づく総譜の旋律クラスタリング
○田中大貴，伊藤克亘（法大）

6　ポジション移動に着目した隠れマルコフモデルによる単旋律マンドリンの自動運指決定
○川島佑希奈（明大），堀　　玄（亜大），嵯峨山茂樹（明大）

学生セッション［2M 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）

ゲームと学習　座長　保木　邦仁（電通大）

1　少資源環境下における RocAlphaGo の改良とその棋力検証
○伊藤有人，伊藤　雅（愛知工大）

2　TRAX ゲームの幅制限探索のための盤面評価手法の検討
○西尾和朗，泉　知論，広江友哉（立命館大）

3　数独エントロピーを用いた数独ソルバーの高速化
○小河　遥，井本智明，武藤伸明（静岡県大）

4　ニューラルネットワークを用いた麻雀の捨て牌危険度推定における過学習の影響
○矢ノ口裕貴，篠埜　功（芝浦工大）

5　Improved data structure and deep convolutional network design for haifu data learning in the game of mahjong
○高　世祺，奥谷文徳，水上直紀，川原圭博（東大）

6　畳み込みニューラルネットワークを用いた Profit Sharing によるゲームの学習
○蓮池伸彬，長名優子（東京工科大）

7　マルチプレイヤー協力ゲームにおけるユーザのプレイスタイルを考慮した習熟度向上のための味方エージェントの試作
○藤田眞汐，福田直樹（静岡大）

8　マルチパーティ戦闘ゲームにおけるユーザーからの教示を導入したエージェント学習機構の検討
○筒井壮太郎，福田直樹（静岡大）

9　RoboCupSoccer における実数値 GA を用いたサッカー AI の学習
○水島　諒，穴田　一（東京都市大）

学生セッション［5M 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）

機械学習と知能システム　座長　加藤　毅（群馬大）

1　完全制御型植物工場における最適栽培環境制御則探索のためのベイズ最適化に向けた成長率モデルの検討
○飯塚達哉，中原健一，繁田　亮，川原圭博（東大）

2　階層的自動グループ構成手法による船舶の位置予測
○工藤理人，長尾智晴（横浜国大）

3　自動車購入における検索行動の先行期間を考慮した販売台数の予測
○山口太一（筑波大），角田孝昭（サイバーエージェント），吉田光男（豊橋技科大），津川　翔，山本幹雄（筑波大）

4　オーダーピッキングにおける運搬時の制約を考慮した動的な商品配置
○伊藤佑介，加藤昇平（名工大）

5　為替レートの変動予測システムの提案
○御厨稜太，的場隆一（富山高専）

6　高校・大学野球における応援の影響に関する機械学習を用いた評価
○大越拓実，鈴木麗璽，有田隆也（名大）

7　研究活動支援のための週報管理システムの試作
○安藤力哉，大囿忠親，新谷虎松（名工大）

8　Linked Open Data への容易なアクセス実現のための視覚的な SPARQL クエリ編集・可視化機構の試作
○ Tamirlan Torgayev，福田直樹（静岡大）

9　対話型遺伝的アルゴリズムを用いたオフィスレイアウト支援システム - フロアへの部屋の割り当て案の生成 -
○石川智滉，長名優子（東京工科大）

10　深層学習を用いた剪定技術の再現
○堺　瑞起，的場隆一，小熊　博（富山高専）

学生セッション［6M 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
機械学習（1）　座長　櫻井　義尚（明大）

1　前向き推論エンジンを用いた自動非単調推論 - デフォルト論理における事例研究 -
○伊藤拓也，後藤祐一，程　京徳（埼玉大）
2　Top-k SVM の学習アルゴリズム
○富井和彦，竹内勇気，宇敷卓哉，加藤　毅（群馬大）
3　階層ディリクレ過程による動作クラス数推定を導入した GP-HSMM による連続動作からの基本動作抽出
○長野匡隼，中村友昭，長井隆行（電通大），持橋大地（統数研），小林一郎（お茶の水女子大），金子正秀（電通大）
4　多層パーセプトロンを用いた複数時系列データの効率的な共有潜在空間推定への取り組み
○大山まりほ，小林一郎（お茶の水女子大）
5　（講演取消）
6　Deep Belief Network を用いた Q Learning の実現
○樋貝隼人，長名優子（東京工科大）
7　ニューラルネットワークを用いた強化学習における環境状態の分布を考慮した擬似リハーサルの導入
○辺見航平，服部元信（山梨大）
8　15 パズルのための評価関数のランダムな学習による構成
○伊藤康太，山本修身（名城大）
9　パラメータの自動調整が可能なカオス複素連想メモリ - 多値 (S 値) パターンの S の値を変えた場合 -
○唐鎌大輔，片村紀仁，長名優子（東京工科大）

学生セッション［7M 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
機械学習（2）　座長　金子　正秀（電通大）

1　距離しきい値を自動調整できる ITML 型計量学習法
○大沼由弥，加藤　毅（群馬大）
2　環境センシングを活用したマルチモーダル学習
○橋本和幸，堀川三好，岡本　東（岩手県大）
3　制約付き多目的最適化問題における実行不可能解を用いた指向性交配のための交叉法の提案
○比留間渉（法大）
4　GPU を用いた分散粒子群最適化法の一提案
○高畠和輝，佐藤裕二（法大）
5　並列 ACO による分割統治型 TSP 近似解法
○三島諒亮，原　元司（松江高専）
6　Cuckoo Search を用いた室内レイアウト問題の解法
○澤田和磨，クラウス アランニャ，狩野　均，西尾祐紀（筑波大）
7　探索特性に可塑性を有する進化計算法とそのパラメータ獲得
○畠　崇人，長尾智晴（横浜国大）
8　複数の群れを有する並列 Cuckoo Search による連続値最適化
○河面知定，クラウス アランニャ，狩野　均（筑波大）

学生セッション［1N 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
音楽体験支援　座長　糸山　克寿（京大）

1　ギター初心者のための演奏練習支援システムの提案
○宇田川真唯，植村あい子，北原鉄朗（日大）
2　カラオケのためのハモリパート練習システム～ハモリパートの自動生成および練習支援システムの試作～
○白石美南，小笠原梢，北原鉄朗（日大）
3　カラオケのためのハモリパート練習支援システム～試作システムを用いた被験者実験の報告～
○小笠原梢，白石美南，北原鉄朗（日大）
4　エレキギター演奏におけるミスの自動検出
○下尾波輝，矢谷浩司（東大）
5　HMD を用いたヴァーチャルなドラム演奏環境の試作
○蓮井星良，石山俊之，北原鉄朗（日大）
6　身体動作による即興合奏支援システムにおける伴奏音決定機構の試作
○石川亮太，白松　俊，一ノ瀬修吾，水野創太（名工大）
7　歌唱における発声タイミングのずらし時間抽出と発声タイミングモデルの提案
○藤田千尋，竹川佳成，平田圭二（はこだて未来大）
8　ハーバードビート評価テスト iOS アプリケーションの開発と妥当性の検証
○今野　嶺，藤井進也（慶大）
9　合いの手「PPPH」が入る楽曲の特徴に関する一分析
○甚野健太，大野涼平，北原鉄朗（日大）

学生セッション［2N 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
楽曲の生成・編曲・分析　座長　深山　覚（産総研）

1　機械学習を用いたテレビドラマ音楽の自動生成
○遠野大輔，横山真男，植木一也（明星大）
2　木構造モデルに基づくコードとメロディの対話的生成システム
○津島啓晃，糸山克寿，吉井和佳（京大）
3　（講演取消）
4　遺伝的アルゴリズムを用いたバラードの自動作曲
○石田和也，長名優子（東京工科大）
5　遺伝的アルゴリズムを用いた歌詞を考慮した自動作曲
○木村　圭，長名優子（東京工科大）
6　遺伝的アルゴリズムを用いたゲームの戦闘曲の生成
○齋藤優太，長名優子（東京工科大）
7　（講演取消）
8　対話よるムード推定に基づく楽曲推薦エージェントの開発
○角田拓己，大囿忠親，新谷虎松（名工大）
9　楽譜データに基づく、楽曲の特徴抽出と分析
○米倉弥伸，藤井章博（法大），清水宏泰（シミズウェブワークス），脇　綾汰（法大）

学生セッション［3N 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
AI と音楽情報処理　座長　藤島　琢哉（ヤマハ）

1　VAE を事前分布とする NMF を用いた音楽音響信号に対するドラム譜推定
○上田　舜，坂東宜昭，糸山克寿，吉井和佳（京大）
2　Factorial HSMM に基づく音楽音響信号に対するリード・リズムギター譜推定
○柴田健太郎，坂東宜昭，尾島優太，錦見　亮，糸山克寿，吉井和佳（京大）
3　ニューラルネットワークを用いた音楽ゲーム譜面自動生成の検討
○柴崎大地，酒井　充，丸山　博（富山大）
4　変分オートエンコーダーを用いた多重音解析の性能評価
○森口寛生，大村英史，桂田浩一（東理大）
5　WaveNet を用いた音符系列に対する歌唱 F0 軌跡の生成
○和田雄介，糸山克寿，吉井和佳（京大）
6　Quad-directional LSTM を用いた音楽音響信号修復とその評価
○谷口亮輔，干場功太郎（東工大），中臺一博（東工大／ホンダ RIJ）
7　音楽音響信号の階層的クラスタリングを用いた GTTM タイムスパン木の抽出法について
○澤田　隼，竹川佳成，平田圭二（はこだて未来大）
8　VAE を用いたメロディのモーフィング
○村田　叡，坂東宜昭，糸山克寿，吉井和佳（京大）

学生セッション［5N 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
インタラクションとその応用　座長　大知　正直（東大）

1　文の意味を考慮した音声の感情認識
○加藤涼太，長名優子（東京工科大）
2　相手の感情の影響を考慮した感情生成システム
○朴　秀完，長名優子（東京工科大）
3　概念・言語獲得モデルに対する構成論的解析 - 概念形成過程における育児語の影響 -
○船田美雪，中村友昭，長井隆行，金子正秀（電通大）
4　コンテクスト推定に基づいて予測的認知を誘発する非自然言語エージェント
○奥岡耕平，大澤正彦，今井倫太（慶大）

5　時系列マルチモーダル情報の分節・分類に基づくロボットによる概念の学習
○布川遼太郎，宮澤和貴，中村友昭，長井隆行，金子正秀（電通大）
6　統合認知モデルによるロボットの概念・行動・言語の学習
○宮澤和貴，堀井隆斗，日永田智絵，青木達哉，中村友昭，長井隆行（電通大）
7　RNN を備えた二台ロボット間インタラクションの複雑性解析
○澤　弘樹，山田竜郎，村田真悟，森　裕紀，尾形哲也，菅野重樹（早大）
8　分節化による行動の抽出とその相互関係の推定に基づくインタラクションのモデル化
○押川　慧，中村友昭，長井隆行（電通大），船越孝太郎（京大），岩橋直人（岡山県大），金子正秀（電通大）
9　相手の様子を理解して対話するヒューマノイドロボット
○明石　航，内田啓太，谷津元樹，原田　実（青学大）

学生セッション［6N 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
深層学習による画像処理　座長　山口　光太（サイバーエージェント）

1　深層学習における推論過程の可視化の検討
○鈴木　航，孟　　林，山崎勝弘（立命館大）
2　Lenet-5 における学習ネットワークの分析
○山城海人，廣津登志夫（法大）
3　Visual Explanation for Video from Recurrent Neural Networks via Gradient-Based Localization
○山下直也，岩橋直人（岡山県大），中野聖也，坂井孝光，濱野光憲（アイシン・エィ・ダブリュ）
4　（講演取消）
5　GAN を用いたマルチモーダル情報の生成
○藤元　陸，日永田智絵，堀井隆斗，宮澤和貴，長井隆行（電通大）
6　セファログラム分析の自動化のための深層学習を用いた特徴点検出とシステム実装
○丹田　尋，伊藤孝行（名工大）
7　パーツ分離型敵対的生成ネットワークによる髪型編集手法
○夏目亮太，谷田川達也，森島繁生（早大）
8　テーマパークの楽しみ方推薦を目的とした画像付きツイートの自動分類の試み
○土筆勇都（電機大），福原知宏（マルティスープ／電機大），山田剛一，増田英孝（電機大）
9　顕著情報を加えた DCNN による高山植物認識システム
○根岸知誠，服部元信（山梨大）

学生セッション［7N 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
ロボットと知能システム　座長　森　裕紀（早大）

1　AHP に着想を得たゼロショット行動認識手法の一検討
○豊増聖実，佐藤公治，藤波香織（農工大）
2　参照点と操作対象に依存した GP-HSMM によるロボットの動作学習
○岩田健輔，長井隆行，中村友昭，青木達哉（電通大）
3　Deep Q Network による人型ロボットの把持動作選択
○中村郁仁，原田　実，谷津元樹（青学大）
4　神経回路モデルを用いたプリミティブの階層的学習
○安田伊慶，西出　俊，康　シン，任　福継（徳島大）
5　複数神経回路モデルの部分共有による複数同時動作の学習とロボットへの応用
○中島佳昭，加瀬敬唯，中條亨一，尾形哲也（早大／産総研）
6　深層強化学習によるロボットの無報酬な環境の探索
○妹尾卓磨，大澤正彦，今井倫太（慶大）
7　移動ロボットのセンサ計測可能範囲を考慮した経路生成
○闕　道人，羽田靖史（工学院大）
8　深層強化学習ロボットの実仮想環境統合フレームワークへ向けた検討
○小林賢一，辻　順平，能登正人（神奈川大）

学生セッション［1P 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
深度画像の生成・解析　座長　河合　紀彦（奈良先端大）

1　機械学習による RGB 画像からの距離画像の生成
○佐藤颯人，田村　仁，檜山正樹，入江　俊，仲田　仁（日本工大）
2　カテゴリ情報に基づいた 3 次元形状の自動生成
○曹　　旭，長尾　確（名大）
3　多視点画像を用いたアンティークミシンの 3 次元モデル生成
○高橋　翔，清水郁子（農工大）
4　ディープラーニングによる距離画像合成と距離画像データセットの取り扱い
○入江　俊，田村　仁（日本工大）
5　Deep Learning を用いた深度画像からの 3D コンテンツの自動生成
○楊　夢龍，長尾　確（名大）
6　深度情報を用いた曲がった節類のピッキング位置推定
○小林雅弥，栗原　徹（高知工科大）
7　倒壊家屋検出のための航空レーザ測量データ分析法
○國武千人，岩切宗利（防衛大），榊原庸貴，望月貫一郎（パスコ）
8　CNN を用いた広域空撮画像からの高密度 DSM 推定
○國武千人，岩切宗利（防衛大），榊原庸貴，望月貫一郎（パスコ）

学生セッション［2P 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
医療・福祉　座長　小嶋　和徳（岩手県大）

1　Kinect を用いた遮蔽に頑健な転倒検出手法に関する一考察
○榎村昭宏，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）
2　（講演取消）
3　認知リハビリテーション支援システムための掃除行動認識手法の検討
○兒島宏樹，大井　翔，佐野睦夫（阪工大）
4　Fully Convolutional Network による整形外科手術の診断技術獲得
○関村匠斗，加藤　徹，高橋弘毅，土井章男（岩手県大），馬渡太郎（浜の町病院），一戸貞文（岩手医科大付属花巻温泉病院）
5　骨髄画像による白血病の症例分類
○米田裕哉，長尾智晴（横浜国大），神尾　直（自治医科大付属さいたま医療センター）
6　検便検査における画像分割による有害菌判別の精度向上
○山崎佑磨，小嶋和徳，伊藤慶明（岩手県大）
7　スマートフォンによる脈波伝播速度の非接触推定システム
○植田哲人，田村　仁，檜山正樹，入江　俊，仲田　仁（日本工大）
8　MAS 方式による病院内トリアージシミュレーションシステム TRISim の可視化機能の実現
○齋藤大誉，海老原若奈，鎌田悠介，小林篤史，古市昌一（日大）

学生セッション［3P 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
VR・AR・MR・知覚（3）　座長　宍戸　英彦（筑波大）

1　自己中心性を持つエージェントの印象評価
○陳　宇丹，大藤聖菜，山内　守，岨野太一，今井倫太（慶大）
2　マルチユーザ VR シミュレーションシステムとその応用
○宮川祐輔，楊　夢龍，長尾　確（名大）
3　LiDAR データと自然特徴を用いた地下空間での浸水情報の AR 表示
○廣瀬　詢，尾崎　平，檀　寛成，窪田　論，安室喜弘（関西大）
4　作業現場における手書きメモの AR システムの提案
○浅井優志，廣瀬　詢，安室喜弘（関西大）
5　全方位映像による仮想化現実世界を介した現実空間と VR 空間の遷移に関する一考察
○桶田真吾，武原　光，河合紀彦，佐藤智和，酒田信親，清川　清（奈良先端大）
6　大きさの異なる複数書籍の包装支援システム
○野口　歩（明星大）
7　Kinect とプロジェクションマッピングを用いたピッキングエラー防止システムの提案
○竹原悠貴，村田嘉利，鈴木彰真，佐藤永欣（岩手県大）
8　（講演取消）

学生セッション［5P 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
自然言語処理（3）　座長　浅原　正幸（国立国語研）

1　蓄積情報からの特徴語抽出に基づく自動要約・提示システムに関する研究
○松林　圭，山下晃弘（東京高専），中村拓哉（調和技研），吉田優之（北海道アルバイト情報社），川村秀憲（北大）
2　マイクロブログを用いた番組推薦に関する研究
○袴田裕紀（東京都市大）

3　英字新聞を利用した多読支援のための学習者の嗜好に基づく記事推薦の検討
○松本大輝，谷本祐次，安藤一秋（香川大）
4　地域情報と類似度を用いた書籍推薦システムの開発
○萱谷勇太，黒田久泰（愛媛大）
5　word2vec を用いたブレインストーミングシステムの提案
○小山琢也，荻野　正（明星大）
6　Word2Vec を用いた単語連想ゲームの試行実践とエンターテイメント分野への応用の検討
○中矢　誠（香川大），野口克洋（漫画家），富永浩之（香川大）
7　Twitter 連携ニュースフィルタリングのためのトピックモデルに基づくユーザの興味の学習
○折本伸之，渥美雅保（創価大）
8　オンラインショップにおける商品レビュー評価値安定性指標の提案
○鈴木愛美，赤石美奈（法大）

学生セッション［6P 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
自然言語処理（4）　座長　大西　貴士（NEC）
1　多段型トピックモデルを用いたアンケート自由記述からの情報抽出
○徐　　闔，湯川高志（長岡技科大）
2　辞書を用いたクラスタリングとその多重ラベル付け
○横沢　薫，三浦孝夫（法大）
3　確率的 TF-IDF を用いた特徴語抽出と文書検索
○三浦大輝，三浦孝夫（法大）
4　Wikipedia からの技術やサービス間の関係抽出
○南川大樹，杉本　徹（芝浦工大）
5　議論スキル向上のための発言の自動評価とその効果的なフィードバック
○岡本康佑，松原茂樹，長尾　確（名大）
6　語意類似度を用いた指示詞の照応解析システム AnasysD
○西念星宝，谷津元樹，原田　実（青学大）
7　ツイートに含まれるイベント名称の自動認識
○佐久間盛貴，町田　翔，延澤志保（東京都市大）
8　因果関係・推移関係コーパスの生成とそれを用いた未来事象の予測
○冨田拓実，那須川里紗，谷津元樹，原田　実（青学大）
9　小説プロット推定のための敵対関係判定に関する基礎研究
○神谷美希，當間愛晃（琉球大）

学生セッション［7P 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
自然言語処理（5）　座長　佐藤　美沙（日立）
1　印象極性による商品レビューの視覚化
○漆原　駿，町田　翔，延澤志保（東京都市大）
2　用法に着目した文中の絵文字の意味推定
○高本健太，町田　翔，延澤志保（東京都市大）
3　複数文からなる文章を対象とした感情分析の研究
○小野太佑（芝浦工大）
4　分野別単語感情極性辞書の作成及び評価
○森田晋也，白井靖人（静岡大）
5　Word Embeddings による特徴ベクトルを用いた文単位の評判分析
○林　俊孝，藤田ハミド，樽松理樹，羽倉　淳（岩手県大）
6　リカーシブニューラルネットワークを用いたセンチメント分析とその日本語文への適用
○赤井龍一，渥美雅保（創価大）
7　日中翻訳のための若者言葉の対訳分析
○何　婉瑩（東京都市大 / 大連交通大），藤田和成，浅沼爽汰（東京都市大），王　美琦，郭　秀景（大連交通大），中島浩平，町田　翔，延澤志保（東京都市大）
8　日常会話翻訳のための日中対訳文の自動推定
○中島浩平（東京都市大），何　婉瑩（東京都市大 / 大連交通大），王　振章，張　文玉（大連交通大），町田　翔，延澤志保（東京都市大）

学生セッション［1Q 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
光線・光源・色彩　座長　川上　玲（東大）
1　ライトフィールド履歴の類似度に基づく鏡面反射物体の法線推定
○黒木　武，岡部孝弘（九工大）
2　4 自由度光源システムを用いた照度差ステレオのための照明計画
○相島初花，岡部孝弘（九工大）
3　カメラ応答関数未知の影に基づく光源分布推定
○中島拓人，岡部孝弘（九工大）
4　正弦波変調撮像を用いた表面形状の運動ボケ補償の検討
○松本康平，栗原　徹（高知工科大）
5　明るさの振動に基づく受動的な光源分離
○大屋瑠璃，岡部孝弘（九工大）
6　近視の視覚特性を考慮した超高精細ディスプレイの高周波数強調カラー画像表示
○松本直也，杉浦アキヒコ（静岡大）
7　DFF における Hough 変換を用いた像倍率変化率の推定
○北野和彦，小林亜樹（工学院大）
8　分光画像推定による動物の見る色彩のシミュレーション
○渕之上風太（東京工科大），藤堂英樹（中央学院大），柿本正憲（東京工科大）

学生セッション［2Q 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
マルチエージェント（1）　座長　浅谷　公威（東大）
1　列生成法と LP ラウンディングによる提携構造形成アルゴリズム
○小浦隆之，平山勝敏，沖本天太（神戸大）
2　確率的な提携構造形成問題の解法
○松村昂輝，沖本天太，平山勝敏（神戸大）
3　複数同時交渉のための Hypervolume に基づく協調度
○川田涼平，藤田桂英（農工大）
4　マルチエージェント探索問題における粗視化とフィルタリングの統合手法による領域分割について
○湯德尊久，杉山歩未，菅原俊治（早大）
5　時間拡張グラフ上のナンバーリンクパズルとしてのマルチエージェント経路発見
○宮田直人，平山勝敏，沖本天太（神戸大）
6　マルチエージェント技術を用いた信号を使わない複数交差点制御の提案
○谷　　文，伊藤孝行（名工大）
7　（講演取消）
8　Deep Q-Network を用いた反社会的エージェントの道路交通における行動学習シミュレーション機構の試作
○日車　徹，福田直樹（静岡大）
9　MDL Coupled HMM によるマルチモーダルな協調行為の学習
○佐々木友弥，岩橋直人（岡山県大），船越孝太郎（ホンダ RIJ），押川　慧，中村友昭，長井隆行（電通大）

学生セッション［3Q 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
マルチエージェント（2）　座長　藤田　桂英（農工大）
1　多人数 Web 実験における協力行動と社会的関係性の相互作用の統計的・心理分析
○伊藤百夏，鈴木麗璽，小寺俊哉，西本恵太，有田隆也（名大）
2　マルチプレックスネットワーク上での意見の一貫性のなさが意見形成に与える影響
○木村苑子（早大），浅谷公威（東大），菅原俊治（早大）
3　地下街避難における誘導と誤り情報の避難行動に与える影響
○増江俊樹，須貝康雄（千葉大）
4　連続 Cost sharing game における提携形成実現のための提携形成の時間差を再現したシミュレータ機構の検討
○堀江将章，福田直樹（静岡大）
5　独立したグループで割り当てを行うマッチングメカニズムの提案
○丸古凌介，尾花　賢，藤田　悟（法大）
6　エージェント間の通信遅延を考慮した効率的なチーム編成手法の提案
○舟戸峻也，菅原俊治（早大）
7　Mastodon 上における自己評価維持モデルに基づいたユーザ間繋がり動機付け支援機構の試作
○松下拓真，福田直樹（静岡大）
8　共同研究チーム編成ツールの開発
○吉崎大貴，沖本天太，平山勝敏（神戸大）

9　マルチエージェントシステムを用いた企業競争における後発優位性の分析
○野村洋介，的場隆一，萩原信吾（富山高専）

学生セッション［5Q 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
音声・音響信号処理　　座長　小川　哲司（早大）

1　深層学習による野外録音音声からの動物の鳴き声検出 - オオタカを事例として -
○太田　望，延原　肇（筑波大），徳江義宏，今村史子，太田敬一（日本工営），夏川遼生（横浜国大）
2　Evaluation of 2D bird localization algorithm using microphone arrays
○ Daniel Gabriel（東工大），小島諒介（京大），干場功太郎（東工大），中臺一博（東工大／ホンダ RIJ）
3　可聴音を用いた周波数自動選択に基づく距離推定法の検討
○高尾麻衣子，干場功太郎（東工大），中臺一博（東工大／ホンダ RIJ）
4　敵対的生成ネットワークを用いた非パラレル声質変換
○蓮沼勇太，長尾智晴（横浜国大）
5　深層学習を用いた声質変換の実験的評価
○高橋卓杜，高松瑞代（中大）
6　高品質音声符号化のための基本周波数量子化の知覚的影響
○宮下玄太，森勢将雅（山梨大）
7　音声から知覚する疲労度に対応する音響特徴量の策定 - 演技による表現と主観評価結果の対応付け -
○生野琢郎，森勢将雅（山梨大）
8　音声中の検索語検出におけるドキュメント間類似度を利用したリスコアリング方式
○清水嘉乃（岩手県大），李　時旭（産総研），小嶋和徳，伊藤慶明（岩手県大）
9　英語発音学習のための音声の画像化
○鈴木里穂，山本博史（近畿大）

学生セッション［6Q 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
対話システム・ロボット対話　　座長　東中　竜一郎（NTT）

1　質問への応答に依存しない傾聴対話システムのリアクション生成
○青木裕哉，伊島翔大，中野大樹，藤江真也（千葉工大）
2　連続感情空間上の感情状態遷移に基づく人間・ロボット対話システム
○浦上浩希，西出　俊，康　シン，任　福継（徳島大）
3　ロボットと人間の間に無意識の体動同期を発生させた際のコミュニケーションへの影響
○中川愛理，蓮本諒介，岨野太一，今井倫太（慶大）
4　共感・発話促進のための多様な聞き手応答を生成する傾聴対話システム
○石田真也，井上昂治，高梨克也，河原達也（京大）
5　初対面対話における好感の生成と発話構成要素の予測のモデル
○田中滉己，井上昂治，高梨克也，河原達也（京大）
6　自律型アンドロイドのキャラクタ表現のための対話の振る舞い制御モデルの構築と評価
○山本賢太，井上昂治，中村　静，高梨克也，河原達也（京大）
7　相槌・フィラー予測とのマルチタスク学習による円滑なターンテイキング
○原　康平，井上昂治，高梨克也，河原達也（京大）
8　咽喉マイクを用いた発話区間検出に基づく多人数会話音声認識
○大高祥裕，綱川隆司，西田昌史，西村雅史（静岡大）
9　言語情報と音響情報を併用した対話破綻分類器の構築
○阿部元樹，椙井良太，綱川隆司，西田昌史，西村雅史（静岡大）

学生セッション［7Q 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
自然言語処理（6）　　座長　東中　竜一郎（NTT）

1　柔軟な対話システムのための再帰的ニューラルネットワークによる文カテゴリ手法の検討
○小室光広，佐藤裕二（法大）
2　子どもを対象とする感情を持った雑談対話システム
○山本賢人，大村俊哉，根本　凌，和田史織，杉本　徹（芝浦工大）
3　ユーザモデルにもとづいて発言タイミングを決定するプレディクティブチャットボット
○松森匠哉，大澤正彦，福地庸介，今井倫太（慶大）
4　経験を含むツイートを利用したライフログ雑談対話システムにおける応答生成
○川島嵩弘，西村隆志，安江駿亮，六沼元貴，和田史織，杉本　徹（芝浦工大）
5　人物ベースの Seq2Seq モデルを用いた対話システム Deep EVE における小説中の登場人物らしい応答文の生成
○小倉拓人，谷津元樹，原田　実（青学大）
6　How 型質問文に対する返信文候補提示手法の有効性について
○渡辺紀文，松原雅文，Chakraborty Goutam，馬淵浩司（岩手県大）
7　指示詞を含む発話にも対応する雑談・質問対話システム Hermes
○山崎亮嘉，大森悠平，柳田菜々，谷津元樹，原田　実（青学大）
8　高精度の Factoid/NonFactoid 型質問に対応する質問応答システム Metis
○高附勇介，谷津元樹，原田　実（青学大）

学生セッション［1R 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
スポーツ・動画像解析　　座長　林　将之（キヤノン）

1　Kinect を用いたペナルティーキックの方向推定における重要特徴点の抽出
○千葉康汰，伊藤慶明，小嶋和徳（岩手県大）
2　高時間分解能一次元画像情報を用いたインパクト時におけるゴルフボールの初速度、打ち出し角度、角速度の推定
○三関悠名見，鏑木崇史，栗原陽介（青学大）
3　持ち上げ動作からの所持物体の重量推定
○仲田　仁，田村　仁（日本工大）
4　バレーボールの試合映像を用いた選手追跡システムの研究開発
○瀬合勇也（関西大），塚田義典（岩手県大），山本雄平，田中成典，中原匡哉（関西大）
5　サッカー動画からのハイライトシーンの抽出
○笹原規睦，花泉　弘（法大）
6　ジェスチャー分類に対するオプティカルフローを前処理とした機械学習手法の検討
○多和田真悟，遠藤聡志，山田孝治，赤嶺有平，當間愛晃（琉球大）
7　手の周辺領域の状態に着目したインタラクション検出の検討
○塚本竜広，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）
8　人物の骨格情報を用いた所持品検出手法に関する一検討
○三浦　誠，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）
9　水ストレス栽培自動化のための潅水制御法の検討
○難波脩人，辻　順平，能登正人（神奈川大）

学生セッション［2R 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
物体検出・認識　　座長　高橋　徹（NEC）

1　Eigenface と LBPH を組み合わせた表情・照明変化にロバストな顔認識
○ Virak Vong，中鹿　亘（電通大）
2　顔識別システムに対する提案型量子化テーブルの比較検討
○村瀬寛高，杉浦彰彦（静岡大）
3　ステレオカメラを用いた顔認証システム
○当麻凌平，花泉　弘（法大）
4　高周波情報を用いた検出文字増加と背景ノイズ削減による情景画像からの文字抽出精度の向上
○齋藤武蔵，小嶋和徳（岩手県大），陳　国躍（秋田県大），伊藤慶明（岩手県大）
5　災害時における避難所掲示板のログ保存に向けた掲示物の抽出
○竹原　慎，栗原　徹（高知工科大）
6　下水管映像分割のためのマンホール検出方法の提案
○清水竣太，前田拓磨，澤野弘明（愛知工大），石原　進（静岡大）
7　Deformable Part Model を用いた変形物体領域検出に関する検討
○冨田大輝，森本正志（愛知工大）
8　目のパーツ推定による自動アイメイク手法の提案
○杉浦沙弥，澤野弘明（愛知工大），土屋　健（諏訪東京理科大），小柳恵一（早大）
9　スパース符号化に基づく辞書型超解像の近似特異値分解および画像特徴毎の複数辞書作成による高速化
○佐藤秀人，延原　肇（筑波大）

学生セッション［3R 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）

多視点幾何　　座長　島村　潤（NTT）

1　レーザスキャン点群と SfM メッシュの自動位置合わせ
○藤里和樹，檀　寛成，安室喜弘（関西大）

2　時間相関イメージセンサとそのオプティカルフロー検出を用いた Visual SLAM の基礎的検討
○坂吉啓二，栗原　徹（高知工科大）

3　色情報の導入によるモーションバーコードを用いたカメラキャリブレーションの精度向上
○末吉　朗，清水郁子（農工大）

4　全球画像列によるカメラ位置推定の高速化
○妹尾男宜，多田裕貴，太田寛志，道西博行（岡山理大）

5　岩石の多視点画像から推定した 3 次元点群のクラスタリング
○査　万志（筑波大），Hyongdoo Jang（Curtin University），宍戸英彦，亀田能成，北原　格（筑波大）

6　共面性条件に基づく単視点画像からの 3 次元復元
○佐藤　駿，高松瑞代（中大）

7　アンティークステレオ画像のアーカイブのための歪み補正
○堂國友史，清水郁子（農工大）

8　空撮画像に基づく応急浮橋の浮体位置姿勢計測
○久郷紀之，崔　龍雲（創価大）

学生セッション［1S 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）

画像処理と知能システム（1）　　座長　尾形　哲也（早大）

1　分離度を用いた画像における形状の識別に関する研究
○大塚龍一，川島正行，劉　渤江（岡山理大）

2　符号化歪みを有する動画像に対するフレーム間差分法
○田中哲哉，中村海斗，三浦康之（湘南工科大）

3　ICA-DCT ハイブリッド符号化におけるレートひずみ理論に基づいた領域分割手法
○富樫篤士，宮崎春彦，亀田昌志（岩手県大）

4　リカレントニューラルネットワークモデルを用いた図形の描画系列学習
○高田優子，西出　俊，康　シン，任　福継（徳島大）

5　リアルタイム物体検出のプーリング層追加による低解像度画像を対象とした処理速度向上
○小田原寛（東京都市大）

6　機械学習を用いた動画からの行動認識手法
○関　向然，飯島安恵，今野　将（千葉工大）

7　不応性を有する自己組織化特徴マップによる類似画像検索 - 色の特徴量の次元の調整による検索精度の向上 -
○一戸竜司，長名優子（東京工科大）

8　畳み込みニューラルネットワークを用いたタッチの類似性を考慮したイラスト検索
○藤田賢之，長名優子（東京工科大）

9　間取り図面の自動生成に基づくリノベーション支援に関する研究
○春日　悠，長尾智晴，白川真一（横浜国大）

学生セッション［2S 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）

画像処理と知能システム（2）　　座長　白川　真一（横浜国大）

1　（講演取消）

2　深層学習による地層の擾乱部分の検出
○佐藤達彦，山村明弘，Fazekas Szilard Zolt（秋田大）

3　オフィス環境における逐次学習を用いた人物検出
○羽入達也，趙　強福（会津大）

4　領域ベース深層学習を用いた車載カメラ映像からの危険予測
○松田賢太，村田祐樹，後藤紳一郎，渥美雅保（創価大）

5　Single Shot MultiBox Detector を用いた高精度なトマトの花検出
○中尾大輝，峰野博史（静岡大）

6　CNN を用いた路面のひび割れ検出モデルの構築と最適化
○永田睦稀，戴　瑩（岩手県大）

7　深層学習を用いた甲骨文字認識
○紙徳直生，伊藤大喜，多田晃已，孟　林，山崎勝弘（立命館大）

8　深層学習を用いた拓本の多書体認識と時空間データベースの作成
○岸　雅大，鍋谷美智子，野上佳奈，孟　林，山崎勝弘（立命館大）

9　CNN を用いた手書き画像から人の性格や感情を推測するシステム
○小川　瞭，戴　瑩，根市　豊，永田睦稀（岩手県大）

学生セッション［3S 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）

安全・安心　　座長　石寺　永記（NICT）

1　低照度映像における動体検知のための新たな輝度補正法の検討
○周いけつ，三浦康之，豊田裕樹（湘南工科大）

2　移動ロボットのための領域ベース CNN と Triplet Loss を用いた人物再同定
○村田祐樹，渥美雅保（創価大）

3　プライバシーを考慮した安価でポータブルな入退室者カウント画像処理システムの開発
○良永早耶佳，大坪　敦，橋本大和，廣重法道，鶴田直之（福岡大）

4　衣服色特徴を用いた候補者枝刈り法の提案
○早川智之，澤野弘明，林　雅也（愛知工大），小柳恵一（早大），土屋　健（諏訪東京理科大）

5　軌跡の規則性に基づく物体追跡手法
○伊藤　慧（東大）

6　A privacy preserving protocol for realizing machine learning on mobile terminals
○橋本雅人，趙　強福（会津大）

7　立ち止まる人も抽出可能な背景差分法
○斎藤浩平，花泉　弘（法大）

8　複数カメラを用いる空間走査システム
○佐々木拓馬，花泉　弘（法大）

9　心理特性と外部情報の影響考慮した災害避難シミュレーション
○本田慧悟，菅原俊治（早大）

学生セッション［1T 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）

自然言語処理（1）　　座長　清田　陽司（ネクスト）

1　トピックモデルを用いた Twitter ユーザの性別判定
○原　侑平，原　元司（松江高専）

2　LIWC を用いたユーザー属性推定手法の検討と SNS データへの応用
○冨平準喜，山下晃弘，松林勝志（東京高専）

3　SNS 上への発言の特徴分析に基づくユーザの属性推定
○浅妻佑弥，山下晃弘，松林勝志（東京高専）

4　twitter 投稿文からの嗜好の推定における性格情報の有効性
○小原博明，白井靖人（静岡大）

5　Web ニュース記事によるツイート分類に関する一検討
○今井克真，小林亜樹（工学院大）

6　経験を述べたツイートを対象とした行動カテゴリ分類
○六沼元貴，安江駿亮，杉本　徹（芝浦工大）

7　ライフログデータ抽出のための行動ツイート分類
○安江駿亮，六沼元貴，杉本　徹（芝浦工大）

8　Twitter において関連付け可能なツイートをスレッド化するシステムの検討と開発
○山崎颯太，寺澤卓也（東京工科大）

9　SNS 連動型サイネージにおける文書間距離を用いた記事掲載自動判定機構
○長島悠貴（静岡県大），伊藤裕二（メディア・ミックス静岡），小坂弘史（スカパー JSAT），湯瀬裕昭，渡邉貴之（静岡県大）

学生セッション［2T 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）

自然言語処理（2）　　座長　小町　守（首都大）

1　画像と文章知識の融合による英語テスト自動解答手法の研究
○盛　陽（電通大）

2　人物画像の衣服の形状や色を用いた印象語によるコーディネート解析
○新坂　歩，清水郁子（農工大），柴原一友，藤本浩司（テンソル・コンサルティング）

3　情報検索における Conditional VAE を用いた要約文生成手法の有効性について
○阿部寛之，松原雅文，Cahakraborty Gouatam，馬淵浩司（岩手県大）

4　深層学習に基づく論文タイトル生成手法とその応用
○大部達也，大囿忠親，新谷虎松（名工大）

5　分散表現を用いた話題変化判定
○芳野　魁，伊藤孝行（名工大）

6　単語分散表現と喩辞の意味カテゴリを用いた比喩の作成支援
○佐藤遼河，浅見一樹，杉本　徹（芝浦工大）

7　アテンション付きエンコーダデコーダによる複数言い換えツイートからの要約文生成
○永塚光一，渥美雅保（創価大）

8　TensorFlow を用いた日本語から英語への機械翻訳
○芝田和聖，幸谷智紀（静岡理工科大）

9　文字レベル残差畳み込みニューラルネットワークを用いた日本語文書分類に対する転移学習
○守屋　俊，柴田千尋（東京工科大）

第 3 分冊　　（ネットワーク）

一般セッション［1D 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）

センサーシステムとメディア通信　　座長　金子　雄（東芝）

1　ブロック適応ループフィルタのクラス分類と可視化
○周　天洋，猪飼知宏，八杉将伸，青野友子（シャープ）

2　重要領域検出による視認性保持技術を用いた画像圧縮の検討
○塩川淳司，中出眞弓（日立）

3　リアルタイム不審行動検知を実現する大規模時系列データ分散処理方式の提案
○有熊　威，岩松洋介，北野貴稔（NEC）

4　測域センサを利用した路線バス乗降計測システムの開発
○山田遊馬，廣森聡仁，山口弘純，東野輝夫（阪大）

5　鉄道向け状態監視用センサーネットワークの M2M クラウドアプリケーション開発
○野木道子，流王智子，岩澤永照，岩城詞也，川村智輝（鉄道総研），加辺　徹，高橋夏樹（アイ・エス・ビー），中村一城（鉄道総研）

6　Publish/Subscribe 通信における効率的な通信方式の検討
○藤田優稀，村岡崇章，伊東輝顕（三菱）

一般セッション［2D 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）

インターネットと運用技術　　座長　佐藤　聡（筑波大）

1　BYOD による講義を想定した無線 LAN 通信実験
○福田　豊，畑瀬卓司，冨重秀樹，林　豊洋（九工大）

2　DNS 問い合わせを用いた機器推定手法の検討
○近藤　毅，加島伸悟（NTT）

3　OpenFlow 管理回線の災害リスクを考慮したネットワーク制御手法の設計
○和泉　諭，高平寛之，後谷浩輔，畑　美純，Luis Guillen，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）

4　Haconiwa: プログラムによる、組み立て可能性と拡張性を持つ Linux コンテナ
○近藤宇智朗，松本亮介，栗林健太郎（GMO ペパボ）

5　クラウドの運用コストを削減するためのリソース調節システムの提案
○中西　惇，楓　仁志，鶴　　薫（三菱）

6　使用済みパソコンを再利用した分散ストレージシステム
○川戸聡也，本村真一，東野正幸，川村尚生（鳥取大）

7　構成情報と負荷の類似度を用いた静観対象表示装置の検討
○石津裕也，山田耕一，吉村礼子（三菱）

一般セッション［3D 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）

高度交通システムとスマートコミュニティ　座長　湯　素華（電通大）

1　個人情報に配慮したスマートフォンを用いた小型船舶航行支援システム
○長尾和彦，瀬尾敦生，肥田琢弥，西山政明（弓削商船高専）

2　CACC による車両挙動モデルの構築と検証
○中川悠樹，服部有里子（筑波技術大）

3　リアルタイム通信集約プロトコル向け経路冗長化手法
○大西直哉，金井　遵，松山拓紀（東芝）

4　（講演取消）

5　ビークルセル：ドライバーの意思決定に基づく動的なモバイルネットワーク
○本田一暁，安永遼真（neko 9 Laboratories），中山　悠（東大），丸田一輝（千葉大），堤　卓也（neko 9 Laboratories）

6　リアルタイムな都市交通情報管理に向けたダイナミックマップのシミュレーション評価環境の構築
○山本拓実，渡辺陽介（名大），佐藤健哉（同志社大），高田広章（名大）

7　WSC2017 支援のための気象情報可視化・配信システムの構築
○船山貴光，今田一希（東海大），竹中栄晶（JAXA），木村英樹，福田紘大，山本義郎，中島　孝（東海大）

一般セッション［5D 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）

モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム

座長　梶　克彦（愛知工大）

1　移動体向け分散型コンテンツ配信制御方式の提案
○森　郁海，田村孝之（三菱）

2　Bluetooth Low Energy ビーコンを用いた生産・物流向け屋内測位手法の提案
○工藤大希，堀川三好，岡本　東（岩手県大）

3　狭空間内無線通信環境のセンシングのためのセンサノードの設計
○玉井森彦，長谷川晃朗，杉山敬三（ATR）

4　Social MANET のデスティネーションノード起動型ルーティングにおける必要ノード数の一考察
○平井光一，高見一正（創価大）

5　ミリ波無線通信を利用したマルチホップデータ転送手法の紹介
○川村晋太郎（リコー），高　敏雄，塩谷吉満，松山健吾，王　　洋（リコー）

6　ミリ波アクセスポイントにおける接続ノードの均等化手法
○王　　洋，塩谷吉満，川村晋太郎，松山健吾，高　敏雄（リコー）

一般セッション［6D 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）

分散処理とプロトコル　　座長　重安　哲也（県立広島大）

1　ブロックチェーン上の構造化データに対する権限分散を考慮した開示制御手法
○渡邊大喜，大橋盛徳，藤村　滋，中平　篤（NTT）

2　複数データストアを持つブロックチェーンアーキテクチャの提案
○大橋盛徳，渡邊大喜，藤村　滋，中平　篤（NTT）

3　ブロックチェーン技術を利用した企業間認証基盤の提案
○本庄将也，松本光弘（三菱），松山　賢，酒巻一紀，菅野幹人（三菱電機インフォメーションシステムズ），白木宏明（三菱）

4　BBR+: Improvement of Congestion-Based Congestion Control for Deep Buffer Link
○ Utsumi Satoshi（福島大），Weizhi Shi（Chongquing University of Technology），Suzuki Norio（Fukushima University），Zabir Salim（National Institute of Technology, Tsuruoka College）

5　路面情報共有のための n 波長協調による車車間・車路間通信システム
○伊藤健太，橋本浩二，柴田義孝（岩手県大），大関一陽，武部英輔（ピーアンドエーテクノロジーズ），番匠康司（ホロニック・システムズ）

6　通信混雑環境における都市 Wi-Fi アクセスポイントの追加設置支援
○梶田宗吾，岩崎博生，天野辰哉，山口弘純，東野輝夫（阪大），高井峰夫（阪大 / カリフォルニア大ロサンゼルス校）

7　複数自律移動体における集団探索メカニズムの考察
○新居英志，北之馬貴正，安達直世，滝沢泰久（関西大）

一般セッション［7D 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）

コンシューマデバイス・システム　　座長　寺島　美昭（創価大）

1　通信用光ファイバーを用いた石英ガラスのデジタルファブリケーションにおけるブリッジ性の評価
○西本　寛，内田直樹，川原圭博（東大）

2　スマートポスターを通じた省エネ活動へのポイント付与
○久保裕也（千葉商科大）

3　スマートフォンの位置情報を用いた実践的な滞留・移動推定手法の評価
○川西　直，長谷川晃朗（ATR），田近亜蘭，古川壽亮（京大）

4　IoT 機器の使用による放送局のデータ・コンテンツの活用機会拡大に向けた検討
○小川展夢，大亦寿之，山村千草，藤井亜里砂，藤沢　寛（NHK）

5　ユーザー主導によるパーソナルデータ管理を用いた番組関連データ利活用モデルの検討
○関根大輔，藤沢　寛，藤井亜里砂（NHK）

6　番組情報の提示と端末連携機能を用いたテレビ視聴に関する考察
○瀧口　徹，池尾誠哉，大亦寿之，藤沢　寛，藤井亜里砂（NHK）

学生セッション［5R 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）

マルチメディアシステム　　座長　高橋　秀幸（東北大）

1　機械学習を用いたテニストレーニング支援システム
○富岡亮太，長尾　確（名大）

2　遠隔操作ロボットと全方位カメラを用いた遠隔臨場感システムの QoS 制御に関する一検討
○阿部隼斗，三浦　誠，生出拓馬，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）

3　ヘッドマウントディスプレイ情報を利用した 360 度映像伝送に関する初期的検討
○進藤雅史，木藤嵩人（阪大），藤橋卓也（愛媛大），猿渡俊介，渡辺　尚（阪大）
4　ドローンの空撮画像と NDVI を用いた植生図作成支援手法の提案
○櫻井　築，岩本健嗣，松本三千人，加藤勇太（富山県大）
5　インタラクティブな広告表示を可能とするデジタルサイネージシステム
○漆田光汰，橋本浩二（岩手県大）
6　視覚障がい者ナビゲーションのための HoloLens を用いた環境認識と障害物回避
○佐藤　佳，佐藤俊太，山下晃弘，松林勝志（東京高専）
7　マーカレス AR を用いた通信機器の位置と接続関係の可視化
○今尾秀樹，岡田真実，鈴木秀和（名城大）
8　飲食店向け食物アレルギー対策システムの研究 (AR とビーコンの利用)
○和田浩太，藤川真樹（工学院大）

学生セッション［6R 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
コンシューマシステム（1）　　座長　望月　理香（NTT）

1　自律分散制御に基づく電力融通がなされるマイクログリッドの構成手法に関する研究
○吉田哲雄，菅野正嗣（阪府大）
2　データ送信量観測による無線アドホックネットワークの動作推定方法の提案
○福岡宏一，寺島美昭（創価大），齋藤正史（金沢工科大），横谷哲也（金沢工大）
3　Android 異種クライアント端末における公平性を考慮した協調的輻輳制御手法
○島田歩実（お茶の水女子大），山口実靖（工学院大），小口正人（お茶の水女子大）
4　家庭向けネットワーク機器のホワイトボックス化の提案
○藤島久麿，寺澤卓也（東京工科大）
5　IoT 開発環境 (MESH) と HTML ハイブリットアプリ開発環境 (Monaca) を繋いだサイバー・フィジカルモバイルアプリ構築環境“Me-Mo”の開発
○本間圭祐（東京工科大），岡崎博樹（手仕事工房），上林憲行（東京工科大）
6　環境情報に基づいて異種規格の IoT デバイス連携をサポートする iHAC Hub の提案
○林　宏輔，岡田真実，横地リー紫音，鈴木秀和（名城大）
7　マルチプラットフォーム対応 iHAC フレームワークの設計
○横地リー紫音，岡田真実，林　宏輔，鈴木秀和（名城大）
8　IoT デバイスの柔軟なホスト名自動生成手法の提案
○柳瀬知広，田中久順，鈴木秀和（名城大）
9　（講演取消）

学生セッション［7R 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
コンシューマシステム（2）　　座長　烏谷　彰（富士通研）

1　Habit Alarm: 起床後の習慣行動で目覚めさせる目覚ましシステムの検討
○鶴岡風馬，牛田啓太（工学院大）
2　侵入者の検知と家人の見守りを 1 つのセンサで実施するための研究
○水津雄大，藤川真樹（工学院大）
3　ロボット対話と IoT 機器を活用したストレスフリーキッチンの提案
○佐野芳樹，神林優河，鈴木優希（神奈川工科大），渡部智樹（NTT），藤田裕之，関家一雄，一色正男（神奈川工科大）
4　PC 操作の疲れをほぐすためのストレッチによる PC 操作手法
○鈴木和真，牛田啓太（工学院大）
5　植物収穫時品質や収量に関連する経時特徴量分析手法の検討
○水野涼介，柴田　瞬，峰野博史（静岡大）
6　妊娠糖尿病患者のための生活習慣記録管理支援アプリケーションの開発
○西川　奏（釧路公大），山内寿代（釧路孝仁会看護専門学校），皆月昭則（釧路公大）
7　クラウド型医療連携システムを基盤とした個人健康情報 (Personal Health Record) 管理システムの提案
○吉田結花，吉野　孝（和歌山大），入江真行（和歌山県医大）

学生セッション［5S 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
位置推定　　座長　石原　丈士（東芝メモリ）

1　被災者捜索を目的とした携帯端末の位置推定とその可視化
○丸山泰志，穴澤和也，宮崎敏明（会津大）
2　停止故障発生時および通信不通時の原因箇所推定可能なセンサネットワークの提案
○鈴木智文，指吸未来，岸田隆祐，塚田晃司（和歌山大）
3　事前マップを用いた屋内位置推定の前後センサ画像比較による精度向上
○高橋和太郎（青学大），高橋淳二（鹿児島大），兼子朋也，戸辺義人（青学大）
4　機械学習を用いた無線 LAN 屋内測位における精度評価
○竹内裕幸，平川　豊，大関和夫（芝浦工大）
5　屋内位置推定に向けた環境の変化に適応した 3 次元マップ構築
○兼子朋也，高橋和太郎（青学大），高橋淳二（鹿児島大），戸辺義人（青学大）
6　ノード間の接続関係を用いた屋内位置推定方式の提案と評価
○加藤有真（三重大）
7　RTOF を用いた自己組織化ノード位置推定方式の高精度化に関する考察
○森　流星，滝沢泰久，新居英志，北之馬貴正（関西大）
8　姿勢センサによる姿勢推定と測域センサによる測距情報を用いた屋内位置推定システムに関する一検討
○笹木俊之介，藤井雅弘（宇都宮大）

学生セッション［6S 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
モバイルコンピューティング　　座長　張　成（早大）

1　PDR のための IMU と PCA による進行方向推定に関する一検討
○佐久間裕弥，藤井雅弘（宇都宮大）
2　MANET における省電力トポロジーコントロール
○今泉圭一，原山美知子（岐阜大）
3　無線 LAN を用いた干渉測位における位置推定誤差分布に関する一検討
○武者大樹，藤井雅弘（宇都宮大）
4　Wi-Fi プローブ要求からの行動分析のための同一端末推定手法
○中田恵史，岡本　東，堀川三好（岩手県大）
5　複数の同一経路歩行軌跡を用いた推定歩行軌跡の高精度化に関する検討
○四ツ谷昂亮（愛知工大），伊藤信行（三菱電機エンジニアリング），内藤克浩，中條直也，水野忠則，梶　克彦（愛知工大）
6　Preliminary investigation of co-occurrence rule extraction from multi-modal animal locomotion data
○田　一鳴，前川卓也，天方大地，原　隆浩（阪大），松本祥子，依田　憲（名大），藤岡慧明，濱井郁弥（同志社大），福井　大（東大），飛龍志津子（同志社大）
7　実機実験による MANET を用いたロボット間の通信の検討
○角田紘輔，久保田修平，久芳頼正，松本直文，山城光雄（足利工大）

学生セッション［7S 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
無線ネットワーク　　座長　張　成（早大）

1　C 言語で記述した無線センサネットワーク動作の形式式検証法の提案
○秋山直輝，池田愛大，宮崎敏明（会津大）
2　無線センサネットワークにおける柔軟な協調動作実現のためのルール拡張
○久場有紗，横田裕介（日本女子大）
3　Bluetooth Low Energy を用いた受信信号強度によるマルチコプター誘導手法
○大門雅尚，岡本　東，堀川三好（岩手県大）
4　無線通信端末のパケットを用いた深層学習による無線 LAN 通信時のトラフィック予測
○山本　葵（お茶の水女子大），山口実靖（工学院大），小口正人（お茶の水女子大）
5　複数の IEEE 802.15.4 端末間の RSSI を用いた混雑度推定手法の検討
○松本直也，川崎慈英，猿渡俊介，渡辺　尚（阪大）
6　省電力化を考慮したテザリングのためのデータ送信量に基づくリンク切り替え方式
○山下起明，木村成伴（筑波大）

7　アドホックネットワークにおける通信フローを考慮した指向性通信方式
○大塚強史，山本　潮（群馬大）
8　都市 Wi-Fi アクセスポイントの 3 次元位置データベース自動構築とその活用
○天野辰哉，梶田宗吾，山口弘純，東野輝夫（阪大），高井峰生（阪大 / カリフォルニア大ロサンゼルス校）

学生セッション［3T 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
分散システム運用管理　　座長　北口　善明（東工大）

1　Paragraph Vector を利用したインターネット広告の高度化
○青柳志穂里，橋本幸二郎，土屋　健，三代沢正，広瀬啓雄（諏訪東京理科大），澤野弘明（愛知工大），吉永浩和（ログリー），小柳恵一（早大）
2　Named Data Networking のためのコンテンツ更新問い合わせに基づくキャッシュ更新方式
○三和雄俊，木村成伴（筑波大）
3　キャッシュサーバを用いる分散 Web システムにおける時系列を用いたオートスケーリングアルゴリズムの提案
○松田正也，最所圭三（香川大）
4　Web of Things アーキテクチャの農業分野への試験的実装
○渡邉駿介，顧　奕豊，小野寺陽平，平尾龍也，藤井章博（法大）
5　パブリッククラウドにおける広域 State Machine Replication の特性評価
○沼倉正太，中村純哉，大村　廉（豊橋技科大）
6　ウェアラブルデバイス環境における分散処理の導入
○横川翔平（法大）
7　IoT を用いた次世代機器管理システムの研究
○飯塚大祐（電機大）
8　センサネットワークを用いた fablab の安全性向上についての研究
○原　晃汰（電機大）
9　コンテンツ指向ネットワーク (CCN) におけるコンテンツ配信者の移動に伴う経路管理とキャッシュ管理の方式提案
○夏川　清，湯　素華，小花貞夫（電通大）

学生セッション［5T 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
ネットワーク運用管理・危機管理　　座長　石原　知洋（東大）

1　シグネチャ法を用いた HTTP 通信のパケット高速検知の提案
○功刀　剛，小倉加奈代，ベッド バハトゥール・ビスタ，高田豊雄（岩手県大）
2　BLE デバイスを用いたリアルタイムなユーザ追跡システム
○國廣拓也，藤田　聡（広島大）
3　電磁シールドを用いた無線 LAN ルータの設定検証システムの提案
○浮田博揮，谷口義明，井口信和（近畿大）
4　OpenFlow を用いたネットワーク監視とトポロジーの可視化
○秋田海人，長田智和，谷口祐治（琉球大）
5　AR 技術によるネットワーク接続機器監視手法の提案
○西村閤晋，秋田浩也，佐藤健哉（同志社大）
6　論理トポロジの可視化とタッチ操作による直感的なネットワークの制御を可能とするネットワーク運用管理支援システム
○藤田紘生，井口信和（近畿大）
7　アドホック通信を用いた小規模安否確認システムの通知スケジュールの提案
○中井　駿（創価大），清原良三（神奈川工科大），寺島美昭（創価大）
8　周辺探索可能なエリア IP フォンによる災害支援適
○小林真透，杉浦彰彦（静岡大）

学生セッション［6T 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
ネットワークミドルウェア　　座長　寺田　直美（NICT）

1　IoT 向けネットワークシミュレータ
○野地恭聖，中村章人（会津大）
2　企業内高密度無線 LAN における確率優位を用いたアクセスポイント選択方式
○久保田啓介，木村成伴（筑波大）
3　IP ネットワークをフラット化する通信アダプターの提案と実装
○尾久史弥，鈴木秀和（名城大），内藤克浩（愛知工大），渡邊　晃（名城大）
4　QoS ミドルウェア Dyas の送信バッファ改善による性能向上ツールの開発
○長島聡志，寒竹俊之，菅谷みどり（芝浦工大）
5　LAN 内通信システムをインターネット上で利用可能にする TUN アプリの提案と実装
○稲垣　智，尾久史弥，鈴木秀和（名城大），内藤克浩（愛知工大），渡邊　晃（名城大）
6　言語の違いを意識することなく C 言語通信ライブラリを利用可能とするラッパーの提案と実装
○清水一輝，鈴木秀和（名城大），内藤克浩（愛知工大），渡邊　晃（名城大）
7　VPNService を利用した移動透過性の実現方式の提案
○黒宮魁人，清水一輝，鈴木秀和（名城大），内藤克浩（愛知工大），渡邊　晃（名城大）
8　グループメンバー間でのすれ違い通信サービスのための Social DTN 構成法
○高須賀英紀，平井光一，高見一正（創価大）

学生セッション［7T 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
ワイヤレスセンサーネットワーク・IoT
座長　深澤　佑介（NTT ドコモ）

1　分散フォグノードを活用した移動端末向けオフローディング手法
○根市　豊，戴　　瑩（岩手県大）
2　機械学習による一般トラヒック型待ち行列システムの性能評価
○二井　克，宇都宮陽一，奥田隆史（愛知県大）
3　IoT デバイスの時系列通信パターンの分析及び検証
○丹羽美乃，梶　克彦（愛知工大）
4　屋外イベントでの多数のユーザを対象としたヘルスモニタリングシステムに関する一考察
○小川絢也，生出拓馬，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）
5　ユーザの移動制御を利用したモバイルデータオフローディング手法の提案
○安孫子悠，望月大輔（静岡大），斎藤隆仁，片桐雅二，池田大造（NTT ドコモ），水野忠則（愛知工大），峰野博史（静岡大）
6　複数のシンクを設置する無線センサネットワークにおける二次電池の発電効率を考慮した通信経路構築について
○武井瑞月，神崎映光（島根大）
7　複数アクセスポイントを用いた位相制御協調電力伝送の基礎検討
○川崎慈英，小林　真，木崎一廣，猿渡俊介，渡辺　尚（阪大）
8　バッテリレスセンサによる行動認識に向けた発電量と消費電力の検討
○前田　透，内山　彰，東野輝夫（阪大）

学生セッション［1U 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
動画配信　　座長　田中　俊介（NTT データ）

1　テレプレゼンスロボットとモバイル端末を用いた環境適合型映像伝送システム
○片桐規亨，橋本浩二（岩手県大）
2　スタジアムにおける効果的な映像伝送を可能とする多元ライブ中継システム
○安達優人，橋本浩二（岩手県大）
3　WebRTC を利用したライブ動画配信システム
○中村日向子，藤田　聡，木村友彦（広島大）
4　再生途切れ抑制機能を備えた P2P ライブストリーミング
○深見航太，藤田　聡（広島大）
5　クラウド支援型 P2P ライブストリーミングにおけるバッチ制御手法の提案と評価
○冨永菜都美，藤田　聡（広島大），Bahaa Aldeen Alghazawy（ビットリバー）
6　モバイルネットワークにおけるビットレートマップを用いた可変ビットレート動画のための動画アダプティブストリーミング方式
○有友大輔，木村成伴（筑波大）
7　ビデオ伝送に対する深層学習の適用可能性に関する検討
○渡邊翔太，川崎慈英，猿渡俊介，渡辺　尚（阪大）
8　強化学習を用いた MPEG-DASH における映像品質制御手法の設計
○生出真人，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）

9　Kafka と Spark Streaming を利用したリアルタイム動画像解析フレームワークの評価
○一瀬絢衣（お茶の水女子大），竹房あつ子（NII），中田秀基（産総研），小口正人（お茶の水女子大）

学生セッション［2U 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
音声・画像処理　　座長　内藤　整（KDDI 総合研究所）

1　OpenPose を用いた複数人のダンスの一致度評価
○稲田健太郎，渡辺　裕，石川孝明（早大）
2　方向性を考慮した超解像処理技術による FVC 符号化画像の画質改善
○矢野仁愛，梅田聖也，渡辺　裕（早大），猪飼知宏，中條　健，伊藤典男（シャープ）
3　FVC 量子化パラメタ制御による超解像の特性
○梅田聖也，矢野仁愛，渡辺　裕（早大），猪飼知宏，中條　健，伊藤典男（シャープ）
4　LiDAR と全天球画像を用いた三次元再構成
○赤塚紘輝，渡辺　裕（早大）
5　全天球カメラを用いた位置推定手法及び距離測定手法の検討
○青木貴大，渡辺　裕，宋　夢成（早大）
6　全天空カメラ画像を用いた空割合時系列データの抽出
○園田哲平，小郷原一智，畑中裕司，砂山　渡（滋賀県立大）
7　主成分分析を用いた火星ダストストーム領域の自動検出
○義忠隆生，小郷原一智，畑中裕司，砂山　渡（滋賀県立大）
8　音響特徴量を考慮したミュージックビデオの色調編集手法
○井上和樹，中塚貴之，柿塚　亮，高森啓史，宮川翔貴，森島繁生（早大）
9　物体の物理特性と運動に基づく仮想落下音の生成
○西口草太（法大）

学生セッション［3U 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
通信プロトコルと品質制御（1）　　座長　野呂　正明（富士通研）

1　物理ネットワークを意識したリング状アプリケーションレイヤマルチキャストの提案
○菅沼良一，鈴木秀和（名城大），内藤克浩（愛知工大），渡邊　晃（名城大）
2　大規模災害時におけるトラヒック制御システムの実アプリケーションによる評価
○平久　紬（お茶の水女子大），中尾彰宏，山本　周（東大），山口実靖（工学院大），小口正人（お茶の水女子大）
3　OpenFlow における経路切り替えコストを考慮したネットワーク制御手法の一検討
○後谷浩輔，高平寛之，畑　美純，Luis Guillen，和泉　諭，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）
4　RNN を用いたネットワークトラフィックの変動予測
○小山内遥香（お茶の水女子大），中尾彰宏，山本　周（東大），山口実靖（工学院大），小口正人（お茶の水女子大）
5　BitTorrent 型並列ダウンロードシステムにおける機械学習を用いた効率的な利得の獲得方法
○内藤世啓，藤田　聡（広島大）
6　無線センサネットワークのためのプロトコル実装プラットフォーム
○川村健太，桧垣博章（電機大）
7　無線マルチホップネットワークにおける双方向のデータメッセージ群配送のためのネットワークコーディング通信手法
○青井雄亮，桧垣博章（電機大）
8　左右の相対位置変化の観測と相互情報交換による移動無線ノードの相対位置取得手法
○行方将晃，桧垣博章（電機大）
9　カメラによる周辺移動ノード検出を用いた DTN ルーティング
○石田恵太郎，桧垣博章（電機大）

学生セッション［5U 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
通信プロトコルと品質制御（2）　　座長　重安　哲也（県立広島大）

1　盗聴困難な無線マルチホップ配送のためのノイズ無線信号送信手法
○嶋田　勇，桧垣博章（電機大）
2　落下無線センサネットワークにおける配送遅延短縮のためのトポロジ制御手法
○塙　卓也，桧垣博章（電機大）
3　間欠的無線センサネットワークにおける転送予測による配送遅延短縮手法
○堀江　慎，桧垣博章（電機大）
4　コンテンツ依存型バースト指向省エネルギーネットワーク制御に関する研究
○内山将太，内海哲史（福島大）
5　Skype によるビデオ通話におけるネットワーク遅延と会話のしやすさの関係
○神永　睦，内海哲史，高原　円，中川和重（福島大）
6　BBR と CUBIC の共存時における性能評価
○屋代秀幸（福島大），石　為之（重慶理工大），内海哲史（福島大）
7　災害時可視光通信における変換パターンを用いたビットの誤り訂正手法の提案
○竹内稜登，塚田晃司（和歌山大）
8　反射光を利用した可視光通信装置の性能評価
○村田拓磨（北九州高専）

学生セッション［6U 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
分散処理　　座長　後藤　佑介（岡山大）

1　完全準同型暗号を用いた秘匿データマイニングの分散処理による高速化の実装と検証
○山本百合，小口正人（お茶の水女子大）
2　分散処理の導入による完全準同型暗号を用いたゲノム秘匿検索の高速化
○山田優輝，小口正人（お茶の水女子大）
3　閾値網羅法における機密性・高速性を考慮した閾値決定法
○富田航平，藤橋卓也，遠藤慶一，小林真也（愛媛大）
4　複数報酬型 DQN の提案
○片岡玄太，顧　優輝，真部雄介，菅原研次（千葉工大）
5　電子掲示板システムの構築と安定化に関する研究
○前田優輔，小島俊輔（熊本高専）
6　プログラム実行環境移送のための資源追跡機能のユーザレベルでの実現
○大西史洋，黒木勇作，横山和俊（高知工科大），谷口秀夫（岡山大）
7　ファイルサイズとアクセス頻度を用いたプログラム実行環境の移行手法
○黒木勇作，大西史洋，横山和俊（高知工科大），谷口秀夫（岡山大）
8　AP 動作環境の制約を考慮した Cloudlet 環境におけるリソース割り当て手法
○福永昂輝，大崎康平，横山和俊（高知工科大）
9　ビックデータ分散処理基盤を用いたタスク並列化におけるパラメータ制御の考察
○加藤香澄（お茶の水女子大），竹房あつ子（NII），中田秀基（産総研），小口正人（お茶の水女子大）

学生セッション［7U 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
ネットワークサービス　　座長　小島　俊輔（熊本高専）

1　多様な Web 機器に対応可能なデータ収集フレームワークの提案
○北島啓太郎，橘　拓馬，峰野博史（静岡大）
2　行動認識のための複数カメラを用いた環境情報の自動獲得法
○増田宗一，顧　優輝，真部雄介，菅原研次（千葉工大）
3　LSTM と音声対話によるコンテキストアウェアシステムの提案
○直井波輝，顧　優輝，真部雄介，菅原研次（千葉工大）
4　SLAM を用いた屋内向け AR 経路提示におけるオブジェクト領域の認識手法の提案
○李　奇傑，後藤佑介（岡山大）
5　(2+1) 次元映像アノテーションシステムにおけるメタデータ活用法の提案
○柘植春菜，兼子正勝（電通大）
6　自動草刈ロボット移動位置精度安定性向上のための仮想化ネットワークによる衛星測位補正データ配信システムの設計と評価
○崔　林峰，神武直彦（慶大）
7　災害現場における複数台ロボット制御：データ共有とロボット指示を両立する ROS の一対一通信の拡張
○小泉亘平，菅谷みどり（芝浦工大）

8　Wi-fi direct 技術を用いたアドホックソーシャルネットワークの実装
○河上真之（広島大）

学生セッション［1V 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
ユビキタスコンピューティングシステム　座長　矢谷　浩司（東大）

1　センサデータの周期性を用いた行動推定の検討
○伊藤　将，廣津登志夫，藤田　悟（法大）
2　農作業情報入力自動化のための学習システムの構築に関する研究
○阿久津樹輝，千葉慎二（仙台高専）
3　スマートフォンを選択的に起動させる外付けウェイクアップ回路
○池内尚史，高木　雅，角谷和宣，邱　　浩，高宮　真，川原圭博（東大）
4　形状記憶合金アクチュエータの収縮タイミング制御で這行運動を生成するシンプルな折紙型ロボット
○李　東池，斉藤一哉，梅舘拓也，川原圭博（東大）
5　陶磁器に焼き付けた 2 次元コードを用いた個体識別の可能性
○加藤　翔，藤川真樹（工学院大）
6　一人称視点カメラを用いた思い出の楽しい振り返りのための体験自動記録
○木下恵理子，藤波香織（農工大）
7　多様な情報通知装置が混在する卓上作業空間における通知先決定手法の提案
○村越俊太郎，藤波香織（農工大）
8　持ち物推薦システムのための所持履歴取得機能の開発
○森田陽介，内田真人，山岡澪奈，飯島安恵，今野　将（千葉工大）
9　持ち物推薦システムのための所持傾向の類似性分析手法
○山岡澪奈，飯島安恵，今野　将（千葉工大）

学生セッション［2V 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
センシングシステム・アプリケーション　座長　川原　圭博（東大）

1　氷型スマートデバイス向け光学的アルコール濃度推定手法の調査
○松井秀憲，橋爪崇弘，矢谷浩司（東大）
2　人の状態推定のための椅子の動き収集システムの検討
○加藤上鎮，江崎史哲（愛知工大），遠藤正隆，中嶋裕一，三浦哲郎（RIO），菱田隆彰（愛知工大）
3　歩行計測・運動解析と環境データの統合分析並びに IoT 化の研究
○岡田大貴（電機大）
4　まつりトラッキングシステム「おどってみりん」の開発と実証実験におけるユーザ評価
○山下賢治，大村　廉（豊橋技科大）
5　リハビリテーション自動記録にむけたウェアラブルセンサ装着部位の検討
○小向航平，大村　廉（豊橋技科大）
6　センサーデータの時系列変化特徴による間引きを用いた送信量削減手法の提案
○指吸未来，鈴木智文，岸田隆祐，塚田晃司（和歌山大）
7　Passive RFID を用いた睡眠時呼吸モニタリングシステムの提案
○納谷かごめ（会津大），Hu Xiaoxuan（南京理工大），Li Peng（会津大），Wang Kun（南京理工大），宮崎敏明（会津大）
8　ブラウザの Web ページ閲覧履歴に基づくスマートフォン端末向け画像認証方式の検討
○飯澤悠介，中村嘉隆，稲村　浩（はこだて未来大）

学生セッション［3V 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
サイバーフィジカルシステム　座長　宮崎　敏明（会津大）

1　スマートフォンとエルゴメータを用いたヘルスケア向けデータ管理方法の検討
○川上勇剛（愛知工大），伊藤信行（三菱電機エンジニアリング），梶　克彦，内藤克浩，水野忠則，中條直也（愛知工大）
2　BLE 電波強度を用いた人流からの滞留検知と潜在顧客の判別の試みとセンシングデバイスの提案
○渡邊幸樹，稲村　浩，中村嘉隆（はこだて未来大）
3　街歩きアプリの利用による観光資源の第一印象と評価の関係の分析
○家入祐也（早大），中島　悠（東邦大），菱山玲子（早大）
4　インターネットに依存しない災害時避難所状況把握システムの一検討
○田中有彩（お茶の水女子大），前野　誉（スペースタイムエンジニアリング），高井峰生（カリフォルニア大ロサンゼルス校／阪大），大和田泰伯（NICT），小口正人（お茶の水女子大）
5　災害時における被災者への物資提供支援アプリケーションの一検討
○佐藤沙央，小口正人（お茶の水女子大），高井峰生（カリフォルニア大ロサンゼルス校／阪大），大和田泰伯（NICT）
6　複数のソナーを用いた養殖魚尾数推定の基礎検討
○大木寛成，谷口義明（近畿大）
7　集中度推定システムによる社会的手抜きの抑制効果に関する分析
○渡辺裕介，吉野　碧，菱山玲子（早大）
8　（講演取消）
9　広範囲の効率的な観測のための自律移動型 UAV の協調動作制御に関する一考察
○長尾博樹，神崎映光（島根大）

学生セッション［5V 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
歩行者と高度交通システム　座長　花房　比佐友（アイ・トランスポート・ラボ）

1　臀部触覚を用いた自動車周囲通知システムにおける種別通知
○林　柾徳，鈴木彰真，村田嘉利，佐藤永欣（岩手県大）
2　踏力を利用した自動車操縦インタフェースの提案
○樋口悠人，村田嘉利，鈴木彰真，佐藤永欣（岩手県大）
3　マルチパス誤差の空間相関性を利用した歩行者測位精度向上
○イヤロ パトウ，小花貞夫，湯　素華（電通大）
4　無線チャネル使用率に基づく歩車間通信の動的送信頻度制御
○伊藤　舜，小花貞夫，湯　素華（電通大）
5　スマートフォンを用いた走行データの収集とドライバー行動モデルの構築
○林　政行，伊藤孝行（名工大）
6　歩車間通信及び歩行者情報を活用した予防安全システムの研究
○萩原健太（電機大）
7　スマートフォンによるリスク情報の発信を用いた予防安全システム
○竹内一生（電機大）
8　数値地図データにおける道路情報からの歩道ネットワーク生成手法
○池谷友希，朝倉宏一（大同大）
9　利用者の既知の景観をランドマークとして使用する重畳表示型道案内システムの提案
○長谷川駿，吉野　孝（和歌山大）

学生セッション［6V 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
無線通信と高度交通システム　座長　屋代　智之（千葉工大）

1　長期間収集した車両からの電波を利用する路側機の高精度な測位方式
○戸田和宏，湯　素華，小花貞夫（電通大）
2　V2X-DSRC を用いた衝突警告アプリケーションにおける収容台数増加のための受信信号強化と干渉電力削減方法の提案と評価
○平井健士，村瀬　勉（名大）
3　車車間通信を用いた CCN に基づく道路・交通情報の効率的な収集方式
○中沢隆紀，湯　素華，小花貞夫（電通大）
4　普通車と大型車が混在する環境での車車間通信による狭域交通情報の効率的な中継配信方式
○高草木政史，森　拓也，湯　素華（電通大），鈴木理基，堀　賢治，大岸智彦（KDDI 総合研究所），小花貞夫（電通大）
5　LPWA を用いた IoT バスロケーションシステムのための位置情報圧縮手法の提案
○保下拓也，吉松彰宏，鈴木秀和，松本幸正（名城大）
6　LPWA と電子ペーパーを利用したスマートバス停の提案
○吉松彰宏，保下拓也，鈴木秀和，松本幸正（名城大）
7　AIS ネットワーク構築のための小型受信機の開発と性能評価
○西山政明，長尾和彦，瀬尾敦生，肥田琢弥（弓削商船高専）
8　移動体の電波強度を利用した歩行者の位置推定精度向上手法
○西牧佑哉，森田健太郎，佐藤健哉（同志社大）

9　社会ネットワーク特徴量を用いた効率的なメッセージ転送を行う DTN ルーティングアルゴリズム
○五十嵐友輔，宮崎敏明（会津大）

学生セッション［7V 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
シミュレーションと高度交通システム
座長　柴田　直樹（奈良先端大）

1　IFoT の考え方に基づくマルチカメラを用いた室内での人流解析システムの設計
○坂口　僚，藤田　茂，今野　将（千葉工大）
2　子供のモビリティモデル構築のための一検討
○野々村太志，大村和徳，梶　克彦（愛知工大）
3　手動運転車両と自動運転車両の混在環境における渋滞軽減手法
○古川義人（神奈川工科大），徳永雄一（三菱），斎藤正史（金沢工大），清原良三（神奈川工科大）
4　マルチエージェント交通シミュレーションにおける公共交通を再現するエージェントの実装
○西浦太朗，中村泰士，大室高志，服部宏充，小川祐樹（立命館大）
5　ダイナミックマップにおけるプローブデータクレンジングの検討
○赤間優樹（アーク情報システム），後藤厚宏（情報セキュリティ大）
6　大規模地震発生時のドライバーの行動傾向をシミュレーションベースで調査するためのシステムの提案
○鳥田拓也，北村尊義（立命館大），泉　朋子（阪工大），仲谷善雄（立命館大）
7　簡易なオープンデータを用いた鉄道路線内の移動需要推定手法
○根本晃輔，長谷部浩二，阿部洋丈，加藤和彦（筑波大）

第 3 分冊　（セキュリティ）

一般セッション［2E 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
セキュリティ一般　　座長　島岡　政基（セコム）

1　バイナリファイル解析によるアプリ脆弱性検知システムについての考察
○藤松由里恵，花谷嘉一，春木洋美（東芝）
2　ドメインの特徴によるフィッシング詐欺サイト探索の可能性
○松田　健，加藤雅彦（長崎県立大），唐沢勇輔（ソースネクスト），丹京真一（日立システムズ），中村智史（LINE），林　憲明（トレンドマイクロ），加藤孝浩（トッパン・フォームズ）
3　IoT-GW 向けホワイトリストの機械学習期間における暫定的なホワイトリストの提供手法の提案
○野村公輝，永渕幸雄，谷川真樹（NTT）
4　One-Class SVM を用いたマルウェア PDF 検出手法
○岩本　舞，小島俊輔（熊本高専），中嶋卓雄（東海大）
5　組織内ネットワーク攻撃進行度の自動推定技術の評価検証
○矢野翔太郎，西野琢也，菊地亮太，丸橋弘治，福田大輔，齊藤聡美，鳥居　悟，伊豆哲也（富士通研）
6　機械学習を用いる推論を考慮した情報漏洩の検出
○松下智樹，木下宏揚，森住哲也（神奈川大）
7　集計データへの差分プライバシ適用における特性の一考察Ⅱ
○本郷節之，手塚理貴（北海道科学大），寺田雅之（NTT ドコモ），稲垣　潤（北海道科学大）

学生セッション［1W 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
ネットワークセキュリティ（1）　　座長　嶋田　創（名大）

1　機械学習を用いた侵入検知システム改良手法の検討
○近松康次郎，平川　豊，大関和夫（芝浦工大）
2　トラフィック監視による不正通信遮断システムの提案
○田場典智，長田智和，谷口裕治（琉球大）
3　不正パケットの高速な検出を実現する簡易認証方式の提案と評価
○鴨下友馬，鈴木秀和（名城大），内藤克浩（愛知工大），渡邊　晃（名城大）
4　決定木と自己組織化マップを用いた標的型攻撃に対するハイブリッド型通信検知手法
○中川雄太郎，安達直世，滝沢泰久（関西大）
5　攻撃コンテンツの不可視化特徴および URL 文字列特徴を用いた Drive-by Download 攻撃検知手法の提案
○髙田航太，吉田　豊，中村嘉隆，稲村　浩（はこだて未来大）
6　モダンブラウザにおける supercookie の調査 :2017 年版
○小芝力太，高橋和司，安田昂樹，田邊一寿，種岡優幸，細谷竜平，齋藤佑太，野田隆文，齋藤孝道（明大）
7　複数の評価サービスの統合による短縮 URL の安全性提示手法の提案
○藤根麻羽，小倉加奈代，バハドゥール ベッド，高田豊雄（岩手県大）
8　Browser Fingerprinting 対策ツールの評価
○柳沢進也，高橋和司，安田昂樹，田邉一寿，種岡優幸，細谷竜平，小芝力太，齋藤祐太，野田隆文，齋藤孝道（明大）
9　コマンド入力特徴に着目したマルウェア不正活動の検知手法の提案
○佐藤至典，中村嘉隆，稲村　浩（はこだて未来大）

学生セッション［2W 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
ネットワークセキュリティ（2）　　座長　渡邊　晃（名城大）

1　多種間の IoT ボットネット拡散モデルの解析
○佐藤隼人，宮田純子（芝浦工大）
2　攻撃対策を目的とした軽量プロトコル MQTT を利用した C&C ネットワークの評価
○坂梨元軌，嶋田　創（名大）
3　DHCPv6 クライアントの実装差を利用した DNS サーバアドレス詐称攻撃
○高木聖也，長谷川皓一，山口由紀子，嶋田　創（名大）
4　インターネット定点観測トラヒックにおける相関係数発生確率行列に基づく異常検知の一検討
○間山航平，角田　裕（東北工大）
5　通信パケットの記録からの Web を介する攻撃の再現
○奥田裕樹，福田洋治，井口信和（近畿大）
6　情報漏洩インシデントの調査に基づく漏えい原因のデータマイニング
○池上和輝，菊池浩明（明大）
7　セキュリティインシデント事例からみた必要なスキルセットに関する考察
○内藤美保，角田裕太，八代　哲，細谷竜平，齋藤孝道（明大）
8　マルウェア検知のためのシステム管理手法に関する検討
○杉井俊也，後藤厚宏（情報セキュリティ大）
9　ハニーポットへの攻撃に対する NIDS 検知反応を利用したシグネチャの自動チューニング
○大橋宗治，長谷川皓一，山口由紀子，嶋田　創（名大）

学生セッション［3W 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
認証　　座長　清　雄一（電通大）

1　スマートフォンにおける振動パターンの組み合わせを用いた覗き見攻撃対策認証手法の検討
○廣瀬郁也，平川　豊，大関和夫（芝浦工大）
2　打鍵ミスを考慮したおとり用パスワード管理ツールの提案
○那須川至，小倉加奈代，ビスタ ベッドバハドゥール，高田豊雄（岩手県大）
3　ショルダーハック耐性とユーザの想起性を両立する類似画像を用いた認証手法の提案
○津谷和紀，小倉加奈代，ビスタ ベッドバハドゥール，高田豊雄（岩手県大）
4　スマートフォンにおけるアプリの稼働時間を用いたフォールバック認証手法の検討
○安齊将之，小倉加奈代，Bista Bhed Bahadur，高田豊雄（岩手県大）
5　サーバ操作時の継続的個人認証　- キーストロークを使用した自己組織化マップによる -
○滝本将司，納富一宏（神奈川工科大），斎藤恵一（国際医療福祉大）
6　相手認証における鍵管理負担軽減方法の提案
○木村和紀，土井　洋（情報セキュリティ大）
7　（講演取消）
8　複数話者の同時発話によるモノラル音声 CAPTCHA の頑健性評価
○挟間晃彦，梅澤　猛，大澤範高（千葉大）

学生セッション［5W 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）

プライバシーとトラスト　　座長　土井　洋（情報セキュリティ大）

1　悪意のあるデバイス BadUSB による攻撃のリスク調査
○山本拓巳，菊池浩明（明大）

2　動的解析による Android アプリが取得しているプライバシー情報の調査
○程　　斌，角田裕太，細谷竜平（明大），森　達哉（早大），齋藤孝道（明大）

3　複数機関に個人データが存在する水平垂直分割データベースの匿名化 -l- 多様性を用いた安全性の考察 -
○伊奈優樹，清　雄一，田原康之，大須賀昭彦（電通大）

4　動画コンテンツによる擬似的訓練を可能とする標的型攻撃教材の開発
○八藤後茉央，小倉加奈代，高田豊雄，ベッド バハドゥールビスタ（岩手県大）

5　OpenStreetMap を用いた最短経路案内付きアクセシビリティマップの開発
○森本萌心，松崎良美，吉村麻奈美，滝澤友里，松岡淳子，村山優子（津田塾大）

6　障がい者支援のためのアウェアネス機能を導入した戸口ノックシステムの開発
○神田結衣，松岡淳子，村山優子，滝澤友里（津田塾大）

7　インシデント情報開示に基づく企業価値変動
○川崎真郷，後藤厚宏（情報セキュリティ大）

8　外国人観光客を対象とした経路検索結果に基づく防災情報提供手法の提案
○坂本真輝，吉野　孝，永井隼人，佐野　楓，ブレント リッチー（和歌山大）

学生セッション［6W 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）

システムセキュリティ　　座長　三村　守（防衛大）

1　Windows API コールログからのマルウェアの動作再現について
○港　和人，福田洋治（近畿大），廣友雅徳（佐賀大），毛利公美（岐阜大），白石善明（神戸大）

2　重要サービスの特定を困難化する通信処理制御法
○奥田勇喜，佐藤将也，谷口秀夫（岡山大）

3　例外処理機構を用いて Stack-based Buffer Overflow 攻撃を緩和するプログラムローダの提案と実装
○金　雨淵，近藤秀太，渡辺亮平，菅原捷汰，横山雅展，中村慈愛，齋藤孝道（明大）

4　Use After Free 脆弱性を悪用した攻撃への対策に関する考察
○中村慈愛，近藤秀太，渡辺亮平，菅原捷汰，横山雅展，金　雨淵，齋藤孝道（明大）

5　自己消去プログラムによるデータ流出への対応
○石川達大，小高知宏，黒岩丈介，諏訪いずみ，白井治彦（福井大）

6　ファジングツールの機能評価と効率的なファジング手法の考察
○福山　潤，松井俊浩（情報セキュリティ大）

学生セッション［7W 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）

機械学習セキュリティ・マルウェア　　座長　佐藤　将也（岡山大）

1　（講演取消）

2　ニューラルネットワークを用いたスパムメールフィルタリングの方式検討と実装
○三宅一平，尾花　賢（法大）

3　CNN を用いた顔認証システムの開発と追跡停止に対する評価
○脇　一史，森　駿文，菊池浩明（明大）

4　（講演取消）

5　Doc2Vec を用いた静的解析によるマルウェア検知
○菅野賢輝，三浦紘弥，三村　守，田中秀磨（防衛大）

6　画像特徴量を用いた未知マルウェアの検知・分類アルゴリズムに関する検討
○小寺建輝，房安良和，泉　　隆（日大）

学生セッション［7X 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）

暗号と人工物メトリクス　　座長　山口　高康（NTT ドコモ）

1　楕円曲線間の擬距離を用いた fixed table attack への対策
○石川　司（島根大），篠原直行（NICT），伯田恵輔（島根大）

2　在宅医療介護連携システムにおける緊急時を考慮した HPKI 認証に基づく個人情報の開示先制御
○稲吉陽一朗（名工大），白石善明（神戸大），竹尾　淳，加藤昇平，矢口隆明，岩田　彰（名工大）

3　相反する光学特性を用いた人工物メトリクスの提案と合成樹脂製品への適用
○髙山幸紀，藤川真樹（工学院大），渕　真悟（青学大）

4　偽造防止技術の陶磁器への適用 (2 つの光学特性を持つ光励起型蛍光体の開発)
○小山紗季，藤川真樹（工学院大），渕　真吾（青学大）

第 4 分冊　　（インタフェース）

一般セッション［3E 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）

インタフェース（1）　　座長　倉本　到（阪大）

1　オセロゲーム棋譜データの統計解析結果に基づく優勢 / 劣勢表示方法の提案
○華山宣胤（尚美学園大）

2　一対比較の結果を表現する図の提案
○水野隆文（名城大）

3　距離標画像認識と歩行者自律航法によるトンネル内保守点検向け拡張現実
○加島隆博，田中信秋，宮本　健，川浦健央，塚原　整（三菱），野崎惇登，廣井　慧，河口信夫（名大）

4　快適性を追求した家庭用エアコンの画像処理技術
○小松佑人，浜田宏一（日立），磯田貴宏，上田貴郎，神野憲之（日立ジョンソンコントロールズ空調）

5　ドローン搭載カメラによる可視光画像の植生領域判別に有効な指標
○尾崎敬二（国際基督教大）

6　インパルス性雑音を除去する雑音検出型フィルタの限界性能についての検討
○横山靖樹，宮嵜　敬（長野高専），曽根光男（東海大），山本博章（信州大）

7　輪郭追跡アルゴリズムの改良
○小林郁典，大政雄照（徳島文理大）

一般セッション［5E 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）

インタフェース（2）　　座長　綾塚　祐二（クレスコ）

1　（講演取消）

2　ストレス緩和効果向上におけるインタラクションの重要性
○林　里奈，加藤昇平（名工大）

3　宅内での適切な音声情報提供タイミング推定モデルの検討
○藤本雄一郎，小森光月（農工大），徐　建鋒，田坂和之，柳原広昌（KDDI 総合研究所），藤田欣也（農工大）

4　複数種の LCD を配置した半球ドーム型高臨場感ディスプレイシステムの構築手法
○神原利彦，宗前泰博（八戸工大）

5　体動および呼吸変動を用いた静止車両における乗員の睡眠段階の推定
○伊部達朗（日産自動車）

6　グラフと GANs 特徴量に基づいた間取り検索システムの提案
○井村惇平，金原秀明，闕　翼人，村田　昇（早大），杉浦太樹，野村眞平（リクルート住まいカンパニー）

7　検索条件のベクトル表現を用いた検索の興味の可視化
○布施拓馬，闕　翼人，村田　昇（早大），杉浦太樹，野村眞平（リクルート住まいカンパニー）

一般セッション［6E 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）

インタフェース（3）　　座長　西本　一志（北陸先端大）

1　ウェブニュース関連ツイートの極性に着目した共感対話システムの提案と評価
○田原俊一，池田和史，松本一則，帆足啓一郎（KDDI 総合研究所）

2　ツイートに基づくエゴサーチサービス「ツイート気になるくん」の構築
○岩井憲一（滋賀大）

3　一文ごとの読み速度に基づく難解文抽出手法
○寺田春菜，小林潤平（大日本印刷）

4　グループ学習における対話の特徴的な単語を用いた学習支援システムの提案とその効果
○奥原　俊（藤田保健衛生大／名工大），伊藤孝行（名工大）

5　数式処理システムの高度な対話機能の開発 - 音声による数式読み上げ機能の開発 -
○中村勝則，平井綾乃（武庫川女子大）

6　ソーシャルビジネス創生のための Co-creation System: 地方創生に応用可能なオープンシステムの試み
○杉野隆三郎，太田健吾，吉田　晋，福田耕治，平山　基，池添純子（阿南高専），竹内祐介（ダンクソフト）

学生セッション［1X 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）

コラボライティブ・ネットワーキング　　座長　服部　哲（駒大）

1　協調的議論における発言状況可視化システムの提案
○大山涼太，岡澤大志，江木啓訓（電通大）

2　Cyber Physical Co-Creation Method : 対面と Web を用いた共創手法の開発と社会実験による検証
○仙石晃久，伊藤孝行，堀田竜士（名工大）

3　サッカー自由視点映像を対象としたカメラワーク検討のためのインタフェース
○鈴木啓太，宍戸英彦，亀田能成，北原　格（筑波大）

4　IoT センサを用いたデータの統合的利用による商店街の賑わい推定モデル
○吉野　碧，家入祐也，菱山玲子（早大）

5　漢字文化圏の表記共通性に起因した誤訳を解消する翻訳システムの提案
○佐藤瑞樹，菱山玲子（早大）

6　即時的再構成が可能なアプリケーション仮想共有について
○岩田　知，大囿忠親，新谷虎松（名工大）

7　アイデア連想のつながりを明示化するブレインライティング支援システムの提案
○梅村雄貴，由井薗隆也（北陸先端大）

8　テレビ会議を活性化するための顔映像の演出機能の提案
○山田涼介，由井薗隆也（北陸先端大）

9　（講演取消）

学生セッション［2X 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）

デジタル・エクスペリエンス　　座長　柴田　邦臣（津田塾大）

1　心拍の可視化システムの試作とコミュニケーションに与える影響の評価 – 図形、光、振動を用いて
○狩野麗良，松田晃一（大妻女子大）

2　認知症の理解を支援する対話型エージェントの実装
○樋口恭佑，鈴木天詩，宮田章裕（日大）

3　ゲーミフィケーションを用いたバリア情報収集の提案
○大和佑輝，呉　健朗，宇野広伸，樋口恭佑，荒木伊織，宮田章裕（日大）

4　他者と自分の視覚を相互に交換し入れ替わり体験価値を提供する“CHEESE”の開発
○市川俊樹（東京工科大），岡崎博樹（手仕事工房），上林憲行（東京工科大）

5　仮想空間におけるミーティングコンテンツの効果的な表示とその利用
○横山勇斗，長尾　確（名大）

6　マルチエージェントシミュレーションを用いた会議における集団浅慮回避手法の提案
○宇野颯人，宇都宮陽一，奥田隆史（愛知県大）

7　（講演取消）

8　教室における発言促進のための音環境生成システムの開発
○関根　凜，浅井康貴，江木啓訓（電通大）

9　TA の自律的成長を促す行動記録システムの提案
○則常一輝，横山裕紀，江木啓訓（電通大）

学生セッション［3X 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）

可視化とバーチャルシステム　　座長　竹島　由里子（東京工科大）

1　SVG 作成用フレームワーク SVuGy の統計グラフ生成機能におけるデータ表現手法の拡張
○菊池のぞみ，松原俊一，Martin Duerst（青学大）

2　デプス画像に基づく車椅子利用者のためのバリアの可視化
○高橋里緒，檀　寛成，安室喜弘（関西大）

3　3 次元ベクタ場比較可視化のための流線選択
○澤田頌子，伊藤貴之（お茶の水女子大），三坂孝志，大林　茂（東北大），Tobias Czauderna，Kingsley Stephens（Monash University）

4　累進焦点レンズ設計における屈折像の歪み分布評価
○松川修平（東京工科大），藤堂英樹（中央学院大），柿本正憲（東京工科大）

5　写真測量を用いた文化財の過去と現状の変容の可視化
○森　直紀，藤里和樹，廣瀬　詢，肥後時尚，末森　薫，吹田　浩，安室喜弘（関西大）
6　VSM におけるバーチャルツアーシステム
○田中慎之介，大野光久，吉田眞澄（筑波学院大）
7　パレットタイムブック : 多視点映像提示を用いた書籍の視覚情報の拡張
○シンイ キュウ，宍戸英彦，亀田能成，北原　格（筑波大）
8　多視点投影による街路案内図の生成
○佐藤千晴，齋藤隆文（農工大）
9　多層透視型映像体験システムの再設計とユーザインタフェースの検討
○石橋朋果，杉崎公亮，和田充裕，田村秀行，木村朝子，柴田史久（立命館大）

学生セッション［5X 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
質感表現　　座長　土橋　宜典（北大）
1　メラニンの不均一分布による頭髪の写実的レンダリング
○長澤彦已，堀江康晃，藤代一成（慶大）
2　粒子ボリュームレンダリングを用いた両眼視可能な炎映像の生成システム
○今田明洋，藤代一成（慶大）
3　テクスチャ画像の質感向上のための立体視画像を用いた最適ノイズ強度推定
○立川由貴，亀田昌志（岩手県大）
4　単一画像中の物体への蛍光成分の付与
○日高大地，岡部孝弘（九工大）
5　パターン光投影による半透明物体の反射率と散乱特性の推定
○田中奈津美，岡部孝弘（九工大）
6　（講演取消）
7　視知覚の場を用いた髪形の評価
○秋山美菜子，村木祐太（阪工大），栗野直之（成蹊大），西尾孝治，小堀研一（阪工大）
8　間接的な質感編集のための水滴形状の復元
○鎌田　春，岡部孝弘（九工大）
9　布のよれ付与のための格子の再分割による部分的な面積増加方法
○史　　発，齋藤　豪（東工大）

学生セッション［6X 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
ナレッジ・ネットワーキング　　座長　本田　新九郎（NTT）
1　SNS においてフェイクニュースを拡散するユーザの特徴抽出
○岩橋瑠伊，矢吹太朗（千葉工大）
2　Twitter 発言の分析による Web サービス障害の影響調査
○岩瀬　翔，矢吹太朗（千葉工大）
3　児童被害を抑止するための SNS 上の不正コメント抽出方法
○住田　淳，亮　隆弘，菱田隆彰（愛知工大）
4　ソフトウェア開発プロジェクトのための SNS を用いた進捗管理支援システムの提案と開発
○山本美幸，寺島美昭（創価大），清原良三（神奈川工科大）
5　Web 上での議論におけるファシリテータの社会的存在感の影響に関する研究
○石田健太，伊藤孝行（名工大），奥原　俊（藤田保健衛生大）
6　グループ旅行計画への積極的な参加を促すための卓上インタフェース
○片山奈津季，村越俊太郎，藤波香織（農工大）
7　サイバーパトロール活動支援アプリケーションの開発とその有効性
○亮　隆弘，住田　淳，菱田隆彰（愛知工大）
8　防災関連情報集約システムにおける関連表示を用いた情報見逃し防止手法の提案
○安田大誠，吉野　孝（和歌山大）
9　非常時のインターネット非接続環境における情報配信手段の一検討
○于　　卉，小口正人（お茶の水女子大），大和田泰伯（NICT）

学生セッション［1Y 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
VR・AR・MR・知覚（1）　　座長　濱川　礼（中京大）
1　AR を用いて VR 体験者とのコミュニケーション環境を改善する方法に関する検討
○柿沼　育，盛川浩志，小宮山摂（青学大）
2　実用的なメガネ型 3 次元視線計測装置の開発
○加藤健太，オキディッキ プリマ，伊藤久祥（岩手県大）
3　視認性低下要因調査に基づく卓上投影型 AR の情報視認性維持の研究
○市橋啓太，藤波香織（農工大）
4　複合現実型電子彫刻システムにおける振動を用いた触感提示法の実現
○巌　侑真，川越真帆（立命館大），大槻麻衣（筑波大），柴田史久，木村朝子（立命館大）
5　拡張現実利用時の奥行き知覚支援手法の提案
○泉水　航，森　博彦，岡　　誠（東京都市大）
6　あえて速度計を見せないことによりドライバーの速度抑制を促すシステムの提案
○小西鉄馬，北村尊義（立命館大），泉　朋子（阪工大），仲谷善雄（立命館大）
7　（講演取消）
8　没入型映像空間における傾き知覚の分析 (3) - 身体の傾きが与える影響ついて -
○橋本萌起，古賀宥摩，石津航大，橋口哲志，田村秀行，柴田史久，木村朝子（立命館大）

学生セッション［2Y 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
VR・AR・MR・知覚（2）　　座長　中村　嘉志（国士舘大）
1　発話内容を文字と関連画像で被面接者に重畳表示する AR 型面接の提案と有効性の検討
○中村浩幹（東京工科大），中村亮太（湘北短期大），上林憲行（東京工科大）
2　被面接者の発言を促すための擬人化エージェント面接の提案と効果検証
○今泉陽介（東京工科大），中村亮太（湘北短期大），上林憲行（東京工科大）
3　VR を使用した蒸気機関車シミュレータ　- スコップ型デバイスの開発と検証 -
○西山涼平，田村　仁，檜山正樹，入江　俊，仲田　仁（日本工大）
4　仮想と現実のインタラクションを実現する AR 紙相撲システム
○福山裕幸，飯田勝吉，高井昌彰（北大）
5　AR 技術を用いた機器管理のための各行動に対応した作業支援システム
○石川渓太，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）
6　電子回路図から水路図への自動変換に基づく AR を用いた可視化の提案
○小島有貴，安達拓也，濱川　礼（中京大）
7　回路図の画像認識を用いたブレッドボード向け実体配線図の自動生成手法に関する検討
○坂口達彦，矢谷浩司（東大）

学生セッション［3Y 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
視覚と色表現　　座長　吉田　典正（日大）
1　全景映像の適応的半透明ブレンディングによる視野狭窄の緩和
○登野拓志（慶大），茅　暁陽，豊浦正広，郷健太郎，柏木賢治（山梨大），藤代一成（慶大）
2　屋外でのさまざまな時間、季節での描画用カラーパレット
○石田ゆい歩，齋藤　豪（東工大）
3　L*a*b* 色空間を用いた発赤の肉眼的所見に対応した客観評価手法の検討
○紅谷浩彰，亀田昌志（岩手県大），大崎　真（岩手保健医療大），武田利明（岩手県大）
4　複数色の重ね合わせによるユーザーの好みを反映した化粧色推薦
○山岸奏実，加藤卓哉，古川翔一，山本晋太郎，森島繁生（早大）
5　分光情報に基づいたシーン照明推定と 3DCG の色再現法
○洪　昇完（信州大），田中法博（長野大），田中　清（信州大）
6　CG 画像向けの True Color から Deep Color への Inverse Tone Mapping の開発
○難波宗介，成見　哲（電通大）
7　広視角域 CSF の計測とその画像への適用
○上野真実（お茶の水女子大），齋藤　豪（東工大）

学生セッション［5Y 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
アニメとアート表現　　座長　藤堂　英樹（中央学院大）
1　顔の特徴点にもとづくアニメーションの顔描画における特徴の分析
○山川圭介，斎藤　豪（東工大）

2　漫画のコマ画像からの手書きオノマトペの抽出とその映像効果付与手法の提案
○橋本直樹，澤野弘明，佐藤貴明（愛知工大），鈴木裕利（中部大），堀田政二（農工大）
3　深層学習を用いたマンガキャラクタの検出における顔変形の影響評価
○山下拓朗，柳澤秀彰，渡辺　裕（早大）
4　アニメーションの背景画風変換についての検討
○西山昴志，當間愛晃（琉球大）
5　CG によるレジン作品の制作支援
○谷水美香子，斎藤隆文（農工大）
6　仮想応力分布下の光弾性体によるジェネレーティブアート
○宮崎一輝，藤代一成（慶大）

学生セッション［7Y 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
生活支援・ネットワークメディア　　座長　澤田　秀之（早大）
1　読書を促進する音楽付き読書アプリの提案
○草野有沙，西由佳梨，北原鉄朗（日大）
2　音声対話ロボットとリアルタイム画像提示による調理支援システムの開発
○齋　圭作，加藤宏脩，阿部秀尚（文教大）
3　経路編集時の選択経路数を増加させた乗換案内インタフェース
○内山雄貴，小林亜樹（工学院大）
4　「なじみ」を利用した観光行動誘発システムの提案
○植木蒼馬，仲谷善雄，北村尊義（立命館大）
5　ソーシャルメディア上の行動データから流出する個人情報の定量的分析
○畑田裕二，矢谷浩司（東大）
6　クラウドソーシングを用いたアイコンの主観的属性の収集
○吉谷拓真，矢谷浩司（東大）
7　Web パフォーマンスとユーザビリティの相関関係分析
○道券裕二（早大），岩田　一（神奈川工科大），白銀純子（東京女子大），深澤良彰（早大）

学生セッション［1ZA 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
線とイラスト　　座長　向井　智彦（東海大）
1　ウィンドウ内における 2 直線の類似度比較
○井上大成，吉田典正（日大）
2　方向角パラメータ空間曲線の提案
○久田友海，斎藤隆文（農工大）
3　（講演取消）
4　立体キャンバスを用いた線画キーフレーム間での対応線決定手法
○藤田正樹，齋藤　豪（東工大）
5　畳み込みニューラルネットワークによる CG 画像の強弱有り線画像の生成
○前田浩輔，齋藤　豪（東工大）
6　エッジ強調に基づくイラスト画像のための対話的領域分割
○谷島拓実，金森由博，遠藤結城，三谷　純（筑波大）
7　線画イラストにおけるカーネル SVM を用いた閉領域の奥行き推定
○昆将太郎，金森由博，遠藤結城，三谷　純（筑波大）
8　Deep Learning を用いたラフ画の自動清書・着色
○榊原香波，田村　仁，檜山正樹，入江　俊，仲田　仁（日本工大）

学生セッション［2ZA 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
人間計測・医療支援（1）　　座長　伊藤　久祥（岩手県立大）
1　マスコットロボットを活用したリアルタイムによるテクノストレス解消の検証
○荒木亮磨，土肥紳一（電機大）
2　印象評価型うつ検査支援手法に用いる平均顔による影響の比較
○大石勝巳，杉浦彰彦（静岡大）
3　うつ病検査支援のための描画された表情顔の部位形状の影響
○大倉有貴，杉浦彰彦（静岡大）
4　印象評価を用いたうつの自己検査手法に適した顔画像の SD 法による検証
○大金俊哉，杉浦彰彦（静岡大）
5　Kinect を活用した主観的睡眠感の評価方法の提案
○秋田谷優，西村　歩，折笠愛矢（文教大），武藤ゆみ子（東工大），武藤　剛（文教大）
6　EQ 指標を用いた感情推定手法の評価
○吉田怜司，菅谷みどり（芝浦工大）
7　生体情報を用いたレコメンドシステム
○田中智史，吉田怜司，池田悠平，菅谷みどり（芝浦工大）
8　計算課題刺激環境下における広域前頭前野脳活動データを用いた STAI スコア推定法
○松下貴弘，鏑木崇史，栗原陽介（青学大），松本　隆（早大）
9　経験想起時の心拍変動解析と心電図のカオス性を用いた気分判別
○北河　茜，加藤昇平（名工大）

学生セッション［3ZA 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
人間計測・医療支援（2）　　座長　加藤　昇平（名工大）
1　3D 顔モーフィングモデルを用いた表情訓練システム
○富沢貴大，オキディッキ プリマ，伊藤久祥（岩手県大）
2　リハビリテーション促進のためのロボットによる声かけ支援
○伊藤哲平，菅谷みどり（芝浦工大）
3　介護ロボットに対する印象改善手法の検討
○香川莉穂，菅谷みどり（芝浦工大）
4　肝臓手術サポートシステムにおける GPGPU による DICOM からの深度画像生成と評価
○矢野大貴，小枝正直，大西克彦，登尾啓史（大阪電通大）
5　カメラによる遺伝子検査ツール STH-PAS の読み取り手法の開発
○白田　光，オキディッキ プリマ，伊藤久祥（岩手県大）
6　MHC 技術を用いた非侵襲血糖測定器及び血糖管理システムの開発
○竹内　僚，瀬尾敦生，長尾和彦（弓削商船高専）
7　VR-HMD を使用したアクティブ視野検査の提案
○堀田健仁，今渕貴志，オキディッキ プリマ，伊藤久祥（岩手県大）
8　X 線画像生成シミュレータによる仮想 X 線画像生成と人工足関節位置姿勢推定の精度評価
○安藤亮平，家城亮汰，小枝正直（大阪電通大）

学生セッション［5ZA 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
人間計測・医療支援（3）　　座長　菅谷　みどり（芝浦工大）
1　ボウリング投球動作の分類のための筋電位データの特徴抽出
○岩田昌樹，柴田　傑，塩谷浩之（宝蘭工大）
2　身体動作の異常値検知問題における CHI-FS 評価関数の信頼性の検証
○森　雅也（東京高専），秋月拓磨（豊橋技科大），高橋弘毅（長岡技科大），大前佑斗（東京高専）
3　仮想身体への介入によるボディイメージの補正訓練手法の提案
○村田真矢，吉元　颯，武藤　剛（文教大）
4　健足情報によって制御する義足 - 靴に内蔵したセンサによる膝部の角度推定 -
○松本　悠，鈴木彰真，佐藤永欣，村田嘉利（岩手県大）
5　レーザーポインタを用いた歩行中の肩の傾きの補正手法の提案
○鈴木愛理，村田修平，福本将也（文教大），武藤ゆみ子（東工大），菅生　誠（テレビジネス），武藤　剛（文教大）
6　畳込みニューラルネットワークと慣性センサによる運動支援システムの構築
○森　雅也，大前佑斗（東京高専）
7　動作解析に向けた 3 次元人物姿勢推定手法の提案
○大野祐汰，オキディッキ プリマ，伊藤久祥（岩手県大）
8　位置トラッキング可能なメガネ型視線計測システムの開発
○起田貴成，プリマ アルディアンシャー，伊藤久祥，今渕貴志（岩手県大）
9　瞼の影響を考慮した視線計測のための角膜反射領域のモデル化
○松尾良磨，山本倫也（関西学院大），長松　隆（神戸大）

学生セッション［6ZA 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
ロボットとエージェント（1）　座長　椎尾　一郎（お茶の水女子大）
1　追従ロボットとの共存に向けた位置関係に因るユーザの心理的影響調査
○前原啓太，穴久保拓磨，藤波香織（農工大）
2　対話アンドロイドに価値観を帰属させる必要性
○内田貴久（ATR ／阪大），港　隆史（ATR），石黒　浩（ATR ／阪大）
3　メダカ時計 - 非機械的な印象を与える表示装置 -
○蟻浪　卓，鈴木　優（宮城大）

4　タブレット端末のロボット化による受け入れられやすいパートナーロボットの開発
○奥田悠資，東隆太郎（関西学院大），青柳西蔵（東洋大），福森　聡，山本倫也（関西学院大）
5　かわいい人工物とのインタラクションが人の振る舞いに与える影響
○岡田真奈，阪田真己子（同志社大）
6　言語情報を持たない音を用いたヒューマン・エージェント・インタラクションシステムの開発
○棚橋　徹（日大），小林一樹（信州大），北原鉄朗（日大）
7　生体感情推定手法を用いた ロボット接近時のパーソナルスペースの感情評価と位置推定
○染谷祐理子（芝浦工大），戸辺義人（青学大），香川里穂，松日楽信人，菅谷みどり（芝浦工大）
8　感情・嗜好の動的更新による感性対話エージェントの親しみやすさ向上
○福田和彰，加藤昇平（名工大）

学生セッション［7ZA 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
協調作業　　座長　西本　一志（北陸先端大）
1　Tattler Bird: 家族への感謝を促すコミュニケーション支援デバイス
○桐原麻美，的場やすし，椎尾一郎（お茶の水女子大）
2　RealSense カメラを用いた議論の場の空気の推定手法の検討
○熊崎滉大，白松　俊（名工大）
3　議論の場の空気推定のための韻律情報の分析手法の検討
○幸浦弘昂，白松　俊（名工大）
4　議論の場の空気推定のための議論参加者の脳波分析手法の検討
○北川　晃，白松　俊（名工大）
5　育児状況のデータ共有による男女共同参画意識の気づきアプリケーションの開発
○西川　奏（釧路公大），山内寿代（釧路孝仁会看護専門学校），皆月昭則（釧路公大）
6　対話環境に適した映像利用による分散遠隔存在感の表現
○河島健司，吉野　孝（和歌山大）
7　高齢社会における生産世代の支援を目的としたチャットシステム
○梁　泳成，佐野睦夫（阪工大）
8　創造性課題における協働性の効果について
○村谷理沙，阪田真己子（同志社大）

学生セッション［3ZB 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
アニメーション　　座長　今給黎　隆（東京工芸大）
1　動画像の自然な長尺化処理
○岩崎未来，斎藤隆文（農工大）
2　編集履歴データの学習によるモーションデータの主観的品質判定の模倣
○渡邉俊綱，向井智彦（東海大）
3　例示データに基づくスキニングウェイトの対話的な最適化
○有泉静耶，向井智彦（東海大）
4　リアルタイムでの局所的メッシュ簡略化とその応用
○小田内敦史，築地立家（電機大）
5　3 次元キャラクタにおけるアニメ風髪モーションの自動生成
○古川健次，仲田　晋（立命館大）
6　輝度変動情報を用いた煙のボリュームレンダリングアニメーションの近似
○千葉裕介，小池崇文（法大）
7　状態遷移を考慮した拡張位置ベース運動力学による粉体の挙動のリアルタイムビジュアルシミュレーション
○滝口啓介，藤代一成（慶大）
8　吹奏アニメーションにおける音源同期型姿勢制御
○武内　航，堀井絵里，藤代一成（慶大）

学生セッション［5ZB 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
ロボットとエージェント（2）　　座長　伊藤　貴之（お茶の水女子大）
1　KnowledgeDeck: ビジネス資料作成向け情報収集・整理支援システム
○下尾波輝，矢谷浩司（東大）
2　GitHub のプルリクエストを用いたプログラミング課題自動生成システムの実現可能性に関する検討
○柴藤大介，矢谷浩司（東大）
3　（講演取消）
4　音楽インタラクションによる片づけ支援ロボット
○奥村康平，佐野睦夫，井上雄紀（阪工大）
5　色を用いた提示手法による整理支援システムの提案
○本信敏学，吉野　孝（和歌山大）
6　Mapper の視覚化過程に対する定量評価指標の提案とそれに基づく視覚化パラメータの進化計算的最適化
○宮永翔大朗，延原　肇（筑波大）
7　違和感検知のための対話的進化計算を用いた映像可聴化
○前原良美，長尾智晴（横浜国大）
8　Wi-Fi の電波強度による位置推定を利用した学習支援システムにおける学習者座席位置設定インタフェースの開発
○関　圭太，加藤直樹（東京学芸大）
9　脳波に基づく VR と現実での作業者の心的状態の計測と比較
○六浦由佳，長尾　確（名大）

学生セッション［6ZB 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
入力インタフェース（1）　　座長　中村　喜宏（日大）
1　AR を用いた「見て操作する」システムの試作と評価
○植田智恵美，松田晃一（大妻女子大）
2　バーチャル空間体感システムにおけるモーション追跡デバイスを活用した入力手法の試作
○曾　　陽，伊藤孝行（名工大）
3　Virtual Realty システムにおけるモーション認識精度向上に関する検討
○山口裕大，佐藤和彦（室蘭工大）
4　手の動きに追従する UI の追従範囲の拡大のための検討
○松岡雄介，岩崎真大，土屋博雅，水谷晃三，荒井正之（帝京大）
5　手の動きに追従する UI における手の認識とタグ付けによる判別の研究
○岩崎真大，松岡雄介，土屋博雅，水谷晃三，荒井正之（帝京大）
6　（講演取消）
7　MekuReader: めくりジェスチャで読み進められる AR 電子ブックリーダ
○塙　和樹，村山達也，鯨井政祐（埼玉工大）
8　ElasticKeyboard: キーの表示と機能が動的に変化する物理キーボード
○平野祐貴，鯨井政祐（埼玉工大）

学生セッション［7ZB 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
入力インタフェース（2）　　座長　梅澤　猛（千葉大）
1　主端末作業に関する支援情報表示が可能な補助端末連携システム
○前田航平（電機大），福原知宏（マルティスープ／電機大），山田剛一，増田英孝（電機大）
2　形状変化デバイスを用いた垂直面インタラクション
○穴久保拓磨，藤波香織（農工大）
3　卓上の連続した水平垂直面を利用する情報入出力システム
○大月理沙，遠藤慎一，藤波香織（農工大）
4　入力中の文章に含まれる数値および演算子に基づいて計算結果を挿入可能なソフトウェアキーボードの開発
○岡村和典，安藤宗孝，志築文太郎（筑波大）
5　キーの数を最少化したスマートウォッチ向け文字入力方式の提案
○安福和史，中村喜宏（日大）
6　指節をキーとして利用するアイズフリーな文字入力方法の提案
○矢崎晃平，中村喜宏（日大）
7　マウス操作を模擬した音声カーソル制御
○田上　集，光本大記，嵯峨山茂樹（明大）

第 4 分冊　　（コンピュータと人間社会）

一般セッション［1F 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
情報技術者教育　　座長　土肥　紳一（電機大）
1　ボードゲーム戦略の大会形式でのプログラミング演習における重付勝点度の推移による個人進捗の分析
○花川直己，富永浩之（香川大）
2　松江高専における情報セキュリティ人材育成プログラムの実施報告
○岡田　康，池田総一郎，川見昌春，原　元司，廣瀬　誠，稲葉　洋，杉山耕一朗，金山典世（松江高専）
3　pypersing を用いたプログラミング言語の構文解析処理教育
○黒瀬　浩（金沢工大）

4　産業技術大学院大学における IT 技術者のためのデータ解析の学びと実践
○中野美由紀，柴田淳司，渡邊紀文（産業技術大）
5　組み込みシステム技術とネットワーク技術を教育するための学生実験用ロボット教材と実験カリキュラムの開発
○児島　彰，石川直樹，市原英行，井上博之，大田知行，小畑博靖，窪田昌史，新　浩一，高野知佐，永山　忍（広島市大）
6　大学の多様なコンピュータ環境におけるサーバサイド演習環境の構築と運用
○佐々木茂，盛　拓生，荒井正之（帝京大），鈴木　崇（SMAT グループ）

一般セッション［2F 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
高齢社会デザイン　　座長　竹林　洋一（静岡大）
1　唾液アミラーゼ活性が語る「人間模様」- 集団音楽療法の事例 -
○山口郁博（東大），尾方睦望（翔洋会）
2　ユニバーサルツーリズム安心システムにおける UD 情報収集手法の提案
○工藤　彰（ノーザンシステムサービス），狩野　徹，阿部昭博（岩手県大）
3　高齢者を鼓舞する言葉がけによる会話型ロボットの可能性
○松森藍子，星野　寛（コネクトドット）
4　スマートフォン VR を用いた視覚認知機能測定システムの開発と評価
○菅野正嗣，洗川勇輝，高畑進一，内藤泰男（阪府大）
5　介護施設における情報共有システムを用いた課題解決手法の提案
○中島正人（富士通総研），福田賢一郎，西村拓一（産総研）
6　生活行動に対する映像の追体験と客観的指標に基づく振り返り認知リハビリテーション支援システムと効果検証
○佐野睦夫，北野みのり，横田和亮，兒島宏樹，大井　翔（阪工大）
7　認知機能自己チェックアプリケーション「きおトレ」の開発
○宮崎　誠（畿央大）

一般セッション［3F 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
情報システムとガバナンス・法制度　座長　橋本　誠志（徳島文理大）
1　SDL(Software Defined Law) としての法令プログラミングと立法支援システム
○角田篤泰（中大）
2　PLR のユースケース検討 -POS データの個人管理 -
○加藤綾子（文教大），橋田浩一（東大）
3　サイバーセキュリティ対策の実効性に関する一考察
○神橋基博（三井住友フィナンシャルグループ）
4　IT ガバナンスの評価について
○原田要之助（情報セキュリティ大）
5　自由意思、刑事責任及びマイクロ波ビーム照射による秘密の介入
○小池　誠（マイクロ特許事務所）
6　マイクロ波ビームを照射する行為と特別公務員職権濫用致傷罪の成否
○小池　誠（マイクロ特許事務所）

一般セッション［5F 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
学習支援システム（1）　　座長　関谷　貴之（東大）
1　テキストハイライト機能を持つ学習支援システムの開発
○吉崎弘一，中島順美（大分大）
2　（講演取消）
3　LINE@ を利用した学習システムの構築
○井上　仁（保健医療経営大）
4　テーマに対する興味と性格傾向による活発な議論を生み出すためのグルーピングシステムの検討
○丸山美紀（キューベリー），栗延　孟（日本文理大），中谷祐介（サイバー大）
5　能動的に学ぶマルチメディアプログラミングの授業デザインについて
○檀　裕也（松山大）
6　高等学校におけるアルゴリズムの効果的な学習のための教材開発と実践
○山口健二，桑名杏奈，加々美勝久（お茶の水女子大）
7　コンテナ型仮想化技術によるサイバー攻撃と防御の演習システム CyExc の開発
○中田亮太郎，長谷川久美，瀬戸洋一（産業技術大）

一般セッション［6F 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
防災と社会サポート　　座長　高橋　尚子（国学院大）
1　緊急搬送を要する妊婦の情報共有における効果的・効率的なシステムの構築および検証について
○山下範之，牧　尉太，増山　寿，伊野英男（岡山大）
2　山間地における LPWA を活用した防災通信に関する研究
○湯瀬裕昭（静岡県大），鍋田真一（静岡学園高）
3　X-band MP レーダ雨量情報による平成 29 年九州北部豪雨災害解析
○西尾雅弘（久留米工大），森　正寿（近畿大）
4　歴史的地方都市における地域住民による ICT を活用した地域ハザードマップ作成の試み
○岡崎泰久，小崎　駿，松尾　将，三島伸雄（佐賀大）
5　粘菌アルゴリズムによる避難経路の導出
○吉次なぎ，阿部真也（都立産業技術研究センター），山本佳世子（電通大）
6　エージェントシミュレーションを用いた動的な津波避難誘導に関する考察
○畑山満則，上坂崇人（京大）

一般セッション［7F 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
バイオ情報学と博物館情報　　座長　伊澤　和輝（東工大）
1　医薬品の開発に関わる多言語情報のライフサイクルマネジメントに関する考察
○本村裕美子（東大）
2　Spiky HF burst of heart rate variability - A prodromal sign of heatstroke
○湯田恵美，吉田　豊（名古屋市大），飯野　塁（ベルリング），早野順一郎（名古屋市大）
3　Phantom Noise Caused by Deficit of Prediction Ability in Autism Spectrum Disorder
○謝　至中（阪大），長井志江（NICT），浅田　稔（阪大）
4　環境との相互作用の下での DNA 配列の集団の進化のモデルとその種分化の分析への応用
○小谷野仁（東工大）
5　（講演取消）
6　BLE ビーコンを利用した博物館ガイドシステムの開発
○平澤泰文，松川　節（大谷大），何　一偉，小南昌信（大阪電通大）

一般セッション［1G 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
e-Learning　　座長　掛下　哲郎（佐賀大）
1　TA エージェントのための操作手順書作成ツールにおける入力支援機能の検討
○高橋　勇（北里大）
2　プログラミングを対象としたナレッジコミュニティ型学習支援システムに関する基礎検討
○切通優希，石橋　賢，小薗和剛，飯村伊智郎（熊本県大）
3　オンライン大学におけるプログラミング演習時間と成績に関する一考察
○後藤幸功，中谷祐介（サイバー大）
4　クラウドを活用したプラットフォームの開発とセキュリティ
○松本多恵（島根大）
5　標題 : 視覚に障害のある学生を対象とした LMS の基盤構築
○岡本　健，金堀利洋，飯塚潤一（筑波技術大）
6　情報モラル教育のための双方向型授業の実施を目的としたチャットシステムにおける教師支援機能の検討
○東野正幸，今度珠美，井上　仁（鳥取大）

一般セッション［2G 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
アクティブラーニング・学習支援　　座長　大崎　理乃（産業技術大）
1　聴覚障害者に対する情報保障のための透過型 HMD 利用の検討
○岩佐英彦，政清史晃（近畿大高専）
2　特別支援教育における IC チップリーダーを活用した学習コンテンツ制作支援システムの開発
○佐々木喜一郎（岐阜経済大）
3　顧客コスト指標に基づく PBL 自己評価分析
○廣重法道（福岡大）

4　アイロンビーズを用いて学ぶディジタル画像の仕組み～ CS アンプラグド教材開発・実践報告～
○中村亮太，吉田智子（京都ノートルダム女子大）
5　非技術系の経済系で仮想通貨・ビットコイン・ブロックチェーンをいかに教えるか
○小川　健（専修大）
6　並列プログラミングの学習における教育用並列プログラミング言語の適用
○水谷泰治，西口敏司，橋本　渉（阪工大）
7　“つなぐ”ICT 技術者の育成を目的とした IoT 体感アクティブラーニング教材の開発
○河村麻子（徳山高専）

一般セッション［3G 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
センサーデータと IoT　　座長　後藤　晶（山梨英和大）

1　インクルーシブワークプレイスのための行動観察とダイジェスト記録システムの開発
○塩瀬隆之（京大），小林大祐（Good Job! センター香芝），城　綾実（滋賀大），矢入郁子，棚木　将（上智大），岡部太郎（たんぽぽの家），森下静香，藤井克英（Good Job! センター香芝）
2　障害者福祉施設における IoT セルフモニタリングシステム導入への心理的障壁の分析
○小林大祐（Good Job! センター香芝），塩瀬隆之（京大），矢入郁子，棚木　将（上智大），岡部太郎（たんぽぽの家），森下静香，藤井克英（Good Job! センター香芝）
3　移動するモノを対象とした Internet of Things の提案
○堀川三好，工藤大希，岡本　東，村田嘉利（岩手県大）
4　一般的なカメラによる SPAD 値の推定方法に関する研究
○イミティ アデルジャン，飯倉宏治，宮本一行（秋田公立美術大）
5　プログラミング教育における夏から冬にかけての空気の調査
○土肥紳一（電機大）
6　プロセス系製造向けデータ分析テンプレートの提案
○小松田卓也，朝家真知子（日立）

一般セッション［5G 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
情報教育　　座長　中鉢　直宏（帝京大）

1　電子図書館を活用したプレゼン教育に関する研究
○上野　亮，飯島泰裕（青学大）
2　新潟大学における情報リテラシー科目の開発と実践
○五島譲司，須川賢洋（新潟大）
3　「情報」に対するイメージと情報教育の関連性 - スマートフォンの普及による PC 離れという現状を踏まえながら -
○柏木将宏，小林直人，鎌田光宣，宮田大輔（千葉商科大），坂田哲人（帝京大）
4　横浜商科大学新入学者を対象とした ICT リテラシ調査と利用動向に関する分析
○遠山緑生，土本康生（横浜商科大）
5　大学博物館展示を広報するデジタルマーケティングによる教育プログラムの実施
○上田敏樹，伴　　宙，松川　節，平野寿則，中江彩夏，森松沙耶香，山川真理紗（大谷大）
6　デジタル絵本共同制作によるコミュニケーション教育プログラムの試み
○有賀妙子，森　公一（同志社女子大），真下武久（成安造形大），日下菜穂子（同志社女子大）

一般セッション［6G 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
プログラミング教育　　座長　小川　健（専修大）

1　ワークシートとタブレット端末を使ったプログラミング的思考を育む教材の提案
○島袋舞子，小林史弥，久保友広，兼宗　進（大阪電通大）
2　みんなのためのビジュアルプログラミング言語「Enrect」の設計
○鈴木　遼，長　幾朗（早大）
3　石川県における高校生を対象とするプログラミング教室
○高　香滋，西　　誠，西岡圭太，谷口哲也，西川幸延，鷹合大輔（金沢工大）
4　（講演取消）
5　高専生をメンターとした小学生プログラミング教育の実践
○村田知也（福井高専）
6　高校生を対象としたプログラミング体験授業において実機ロボット制御を取り入れる効果
○大熊一正（岡山理大），恐神正博，杉原一臣（福井工大）

一般セッション［7G 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
産業への応用と社会への影響　　座長　居駒　幹夫（日立）

1　アパレル物流における納品システムの検討
○鈴木邦成，川井　豊，金　賢珠，若林敬造（日大），山岡真理（文化ファッション大学院大）
2　複数の窓口とユーザ間で伝達される情報を用いた針路共創型波及システムの構築を促す算木バトン引き継ぎ方式という新たな通信概念の提案
○遊佐朋子（三幸コミュニティマネージメント）
3　京都市の基幹系システム刷新プロジェクトの遅延に見る公共分野における情報システム開発の失敗の要因
○本田正美（東工大）
4　産学連携キャリア教育実践の追跡調査報告と支援システムへの改善提案
○鈴木孝幸，須藤康裕，八木　勲，鷹野孝典，宮崎　剛，木村誠聡，稲葉達也，納富一宏（神奈川工科大）
5　（講演取消）

学生セッション［1ZB 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
アクセシビリティ　　座長　馬場　哲晃（首都大）

1　発話訓練の動画を用いた言語障碍の遠隔リハビリテーション支援システム
○平山大貴，長尾　確（名大）
2　こだわり行動からの切替促進システムの基礎検討
○宮脇雄也，梶　克彦（愛知工大）
3　Possibilities of Projecting Signer's Face and Body in Supporting Sign Language Group Communication
○ Pedro Couteiro，高橋　伸（筑波大）
4　聴覚障害者支援のための実環境下における環境音認識
○浅井研哉（静岡大），志磨村早紀（早大），北　義子（国立障害者リハビリテーションセンター学院），綱川隆司，西田昌史，西村雅史（静岡大）
5　視覚障害者に対する Web ページのデザイン意図の伝達支援手法
○佐山大輔（早大），岩田　一（神奈川工科大），白銀純子（東京女子大），深澤良彰（早大）
6　歩行者移動支援システムのアクセシビリティに関する考察
○飯野　史，阿部昭博，市川　尚，富澤浩樹（岩手県大）

学生セッション［2ZB 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
デジタルアーカイブ　　座長　後藤　真（国立歴史民俗博物館）

1　震災関連資料デジタルアーカイブにおけるメタデータの半自動付与および検索機能の開発
○今川泰基，富澤浩樹，市川　尚，阿部昭博（岩手県大）
2　地域活動主体のための映像アーカイビングシステムの開発
○田村省悟，富澤浩樹，市川　尚，阿部昭博（岩手県大）
3　映像を用いたハサミ職人の研磨技能の表出支援に関する一検討
○梨子卓雅，松田浩一（岩手県大），井上研司（東光舎）
4　盛岡さんさ踊りの重心移動分析のための時系列波形自動分割の一検討
○滝沢桂吾，松田浩一，菊地直樹（岩手県大）
5　郷土研究に着目した聞き書きの提示手法の提案
○寺嶋一将，植竹俊文，竹野健夫（岩手県大）
6　時代変遷を体験する浮世絵鑑賞システムの構築 ー明治期の人々のくらしを中心にー
○川嶌芙実，時井真紀（筑波大）
7　議会議事録の自動タグ付けに基づく探索的閲覧システムの試作とその ユーザビリティ評価
○成瀬雅人，白松　俊（名工大），松島格也（京大）

学生セッション［1ZC 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）

産業応用　　座長　児玉　公信（情報システム総研）

1　地上型レーザスキャナによる 3 次元点群データを用いた道路維持管理システムの検討
○何　啓源，窪田　諭，岡本桂輔（関西大）

2　製品地図システムにおける MySQL と MongoDB の性能比較評価
○古川友貴，工藤　司（静岡理工科大）

3　深層学習を用いた在庫数量判定方式の提案
○川中天馬，工藤　司（静岡理工科大）

4　Node.js と MongoDB による動画データの保存方式
○原嵜彩奈，工藤　司（静岡理工科大）

5　水産業の生産性向上を目的とした海水温情報告知伝達システムの開発
○阿草　裕，藤橋卓也，遠藤慶一，黒田久泰，小林真也（愛媛大）

6　赤潮被害への早期対策を可能とする海域情報配信システムの開発
○末廣恵海，高市　嶺，藤橋卓也，遠藤慶一，黒田久泰，小林真也（愛媛大）

7　赤潮への早期対策のための赤潮情報送受信システムの開発
○高市　嶺，末廣恵海，藤橋卓也，遠藤慶一，黒田久泰，小林真也（愛媛大）

8　海況予報情報サービスのための海水温連続観測装置の開発
○荒木康輔，藤橋卓也，遠藤慶一，黒田久泰，小林真也（愛媛大）

9　オプティカルフローを用いた魚群映像中の瞬発遊泳の解析
○松岡高輝，波部　斉，阿部孝司，井口信和（近畿大）

学生セッション［2ZC 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）

情報社会　　座長　湯田　恵美（名古屋市大）

1　インターネット上における未成年者の権利保護について
○石橋　豪（情報セキュリティ大）

2　指紋情報盗難防止システムの構築
○伊藤大地，坪川　宏（東京工科大）

3　ビンゴゲームを用いた回遊・再訪促進システム
○黒田龍哉，高山　毅（尾道市立大）

4　サイクリングの特殊性を考慮した周遊プラン設計支援システム
○長田知之，高山　毅（尾道市立大）

5　観光スポットにおけるメインディッシュと散策用の前菜やデザートの選定を支援するシステム
○尾上典弘，高山　毅（尾道市立大）

6　分散型台帳技術を用いたモバイル決済のモデル開発
○沈　嘉秋，片山秀昭（舞鶴高専）

7　道路法面点検データの公開に向けたブロックチェーンを用いたデータの信憑性担保の研究
○矢部嘉人，嶋田拓斗，舛谷拓也，前田佐嘉志，廣重法道，高橋伸弥，奥村　勝，鶴田直之（福岡大）

8　空撮画像のリアルタイム結合システムの開発
○増田祐至，小枝正直（大阪電通大）

9　赤外線センサアレイに基づいた人物位置 / 行動認識
○市村翔一，趙　強福（会津大）

学生セッション［3ZC 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）

防災システムと地域貢献　　座長　大場　みち子（はこだて未来大）

1　花火大会やお祭り等のエリア系イベントの事前参加登録による混雑状況可視化システム
○樫山直希，高山　毅（尾道市立大）

2　漫画表現とクイズを用いた外国人観光客向け防災知識提供システムの提案
○志垣沙灯子，吉野　孝，永井隼人，佐野　楓，ブレント リッチー（和歌山大）

3　福島周辺の放射線量データを用いた、危険地域への進入の検出
○田村　脩，櫻井彰人（慶大）

4　UD 移動情報提供システムの拡張による災害時利用の試み
○赤平健太，阿部昭博，市川　尚，富澤浩樹（岩手県大）

5　被災地フィールドワークにおける写真データのアーカイブを目的とした震災関連資料マッピングシステムの開発
○鈴木亮介，富澤浩樹，市川　尚，阿部昭博（岩手県大）

6　テキストマイニングを用いた地域防災計画における災害廃棄物管理に関する比較分析
○劉　英楠，畑山満則（京大）

7　地図を読めない児童の避難行動を支援する振動型避難方向指示システム
○安井友徳，北村尊義（立命館大），泉　朋子（阪工大），仲谷善雄（立命館大）

8　ゲリラ豪雨パターン分類のための Twitter を用いたラベル付け自動化
○藤田拓也，大枝真一（木更津高専），中谷　剛（防災科学技術研究所）

9　鉄道利用者を対象とする平常時から情報提供可能な避難支援システムの提案
○野村裕香，塚田晃司（和歌山大）

学生セッション［5ZC 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）

心を動かす表現とその制作支援　　座長　垂水　浩幸（香川大）

1　初心者運転手向けの振動フィードバックによる MT 車用クラッチシステム
○井口大輔，田村　仁，檜山正樹，入江　俊，仲田　仁（日本工大）

2　PC 操作とタブレットを用いたインタラクティブ猫じゃらしの試用実験
○佐々木梨菜，鈴木　優（宮城大）

3　断面入力インタフェースによる対話的変身立体作成システム
○仲口　健，松田浩一（岩手県大）

4　（講演取消）

5　ヘッドマウントディスプレイを用いたエアホッケープレイ時における一人称視点と三人称視点の比較
○田中寛弥，小池崇文（法大）

6　視線を用いたマルチユーザ VR 体験の同期
○石原景太，中島達夫（早大）

7　OpenCV を用いた手の識別及び手影絵への応用
○中野汐梨，築地立家（電機大）

8　拡張現実を利用した絵本読み聞かせシステムの構築
○祝儀園茜，木村明日香，築地立家（電機大）

9　仮想現実空間における頭部伝達関数を使用した音源位置特定の研究
○杉原　真，齋藤　駿，築地立家（電機大）

学生セッション［6ZC 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）

アクティブラーニング　　座長　富永　浩之（香川大）

1　認知的負荷の考慮を目的としたダンス振付け練習用動画の構成法の提案
○田中雄大，中村太戯留，上林憲行（東京工科大）

2　チャットボットを利用した補足説明動画の制作ニーズ抽出支援システムの提案
○小菅李音，高木正則，佐々木淳，山田敬三（岩手県大）

3　Factorization Machines を用いた教育データの解析
○山下　滉，大枝真一（木更津高専）

4　オンライン上での相互チェックを取り入れた入学前教育におけるプログラミング学習環境の開発
○小山田圭吾，市川　尚，富澤浩樹，阿部昭博（岩手県大）

5　探究的学習を支援する AR 教材システムの構築 - 日常生活で触れるモノにかくれた科学をきっかけとして -
○山田祥平，時井真紀（筑波大）

6　PBL における報告書作成支援システムの開発
○吉田　泉，大場みち子（はこだて未来大）

7　思考力・判断力・表現力の向上を促す作問学習支援システムの提案
○佐藤雅希，川村　悠，高木正則，山田敬三，佐々木淳（岩手県大）

8　SNS の適切な使用を教育するゲーム型学習コンテンツの開発 (小学校高学年を対象として)
○藤池　遼，藤川真樹，安部芳絵（工学院大）

学生セッション［7ZC 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）

人文科学へのコンピュータ応用　　座長　村川　猛彦（和歌山大）

1　古典籍自動翻刻のための変体仮名切り出し手法
○臺原　学，三輪貴信，澤田秀之，橋本周司（早大）

2　手書き変体仮名認識システム - グラフィカルユーザインターフェースの開発 -
○山藤一輝，山崎敦史，鈴木徹也，相場　亮（芝浦工大）

3　Fully-CNN を用いた近代公文書画像からの文字検出
○高木裕平，山田雅之，目加田慶人，長谷川純一，中　貴俊，宮崎慎也（中京大）
4　漢字構造の自動判別とそれを用いた漢字入力方式について
○金子隆佐，相田　仁（東大）
5　日本語例文自動分類による CEFR 読解指標推定支援 Web アプリケーションの開発
○平川遼汰，宮崎佳典（静岡大），谷　誠司（常葉大）
6　Twitter ユーザーの感情分析
○金原直也（静岡理工科大）
7　環境問題解決のための異言語間コミュニケーションの分析
○廖　育琦，王　　博，家入祐也（早大），中島　悠（東邦大），菱山玲子（早大）

学生セッション［1ZD 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
協調学習支援システム　　座長　芳賀　瑛（法大）
1　学生アシスタントが主導するグループ学習のための進捗状況管理システム
○森戸立樹，水谷晃三，高井久美子，渡辺博芳（帝京大）
2　ワークショップ型授業におけるグループ・個人別のプレイフル度・集中度等をリアルタイムで可視化しフィードバックを支援するサービス (SPIEO) の開発
○小山　剣，上林憲行（東京工科大）
3　異なる学習目標が混在するグループ演習授業において、グループ別の進捗をモニタリングしファシリテーター・メンター間の連携を支援するサービス (PIMS) の開発
○河本周時，上林憲行（東京工科大）
4　IP ネットワーク構築演習における協調演習を可能とする協調学習者ロボット
○伊藤　旭，井口信和（近畿大）
5　ヒューマノイド型ロボット“Pepper”を用いた学習支援システムの試作と評価
○平野愛里，松田晃一（大妻女子大）
6　ゼミ活性化支援システムにおけるゲーミフィケーション手法
○清水　悟，飯島安恵，今野　将（千葉工大）
7　法学の授業における反転学習とコンピュータ支援協調学習の事例研究
○松村佳記,安藤公彦,村上康二郎,稲葉竹俊,松永信介（東京工科大）
8　運用効率の向上を目的とした VR を用いた教室システム
○檜山正樹，田村　仁（日本工大）

学生セッション［2ZD 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
ログデータの分析と教育利用　　座長　芳賀　瑛（法大）
1　（講演取消）
2　IBM Watson による授業質問 Tweet の自動分類
○柏原直志，藤澤公也（東京工科大）
3　プログラミング課題の自動採点に向けた構文木上のカーネル法による類似度関数の提案
○小川弘迪，小林亜樹（工学院大）
4　PC 上で行われた作業内容の推定を目的としたログパターンの解析
○宇佐美雄基，石沢千佳子，景山陽一（秋田大）
5　ICF コード自動割り当てシステムの作成
○大柳慶悟（福井高専）
6　RESAS を用いた小中学校の社会科授業補助システムの試作
○宮脇克典，白松　俊，王　瑞珺（名工大）
7　脳波を用いた教材動的制御の試み
○田邊　俊，森　克宏（青学大），唐山英明（富山県大），戸辺義人（青学大）
8　Automatic Evaluation of Presenters' Discussion Performance Based on their Heart Rates
○彭　詩朦，長尾　確（名大）

学生セッション［3ZD 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
高齢者見守り支援　　座長　鏑木　崇史（青学大）
1　セルラーと LPWA を用いたハイブリッド通信による高齢者見守りシステム
○横浜誠吾，晴山龍太，岡田到眞，山崎瑠弥，本間翔太，太田　晶（日本工学院八王子専門学校）
2　地図画像分析による高齢者見守り支援システム
○小松奈央，坪川　宏（東京工科大）
3　BLE ビーコンを所持する徘徊高齢者のモバイル端末での位置可視化機構の試作
○有薗翔太，荒川智哉，白松　俊，岩田　彰，マウリシオ クグレ（名工大）
4　認知症高齢者見守りのための徘徊履歴可視化機構の開発
○荒川智哉，白松　俊，岩田　彰，マウリシオ クグレ（名工大）
5　IoT 環境における利用者の状況に基づく生活支援システムの検討
○若張直紀，片山健太，横山真悟，高橋秀幸，木下哲男（東北大）
6　センサーアレイを使った多人数環境における位置推定と人物認識
○岩崎孝佑，趙　強福（会津大）
7　赤外線センサーを用いた任意位置の推定
○大田　亮，趙　強福（会津大）
8　高齢者の認知機能低下を抑制する試み (回想法の LINE への実装)
○中野達也，藤川正樹（工学院大）
9　地域在住要支援者および要介護高齢者のための排尿ケア支援システムの提案
○梅本美月，吉野　孝（和歌山大），横山剛志（国立長寿医療研究センター），永坂和子（人間環境大）

学生セッション［5ZD 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
高齢者介護支援システム　　座長　松浦　博（静岡県大）
1　（講演取消）
2　GMM を用いた反復唾液嚥下テスト自動評価システム
○山下大貴（静岡大），古川大輔，村西幸代（君津中央病院），森野智子（静岡県大），黒岩眞吾（千葉大），綱川隆司，西田昌史，西村雅史（静岡大）
3　非線形転倒ダイナミックモデルを用いた転倒判別モデル
○小林知輝（青学大）
4　重心移動の可視化システムの開発とその効果
○大内拓雄，熊谷悠太，松田浩一（岩手県大）
5　3 軸加速度センサを用いた高齢者の歩行能力解析と最適化に関する考察
○瀬尾敦生，香川聖雄，長尾和彦（弓削商船高専）
6　Leap Motion を用いた手指タッピング運動の評価システムの開発
○加地浩誠，菅野正嗣，高畑進一，内藤泰男（阪府大）
7　健康促進イベント運用のための歩数計読み取りシステム開発の試み
○大槻　涼（立命館大）,杉山　治（京大病院）,松村耕平（立命館大），多田昌裕（近畿大），野間春生（立命館大），黒田知宏（京大病院）
8　CNN の文字認識を用いた訪問介護支援システム構築のための訓練データ加算
○小森一誠，秦　優哉，川名晴也，大枝真一（木更津高専）
9　CNN のアンサンブル学習による文字認識の正誤判定評価
○秦　優哉，小森一誠，川名晴也，大枝真一（木更津高専）

学生セッション［6ZD 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
学習支援システム（2）　　座長　古川　雅子（NII）
1　個人タスクと進捗度を用いたスケジュール管理支援システムの実装
○赤木里騎，徐　海燕（福岡工大）
2　待ち行列モデルを用いたスタディスキルにおける課題分割手法の提案
○鈴木一輝，宇都宮陽一，奥田隆史（愛知県大）
3　アンビエント指向基盤における問題解決サービスの設計と評価
○王　　博，イクキ ビョウ，家入祐也（早大），中島　悠（東邦大），菱山玲子（早大）
4　電子リーダーによる中断を挟む読みの支援
○斉藤健士郎,川嶋稔夫（はこだて未来大）,小林潤平（大日本印刷）
5　講義関連情報を用いた短答レポート群の可視化に基づく評価支援システム
○山添久稔，大囿忠親，新谷虎松（名工大）

6　学習者の能動的な数式変形を促す学習援用 Web アプリケーションの開発
○田仲拓磨，宮崎佳典（静岡大）
7　視線情報の分析に基づくプログラミング教育支援システムの提案
○松本光稀，若原　徹（法大）
8　ピアノ演奏指導支援のための学習者読譜時視行動データを活用した学習者情報表示機能の開発
○寺岡耕平，中平勝子，北島宗雄（長岡技科大）

学生セッション［7ZD 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
マルチメディア教材の活用　　座長　中平　勝子（長岡技科大）

1　動画配信を用いた授業支援の実現
○三谷文乃，小高知宏，黒岩丈介，白井治彦，諏訪いずみ（福井大）
2　動画教材におけるグラフィカルなサーマライゼーションの提案とその学習行動の実証的な研究
○高橋咲江，中村太戯留，上林憲行（東京工科大）
3　カテーテル挿入解析による技術評価システムの提案
○志賀俊佑，澤野弘明，松河剛司（愛知工大），佐久間佐織（聖隷クリストファー大），石井成郎（愛知きわみ看護短期大），鈴木裕利（中部大）
4　心肺蘇生法の可視化学習システムにおける個別性類型化の研究
○深川恵輔，境　大地，金森唯真，高野美希，神田祐華，皆月昭則（釧路公大）
5　心肺蘇生法学習支援システムにおける圧力誤差問題の検討
○深川恵輔，境　大地，金森唯真，高野美希，神田祐華，皆月昭則（釧路公大）
6　360°画像を用いた避難訓練支援システムの改良と評価
○山崎本務（東工大），畠山　久，永井正洋（首都大），室田真男（東工大）
7　多自由度照明環境における観賞挙動の記録と分析
○石田悠人，川嶋稔夫（はこだて未来大）
8　（講演取消）

学生セッション［1ZE 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
学習支援　　座長　中鉢　直宏（帝京大）

1　数学的推論能力育成のための試行錯誤的な解法マップ作成環境の構築
○塩谷賢司，小尻智子（関西大），徳竹圭太郎（東工大）
2　ファッションコーディネートの作成を介した教授者の感性理解支援システム
○福村　望，小尻智子（関西大）
3　次世代農業人材の情報活用能力育成のための教育支援システムの提案
○佐々木優，高木正則，山田敬三，佐々木淳（岩手県大）
4　構造的簡略化を用いた例示型英文書作成支援 Web アプリケーションの開発と評価
○天野　翼，宮崎佳典（静岡大），田中省作（立命館大），長谷川由美（近畿大）
5　学習者の習得度に合った e-learning システムの小テスト機能の開発
○川内悠也，八木　勲（神奈川工科大）
6　仲裁者は本当に学級内いじめ問題の解決に貢献するのか？- マルチエージェントシミュレーションによる検証 -
○萩原崇貴，八木　勲，鈴木紀久子（神奈川工科大）
7　AR と HMD を用いた視線推移検出によるチームスポーツの状況把握スキル育成支援システム
○松村樹希也，小尻智子（関西大）
8　AR 技術を用いた技能習得支援に関する一考察
○古川詩帆，石川渓太，内林俊洋，阿部　亨，菅沼拓夫（東北大）
9　HI 入出力機器を用いた操作式解答によるマルチメディア学習システムにおける全天球型背景を用いた出題の検討
○石井怜央，富永浩之（香川大）

学生セッション［2ZE 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
観光情報システム　　座長　窪田　諭（関西大）

1　デザイン思考アプローチを用いた広域観光支援システムの再設計
○上田翔磨，阿部昭博，市川　尚，富澤浩樹（岩手県大）
2　チャットボットを用いた周遊支援システムの開発
○山内友貴，阿部昭博，市川　尚，富澤浩樹（岩手県大）
3　他者の興奮度に関する情報を用いた観光スポット決定支援システムの提案
○藤本幸佑，北村尊義（立命館大），泉　朋子（阪工大），仲谷善雄（立命館大）
4　白川郷の観光スポットを巡覧できるスマートフォンアプリケーションの検討
○永井拓登，増井詩菜，佐々木喜一郎（岐阜経済大）
5　スマートフォンとゲーミフィケーションによる地域クイズアプリの開発
○杉野葉優（兵庫県大）
6　スマートフォンとゲーミフィケーションによるまちあるきアプリの開発
○伊藤波輝，内平隆之，中桐斉之（兵庫県大）
7　旅の思い出を記録する観光ガイドブック生成 / 印刷システム「KadaPam/ カダパン」の開発と小豆島における実証実験
○宮川　怜（香川大），國枝孝之，池田哲也，金矢光久，山田　哲（リコー），後藤田中，八重樫理人（香川大）
8　観光者属性と位置情報によるコンテンツ選択機能を備えた観光ガイドシステム「KaDaxi/ カダクシー」の開発
○泉　亮祐，宮川　怜（香川大），國枝孝之（リコー），野口英司（STNet），後藤田中，八重樫理人（香川大）
9　観光ガイドブック生成・印刷システム「KadaTabi/ カダ旅」の開発
○板谷達也，宮川　怜（香川大），國枝孝之，山田　哲（リコー），後藤田中，八重樫理人（香川大）

学生セッション［3ZE 会場］（3 月 14 日（水）9:30 ～ 12:00）
心を動かすコミュニケーション　　座長　大坪　五郎（LIFULL）

1　市民農園と連携した ICT 農業コミュニティサイトの開発
○松本侑真，千葉慎二（仙台高専）
2　（講演取消）
3　Re:Novel-TRPG 発話ログをプロットとした機械学習による小説作成システム
○小川　萌，田中元気，葛尾耕平，酒井郁貴，濱川　礼（中京大）
4　SNS の視聴スタイルにおける魅力的な動画の要因分析とパターン化 - レシピ動画の例から -
○津曲亜美，杉山岳弘（静岡大）
5　（講演取消）
6　仮想現実による遠隔音楽ライブシステム KSA2 における演奏者インタフェースの開発
○中井智己，山下大貴，片岡佳椰，山口亮大，金子辰善，窪地祐貴，垂水浩幸（香川大）
7　仮想現実による遠隔音楽ライブシステム KSA2 における演奏者のモーションキャプチャ機能
○山口亮大，山下大貴，中井智己，片岡佳椰，金子辰善，窪地祐貴，垂水浩幸（香川大）
8　仮想現実による遠隔音楽ライブシステム KSA2 における視聴者同士の一体感の支援
○金子辰善，片岡佳椰，窪地祐貴，山下大貴，中井智己，山口亮大，垂水浩幸（香川大）
9　仮想現実による遠隔音楽ライブシステム KSA2 におけるプロテウス効果の評価
○片岡佳椰，金子辰善，山下大貴，窪地祐貴，中井智己，山口亮大，垂水浩幸（香川大）

学生セッション［4ZE 会場］（3 月 14 日（水）13:20 ～ 15:20）
応用システムと社会フレームワーク　　座長　本田　正美（東工大）

1　環境音の音響特性が神経機構および認知機能に与える影響
○石井十三，川原靖弘（放送大），片桐祥雅（NICT）
2　閲覧中 Web ページのブロック分割に基づく書籍推薦のためのブラウザ拡張機能
○岡井義宗，大囿忠親，新谷虎松（名工大）
3　OpenBD を使用した書籍管理サイトの作成
○青木一将，幸谷智紀（静岡理工科大）
4　（講演取消）
5　インターネット社会における「過剰反応」と企業がとるべき対策に関する研究
○藤田拓也（工学院大）

6　ソーシャルメディアにおける限界効用逓減の効果
○三浦雄太郎（早大），鳥海不二夫（東大），菅原俊治（早大）
7　サービスコンピューティング環境における階層型インセンティブ機構
○大塚竜太郎（早大），中島　悠（東邦大），菱山玲子（早大）
8　AI 導入と企業マネジメント
○山本浩暢（情報セキュリティ大）

学生セッション［5ZE 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）
情報技術者教育　　座長　伊藤　一成（青学大）

1　情報セキュリティの導入教育を目的とした出題型ハッキング競技 CTF の試行実践における解答ログの分析
○西村拓海，中矢　誠，富永浩之（香川大）
2　効果的なロボット制御演習のためのシミュレーション環境の開発
○前田紘希，加藤昇平（名工大）
3　プログラミング学習支援システムにおける LLVM 中間コードを用いた学習者プログラムの分析手法
○近並　樹，朝倉宏一（大同大）
4　オブジェクト指向における段階的な開発スタイルへの誘導する初級 Java 演習の支援システムの試作
○辻　健人，富永浩之（香川大）
5　（講演取消）
6　ソフトウェアメトリクスに基づくリファクタリング学習の支援
○橋本裕介，酒井三四郎（静岡大）
7　プログラミング演習としてのコードレビュー支援ツールにおける段階的詳細化を実践させる例題の検討
○植　勇希，富永浩之（香川大）
8　C 言語学習の導入を支援するビジュアルプログラミング環境の提案
○福田良太，布村泰浩（阪工大）
9　マイコンの走行体を用いた制御系の Java プログラミング演習におけるモデリング設計を意識させる実行環境
○劉　世博，辻　健人，富永浩之（香川大）

学生セッション［6ZE 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）
社会支援　　座長　柿崎　淑郎（電機大）

1　スマートウォッチを用いた個人向け情報配信システムにおける興味の類推機会の増加に関する研究
○小川拓也，藤橋卓也，遠藤慶一，小林真也（愛媛大）
2　ウェアラブルデバイスを用いた健康増進型野外ミュージアム鑑賞支援システムの開発
○千葉桂也，阿部昭博，市川　尚，富澤浩樹（岩手県大），工藤　彰（ノーザンシステムサービス）
3　（講演取消）
4　連絡帳を利用した特別支援学校向け引継ぎ支援システムの提案
○岡本拓朗，大場みち子（はこだて未来大）
5　地域の産科医療機関の集約化にともなう病院受診の長距離移動マタニティ支援アプリケーションの開発
○西川　奏（釧路公大），山内寿代（釧路孝仁会看護専門学校），皆月昭則（釧路公大）
6　バスの車内事故防止支援システムに関する研究
○河田璃久，藤橋卓也，遠藤慶一，黒田久泰，小林真也（愛媛大）
7　ウェアラブルセンサからの LQI に基づく徘徊者探索システムの開発
○武田怜也，千葉慎二（仙台高専）
8　非常時の電車内閉じ込めにおける相互扶助を促進するシステムデザインの改善検討
○八木涼平，北村尊義（立命館大），泉　朋子（阪工大），仲谷善雄（立命館大）
9　人感センサを用いた省電力防犯カメラシステムの開発
○山本康平，黒田久泰（愛媛大）

学生セッション［7ZE 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）
農業と自然リソース　　座長　刀川　真（室蘭工大）

1　天気予報を用いた太陽光発電量予測システムの構築
○吉田駿介，梅原英一，太田　豊，中島達人（東京都市大），鳥島貴史（コムチュア）
2　植物工場での果菜類の初収穫日予測モデルの開発
○吉田研祐，大場みち子（はこだて未来大），高森　満（アプレ）
3　農業高校の作物栽培における経験則継承のための農作業記録支援システムの開発
○菅野祐馬，高木正則，山田敬三，佐々木淳（岩手県大）
4　学習システムを活用した農業技術の形式化プロセスの提案
○原田高大，大場みち子（はこだて未来大），高森　満（アプレ）
5　農地における通信機能付き自動撮影カメラを用いた野生動物適応型威嚇システム
○小笠原柚子，高木正則，山田敬三，佐々木淳（岩手県大）
6　GoogleMap を用いた農業気象データの利用基盤システムの開発と評価
○佐々木優太，南野謙一，後藤裕介，渡邊慶和（岩手県大）
7　Google マップによる消防団を対象にした水利探索支援システムの開発
○川又寛貴，南野謙一，後藤祐介，渡邊慶和（岩手県大）
8　GoogleMap を用いた外来植物駆除のためのカルテシステムの開発
○中村大樹，南野謙一，後藤裕介，渡邊慶和（岩手県大）

学生セッション［1ZF 会場］（3 月 13 日（火）9:30 ～ 12:00）
教材作成支援　　座長　飯島　泰裕（青学大）

1　教材作成支援ソフト「デジきょ」の改良と試用
○小林春菜，大森康朝，來田さくら，大西建輔，原　正雄，小林正弘，桑田孝泰（東海大）
2　動画教材を対象とした構成パターンに基づく構成支援システムの開発
○鈴木奈都美，西尾典洋（目白大）
3　動画教材のパターン化に基づいたカメラワーク・レシピ集の開発
○古閑理那，西尾典洋（目白大）
4　小学校教師に対する Web ニュース記事推薦に向けた NIE ワークシートの分析
○関　伸也，安藤一秋（香川大）
5　小学校における NIE 支援のための地図を用いたニュース閲覧システムの改良
○内山　豊，黒田晃史，安藤一秋（香川大）
6　講師映像と解説音声の品質向上のための講義映像変換システムの実現
○松浦辰雄，大囿忠親，新谷虎松（名工大）
7　電子黒板向けグラフ描画インタフェースの開発
○野沢朝輝，加藤直樹（東京学芸大）
8　授業中の掲示板書きこみ内容の把握を支援するシステムの試作
○上野　将，阿部昭博，市川　尚，富澤浩樹（岩手県大）
9　学習者用デジタル教科書と一体的に使用できるデジタルワークシートの提案
○大山洋俊，加藤直樹（東京学芸大）

学生セッション［2ZF 会場］（3 月 13 日（火）13:20 ～ 15:50）
評価指導支援　　座長　渡辺　博芳（帝京大）

1　誤りの可視化を目的とした数学の問題分類演習の実践と評価
○周藤祐汰，高木正則，佐々木淳，山田敬三（岩手県大）
2　問題推薦のための行列因子分解を用いた階層構造の可視化
○大野泰己，大枝真一（木更津高専）
3　形態素解析を用いた PAD 評価支援
○小木曽寛太，中埜　翔（愛知工大），小宅直樹，上田磨歩，内　正也（中部大），澤野弘明（愛知工大），鈴木裕利（中部大），石井成郎（愛知きわみ看護短期大）
4　（講演取消）
5　学習目標の達成に結びつく振り返りを促すための学習者データ可視化システムの開発と評価
○手塚祐樹，高木正則，山田敬三，佐々木淳（岩手県大）
6　指導動作評価のための汎用振り返り支援システムの提案
○田嶋克向，井嶋亮太，澤野弘明（愛知工大），鈴木裕利，西垣景太（中部大），石井成郎（愛知きわみ看護短期大），和田珠実（中部大）
7　スキル向上を目的としたコードレビューのためのチェックシートの作成
○古作　創，大枝真一（木更津高専）
8　プログラミング学習支援システムにおける学習者の苦手箇所推定手法
○岩本浩輝，朝倉宏一（大同大）

学生セッション［5ZF 会場］（3 月 14 日（水）15:30 ～ 18:00）

学習支援・アクティブラーニング

座長　大場　みち子（はこだて未来大）

1　珠算競技における効果的な練習問題の自動生成法について
○原子弘務，井上一磨，諏訪貴大，福岡省伍，村田　遼，須子統太（早大）

2　カードゲーム戦略を題材とした応用 C プログラミング演習における予備大会の進捗状況の分析
○清水　趙，花川直己，富永浩之（香川大）

3　カードゲーム戦略を題材とした応用 C プログラミング演習における最終大会の手役分布と得点傾向の分析
○村山弘明，花川直己，富永浩之（香川大）

4　研究活動リフレクションのためのアイディアマップ再構成支援システム
○鬼塚洋斗，小尻智子（関西大）

5　イメージ描画による連想方法獲得支援システム
○浅尾知宏，小尻智子（関西大）

6　高い教育効果を得られる電気回路実験タブレットアプリケーションの開発
○酒井辰樹，遠藤慶一，藤橋卓也，小林真也（愛媛大）

7　発達障害を持つ児童の生活支援のための SNS 的アプリケーション
○梅原　稜，角田　均（青森大），小久保温（八戸工大），加藤秀斗，田中志子，工藤雅世（青森大），坂田　令，坂本知英（リンクステーション）

8　農業高校における農作業時の判断困難箇所の撮影画像を利用した作問学習の実践と評価
○加藤弘祐，高木正則，山田敬三，佐々木淳（岩手県大）

9　多言語対応情報提供システムの介護教育分野への展開
○黄　開元，西山悦子，高岡詠子（上智大）

学生セッション［6ZF 会場］（3 月 15 日（木）9:30 ～ 12:00）

プログラミング教育　　座長　渡邉　景子（東京女子体育大）

1　コンピュータとの対話をファシリテートするプログラミング教育の効果と大学生での例証
○喜田綾芽，山中脩也，北島茂樹，和田康孝（明星大）

2　調理動作を用いた論理的思考力育成システムの開発
○瀧澤晴奈，時井真紀（筑波大）

3　プログラミング教育のための対向 2 輪型ロボットシミュレータ
○平田将人，安留誠吾（阪工大）

4　小 1 から体感できる現代 IT 技術を応用したプログラミング教育環境の構築
○渡邉健介，塩澤大輝，野口実沙子，松澤芳昭（青学大）

5　小学生向け CS アンプラグド教材による「ディジタルの世界」の学習の実践
○佐藤綾香，猪股俊光，杉野栄二，今井信太郎，新井義和，成田匡輝（岩手県大）

6　サーバ構築と運用の実習を通じた中学生対象の実践的な ICT 教育イベントの試み
○根本晃輔（筑波大）

7　論理的思考力を育成するためのタブレット用目的地到達手順組立アプリケーションの開発
○西田亮輔，遠藤慶一，藤橋卓也，小林真也（愛媛大）

8　小学生向けロボットプログラミング学習のための対戦型ボードゲームの考案と実践
○梅田康平，猪股俊光，杉野栄二，成田匡輝，今井信太郎，新井義和（岩手県大）

学生セッション［7ZF 会場］（3 月 15 日（木）13:20 ～ 15:20）

バイオ情報学　　座長　五斗　進（情報・システム研究機構）

1　タンパク質分子の柔軟性を考慮した新規ドッキングゲーム
○飯野　翼（早大），大上雅史，秋山　泰（東工大），清水佳奈（早大）

2　三次元構造マッチングを用いたペプチド立体構造探索手法の構築
○小松大和（東大），千葉直也，橋本浩一（東北大）

3　符号制約学習によるタンパク質機能予測
○下山愛祐美，小林美里，加藤　毅（群馬大）

4　マッピングの特性を考慮した次世代シークエンサーを用いた一塩基多型解析の精度向上の試み
○大沢勇統，東　銀史（近畿大），高橋　篤（国立循環器病センター），大星直樹（近畿大）

5　堅牢かつ有用な DNA ストレージシステム設計のためのデータ変換法の比較
○小久保剛基（早大）

6　運転時の負の感情反応分析：生体情報を用いた感情推定とその評価
○渡辺一生，菅谷みどり（芝浦工大）

7　多チャネル脳波計・光トポグラフィ装置を用いた感情推定の検討
○高橋裕也，菅谷みどり（芝浦工大）

8　ヒト視覚の暗順応特性を考慮した効率的な照明制御法の検討
○伊藤正晴，清水勇志，竹村　唯，岡野恵子，岡野俊行（早大）

一般社団法人
情報処理学会
Information Processing Society of Japan

会誌「情報処理」　**デジタルプラクティス 無料**

App Store アプリで購読できます！

会誌「情報処理」　**デジタルプラクティス**

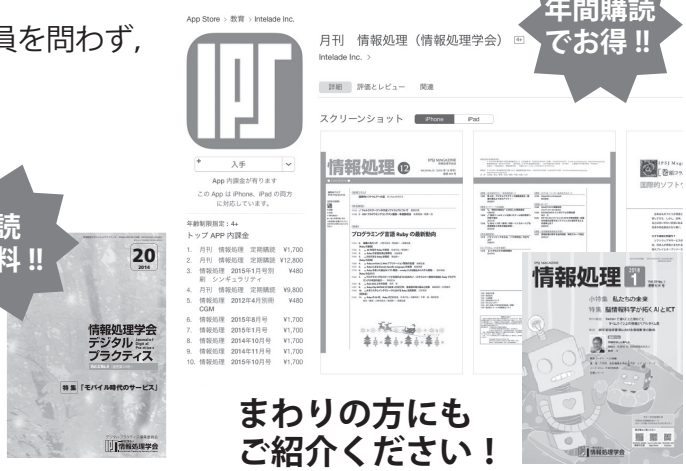
会誌「情報処理」,「デジタルプラクティス」アプリは
iPad，iPhone，iPod Touch といった iOS 端末から
無料でダウンロードできます

会誌

- 月単位の購入が可能です.
- 購入前に立ち読みができますので，ぜひいちどおためしください.
- 年間購読で 12,800 円（1 冊あたり**約 1,000 円**）でお得です.
  1 カ月：1,700 円 ／ 6 カ月：9,800 円 ／ 1 年：12,800 円

DP

- 「デジタルプラクティス」は会員・非会員を問わず，どなたでも**無料**でお読みいただけます.
- DP アプリを一度ダウンロードすれば，最新号が自動で送られてきます.



まわりの方にも
ご紹介ください！

アプリのダウンロードはこちら（無料）

会誌「情報処理」
https://itunes.apple.com/us/app/yue-kan-qing-bao-chu-li-qing/id910830137?l=ja&ls=1&mt=8

デジタルプラクティス
https://itunes.apple.com/jp/app/qing-bao-chu-li-xue-huidejitarupurakutisu/id923233022?mt=8

お問合せは　一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門　E-mail : editj@ipsj.or.jp　Tel : (03) 3518-8371

想像を超える未来を、
協創しませんか。

日本の通信インフラを支え、人々の暮らしを変えていきたい。
その想いを胸に、立ち上がったエキスパート集団。
今年、創業20周年を迎え、さらなる夢を描いています。
長年、鍛え上げてきた技術力。時代に呼応して、自らを変革させてきた経験。
培ってきた資産は必ずや、もっと多くのお客さまの成功への力になる。
豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献できる。そう、確信しているのです。
システムインテグレータを超え、ビジネスインテグレータへ。
私たちは品質と信頼性を追求し、お客さまとともに考え、動き、
真のパートナーとして新たなビジネス価値を「協創」していきます。
一緒につくる未来は、きっと想像を超える。
社員一丸となった力を、次の一歩へつなぐ、NTTコムウェアです。

ともに考え、ともに動く、
ビジネスインテグレータへ。
20周年のNTTコムウェア

NTTコムウェア

20th Anniversary

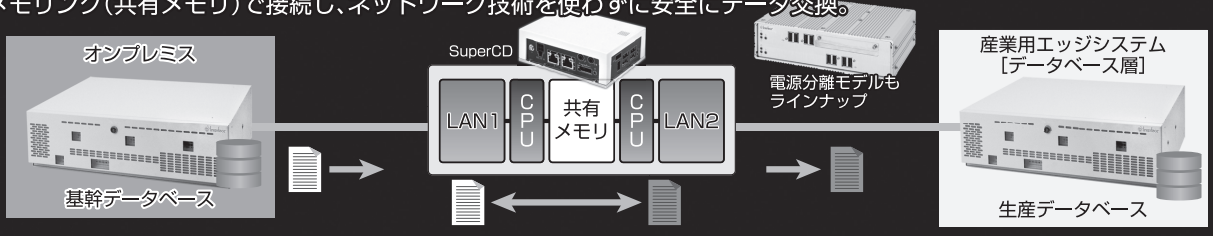
Interface®の産業用エッジシステム②

セキュリティゲートウェイ編

IoTのシーンで使えるセキュリティ製品を、Interface®が提案します！
FAネットワークを確実にコントロール。耐環境性に優れ、ROM化技術で電源ブチ切りOK。

提案① データの安全な中継 A

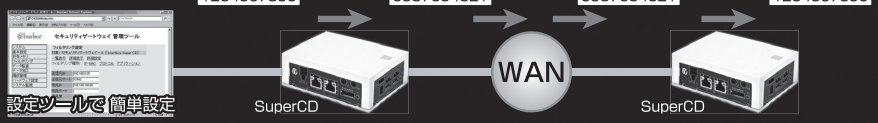
メモリンク（共有メモリ）で接続し、ネットワーク技術を使わずに安全にデータ交換。



暗号化/復号化

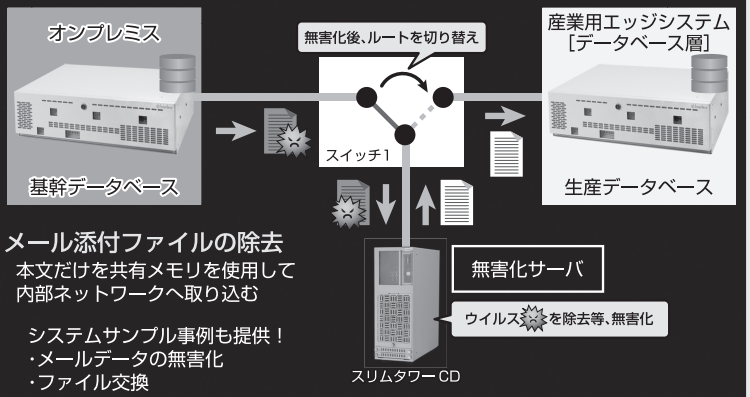
共有メモリを通して渡す際、データを条件に沿って暗号化できる。
受け取った相手と同一条件があれば復号ができる。

- ・データの並び替え
- ・ビット演算
- ・オリジナルプログラム
- ・端末固有のコードを追加 等、
  設定側で自由に暗号が設定できる。



提案② データの消毒 B

データを消毒し、無害化。安全確認後、ルートを切り替え。
直接接続しないので安全にデータ交換。



メール添付ファイルの除去

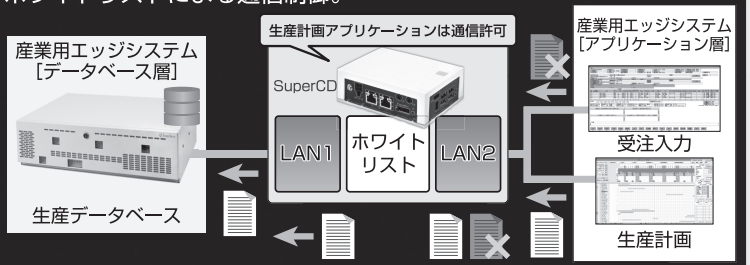
本文だけを共有メモリを使用して
内部ネットワークへ取り込む

システムサンプル事例も提供！
- ・メールデータの無害化
- ・ファイル交換

ユーザアプリケーションから簡単にスイッチを制御できます。

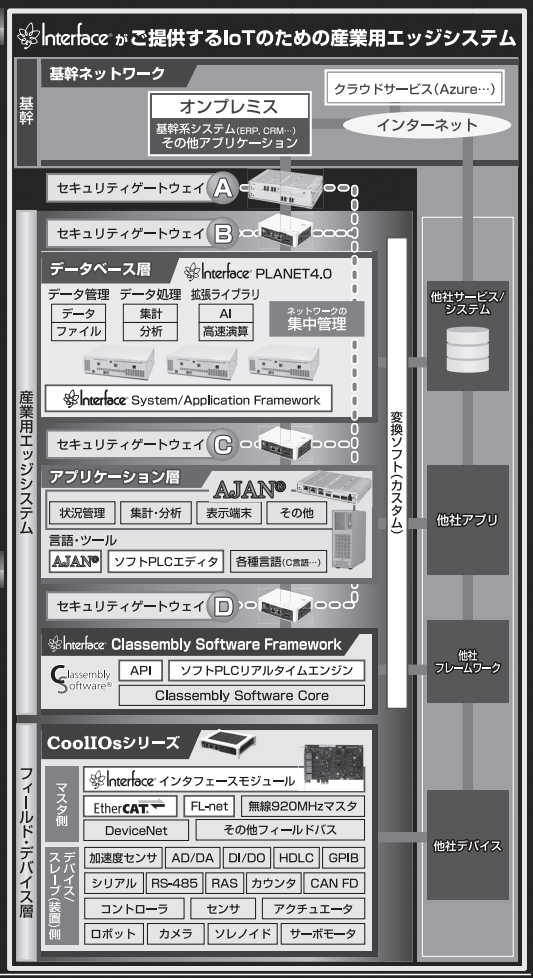
提案③ セキュリティ設定 C D

ホワイトリストによる通信制御。



ホワイトリスト/ブラックリスト
リストに設定された条件に応じて、
通信の可否を決める。

データ監査
決められたデータパケットのみ
通過させる。



詳しくはwebsiteまで www.interface.co.jp

Interface®
Vision & Freedom
株式会社 インタフェース
URL：www.interface.co.jp ✉ E-mail：support@interface.co.jp

製品の仕様、デザイン、価格については、予告なく変更する場合があります。本広告に記載した会社名、商品名は、各会社の商標または登録商標です。
EtherCAT®は、ドイツBeckhoff Automation GmbHによりライセンスされた特許取得済み技術であり登録商標です。

情報処理学会編集の教科書シリーズ！

IT Text オペレーティングシステム 改訂2版

野口健一郎・光来健一・品川高廣 共著　　A5判／256頁／定価（本体2,800円＋税）

オペレーティングシステムの内部的な原理や処理、ユーザインタフェースなど外部的な機能、ネットワークやセキュリティ、性能、標準化などについてていねいに解説した学部学生向けの教科書で、実際に学生がオペレーティングシステムを利用するうえで役立つように、実践的にまとめています。

大好評の「マンガでわかる」シリーズにベイズ統計学が仲間入り！

マンガでわかる ベイズ統計学

高橋 信 著／上地優歩 作画／ウェルテ 制作　　B5変判／232頁／定価（本体2,200円＋税）

本書は、マンガを使ってベイズ統計学の基礎から実際の利用例までを解説するものです。また一般的に統計学のことをさす数理統計学とベイズ統計学の違いにもふれます。さらにコンピュータシミュレーションでよく使われるモンテカルロ法やカルバック・ライブラー情報量についても解説しています。

Pythonプログラミングもテキストマイニングも一気に習得できる！

Pythonによる テキストマイニング入門

山内長承 著　　A5判／256頁／定価（本体2,500円＋税）

Pythonのインストールから基本文法、ライブラリパッケージの使用方法などについて、ていねいに解説しますので、Pythonに触れたことがない方でも問題なく使用できます。テキストマイニングも、概要から実例までを一から解説していますので、Python・テキストマイニング両方の知識が全くない方にとって最適な入門書です。

機械学習・深層学習への理解を深め、応用できる！

Rを使って統計の基礎から機械学習を学ぶ!

Rによる機械学習入門

金森敬文 著
A5判／272頁／定価（本体2,600円＋税）

強化深層学習が網羅的にわかる!

強化学習と深層学習 C言語によるシミュレーション

小高知宏 著
A5判／208頁／定価（本体2,600円＋税）

パターン認識の基本がわかる！ 音声・画像処理、ビッグデータなど話題の分野に切り込める！

パターン認識について
すぐに役立ち正しい知識が得られる!

わかりやすいパターン認識

石井健一郎・上田修功・前田英作・村瀬 洋 共著
A5判／216頁／定価（本体2,800円＋税）

『わかりやすい パターン認識』待望の続編！

続・わかりやすい パターン認識 教師なし学習入門

石井健一郎・上田修功 共著
A5判／340頁／定価（本体3,200円＋税）

オーム社 | 〒101-8460 東京都千代田区神田錦町3-1　www.ohmsha.co.jp
TEL 03(3233)0853　FAX 03(3233)3440　定価は変更になる場合があります。

研究者のための「プロフェッサー・エージェンシー」

共同研究コーディネート | 知的財産の商品化支援 | 産学連携プロモーション支援 | 転職・キャリア支援サービス | 社会人博士号取得支援 | 起業支援

プロフェッサーエージェンシー　検索

ウェブのエントリーフォームから、いつでも無料でご登録できます。

http://www.criprof.com

ご登録やサポートに関するご相談もすべて無料です。いつでもお気軽にお問合せください。

メール / prof@hq.cri.co.jp　フリーコール / 0800-919-0018

受付時間 9:30～18:00(土・日・祝日除く)

CREEK & RIVER Co., Ltd.

C&R グループ拠点：東京・大阪ほか全国14 拠点、ソウル、北京、上海、カリフォルニア

株式会社 クリーク・アンド・リバー社

事業開発グループ プロフェッサー事業部

〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目10番9号 C&R グループビル

1086070406

EXPLICIT KNOWLEDGE × TACIT KNOWLEDGE

Knowledge Creation

KCT Innovation

Knowledge Creation Technology Co., Ltd.

Google Japan University Programs

Google University Relations チームは、アカデミックコミュニティーと強い互恵関係を築き、継続的に活動することを目指しています。

Google 教員研究アワード プログラム

世界的な研究をサポートするために、常勤教員へ（無条件ギフトとして）資金を贈呈

もっと詳しく

http://research.google.com/university/relations/research_awards.html

Google 博士課程 フェローシップ プログラム

特に優秀な博士課程の学生に、（無条件ギフトとして）10,000 米ドルを贈呈

もっと詳しく

http://www.google.com/intl/en_cn/university/research/phdfellowship.html

カンファレンス スポンサーシップ プログラム

最高 3,000 米ドルまでの財政支援と、Google が参加しているカンファレンスへの出席

オンライン申し込みはこちら

https://services.google.com/fb/forms/conference/

Google 学生トラベル 支援金

学生が国際会議へ参加するための航空券代金および宿泊費用として、最大 3,000 米ドルを援助

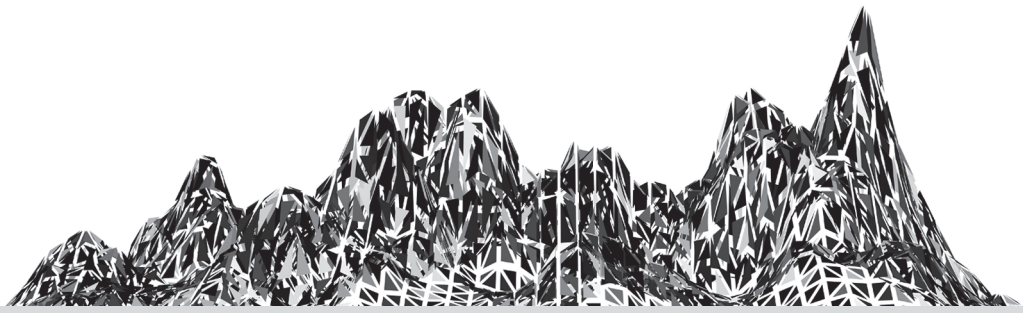
もっと詳しく

http://www.google.com/intl/en_cn/university/research/travelgrants.html

Google

LIVESENSE

データの力で、
誰かの人生に大きな貢献を。



LIVESENSEは、無数にある社会の課題や歪みを、仕組みとテクノロジーの力で解決するベンチャー企業です。
現在、下記のような取り組みを一緒にしてくださる仲間を募集中です。

- ベイズ推定を利用した求人レコメンドエンジンの開発
- CVR 予測に基づく求人サイトの検索結果最適化
- コンテナ仮想化を用いた機械学習基盤の開発・運用

recruit.livesense.co.jp

富士通株式会社

【会社概要】

◆事業内容：通信システム、情報処理システムおよび電子デバイスの製造・販売ならびにこれらに関するサービスの提供

◆資本金　：3,246 億円

◆売上高　：4 兆 5,096 億円（連結）

◆従業員数：155,000 名　（連結）

◆募集職種：営業、システムエンジニア、開発、研究、事業スタッフ（サプライチェーンマネジメント、購買、法務、知的財産、財務・経理、総務・人事）（予定）

2018 年 3 月 1 日よりエントリー受付開始！

詳細は以下のサイトでご確認ください。

【富士通株式会社　採用サイト 】

http://www.fujitsu.com/jp/about/corporate/employment/

【採用に関するお問い合わせ先】

富士通　採用サポートデスク
TEL : 044-754-2261（平日 8:30～17:00）
E-mail : f-info@recruit.fujitsu.com
※「お名前」「連絡先電話番号」を記載願います。

---

kakaku.com
株式会社カカクコム

ユーザー本位の価値あるサービスを創造しつづけます

カカクコムグループは、幅広い分野で国内屈指の認知と集客力を誇るサービスを複数提供しており、生活者に対するあらゆる事業者ニーズに対応できます。

事業者ニーズ
さまざまなニーズに対応

- 効率的な集客サポート
- ビッグデータを活かしたマーケティング
- 効果的なプロモーション

カカクコムグループのサービス

Webメディア

購買支援サイト 価格.com
レストラン検索・予約サイト 食べログ
不動産住宅情報サイト スマイティ
旅行のクチコミと比較サイト 4travel.jp
メンズファッションWebマガジン CLAP Men
クルマ好きのための情報サイト webCG Car Graphic
女性向けライフスタイルメディア キナリノ
求人情報の一括検索サイト 求人ボックス
総合映画情報サイト 映画.com

その他のサービス

保険 カカクコム・インシュアランス kakaku.com insurance
旅行プラットフォーム タイムデザイン Time Design

生活者ニーズ
最適な消費活動を支援

- 口コミ・レビュー
- 価格相場
- ランキング・トレンド
- 豊富なデータベース

採用の詳細は
こちらをご覧ください

2019年度 新卒採用サイト
http://kakaku.com/info/recruit/job/graduate.html

人事採用担当者ブログ
http://hr-blog.kakaku.com/

FIXSTARS
Speed up your Business

実践型インターン通年募集中！

● 実施期間
2 ～ 3 週間程度
※比較的柔軟に調整可能です。ご相談ください。

● 実施場所
本社 (JR 大崎駅徒歩 1 分) または 横浜事業所 (JR 横浜駅徒歩 5 分)

● 実施内容
最先端のソフトウェア開発、高速化に関わる業務を想定しています。
実際の内容はスキルや希望等を考慮し総合的に決定します。
具体例
・画像処理や数値計算などのソフトウェア高速化
・ディープラーニングを含む機械学習を用いたシステム開発及び高速化
・HDL や高位合成を用いた回路・システム設計開発
・量子コンピューティング事業立ち上げの補助作業

● 対象者
実施期間中に、高専、大学、大学院在学中の方で
C/C++ などのプログラミング経験がある方

● 待遇
勤務時間：原則 10:00 ～ 19:00 の 8 時間勤務　※応相談
時給：高専・大学：1,100 円、大学院 (修士)：1,400 円
　　大学院 (博士)：1,600 円
交通費：支給あり
宿泊先・宿泊費：遠方の方のみこちらで手配いたします。

● 選考フロー
書類選考→面接 (1 回)→合否決定
※面接時に簡単なライブコーディング試験を実施します。
※遠方の方は Skype で面接致します。

弊社採用ページからご応募ください！→
2019 年 新卒採用もエントリー受付中

詳しいお話は
展示会場でも！

一般社団法人 情報処理学会
Information Processing Society of Japan

「情報処理」カタログ同封サービス

1 通あたり
約17.5 円！

基本価格　350,000 円
（税込 378,000 円）

対象：全会員　**20,000 通** 配布
（正会員 / 名誉会員 / 学生会員 / 賛助会員）

大学や
共催事業は
さらに割引！

大学 / 研究所 / 賛助会員または情報処理学会主催・
共催事業は、下記のとおり割引料金が適用されます。

大学 / 研究所 / 賛助会員
（基本価格の 40% Off ！）
210,000 円
（税込 226,800 円）

情報処理学会主催・共催事業*
（基本価格の 80% Off ！）
70,000 円
（税込 75,600 円）

*情報処理学会研究会主催、共催を含む

カタログ同封
サービスとは？

毎月情報処理学会会員に配布している学会誌に貴社 / 貴校のカタログや広告を同封し、直接読者にお届けするサービスです。通常の DM と異なり学会誌に同封しますので、**読者の開封率は格段に上がります**。また，カタログ送付にかかる**コストを最小に抑えることができ、**なおかつ情報処理を専門とする読者に**ターゲットを絞った効果的な案内を出すことが可能**となります。ぜひご活用ください。

申込詳細、
お問合せは
こちらまで

［広告代理店］
アドコム・メディア（株）
E-mail: sales@adcom-media.co.jp
Tel.(03)3367-0571　Fax.(03)3368-1519

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門
E-mail: editj@ipsj.or.jp
Tel.(03)3518-8371　Fax.(03)3518-8375

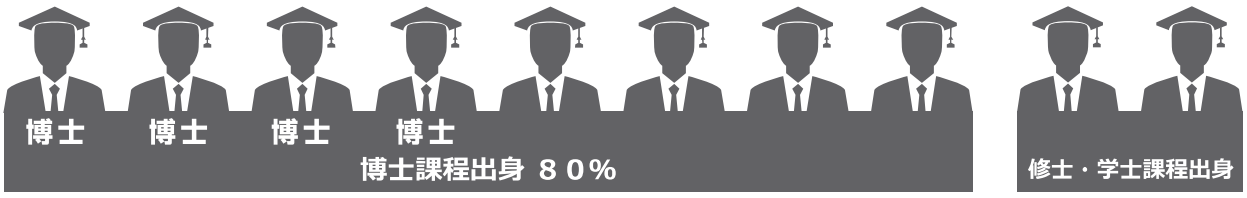
http://www.ipsj.or.jp/magazine/ad/dm.html

とめ 株式会社とめ研究所

知能情報処理技術をコアコンピタンスとした ソフトウェア研究開発受託会社

知能情報処理技術をコアコンピタンスとし、大学・公的研究機関・企業研究所・ベンチャー等と国家PJ応募・共同研究・受託研究開発・技術者派遣で協創し、来るべき"人と機械の共生社会"の構築に貢献します。

ポスドク相当の技術者が共同研究者のように研究開発の加速推進に貢献します



技術者の４割が博士号取得者、８割が博士課程出身です。

難解な技術課題を解決するアルゴリズムの研究開発や社会を変えるシステムの開発を目指す志の高いエンジニア達です。

情報関連だけではなく、数学、物理学の研究室出身者なども多く、多様な課題をお客様とともに解決します。

研究開発、システム開発、組込み制御開発までお任せください

画像処理、信号処理、数値解析、検査・計測・ロボット、データマイニング、自然言語処理、ヒューマンインタフェース、機械学習・ディープラーニング、組込み制御　他

人と機械の共生でもっと生活を楽しく

とめ　株式会社とめ研究所　URL: http://www.tome.jp　E-mail: info@tome.jp

□本社ラボ　京都市下京区中堂寺南町134　京都高度技術研究所内7F
□管理企画部　□営業企画部　TEL 075-315-0074　FAX 075-315-0274
□第一開発部　TEL 075-925-8640　FAX 075-925-8645
□京阪奈ラボ　京都府相楽郡精華町光台1-7　けいはんなプラザラボ棟13F　TEL 0774-94-4187　FAX 0774-94-4337
□名古屋ラボ　名古屋市中区金山5-11-6　名古屋ソフトウェアセンター3F　TEL 052-883-8790　FAX 052-883-8791
□横浜ラボ　横浜市保土ケ谷区神戸町134　横浜ビジネスパークウエストタワー11F　TEL 045-465-4236　FAX 045-465-4237
□東京ラボ　川崎市高津区坂戸3-2-1　かながわサイエンスパーク西棟3F　TEL 044-833-7155　FAX 044-281-0600

www.pwc.com/jp/consulting

The opportunity of a lifetime

色々な経験が次々やってくるから、
もっと成長できる。

Cyber Security Consultant

安全なデジタル社会の構築を

Data Analytics Consultant

データの価値をビジネスの価値へ

UX Designer

デザインの力で新しい顧客体験を創出

Business Aplication Engineer

ITの力でお客様の常識を覆す

pwc

東京選考締切：*4/6 (fri) 23:59*

大阪選考締切：*3/18 (sun) 23:59*

エントリーはこちら：

https://goo.gl/npYHdE

PwCコンサルティング合同会社

© 2018 PwC Consulting LLC. All rights reserved.
PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.

社員数 160 名
女性 48 名 男性 112 名

平均年齢
35.1 歳

ライブチケット購入費を全額補助
※年度上限あり
100%

音楽聴き放題サービス（レコチョクBest / dヒッツ）が聴き放題
サービス利用にかかる費用を会社が補助

近距離手当 3 万円
本社より3km圏内等条件を満たせば交通費に替えて支給

語学学習支援制度
50~60%
オンライン英会話サービスの利用における費用補助

資格学校受講費用の補助
上限 10 万円
試験を伴う資格の場合資格学校の費用を補助

レコチョク BGM
オフィスでは毎日、社員が作成したプレイリストを配信

職種割合
管理部門 23%
システム部門 40%
サービス部門 37%

年間休日数
126日
※2017年度実績

創立記念日
7月3日
創立記念休暇あり

社員のニーズに合わせて、一人ひとりがいきいきと働ける環境

レコチョクでは、社員一人ひとりが、それぞれのニーズに合わせて充実した時間を過ごせるよう、働きやすい環境の整備に努めています。例えば、近距離手当では家賃の補助だけではなく、近距離に住むことでプライベートの時間が増え、自己啓発はもちろんのこと、音楽や映画等エンターテイメントに触れる機会を増やし、そこから新しく生まれる案も多くあると考えています。また、個々のライフスタイルに合わせた「カフェテリアプラン※」では、『健康増進』や『リフレッシュ』『自己啓発』『育児支援』などメニューの中から、自身に合うプランを選択することができます。ほかにも、レコチョクのオフィスでは社員が作成したプレイリストを毎日、BGMとして配信しています。今後も社員一人ひとりがいきいきと働ける環境を整えてまいります。

※社員に一定の持ち点（カフェテリアポイント）と選択肢（メニュー）を提供し、社員が個々のニーズに応じて持ち点の範囲内で、必要なメニューを選択・利用できる制度

採用サイトはこちら　レコチョク　採用

recruit.recochoku.jp/
recochoku.recruit/

株式会社レコチョク

第80回全国大会委員名簿

第80回全国大会 組織委員会

委員長　東野 輝夫(阪大)　　副委員長　長谷川 輝之(KDDI)
委　員　河内谷 清久仁(日本IBM)，角谷 和俊(関西学院大)，菅原 俊治(早大)

第80回全国大会 プログラム委員会

委員長　菅原 俊治(早大)　　副委員長　鷲崎 弘宜(早大)
委　員　青木 秀一(NHK)，金井 遵(東芝)，河内谷 清久仁(日本IBM)，関谷 貴之(東大)，竹田 尚彦(文科省)，
鳥澤 健太郎(情報通信研究機構)，野田 夏子(芝浦工大)，野々山 秀文(セコム)，野呂 正明(富士通研)，長谷川 輝之(KDDI)，
堀山 貴史(埼玉大)，細野 繁(NEC)，宮澤 慎一(セコム)，山名 早人(早大)

第80回全国大会 実行委員会

委員長　山名 早人(早大)　　副委員長　石川 博(早大)
幹　事　中島 達夫(早大)　　副幹事　金井 謙治(早大)
委　員　石巻 優(早大)，内田 真人(早大)，大木 吉健(早大)，小川 哲司(早大)，甲藤 二郎(早大)，韓 吉新(早大)，木村 啓二(早大)，
酒井 哲也(早大)，清水 佳奈(早大)，孫 博(早大)，竹内 健(早大)，多和田 雅師(早大)，俵 直弘(早大)，津田 直彦(早大)，
戸川 望(早大)，早野 真史(早大)，菱山 玲子(早大)，堀江 輝樹(早大)，前原 文明(早大)，望月 義彦(早大)，森 達哉(早大)，
柳澤 秀彰(早大)，山崎 託(早大)

第80回全国大会 プログラム編成WG

委員長　菅原 俊治(早大)
委　員　阿倍 博信(三菱電機)，五十嵐 悠紀(明大)，大崎 理乃(首都大学東京/産業技術大)，荻野 紫穂(武蔵大)，
越智 大介(NTTメディアインテリジェンス)，楽 詠灝(東大)，門村 亜珠沙(パナソニック)，金子 格(東京工芸大)，
亀岡 弘和(NTT)，楠 房子(多摩美大)，五斗 進(情報・システム研究機構)，近藤 正章(東大)，榊 剛史(ホットリンク)，
佐藤 大介(日本IBM)，志築 文太郎(筑波大)，柴田 直樹 (奈良先端科技大)，柴田 邦臣(津田塾大)，庄野 逸(電通大)，
新谷 隆彦(電通大)，田浦 健次朗(東大)，俵 直弘(早大)，中鉢 直宏(帝京大)，土田 正明(ディー・エヌ・エー)，
堤 智昭(東京電機大)，寺田 真敏(日立)，董 冕雄(室蘭工業大)，中野 学(NEC)，西出 岳央(東芝デバイス&ストレージ)，
野々山 秀文(セコム)，野呂 正明(富士通研)，花房 比佐友(アイ・トランスポート・ラボ)，藤井 敦(東工大)，
藤井 昭宏(工学院大)，古川 雅子(国立情報学研究所)，松浦 博(静岡県立大)，松下 光範(関西大)，宗藤 誠治(日本IBM)，
山井 成良(東京農工大)，山口 高康(NTTドコモ)，山田 浩史(東京農工大)，横山 大作(東大)，横山 孝典(東京都市大)，
和佐 州洋(国立情報学研究所)，鷲崎 弘宜(早大)

第80回全国大会 イベント企画協力

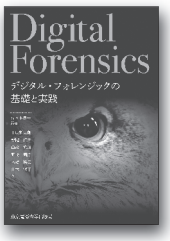
子ども達に，いま必要なマナビ：プログラミング的思考や読解力の必要性と教育のあり方は？ ～データなどの確かな根拠に裏付けされた実態と展望～	プログラム委員会
カリキュラム標準 J17と情報教育	筧 捷彦(情報処理教育委員会J17 WG主査)
新しい一般情報教育の知識体系	一般情報教育委員会
論文必勝法	論文誌編集委員会／JIP編集委員会
～コンピュータパイオニアが語る～「私の詩と真実」	歴史特別委員会
Society5.0実現のための情報技術　～H30年度公募に向けて～	科学技術振興機構 未来社会創造事業「超スマート社会の実現」領域
アジャイル開発の事例に則した契約の一例提案	プログラム委員会
2017年サイバー事件回顧録～技術と法制度の両面から～	電子化知的財産・社会基盤(EIP)研究会
現場から見た情報セキュリティの現状と今後 –デジタルプラクティスライブ–	デジタルプラクティス編集委員会
インターンシップについて本音を語る：大学教員×企業×学生	データベースシステム(DBS)研究会
SamurAI Coding 2017-18 World Final	プログラミングコンテスト委員会
実社会ビッグデータ利活用のためのデータ統合・解析技術の研究開発	北川 博之(筑波大学)
高度IT技術者「CITP」の活躍	資格制度運営委員会
情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発(2)	情報処理教育委員会
会誌『情報処理』公開編集委員会	会誌編集委員会
計算社会科学の可能性	プログラム委員会
工芸から科学へ –CG技術の新たな挑戦–	コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学(CGVI)研究会
はじめよう♪ グラフィックレコーディング	Info-WorkPlace委員会
ソウル協定と情報専門分野の認定	アクレディテーション委員会
サイバー保険の現状と今後の課題	コンピュータセキュリティ(CSEC)研究会
Exciting Coding! Junior ファシリテータ講習	セミナー推進委員会
小中高で必修化されたプログラミング教育とは	コンピュータと教育(SIGCE)研究会
IPSJ-ONE	IPSJ-ONE企画・実施委員会

今大会では，早稲田大学様より会場のご提供をいただき誠にありがとうございました．
ここに厚くお礼申し上げます．

一般社団法人 情報処理学会

技術基礎から作業の実際、法への対応など包括的に学ぶ

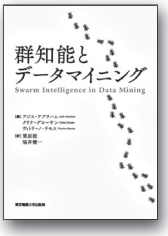
デジタル・フォレンジックの基礎と実践



●佐々木良一 編著／上原哲太郎, 野崎周作, 白濱直哉, 八槇博史, 山本清子, 櫻庭信之 著
A5判·288頁　3200円+税

◆デジタル・フォレンジックとは何か、どのような技術があるのか、といった基礎的事項から、実際に用いる簡単なツールの使い方や OS・ファイルシステムの解説、さらには法律や法定対話といった実践的・応用的事項までを記載し、包括的に学べるようにまとめた。

群知能をデータマイニングに活かす



群知能とデータマイニング

●Ajith Abraham, Crina Grosan, Vitorino Ramos 編／栗原聡·福井健一 訳
A5判·320頁　3780円+税

◆昆虫や鳥は、単独では秩序だった行動をとることはないが、群れになると秩序だった集団行動をとる。群れとなることで知的な行動をとる様子を群知能と呼ぶ。本書は、群知能を計算機上で再現し、その性質をデータマイニング技術に利用する研究について解説する。

Python の初学者向け課題学習型テキスト

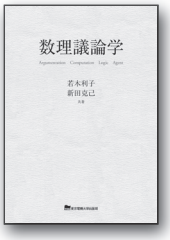
学生のための Python

●本郷　健·松田 晃一 著
B5判·196頁　2500円+税

◆Python はシンプルな言語で可読性に優れており、コマンドからすぐに動作につながるため、初学者の言語習得に適する。基礎編で Python の動作を確認しながら理解を深め、実践編では例題にタートルグラフィックを使い、視覚的にプログラミングを習得する。近年、Python を使用して AI や電子工作などの分野にも広がりをみせる。

エージェントと人工知能の先端領域

数理議論学



●若木利子, 新田克己 著
A5判·208頁　3600円+税

◆人工知能の研究分野において新しい技術である数理議論についてはじめて日本語で解説。本書の技術は、これまで人工知能研究において苦手であった意志決定や、法律の知識を利用した裁判の支援、マルチエージェントシステムによる推論や交渉にも応用分野が広がっている。人工知能（AI）研究者必読の書。

実践に役立つ MATLAB のプログラムも掲載

カルマンフィルタの基礎

●足立修一, 丸田一郎 著
A5判·240頁　2900円+税

◆カルマンによって提案されたカルマンフィルタは、50年以上経った現在でも、理論と応用の両面で活発に研究開発されている。本書はカルマンフィルタの理論をわかりやすく解説した教科書。学習の理解を深める多くの演習問題を掲載。

ユーザーがどこで最も混乱し、非効率を感じ、不満を抱くのか?

情報デザインシリーズ

ユーザーエクスペリエンスの測定
UXメトリクスの理論と実践

●トム·タリス, ビル·アルバート 著／篠原稔和 監訳
B5変形·344頁　4500円+税

◆サービスやシステムを使用するにあたって得られる、行動パターンや行動頻度（ユーザーの経験：UX）を測定することによって、ユーザーの満足度を把握することが可能となった。これにより、ユーザーがどこで非効率化を感じ、どこに不満を抱くのかという部分を把握し分析することができる。UX の測定方法やデータの分析方法について、理論と豊富な事例に基づき詳しく解説。

学生のための情報リテラシー
Office 2016／Windows 10版

●若山芳三郎 著　B5判·196頁　2200円+税

横幹〈知の統合〉シリーズ

社会シミュレーション 世界を「見える化」する

●横幹〈知の統合〉シリーズ編集委員会 編　A5判·130頁　1800円+税

フレッシュマンセミナーテキスト 第2版
大学新入生のための学び方ワークブック

●初年次教育テキスト編集委員会 編　B5判·144頁　2000円+税

ソーシャルメディアと〈世論〉形成
間メディアが世界を揺るがす

●遠藤薫 著　A5判·344頁　3600円+税

プログラミング原論

●アレクサンダー·ステパノフ, ポール·マクジョーンズ／柴田芳樹訳
B5変形·288頁　2800円+税

プログラミング言語 Java 第4版

●ケン·アーノルド, ジェームズ·ゴスリン, デビッド·ホームズ著／柴田芳樹訳
B5変形·804頁　3900円+税

TDU 東京電機大学出版局
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-14-8　http://www.tdupress.jp
TEL03-5280-3433（営業）　FAX03-5280-3563